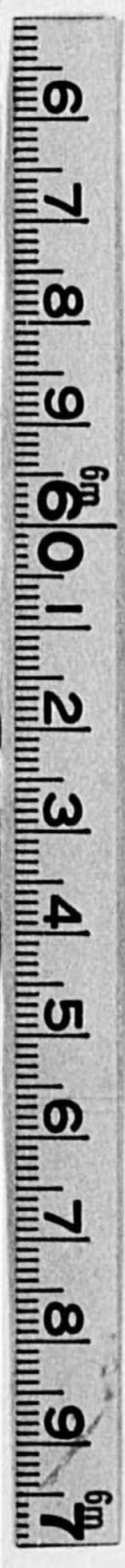
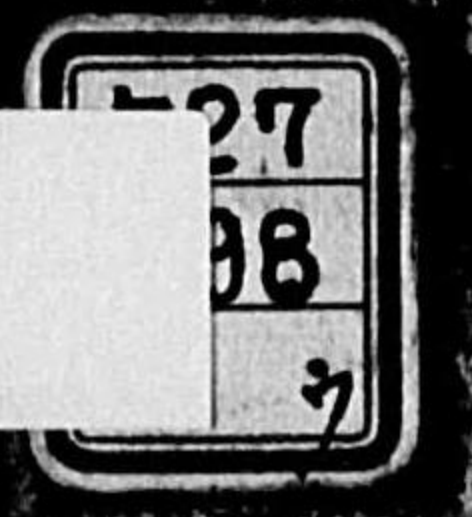
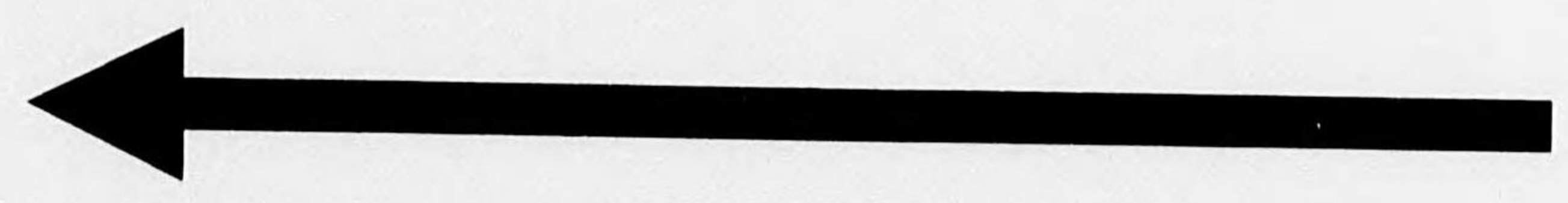


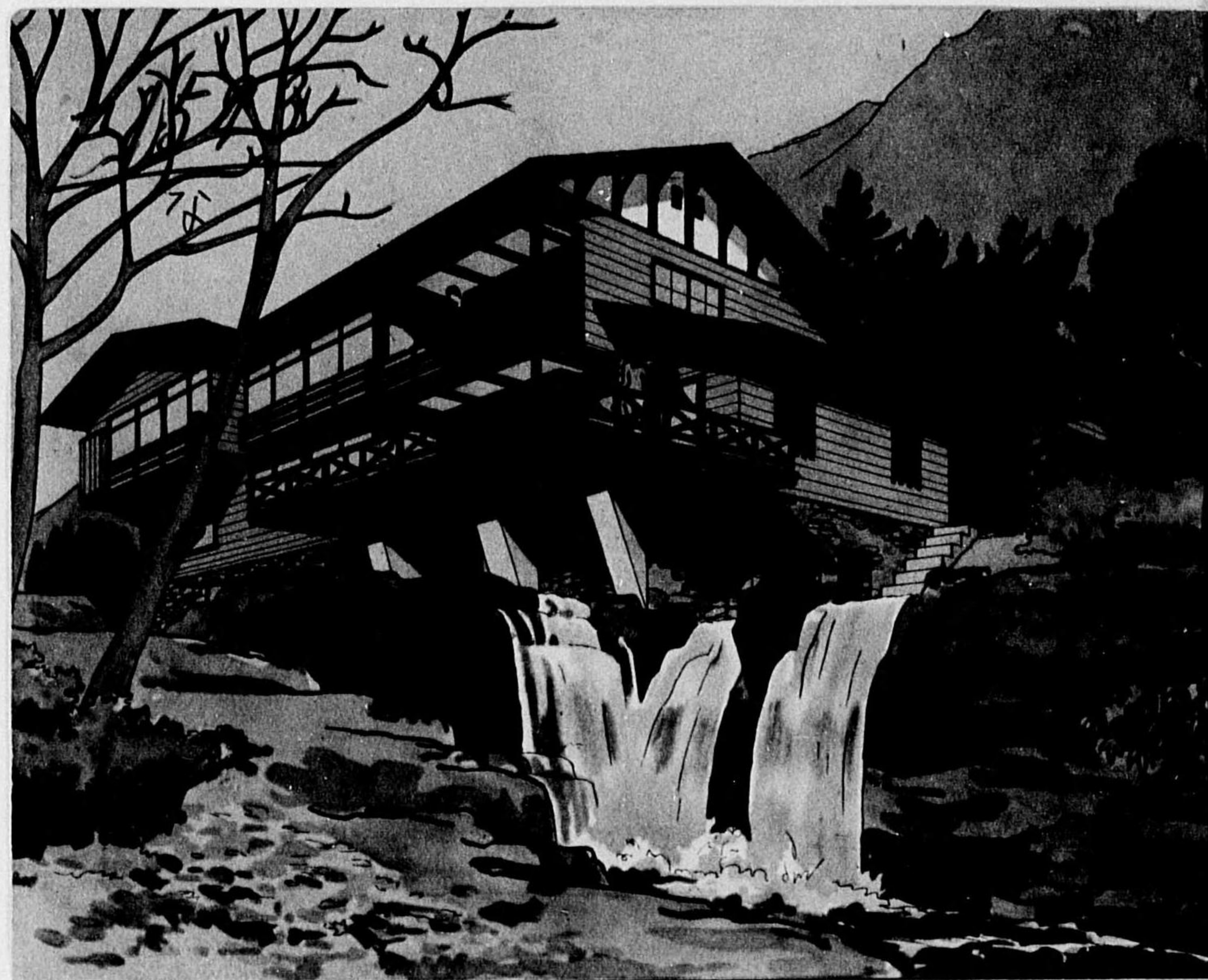
527-J98



始



25.627



一溪流に臨む山の別荘（三七頁参照）

2/6

527  
J98



序にかへて

關西信託時報に連載いたしました住宅設計圖案は好評裡に百五十五回を以て終了いたしましたことになりました。

かねてから大方各位より之を一冊に纏めてはとの要望を承つて居たことでもあり、最後の御奉仕として編輯を新にし、更に新案を數種加へて出来上りましたものが本書であります。

時局柄主として小住宅を撰定したのでありますが、中には豪壯なる構案も尠くありません。御参考ともならば編者の幸甚とするところであります。やがて内地にも、大陸にも、將又南洋に於ても、我等の手に依つて是等の建築物が、陸續と出来上る日のために努力せむことを揮つて序文といたします。



591

511

Handwritten mark or signature at the bottom of the page.

~~296~~  
~~169~~

目次  
様式別に見た住宅

新日本調の住宅	1	.....(一)
民家風の住宅	1	.....(二)
新様式の住宅	2	.....(三)
	1	.....(四)
	2	.....(五)
	3	.....(六)
	4	.....(七)
洋風を加味せる日本風の住宅	1	.....(八)
	2	.....(九)
スパニッシュ式の住宅	1	.....(一〇)
	2	.....(一一)
	3	.....(一二)
	4	.....(一三)
和洋折衷式の住宅	1	.....(一四)
	2	.....(一五)
	3	.....(一六)
	4	.....(一七)
	5	.....(一八)

市街地の住宅	1	.....	(一七)
	2	.....	(一八)
二戸建住宅	1	.....	(一九)
同		.....	(二〇)
同		.....	(二一)
林間の家		.....	(二二)
同		.....	(二三)
同		.....	(二四)
同		.....	(二五)
海邊の家		.....	(二六)
同		.....	(二七)
週末住宅		.....	(二八)
水邊の家		.....	(二九)
同		.....	(三〇)
同		.....	(三一)
同		.....	(三二)
同		.....	(三三)
同		.....	(三四)
同		.....	(三五)
同		.....	(三六)
同		.....	(三七)
同		.....	(三八)
同		.....	(三九)
同		.....	(四〇)
同		.....	(四一)
同		.....	(四二)
同		.....	(四三)
同		.....	(四四)
同		.....	(四五)
同		.....	(四六)
同		.....	(四七)
同		.....	(四八)
同		.....	(四九)
同		.....	(五〇)
同		.....	(五一)
同		.....	(五二)
同		.....	(五三)
同		.....	(五四)
同		.....	(五五)
同		.....	(五六)
同		.....	(五七)
同		.....	(五八)
同		.....	(五九)
同		.....	(六〇)
同		.....	(六一)
同		.....	(六二)
同		.....	(六三)
同		.....	(六四)
同		.....	(六五)
同		.....	(六六)
同		.....	(六七)
同		.....	(六八)
同		.....	(六九)
同		.....	(七〇)
同		.....	(七一)
同		.....	(七二)
同		.....	(七三)
同		.....	(七四)
同		.....	(七五)
同		.....	(七六)
同		.....	(七七)
同		.....	(七八)
同		.....	(七九)
同		.....	(八〇)
同		.....	(八一)
同		.....	(八二)
同		.....	(八三)
同		.....	(八四)
同		.....	(八五)
同		.....	(八六)
同		.....	(八七)
同		.....	(八八)
同		.....	(八九)
同		.....	(九〇)
同		.....	(九一)
同		.....	(九二)
同		.....	(九三)
同		.....	(九四)
同		.....	(九五)
同		.....	(九六)
同		.....	(九七)
同		.....	(九八)
同		.....	(九九)
同		.....	(一〇〇)

子供本位の住宅	1	.....	(一九)
生長する家	1	.....	(二〇)
2	.....	(二一)	
二家族住宅	3	.....	(二二)
新時代の住宅	1	.....	(二三)
2	.....	(二四)	
週末住宅		.....	(二五)
水邊の家		.....	(二六)
同		.....	(二七)
同		.....	(二八)
同		.....	(二九)
同		.....	(三〇)
同		.....	(三一)
同		.....	(三二)
同		.....	(三三)
同		.....	(三四)
同		.....	(三五)
同		.....	(三六)
同		.....	(三七)
同		.....	(三八)
同		.....	(三九)
同		.....	(四〇)
同		.....	(四一)
同		.....	(四二)
同		.....	(四三)
同		.....	(四四)
同		.....	(四五)
同		.....	(四六)
同		.....	(四七)
同		.....	(四八)
同		.....	(四九)
同		.....	(五〇)
同		.....	(五一)
同		.....	(五二)
同		.....	(五三)
同		.....	(五四)
同		.....	(五五)
同		.....	(五六)
同		.....	(五七)
同		.....	(五八)
同		.....	(五九)
同		.....	(六〇)
同		.....	(六一)
同		.....	(六二)
同		.....	(六三)
同		.....	(六四)
同		.....	(六五)
同		.....	(六六)
同		.....	(六七)
同		.....	(六八)
同		.....	(六九)
同		.....	(七〇)
同		.....	(七一)
同		.....	(七二)
同		.....	(七三)
同		.....	(七四)
同		.....	(七五)
同		.....	(七六)
同		.....	(七七)
同		.....	(七八)
同		.....	(七九)
同		.....	(八〇)
同		.....	(八一)
同		.....	(八二)
同		.....	(八三)
同		.....	(八四)
同		.....	(八五)
同		.....	(八六)
同		.....	(八七)
同		.....	(八八)
同		.....	(八九)
同		.....	(九〇)
同		.....	(九一)
同		.....	(九二)
同		.....	(九三)
同		.....	(九四)
同		.....	(九五)
同		.....	(九六)
同		.....	(九七)
同		.....	(九八)
同		.....	(九九)
同		.....	(一〇〇)

20坪前後の住宅十案

4	3	2	1
.....	.....	.....	.....
(九六)	(九五)	(九四)	(九三)

30坪迄の住宅十案

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
(八三)	(八一)	(八〇)	(七九)	(七八)	(六七)	(六六)	(六五)	(六四)	(六三)

中流住宅十案

6	5	4	3	2	1
.....	.....	.....	.....	.....	.....
(七六)	(七五)	(七四)	(七三)	(七二)	(七一)

合住宅

4	3	2	1
.....	.....	.....	.....
(六九)	(六八)	(六七)	(六六)

借家向住宅五案

5	4	3	2	1
.....	.....	.....	.....	.....
(六六)	(六五)	(六四)	(六三)	(六二)

借家を持つ居宅

2	1
.....	.....
(六一)	(六〇)

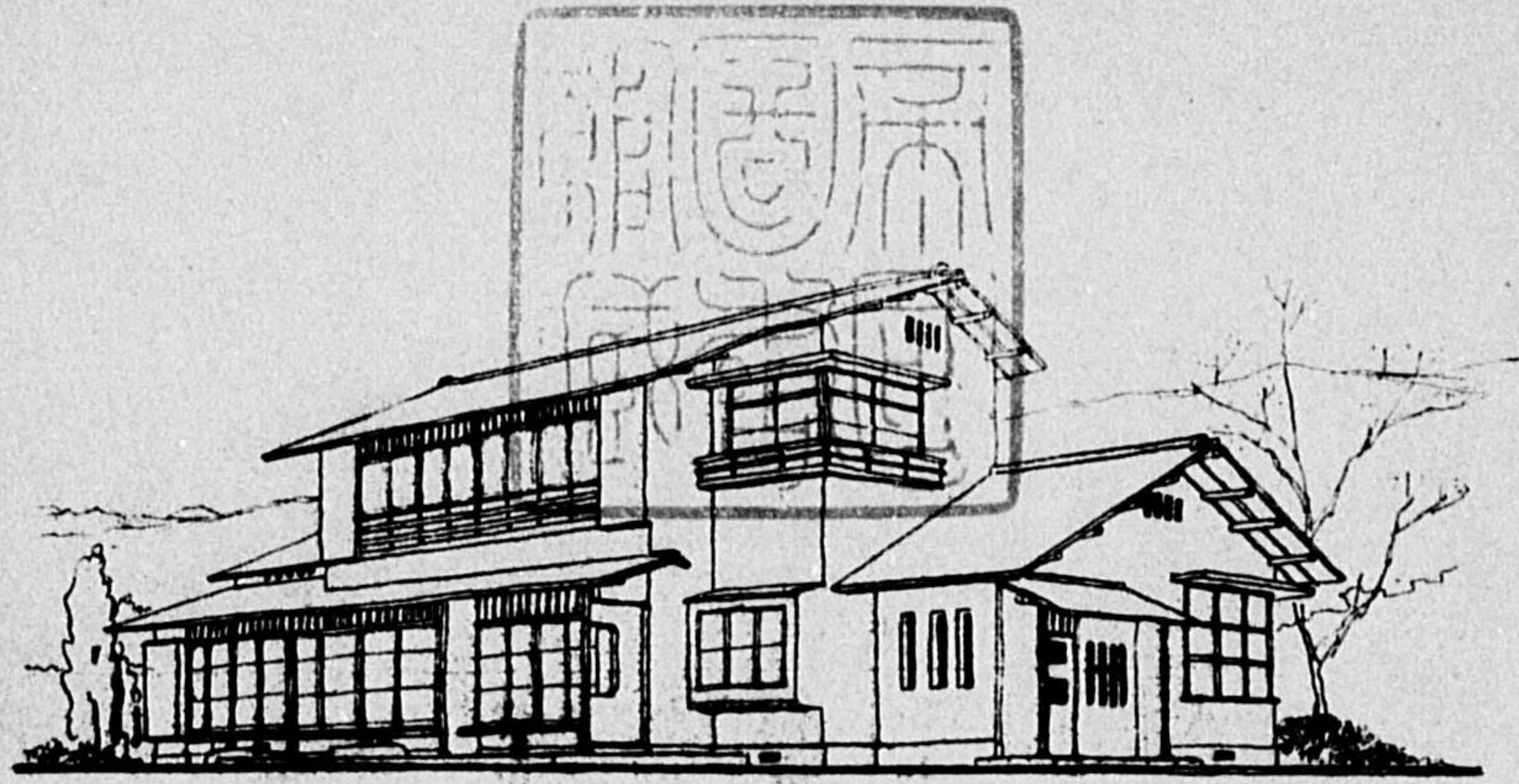
4	3	2
.....	.....	.....
(五九)	(五八)	(五七)

新日本調の住宅

庭	化	便	浴	臺	玄	門	附 住宅各部の考案							
園	粧	室	室	室	關									
2	1	室	2	1	2	1								
所	所	所	所	所	所	所								
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	附	.....	.....	.....	.....	.....	.....	
(三)	(九)	(八)	(七)	(六)	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)	(十)	(九)	(八)	(七)	



宇井の臨本日祿



新日本調の住宅

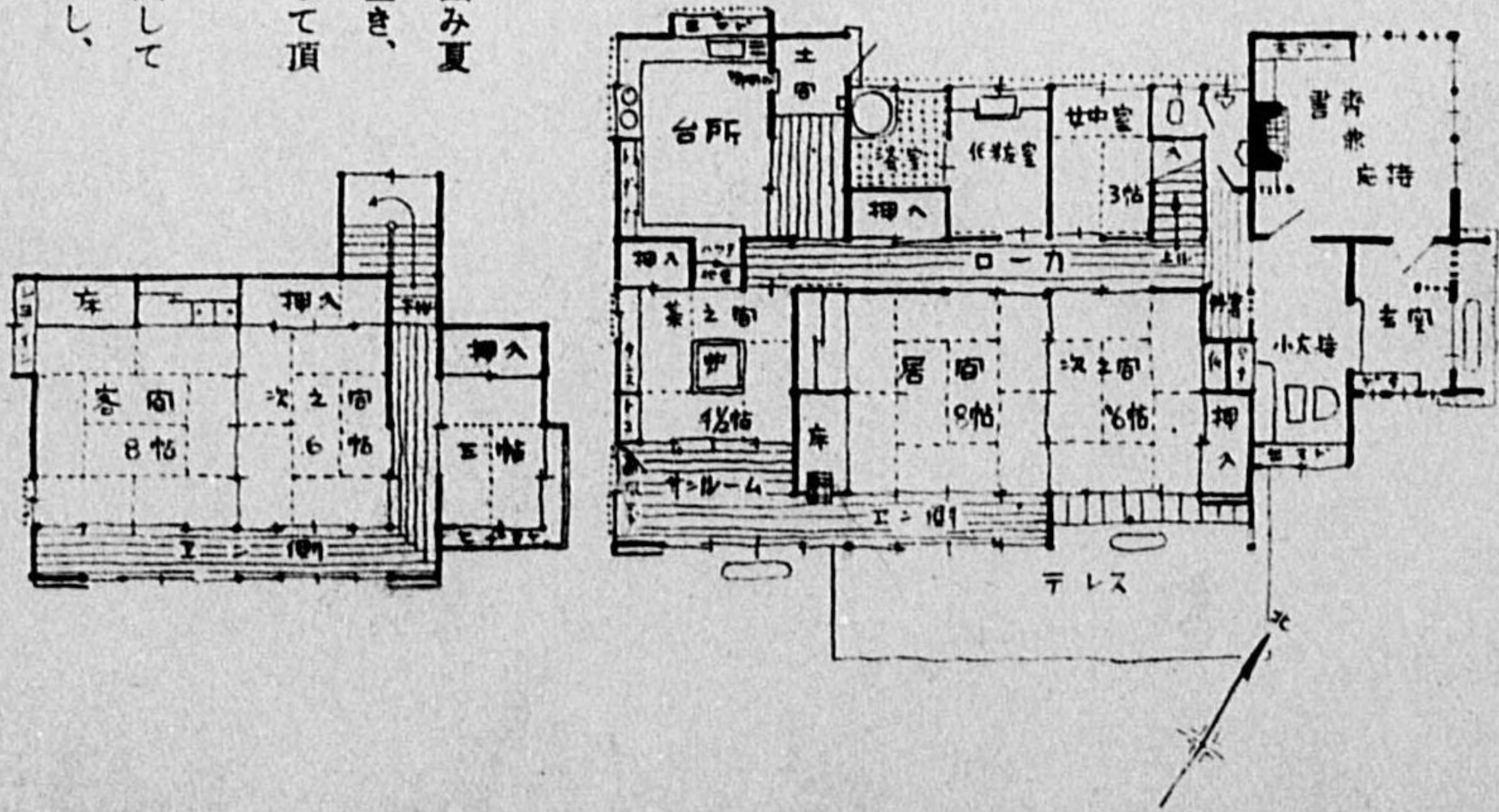
坪数 一階 三十六坪七合五勺  
二階 十 五 坪  
延 五十一坪五合五勺

静かな山手に建つ住宅で御主人は美術家。先づ玄關土間に直接結ばれた、アトリ兼應接、變化の少い東北の光線を多く取り入れて居ります。此の部屋は文士、學者と云つた方の書齋として又美術愛好家の書畫骨董の陳列場等に利用されて相應しいものと考へます。

こう云つた部屋に招する事を好まぬ客の爲には廣間に小應接をとりました。

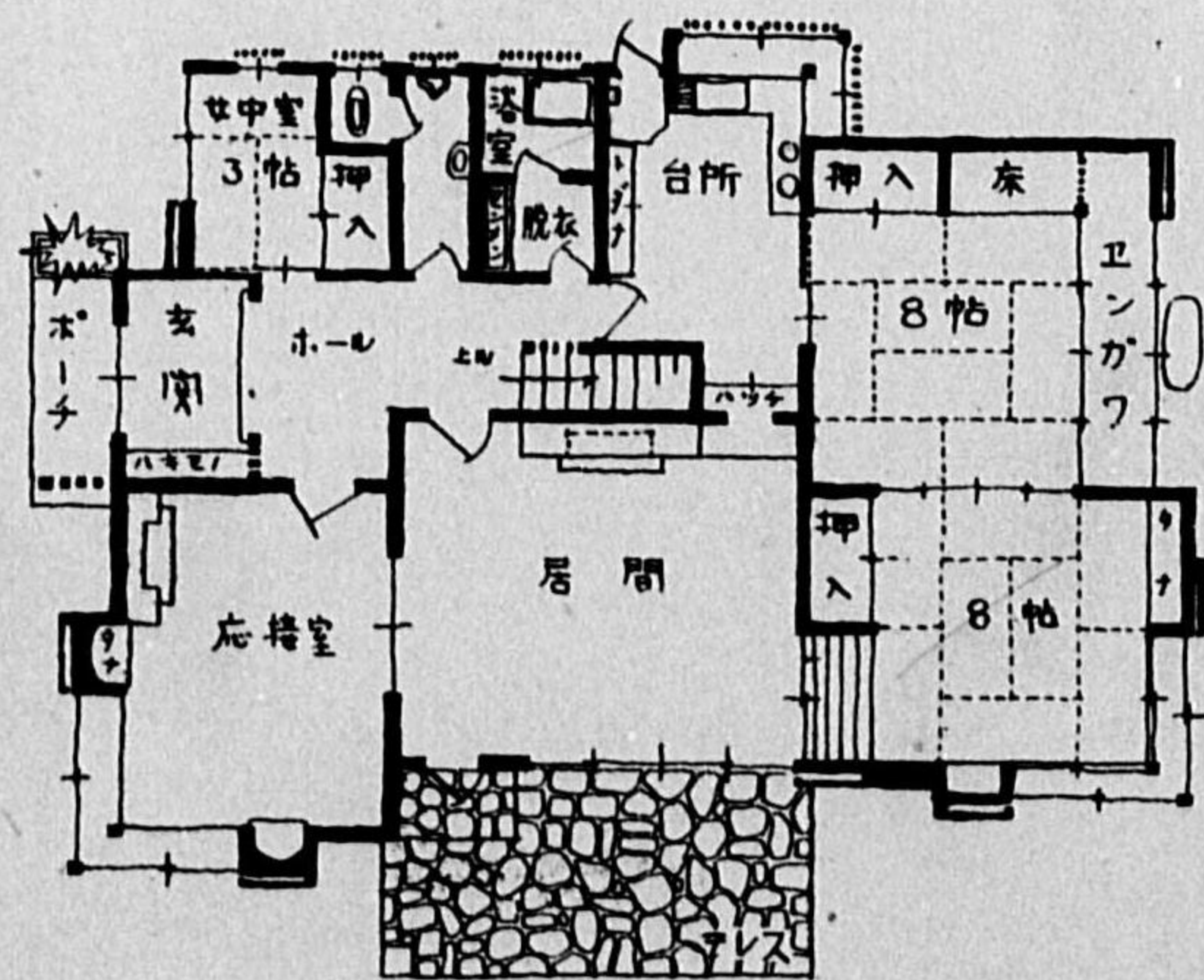
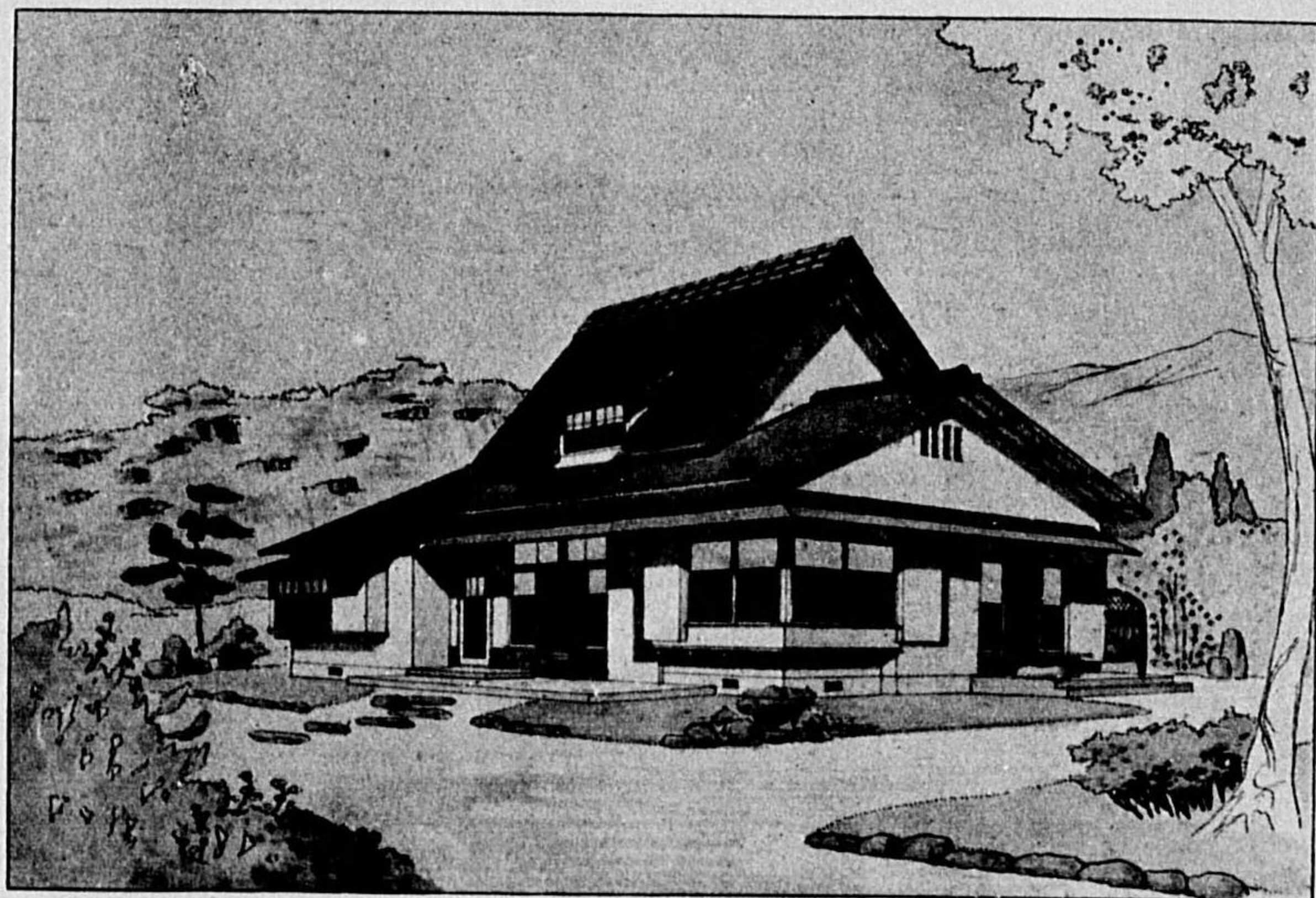
茶の間には爐を切込み、周圍は混凝土で圍み夏は疊を敷き込みます。こゝに食卓又は櫛を置き、食後の團樂に、楽しい冬の夜語り等に利用して頂きます。

外觀は切妻屋根のもつ素直な美しさを強調して見ました壁は強いモルタル壁、リシン仕上とし、日本家の美しさを活した意匠としました。



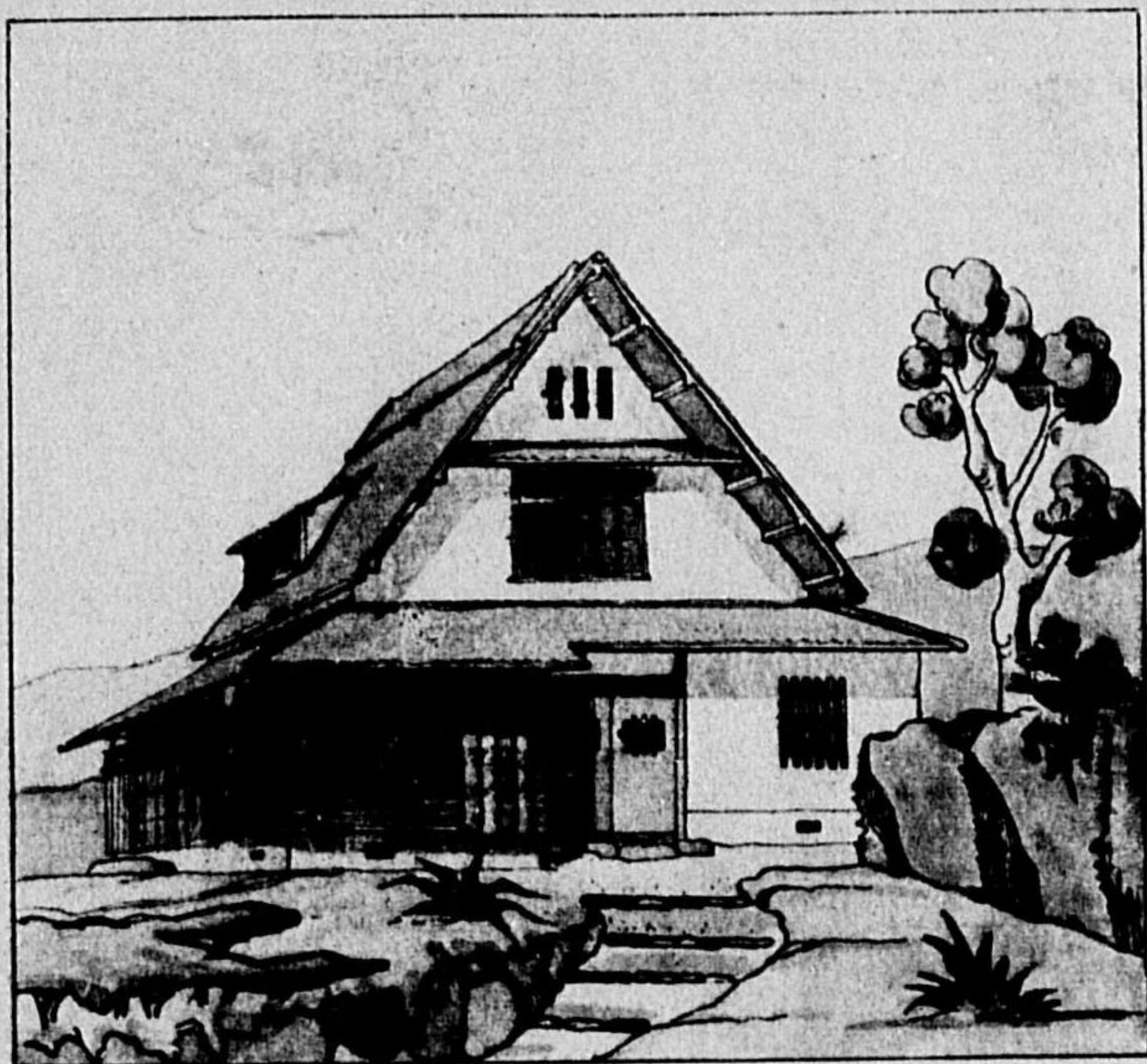
民 家 風 の 住 宅

宇 井 の 風 寮 別



民家風の住宅  
 建坪 三十七坪  
 小高い山腹等に相應しい住宅。平面は洋間を主としたものですが外觀は日本の民家の持つ美しさを充分取り入れました。屋根は一部茅葺とし屋根裏を物置又は豫備の寢室とします。茅葺である關係上市街建築物法の施行されて居る地域では建てられません。此の場合はスレート葺か何かで茅葺の形を真似ればよいと思ひます。

# 新様式の住宅

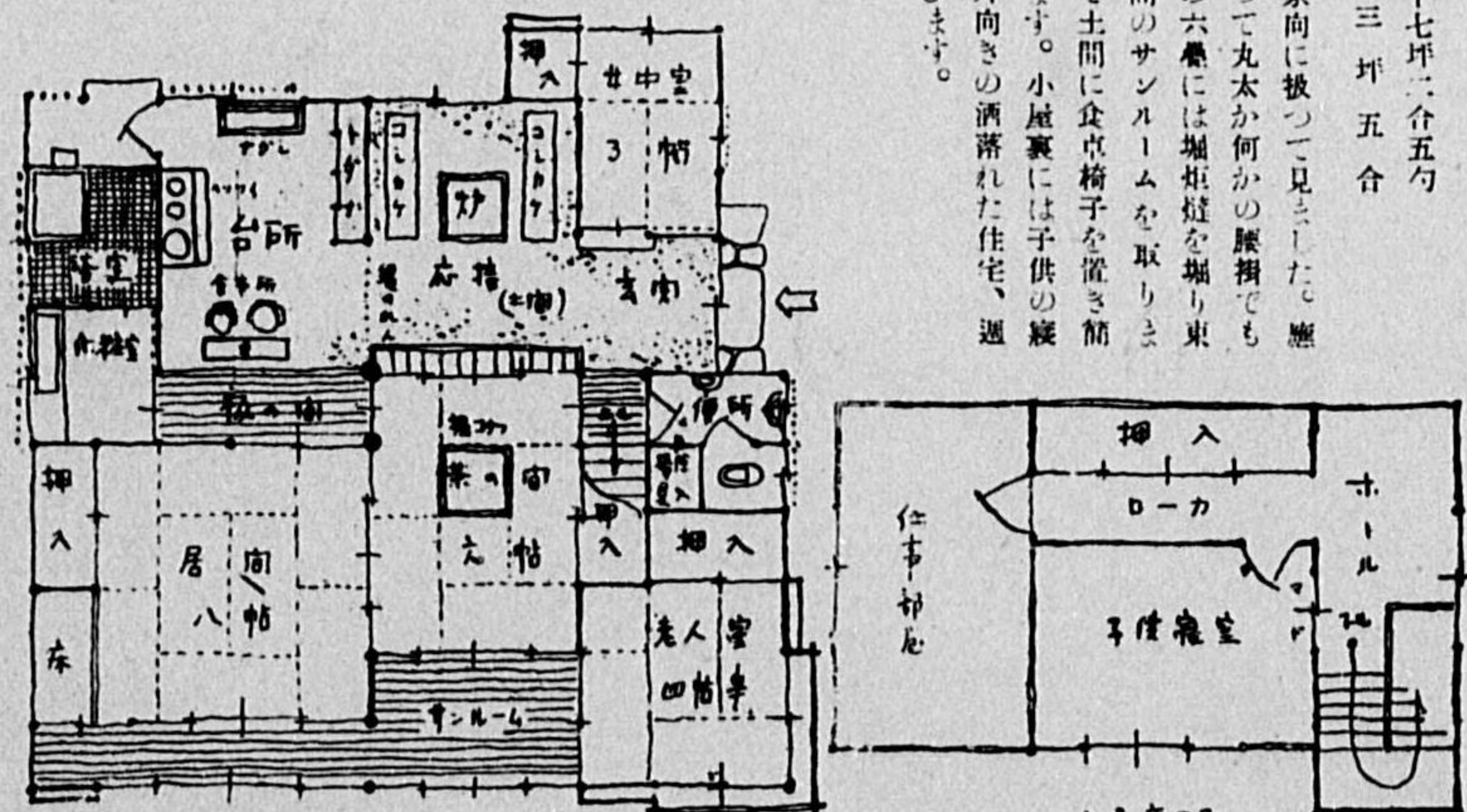


民家風の住宅

其の二

平面外観共少し思ひ切つて農家向に扱つて見ました。應接は玄關横きの土間に爐を切つて丸太か何かの腰掛でも置いて是に當てます。茶の間の六疊には榻炬燈を堀り東南隅の老人室との取合に巾一間のサンルームを取ります。居間の北側の板間に向つて土間に食卓椅子を置き簡單な朝食等の食事場所に當てます。小屋裏には子供の寢室仕事部屋等をとります。郊外向きの洒落れた住宅、週末の家等として面白いかと思ひます。

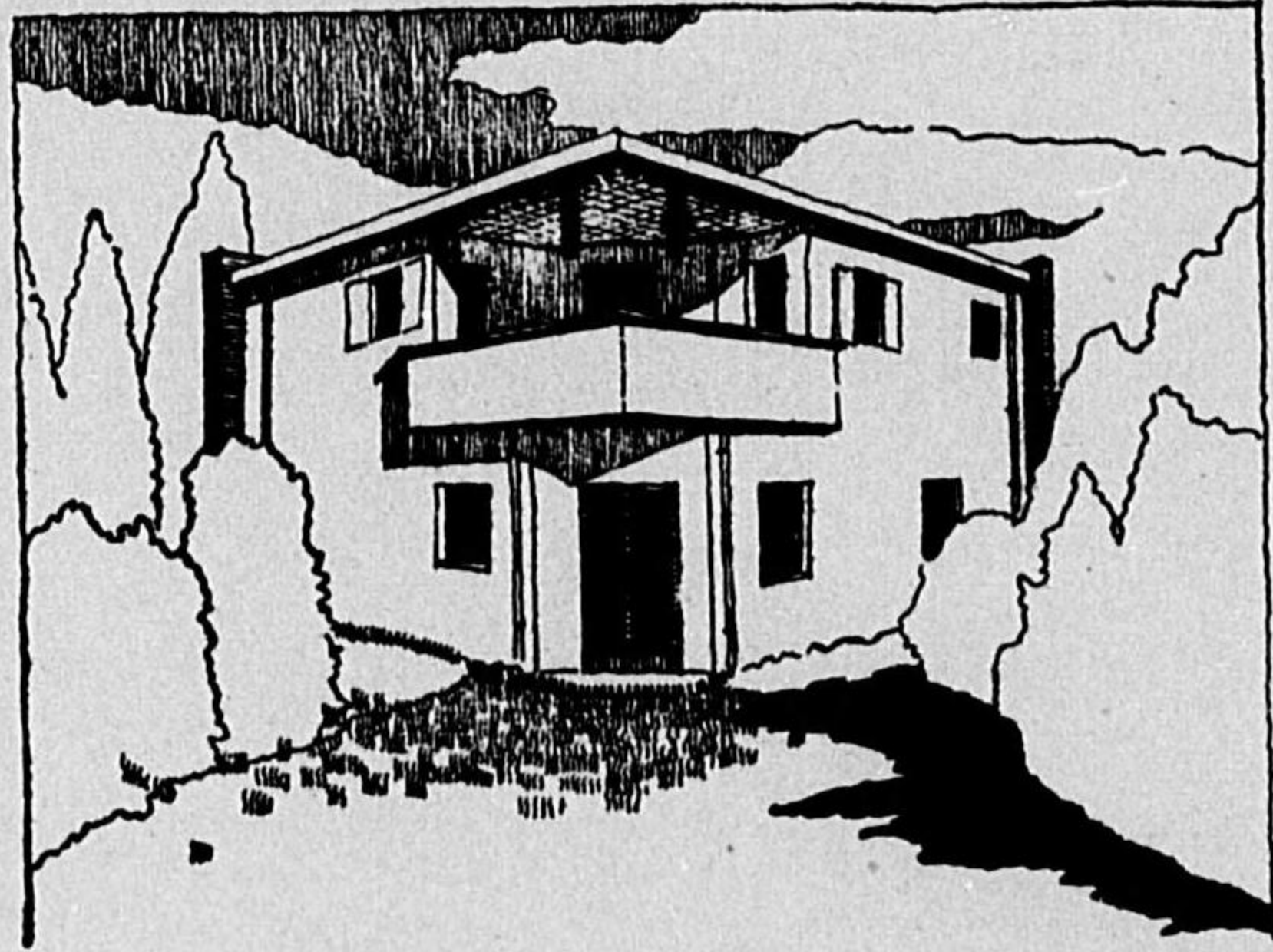
建坪 一階 二十七坪二合五勺  
小屋裏 十三坪五合



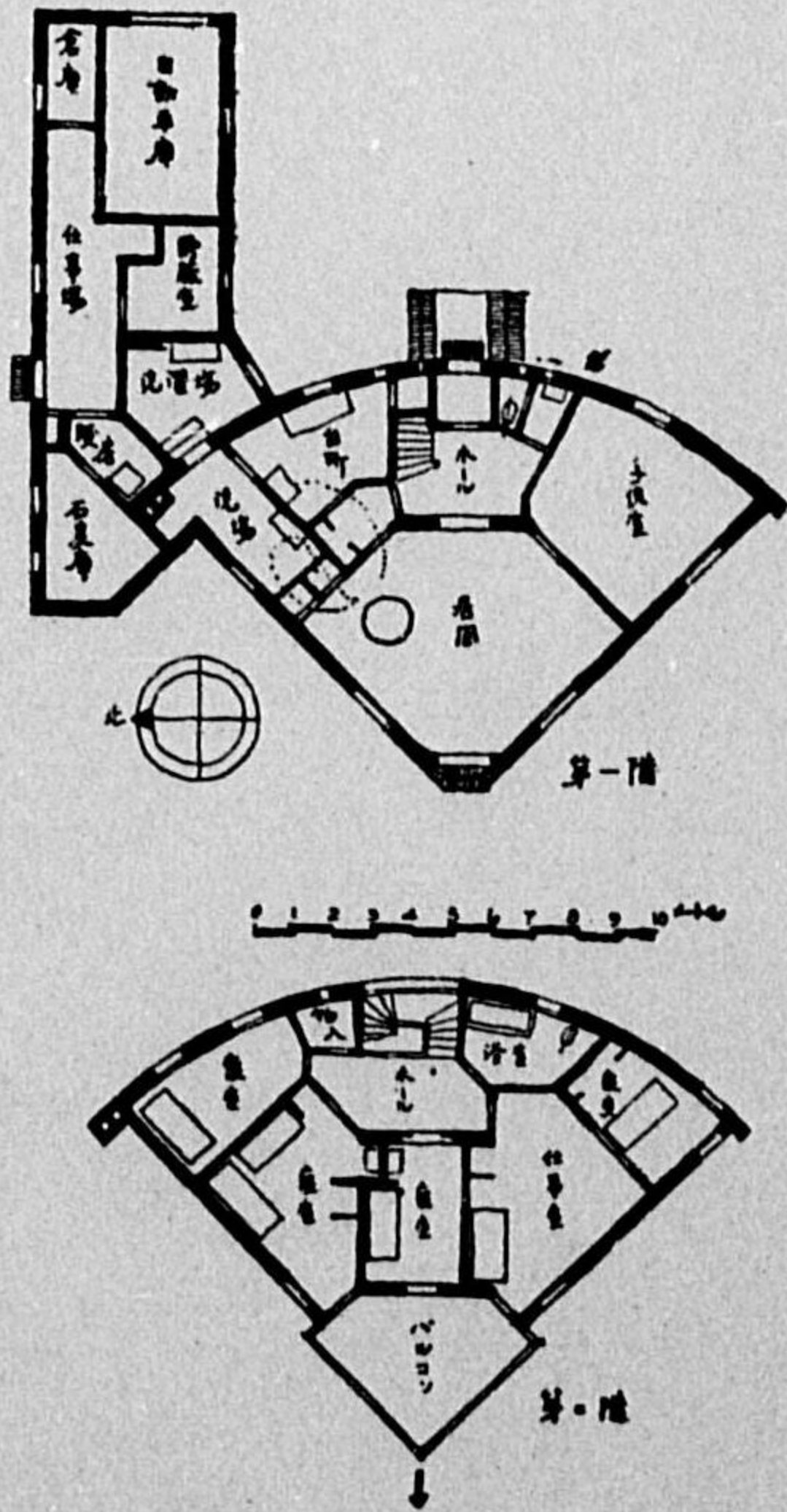
壹階平面圖

小屋裏平面圖

宇 井 の 左 耕 務



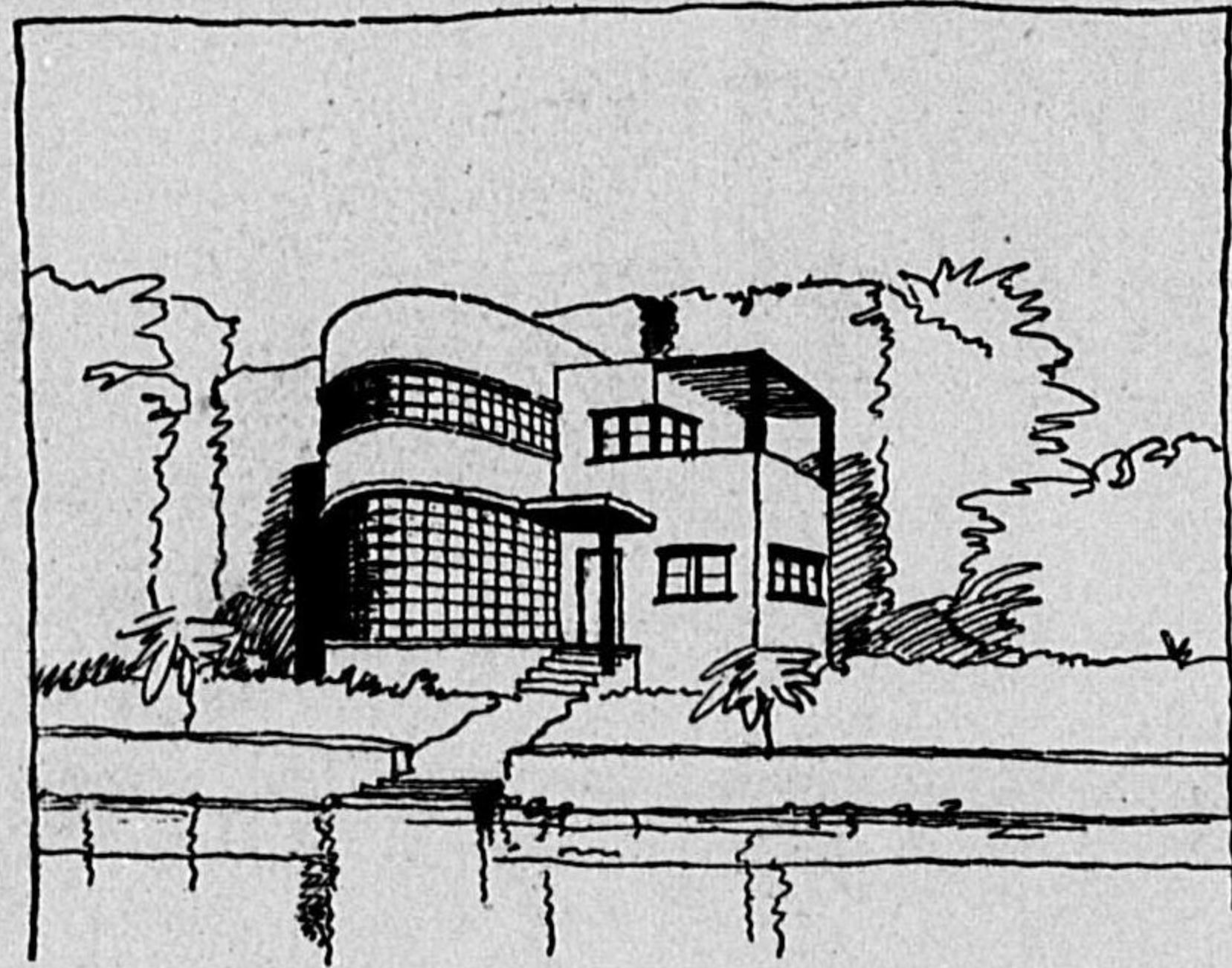
——ドイツの新しい農家——



西に農場を見下す小高い丘の上に立つた農家です。鐵筋コンクリートと硝子で出来たもので日光が必ずどの室にもさし込む事、農場の遠望及室の配置をコンパクトにする要求からこんなプランの家が生れた事と思ひます。

この家は窓の面積が小さいのと氣候の關係でこのまゝ我國に實施は困難ですが洋風住宅といへばアメリカ臭いウスツペラな裝飾の付いたものゝみを想像して居る人への刺戟劑になれば幸と思ひます。

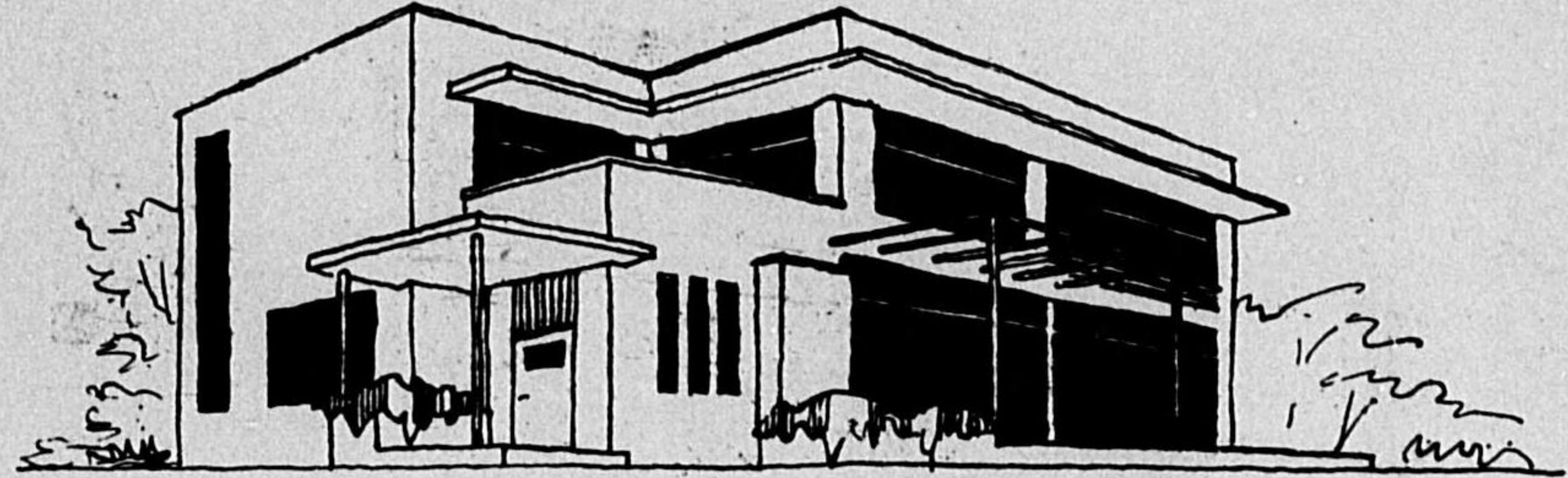
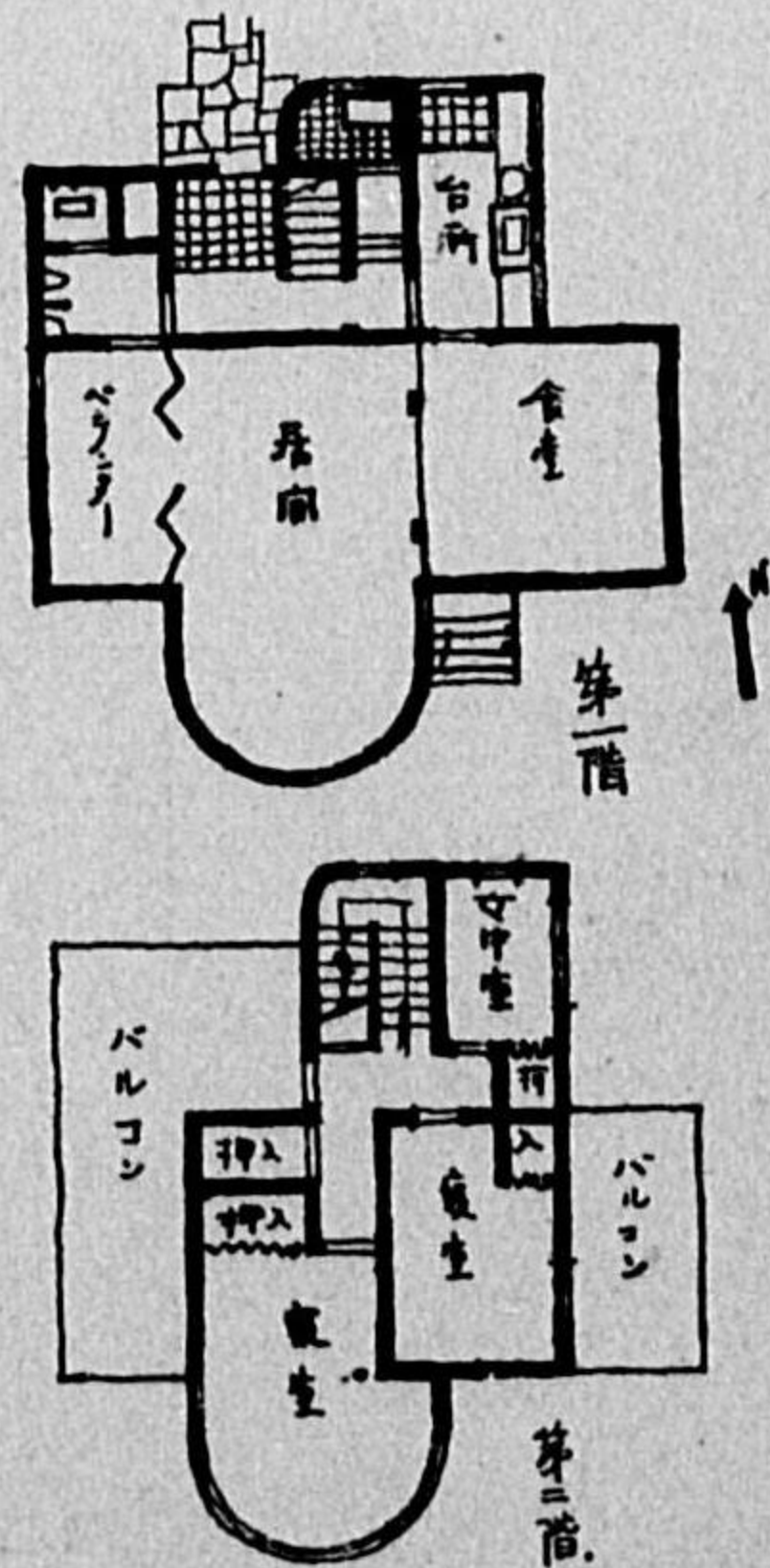
面 積 一階 一六一平方メートル  
二階 八六平方メートル



川邊の家

色々新しい建築材料の特質、建物の機能の忠實なる表現、  
 経済方面の影響等によつて生れたのが所謂モダニスタイル  
 の建築であるが今度は上の様な事を考へながら自由にやりま  
 した。  
 居間に思ひ切り大きい窓を取つたのでベランダは特別に  
 取る必要がないからその間の仕切は折疊式とし食堂との間の  
 間仕切はフレンチケースメントとし三室續いて大きい一室と  
 して使へる様にします。  
 構造は當然コンクリートでやるべきだが、工事を充分注意  
 してやれば木造でも出来ます。

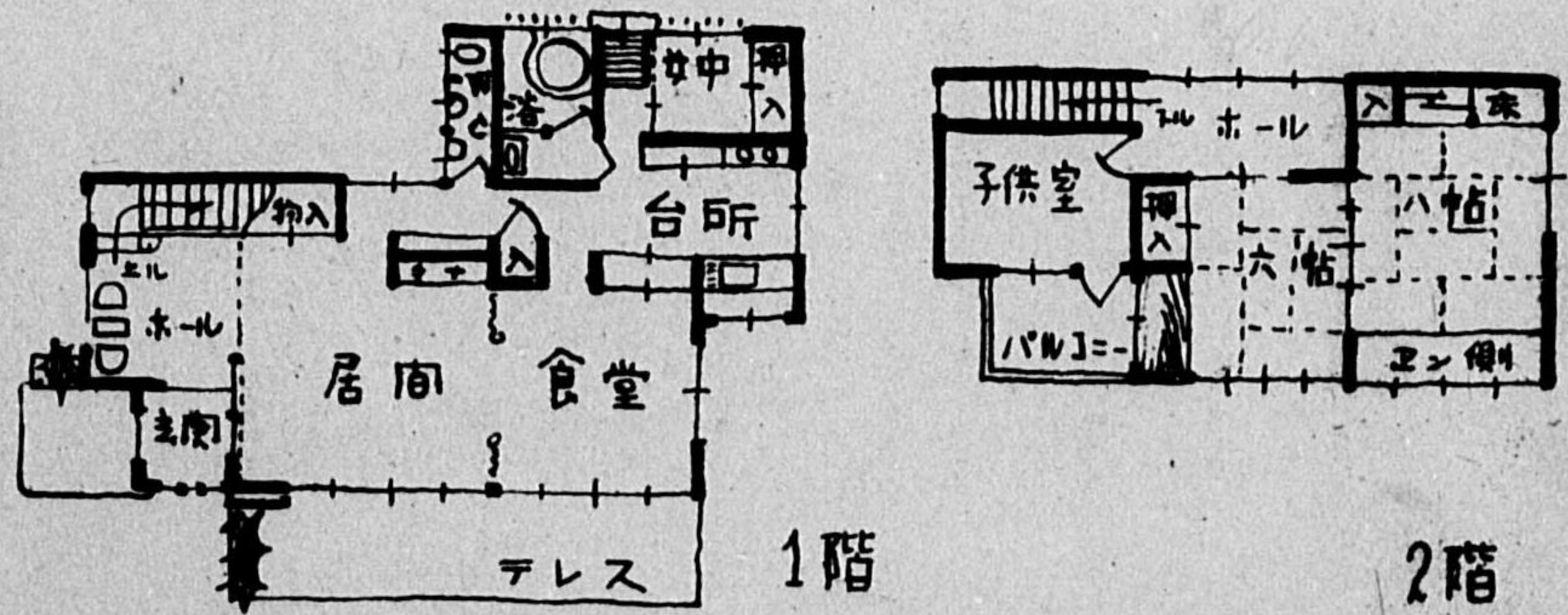
一 階 一九・六坪  
 二 階 一二・五坪  
 家族 五人位



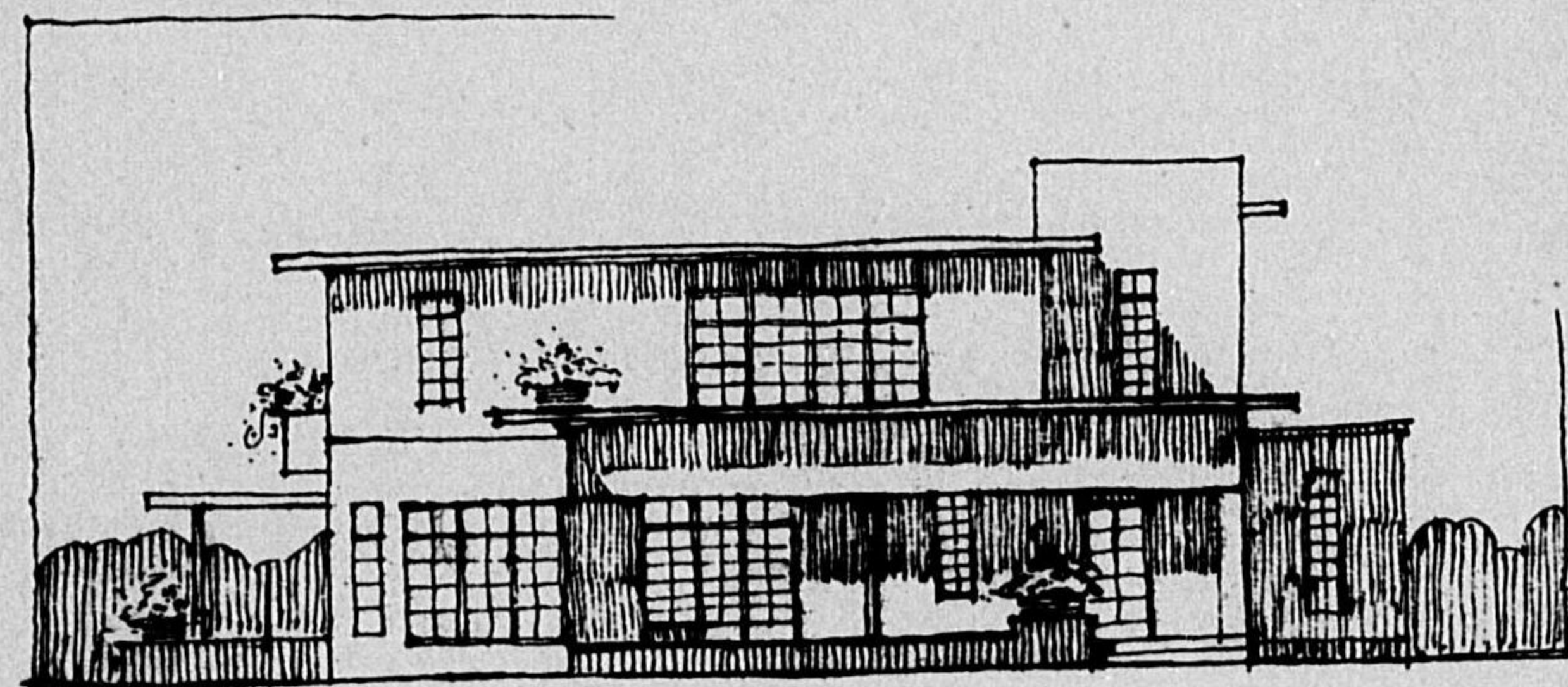
新様式の家

建坪  
 一 階 二十三坪七合五勺  
 二 階 十六坪  
 (バルコニー 一坪五合)  
 延 三十九坪七合五勺

外觀のみでなく間取りも近代的な明朗な考へのもとに計畫して見ました。一つの大きな主室をとり、その各々の隅を書齋に、食堂に應接室に、居間にと云つた風に極めて融通性に富むプランです。大別して居間、食堂、ホール。居間食堂の間にはカーテンを引き得る様にし、居間、ホールの間には引戸を設け平常は開け放しとし、冬期等のみに使用すればよいと思ひます。階上には日本間と子供室をとりました。



洋風を加味せる日本風の住宅



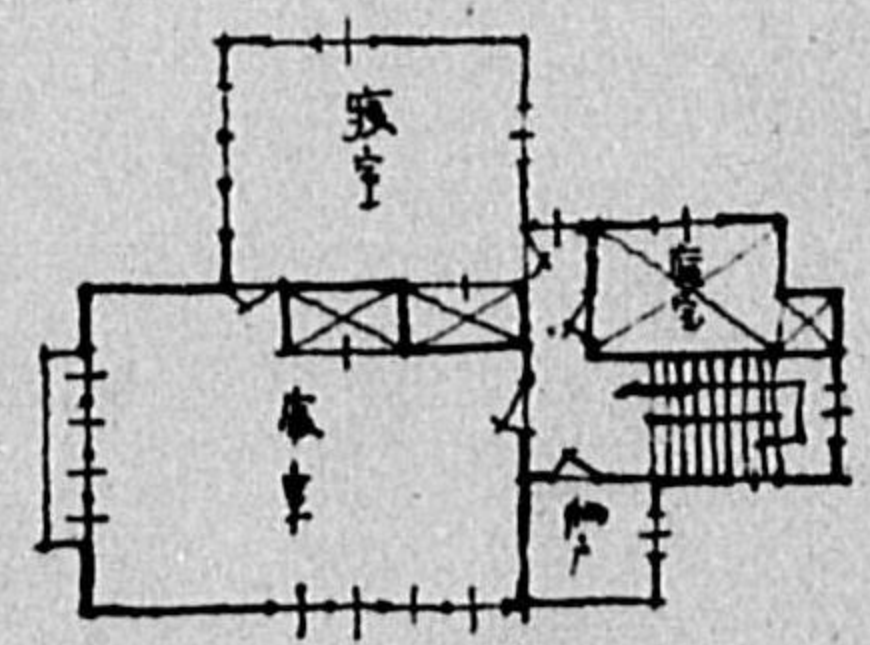
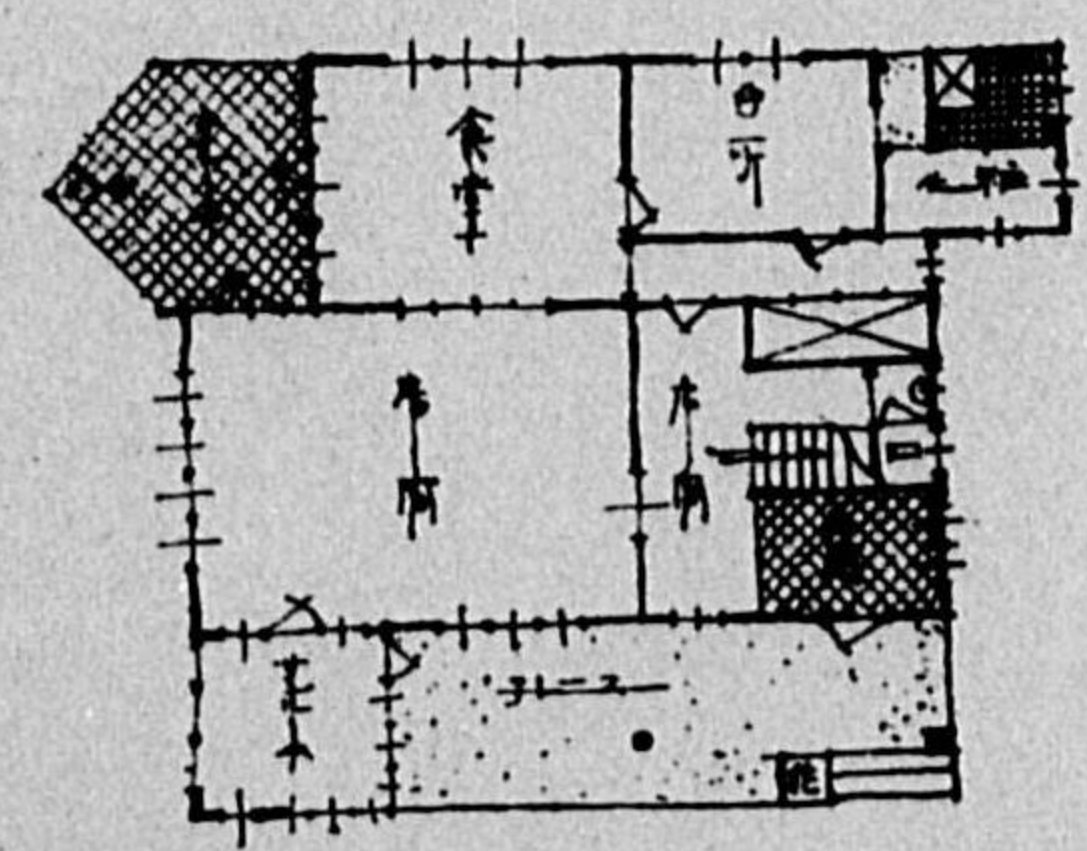
— (フラットルーフの家) —

敷地	百五十坪—二百坪
一階	三十八坪
二階	十九坪五合
合計	五十七坪五合

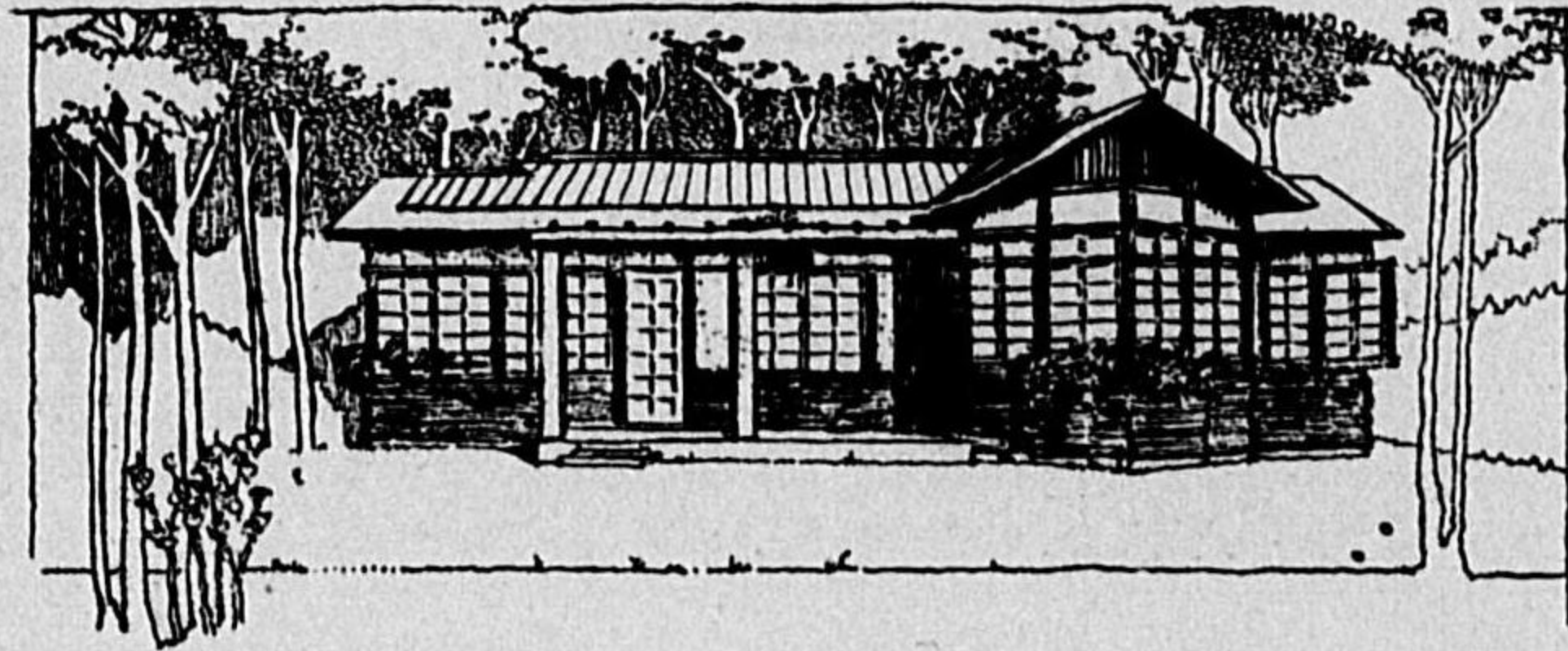
大體に於て洋風とし和風を加味したもので、外觀は洋風陸屋造として、外部はメタルラス張りの上、色モルタル塗又は白漆喰塗が良いと思ひます。

平面圖に於きましては居間が中心になり、テレースには藤椅子など置けば相當利せられ、サンルームは兒女の室に當てると良いと思ひます。

寢室は全部二階に取り、女中寢室は疊の方が良いかと思ひます。



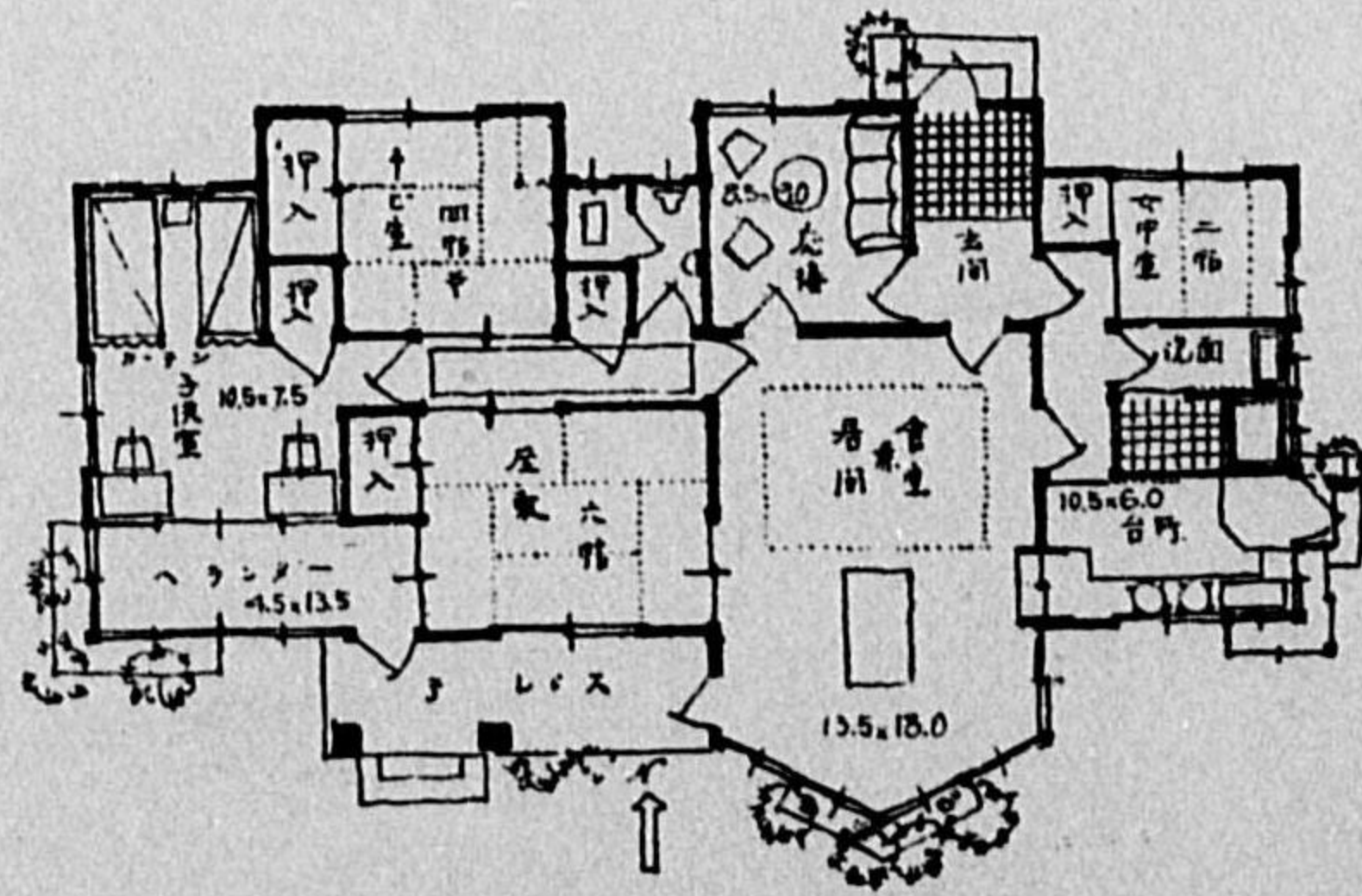
宇井の風本日と和風と風半



洋風日本家

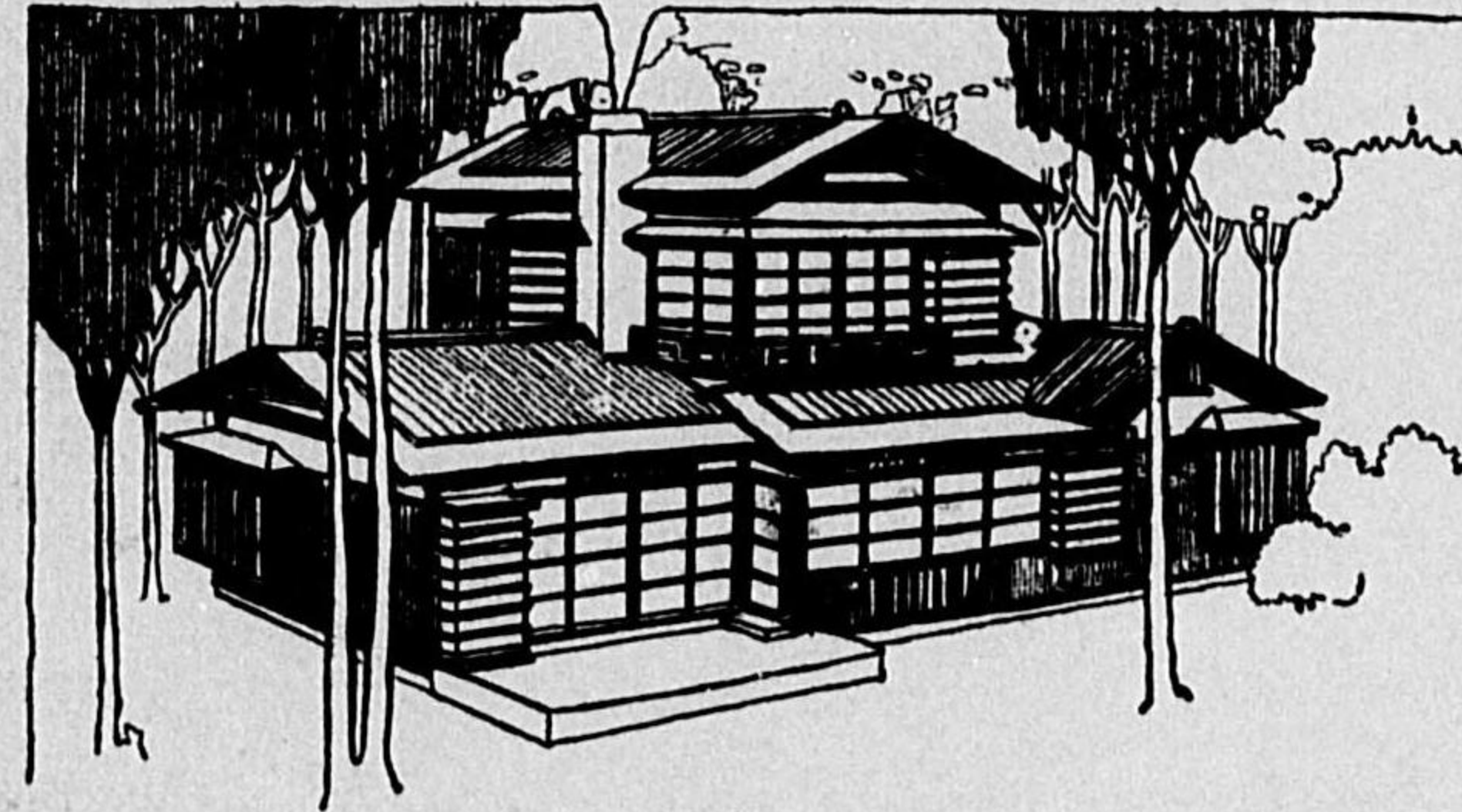
家族 五・六 人  
建築面積 二十八・五坪

現在及將來に對する我國住宅のなやみは多々あります。之は即ち現在郊外に建ちつゝある住宅にちつとも統一性がなく、丁度各國住宅展覽會の様な光景を呈せるを見れば頷ける事と思ひます。現在は生活各方面の過渡期になつて居りますので現在の生活に全く適當した統一した住宅のないのが當然で、その住宅を得る事は少數の建築家のみに任して置くべきではなく、多數の住む人々も力を合せその人々の體驗によつて色々不合理の點を改良してこそ、初めて得らるべきものと思ひます。右の様な事を考へながら、西洋住宅の實用的な所に日本の趣味を加へて設計し、殊に通風と採光に注意し、主に用ひる部屋は皆南向又は東に面する様に致しました。





スバニツシュ式の住宅



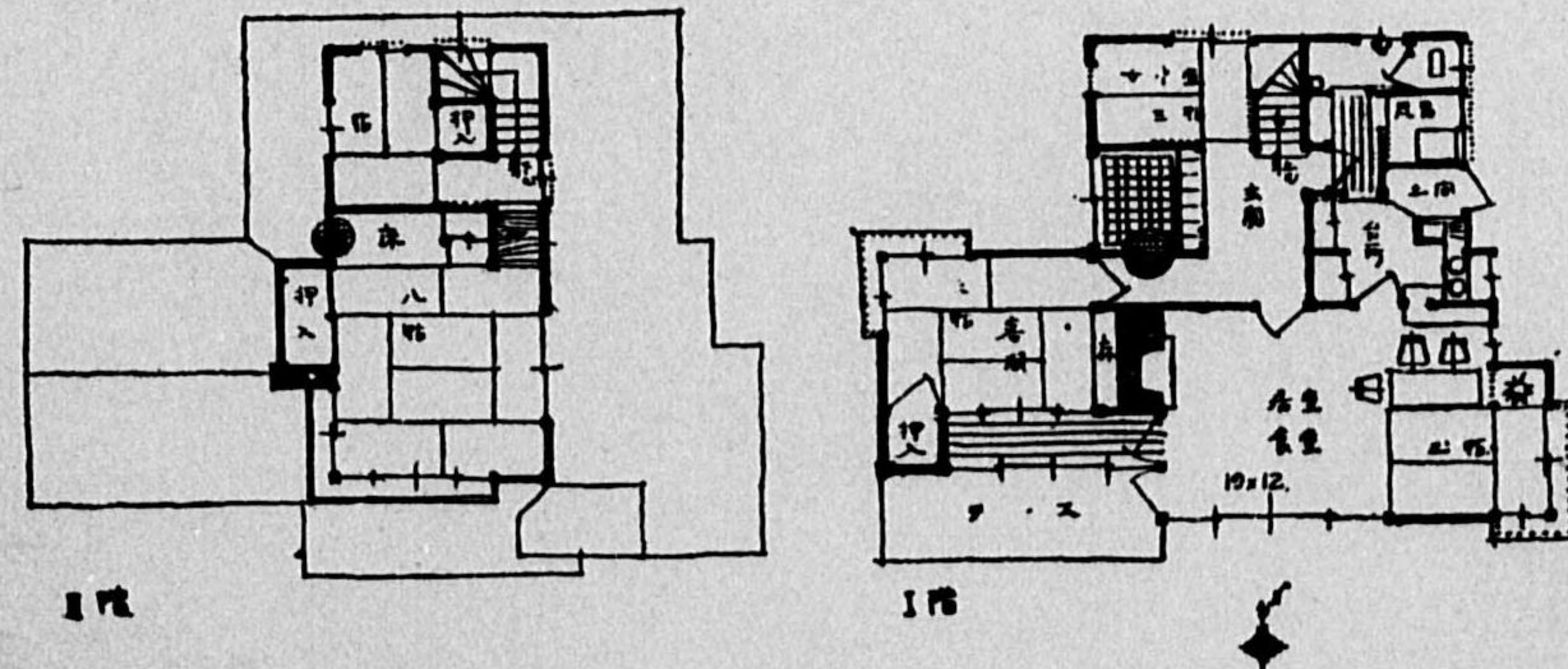
— 洋風日本家 —

建築面積 一階 二〇坪  
二階 八坪  
家族数 五・六人

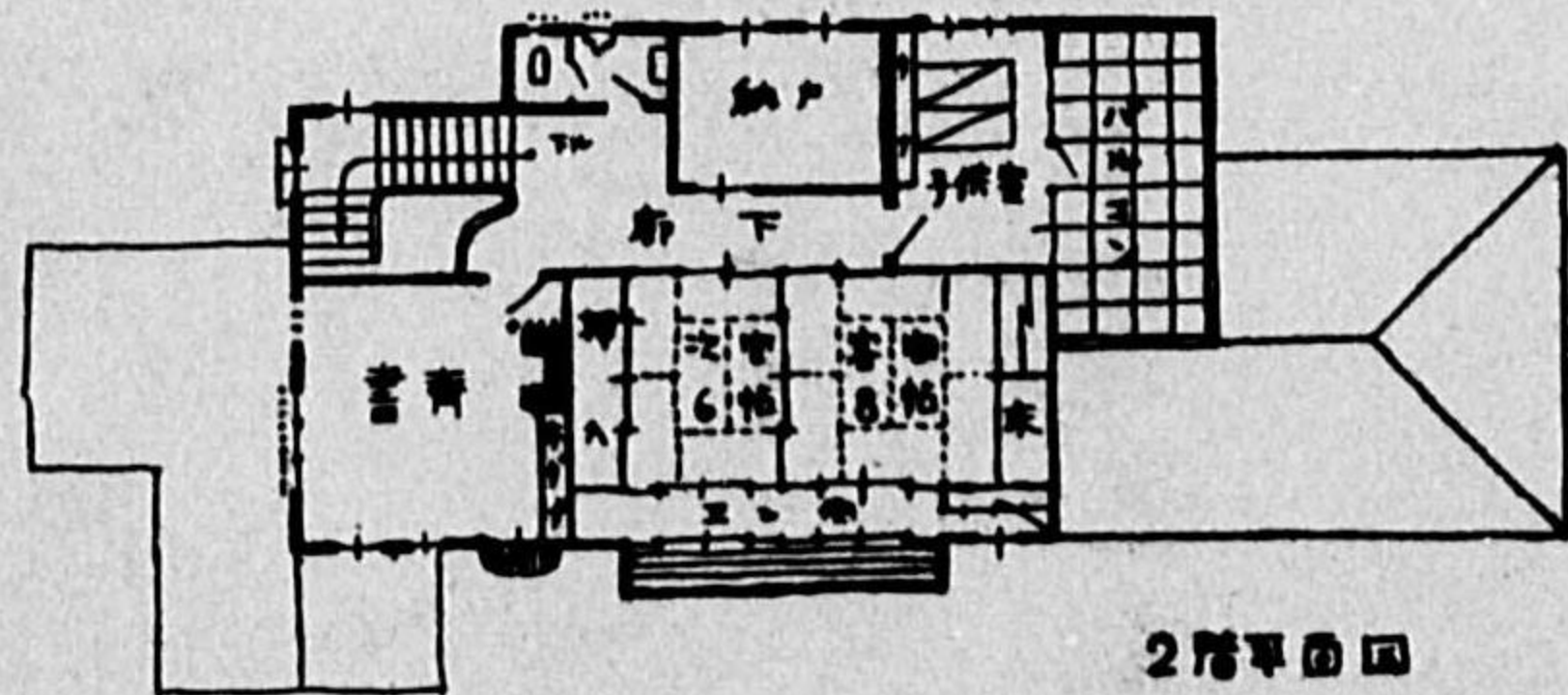
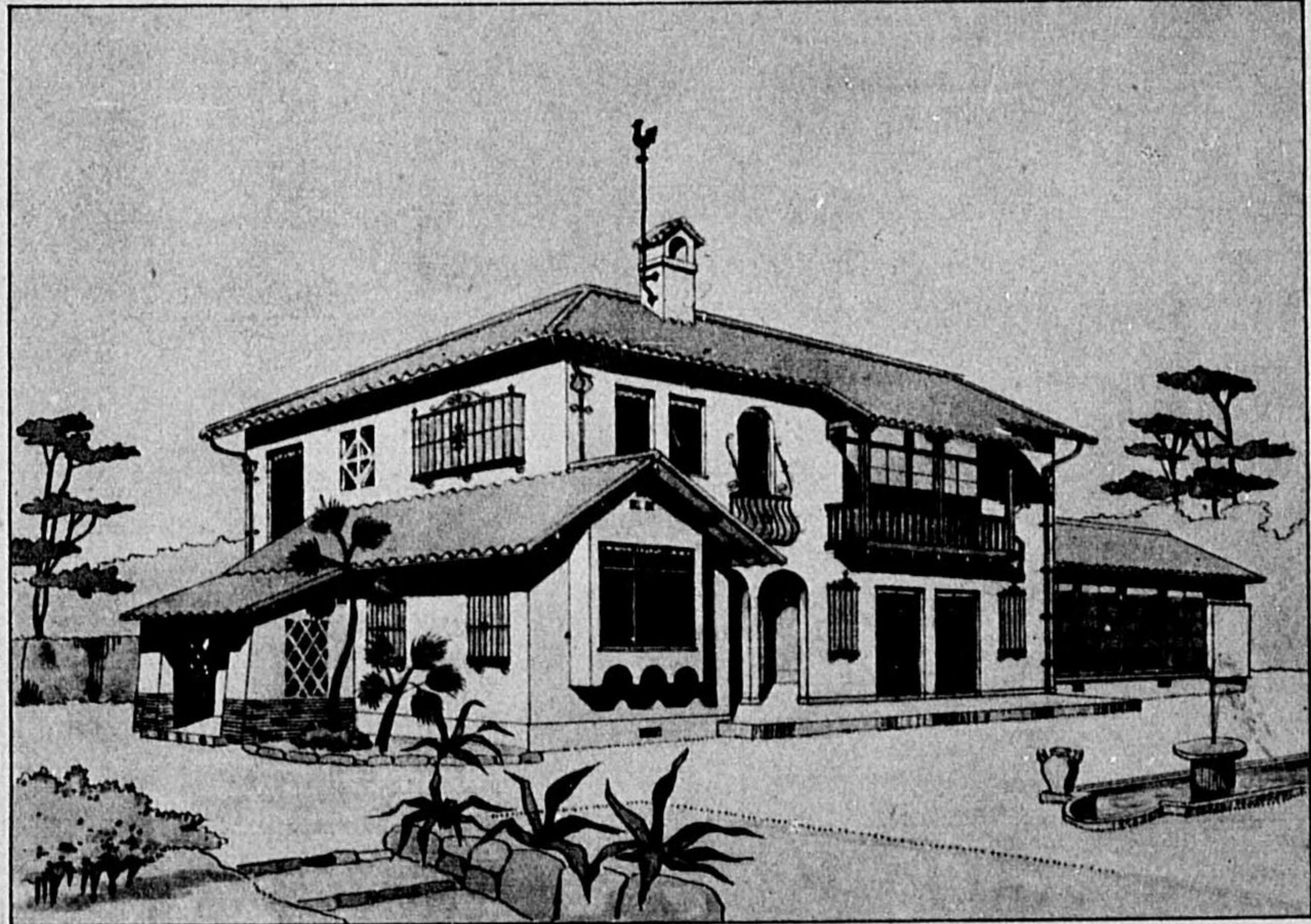
前同様の趣意により設計した二階建住宅で現在の過渡期の生活に幾分でも觸れたものにしようとした。

内部の居間兼食堂はすべて動作に便利なる爲に洋風とし一部東南隅に畳三帖を敷きこの畳と板の間との間にテーブルを置き、女又は老人は座して他は椅子によつて食事する様にしたのも過渡期に對する一つの方法と思ひます。

外觀は在來の日本家の形をこわさない程度に洋風を取り入れたものとなりました。



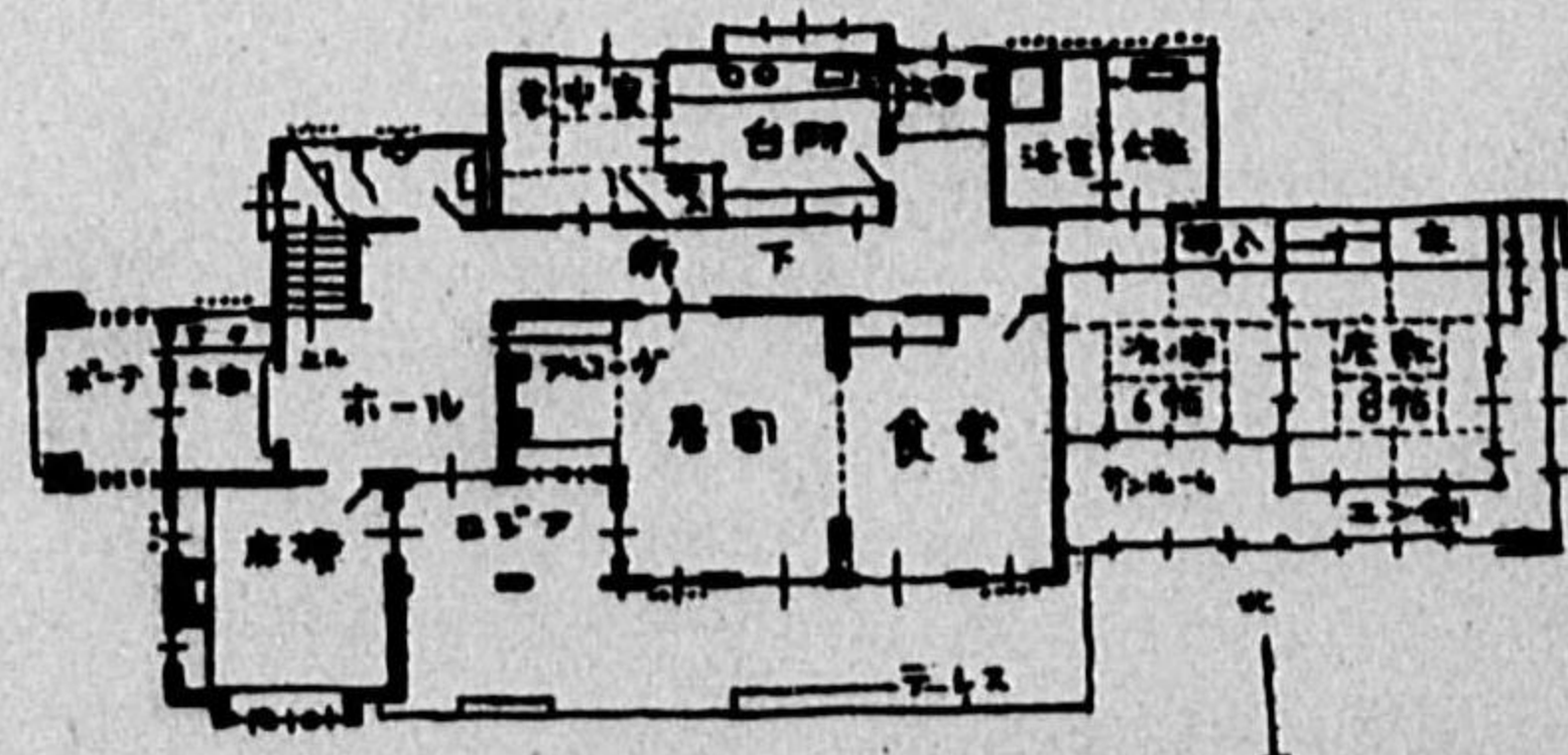
宇井の左エムジニハス



2階平面図

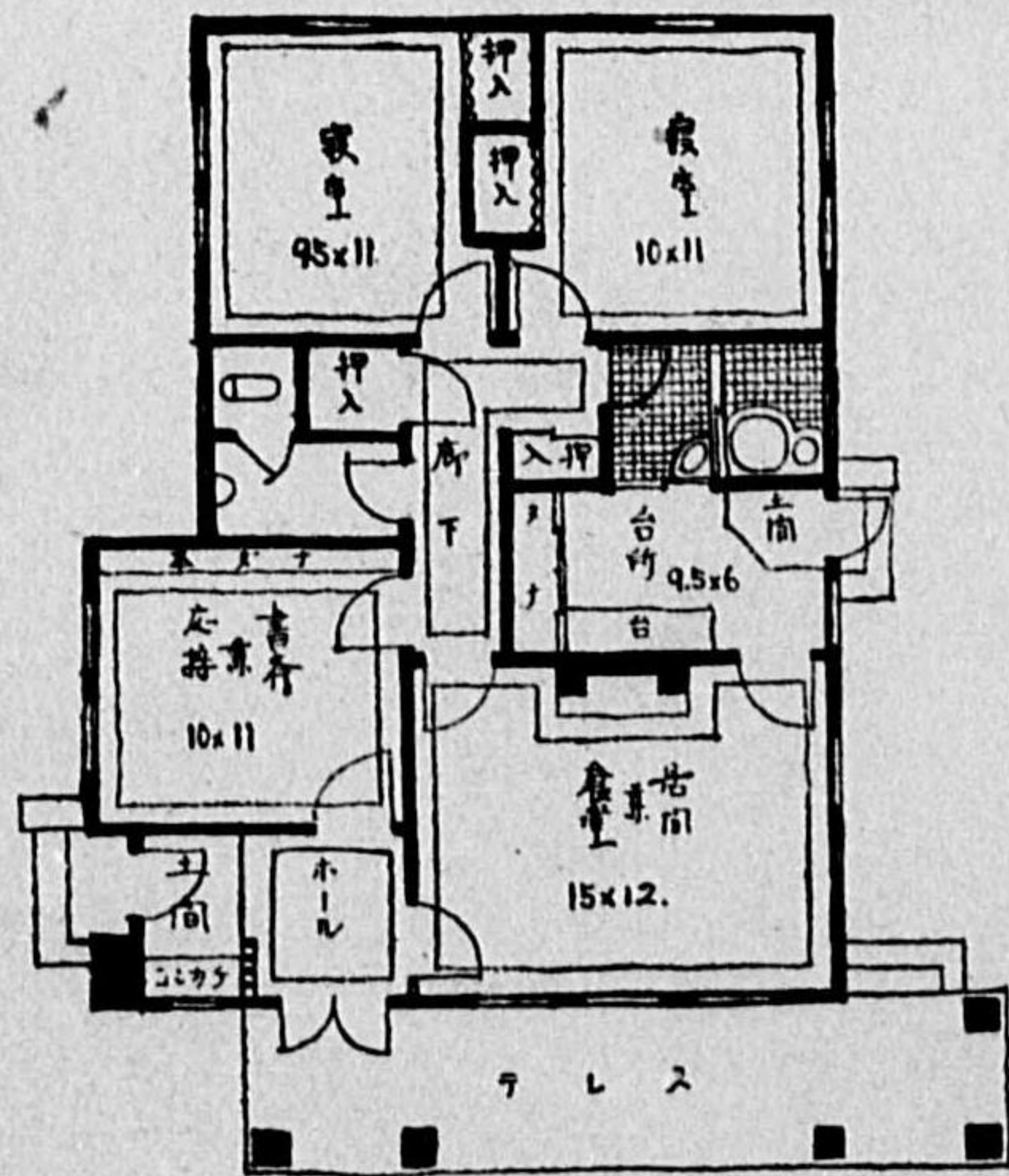
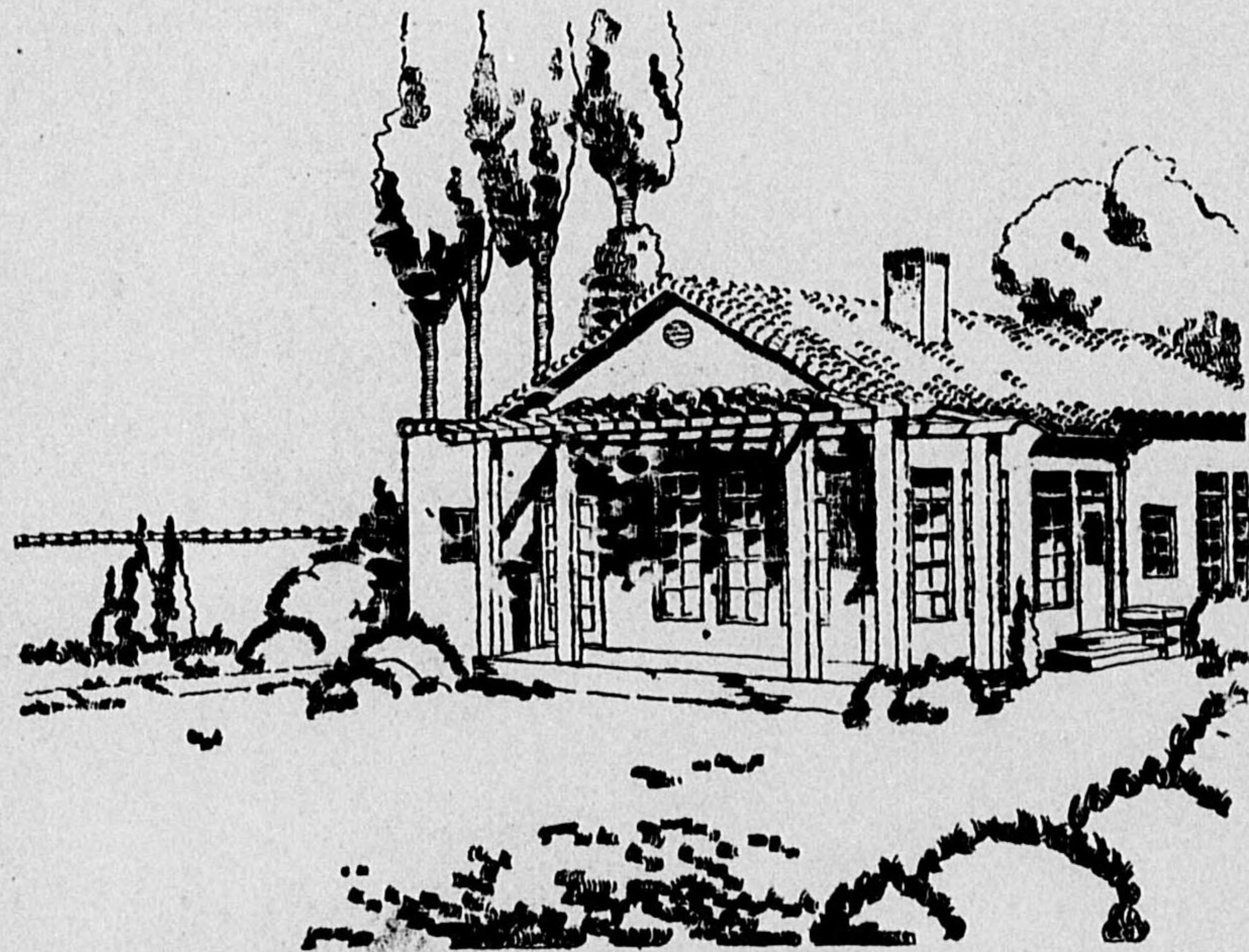
建坪 五三坪  
 一階 三一坪二合五勺  
 二階 四坪五合  
 三階 八八坪七合五勺  
 計 八八坪七合五勺

—西遊牙風の家—



1階平面図

主として洋室本位に間取を考へ、老人の爲に東南に、客間として二階に日本座敷を設けました。  
 静かさと家族との交渉を少くする爲に座敷を一つ獨立せしめ、ホールから明るい庭を望み得るやう設計して見ました。居間にはアルコーヴを取り此の入り込み全體を一つの大きなストローグとして入り付けの椅子を設け、燃ゆる火を見つめつゝの園樂の一隅とします。

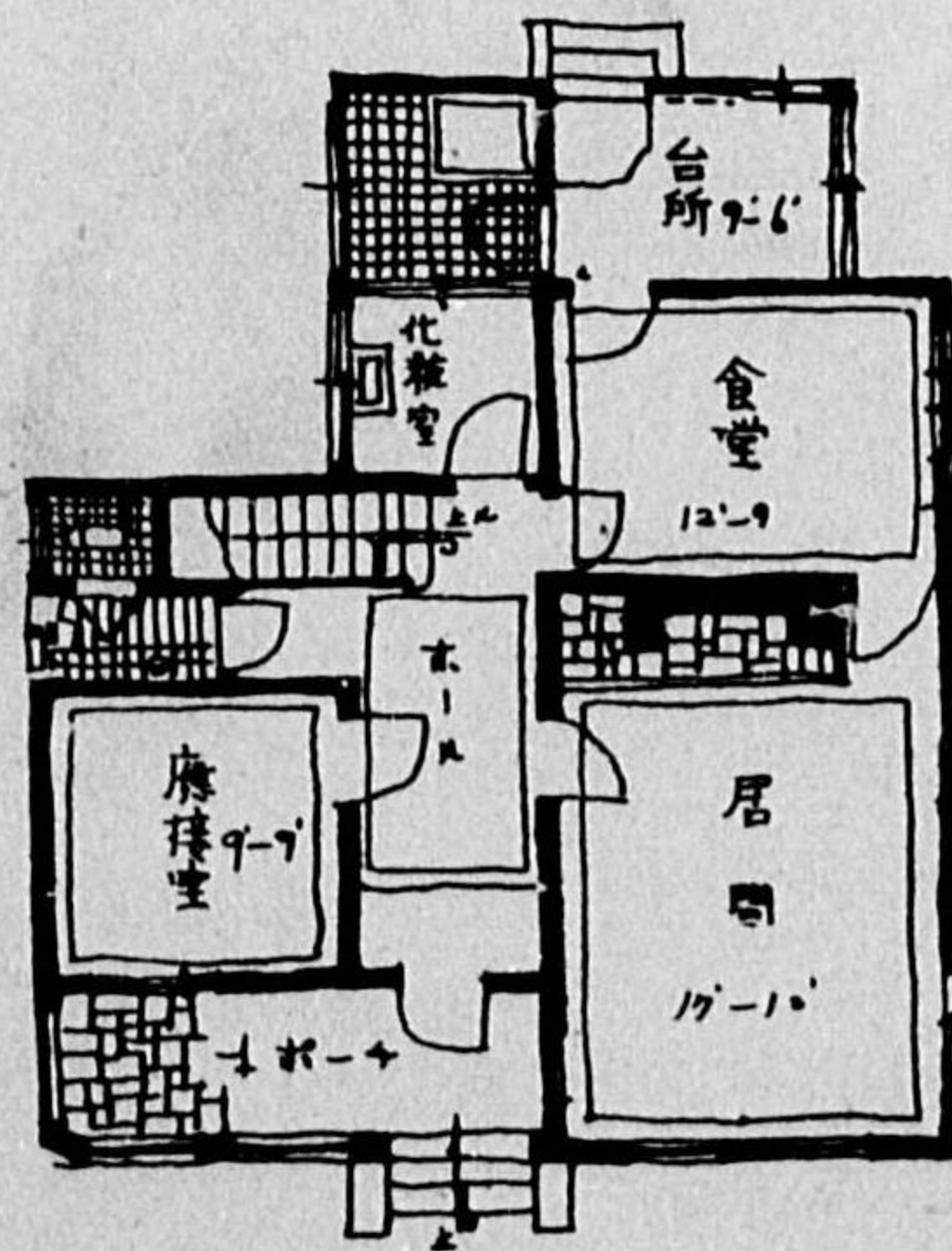


平面図

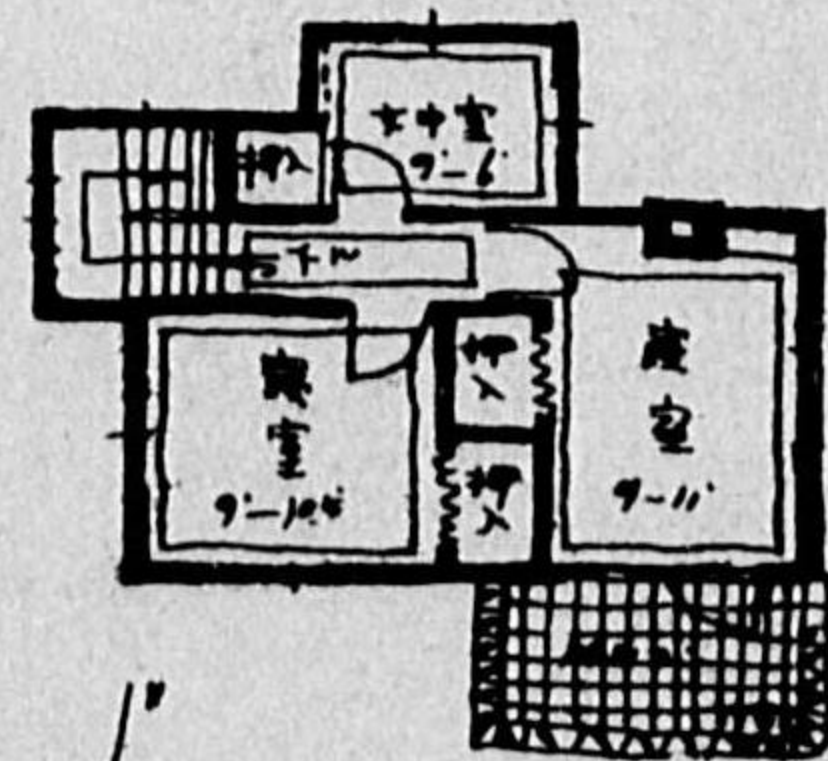
坪数(テラス共) 二十七坪  
 室内様式 洋式  
 住む人々 四・五人

西洋といふても最も東洋人の趣味に一致しやすいスペイン風の所を多分に取り入れて設計しました。庭に面したテラスは夏の夕涼みの場所ともなり一年中の戸外の居間ともなるべき所だと思ひます。

—— スパニッシュ・ミッドジョン風の家 ——



壹階平面図



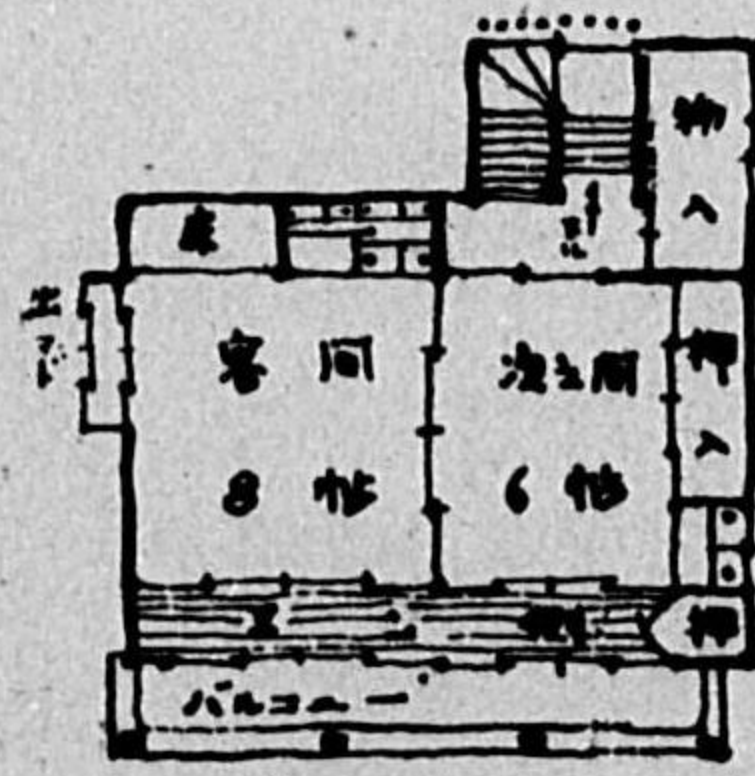
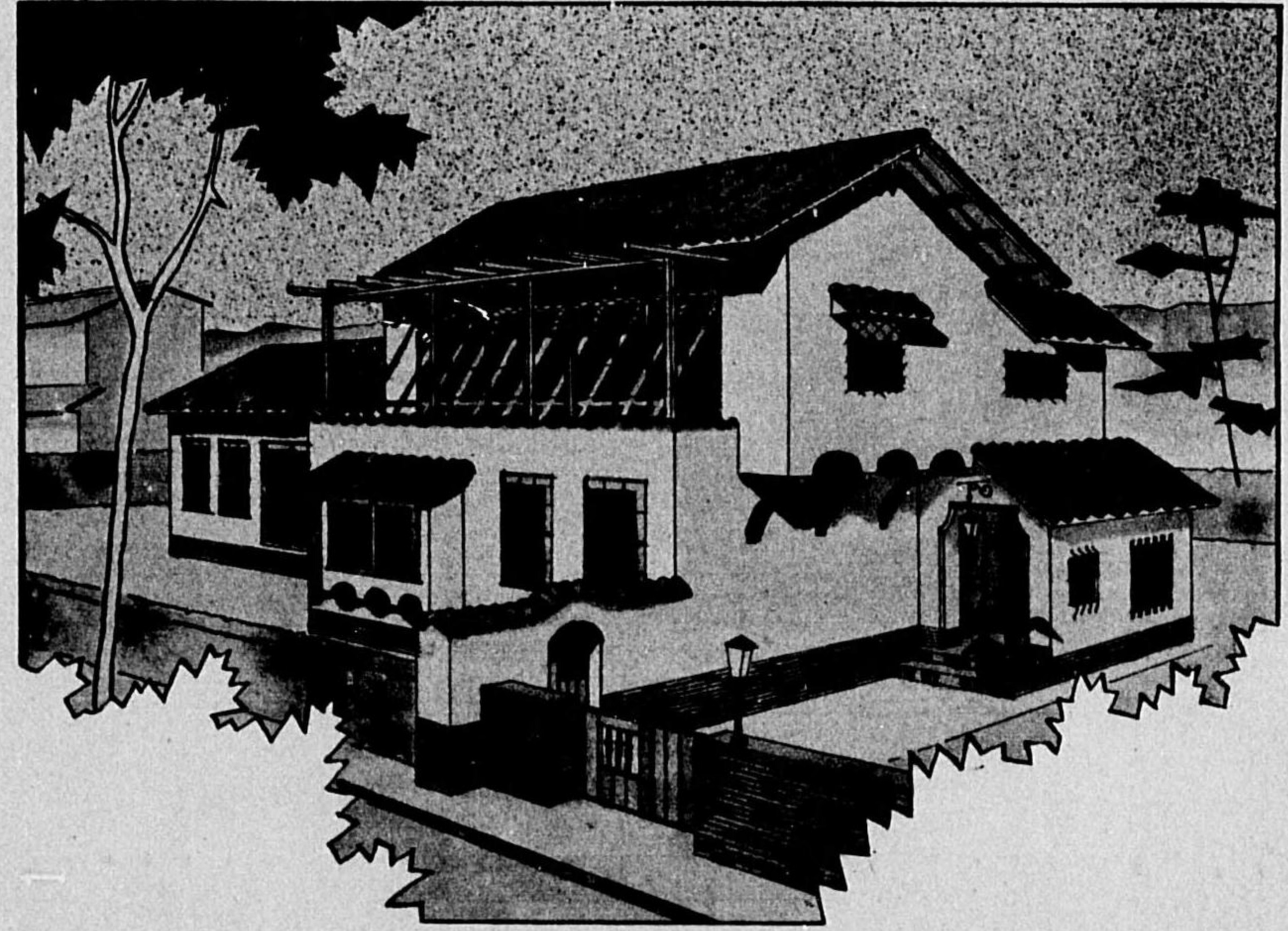
貳階平面図

坪数 二十九坪八五  
 家族 五・六人

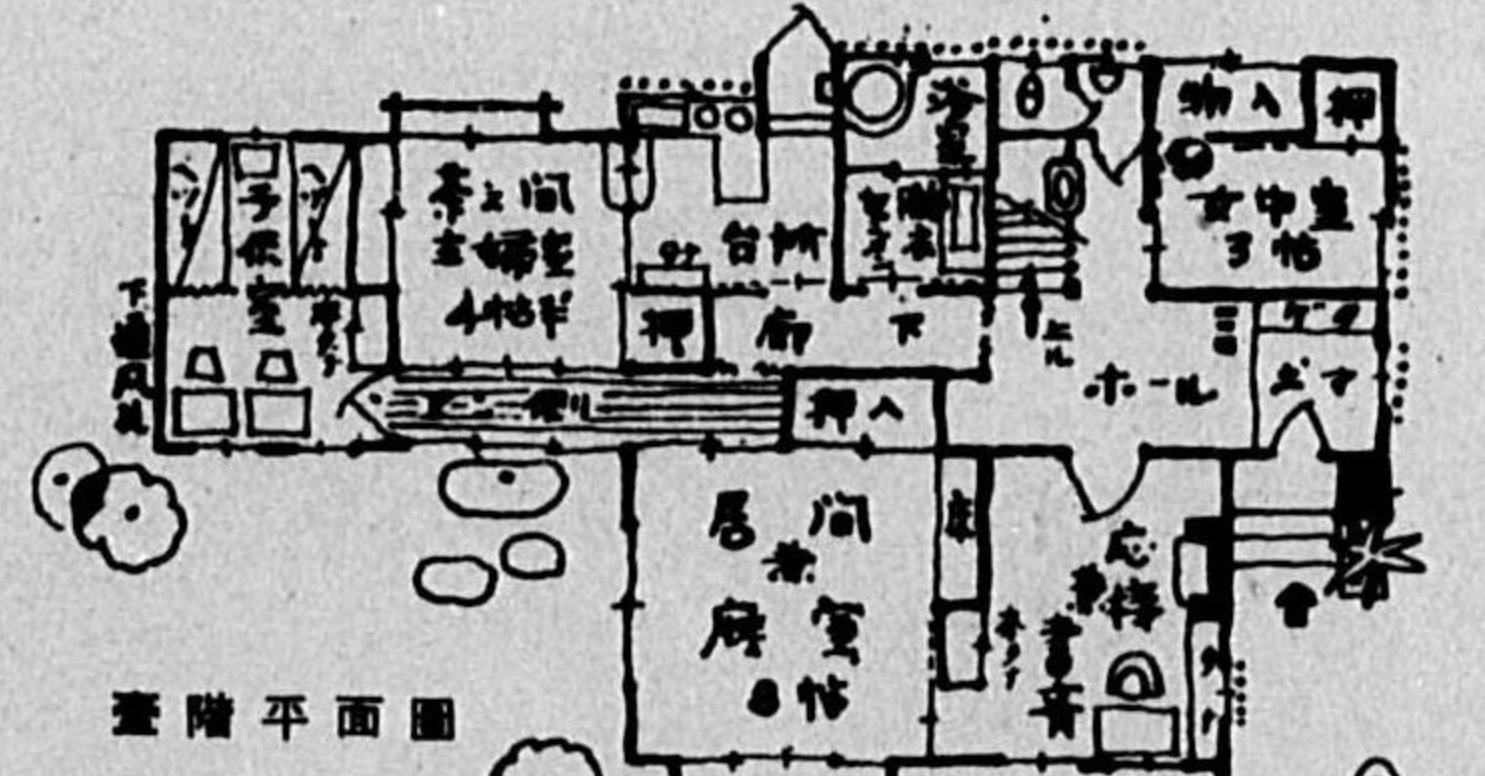
之からだん／＼寒くなつて暖をとることが必要になるが、最も経済的に且大ぜいの家族が團欒して暖まるには石炭や薪の焚ける暖爐に及ぶものはないと思ひます。住宅向では瓦斯や電気は便利だが、その價が高く、又火鉢や火爐はその暖かさに於て比べものにはなりません。  
 この家は非常に暖爐を大きくとりましたから不用の木切や板なども焚け、上には湯も沸かされるし、丁度吾國の北國のいろりと同じ様に用ひられます。

—— 大きい暖爐のある家 ——

和洋折衷式の住宅



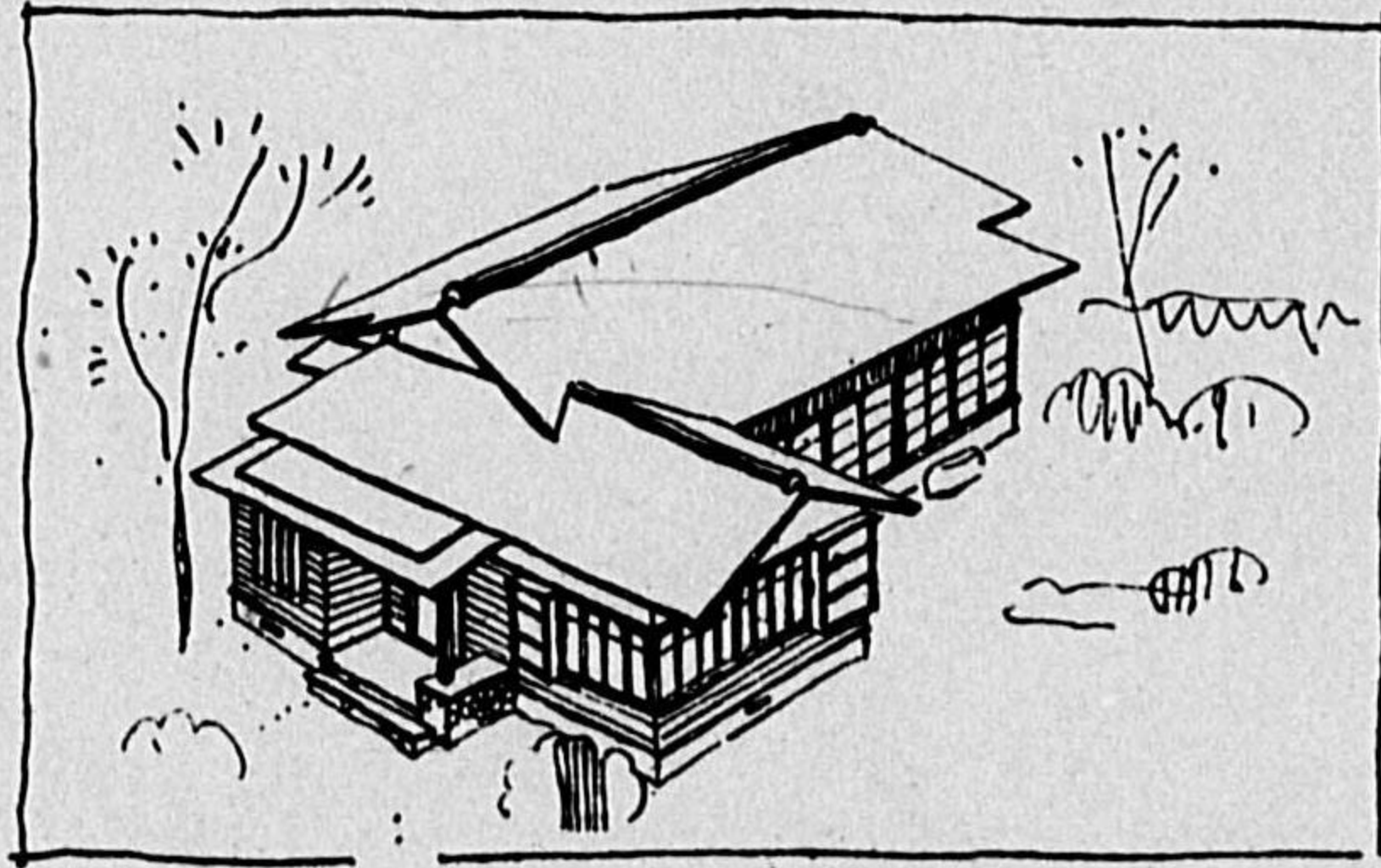
二階平面図



一階平面図

— スパニッシュ式の住宅 —

延坪 四十三坪三合三勺  
 外部はスパニッシュ風豊かに取扱いS型瓦葺と致します。内部は、玄関ホール、應接室、子供室を洋風とします。子供室は御子達の多い場合二段造付ベッドを設ければ四人迄使用出来る事が出来ます。又二階縁側にバルコニーを取り廊下を設けました。夏季の夕涼み、冬季の日光浴等に利用すれば良いと思ひます。

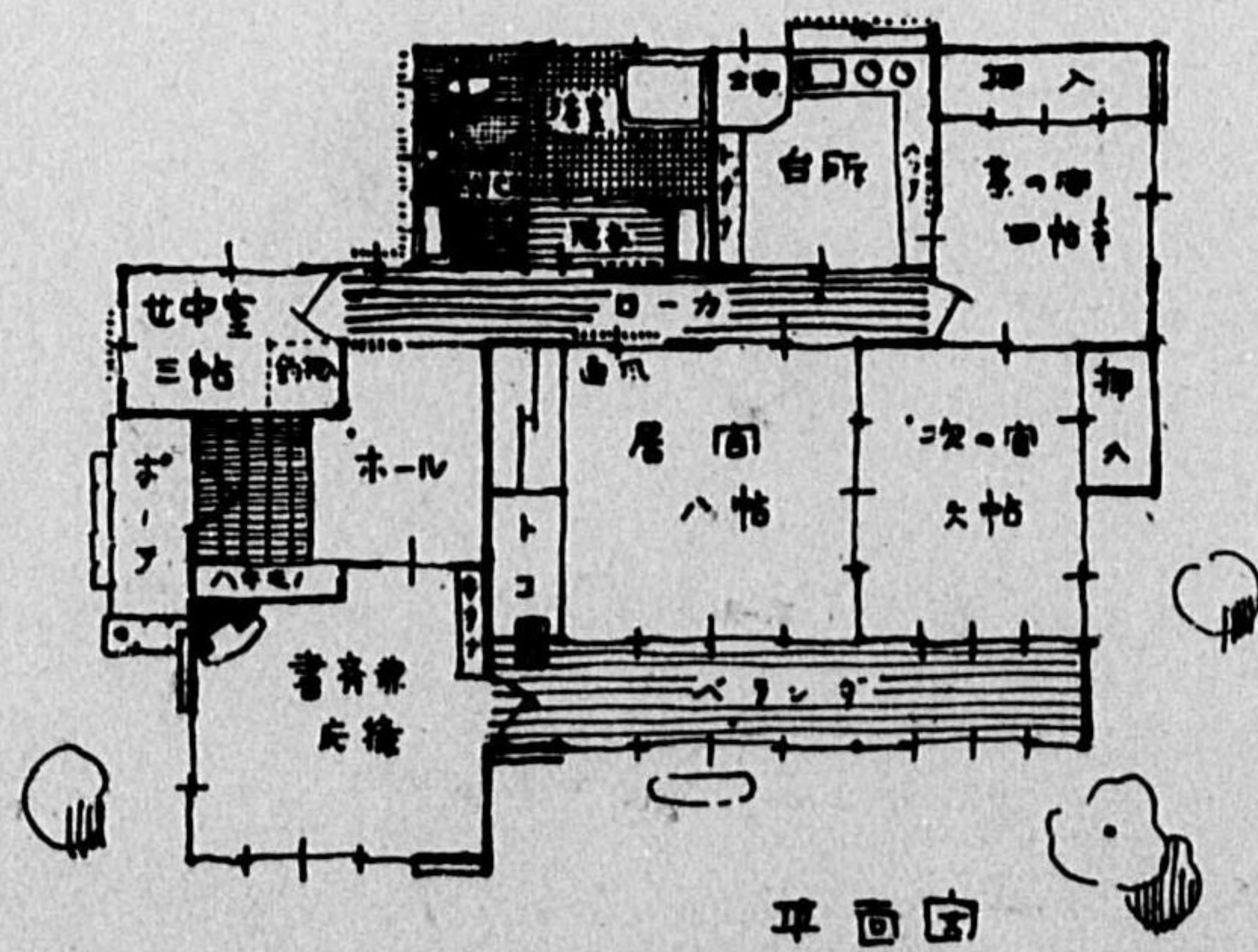


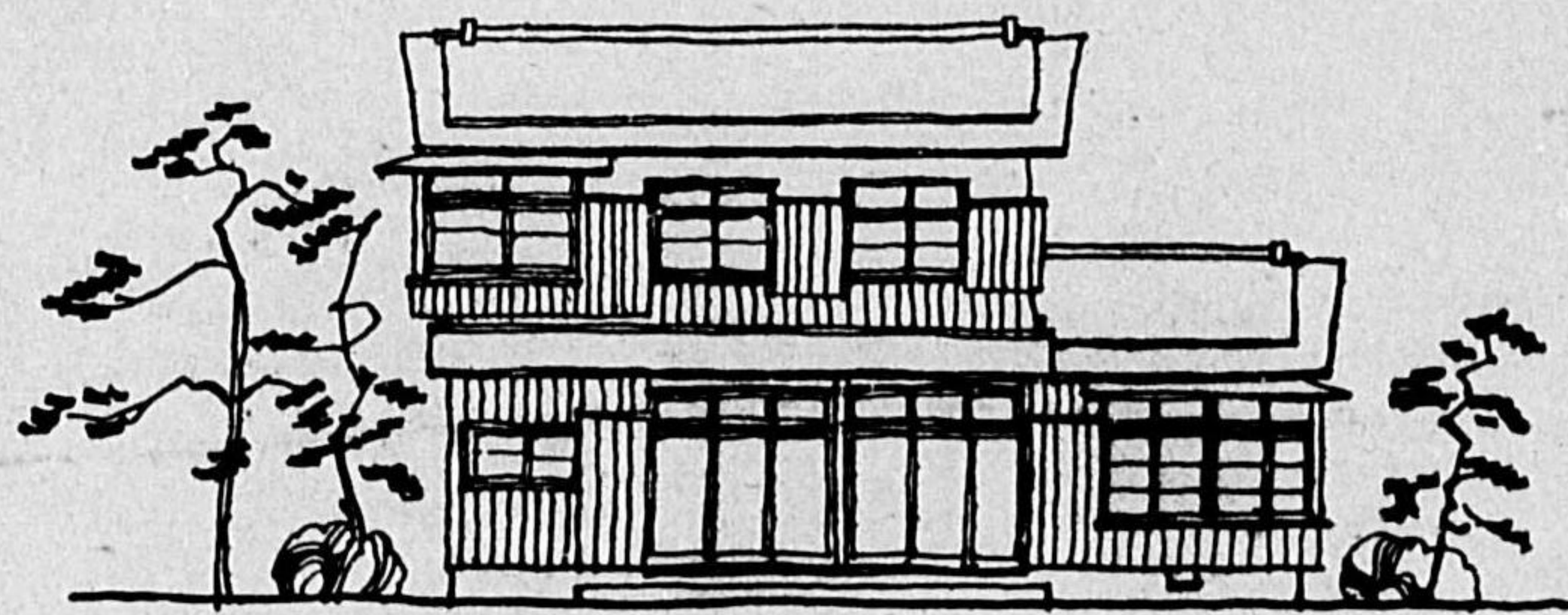
宇 井 の 左 夷 笹 半 味

—折衷小住宅—

建 坪 三〇坪五合

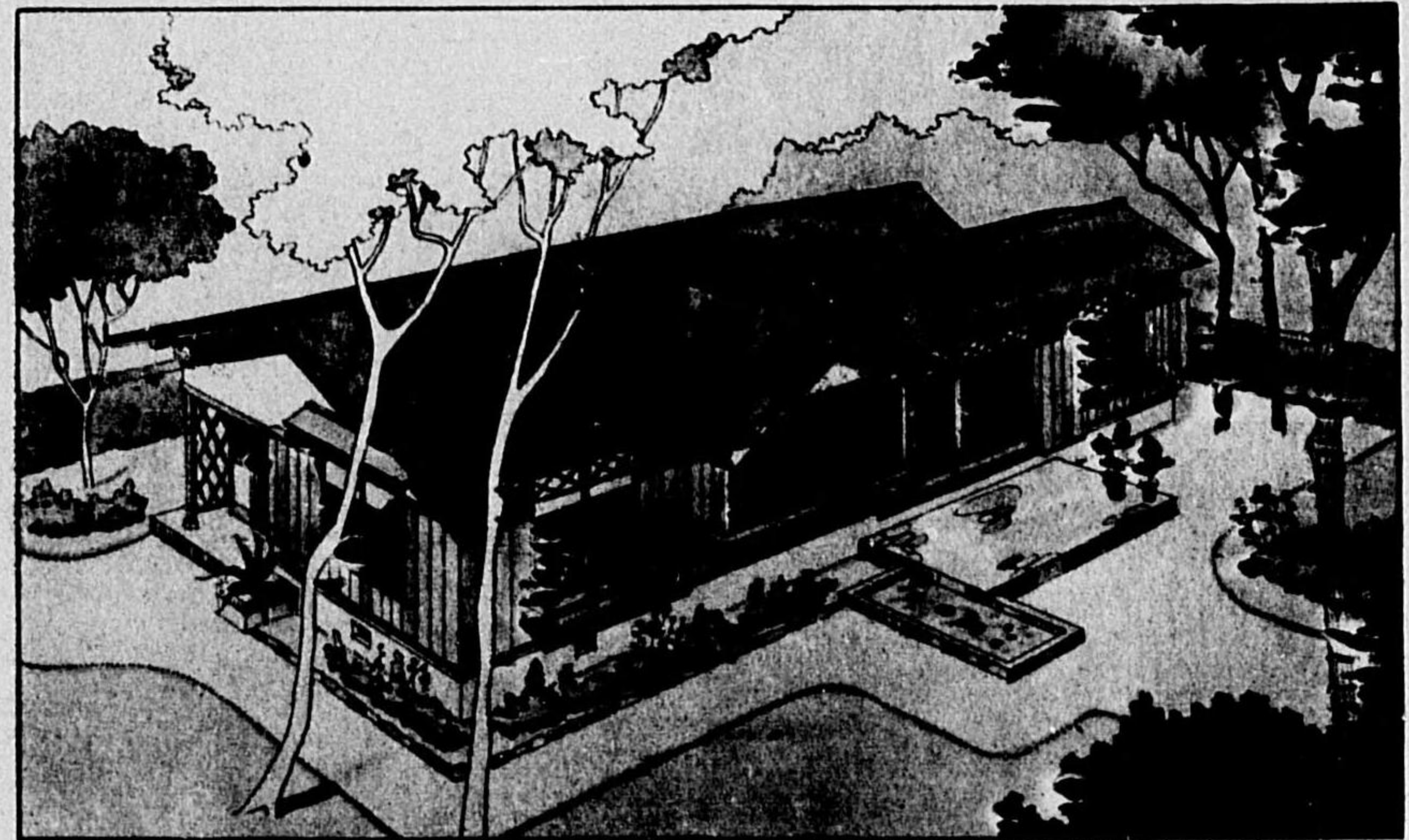
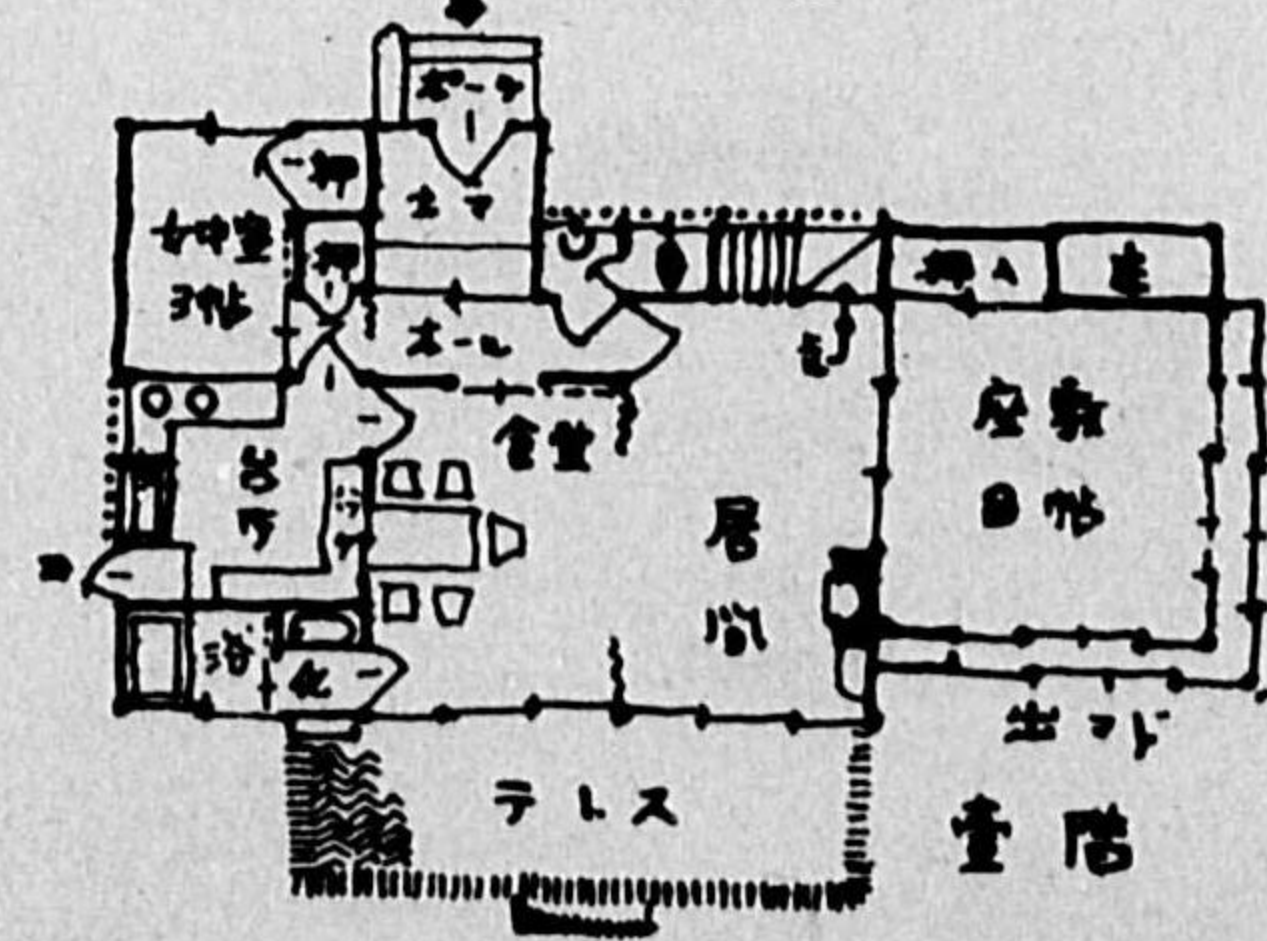
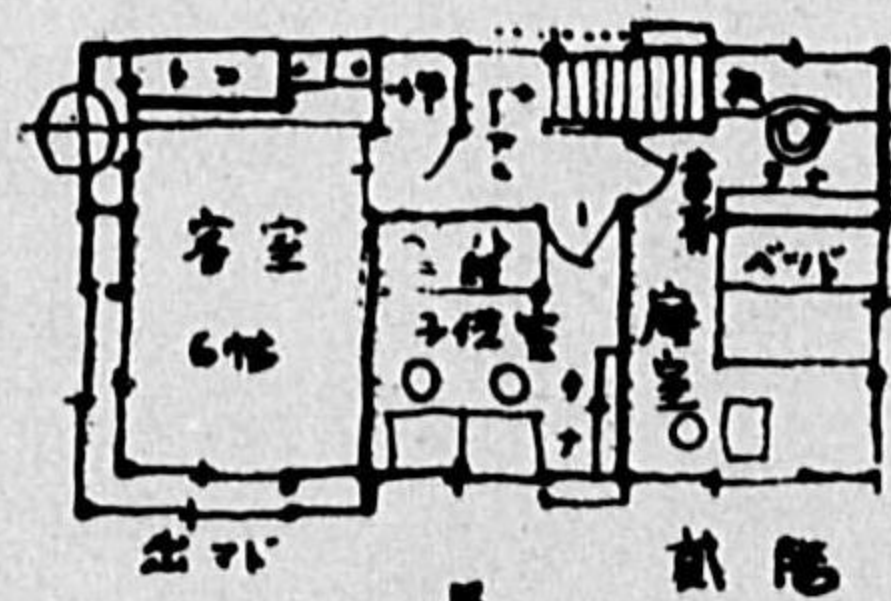
折衷式の郊外小住宅、玄関及ホ  
ール廻りと應接室を洋風とし外観  
もそれに應じて半は洋風としま  
す。二間続きの和室の南面には廣  
縁をとり椅子等置ける様しまし  
た。女中室には間中の釣押入を設  
けました。





外部下見板張り一部大壁仕  
上屋根日本瓦葺蟻羽軒先廻り  
晒葺とし和風味のある洋風に  
取扱ひます。間取は食堂居間  
八畳等單一融合的に取扱ひ廊  
下等は出来る丈最小限に考へ  
てあります。

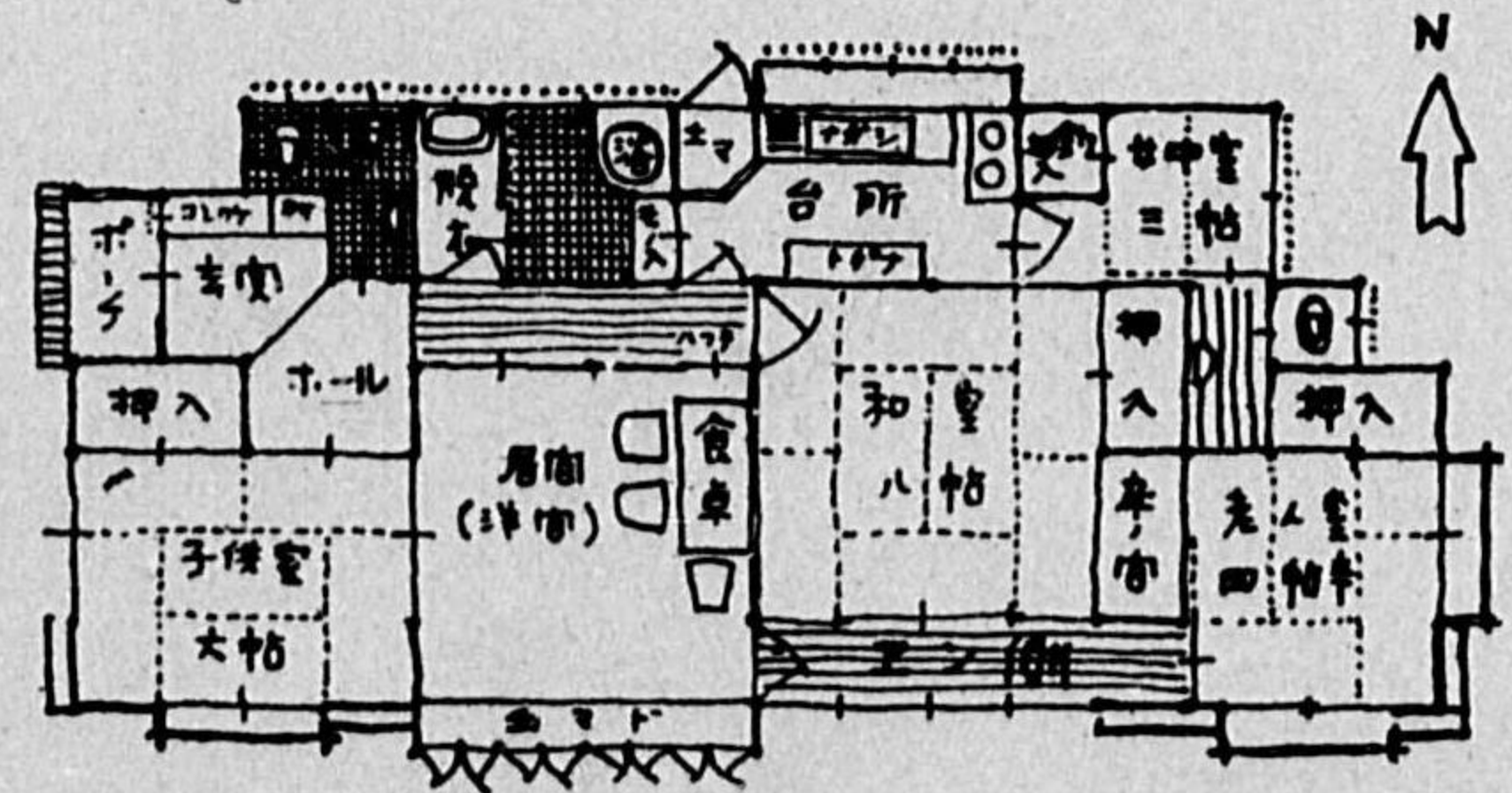
建坪	一階	十九坪七合五勺
	二階	十一坪二合五勺
延坪		三十一坪



折衷式の小住宅

建坪 二十五坪七合五勺

時節柄、切りつめた小住宅一つ。夫婦に子供二人、老人女中の六人位の家族向きのものでいろ／＼材料の制限もありますので金物の使用を成るべく少くする爲室内は和室を主に外部も晒葺等のない折衷式の様式とします。成るべく部屋数を多く廊下を少く、玄関ホール廻りも小さな面積を有効に使ふやう考へました。洋間と日本間の境は圓の如く一尺二寸位の段をつけ、老人、婦人等は日本間から其他は洋間からと云ふやうに同じ食卓を圍む事が出来る様にししました。

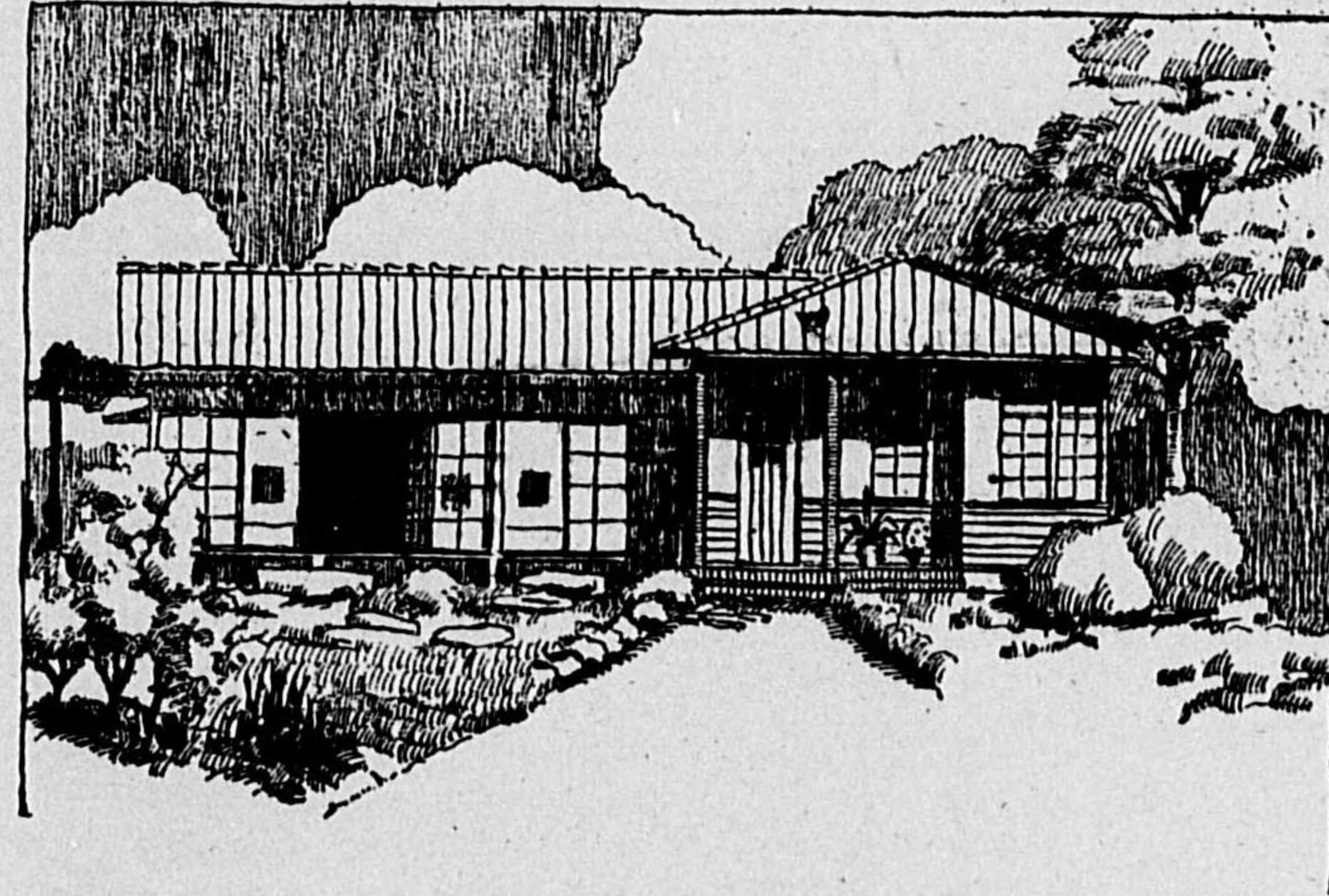
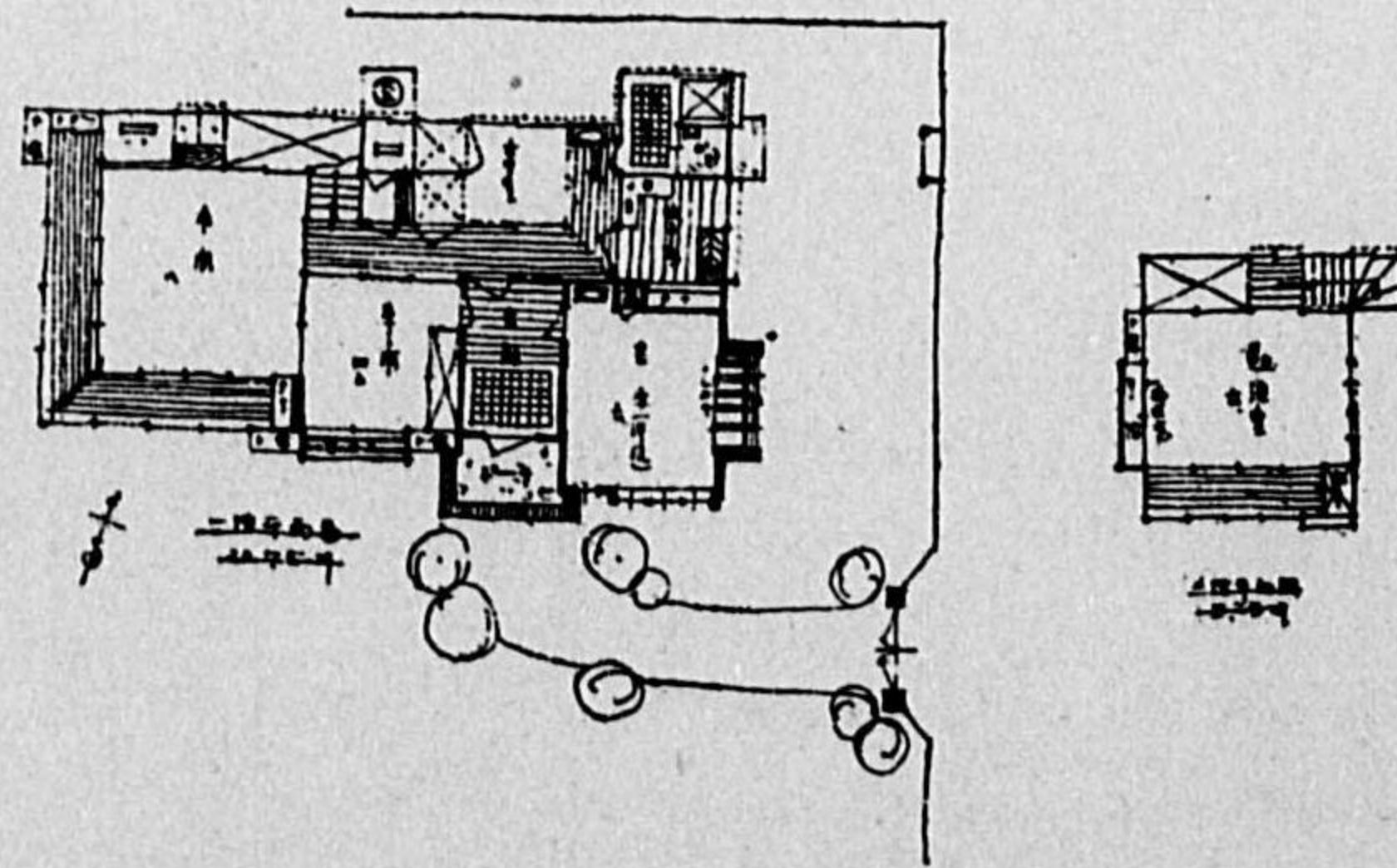




敷地 百十二坪  
 一階 二十坪七合五勺  
 二階 五坪三合五勺  
 合計 二十六坪

大體に於て支那書齋廻りを洋風にして其の他は和風であります。屋根は日本瓦を用ひ基礎はコンクリート打で、壁は洋風の分は色付モルタル塗、和風は米杉全板磨ぎ出しで丸太で押へたものであります。

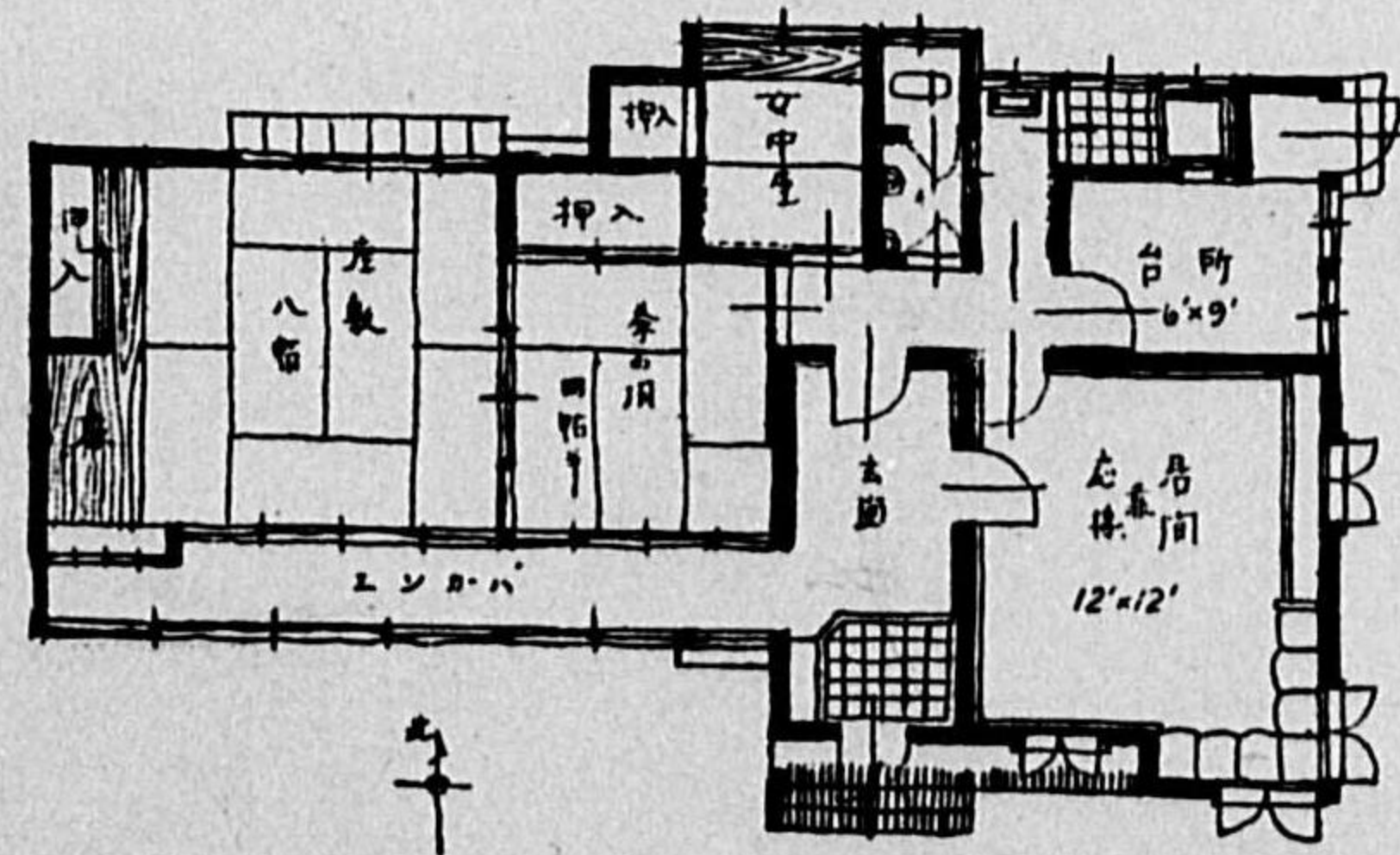
押入が比較的少ないので縁の隅とか押入の上部などに小物入れを取りました。便所は大正式で一般通風に備へる爲め窓下に掃出窓其他小窓を十分に取りました。

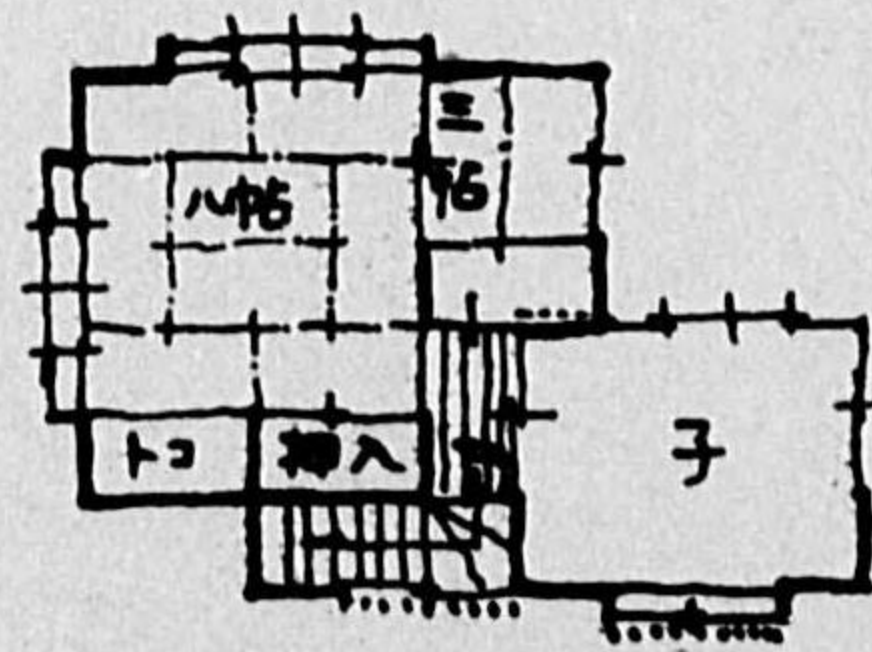
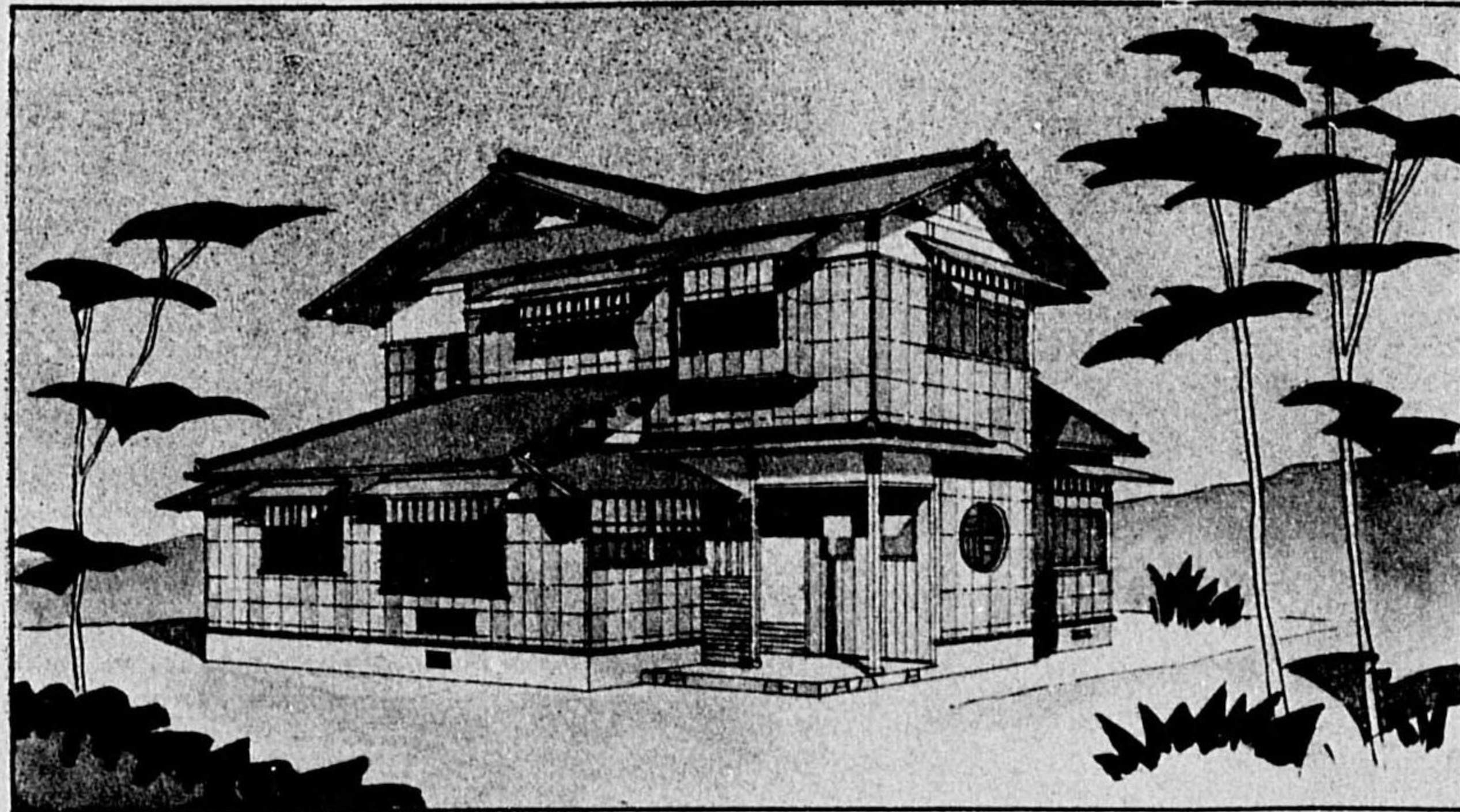


赤い家根の家

敷坪 二十二坪  
 家族 五人 (女中共)

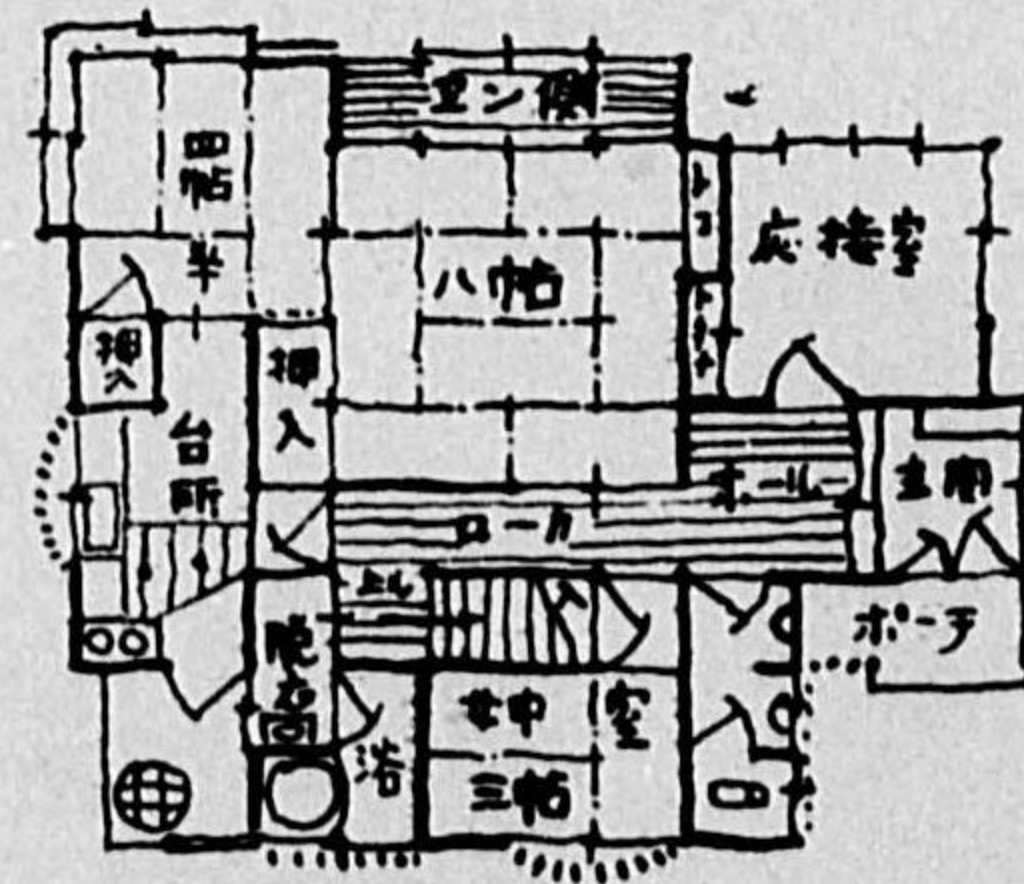
屋根は北國産の日本瓦形の赤瓦葺とし、外側は腰下見板張り「クレオソート」塗仕上、その上の壁は漆喰塗とします。内部洋間は大壁漆喰塗仕上とし日本間は在來と同じです。居間兼應接室は居間兼食堂にかへ、來客は時に應じ座敷なり又此處へも通すことにすれば茶の間は子供部屋としてもよろしいです。女中室は女中のない時には納戸として用ひます。





貳階平面圖

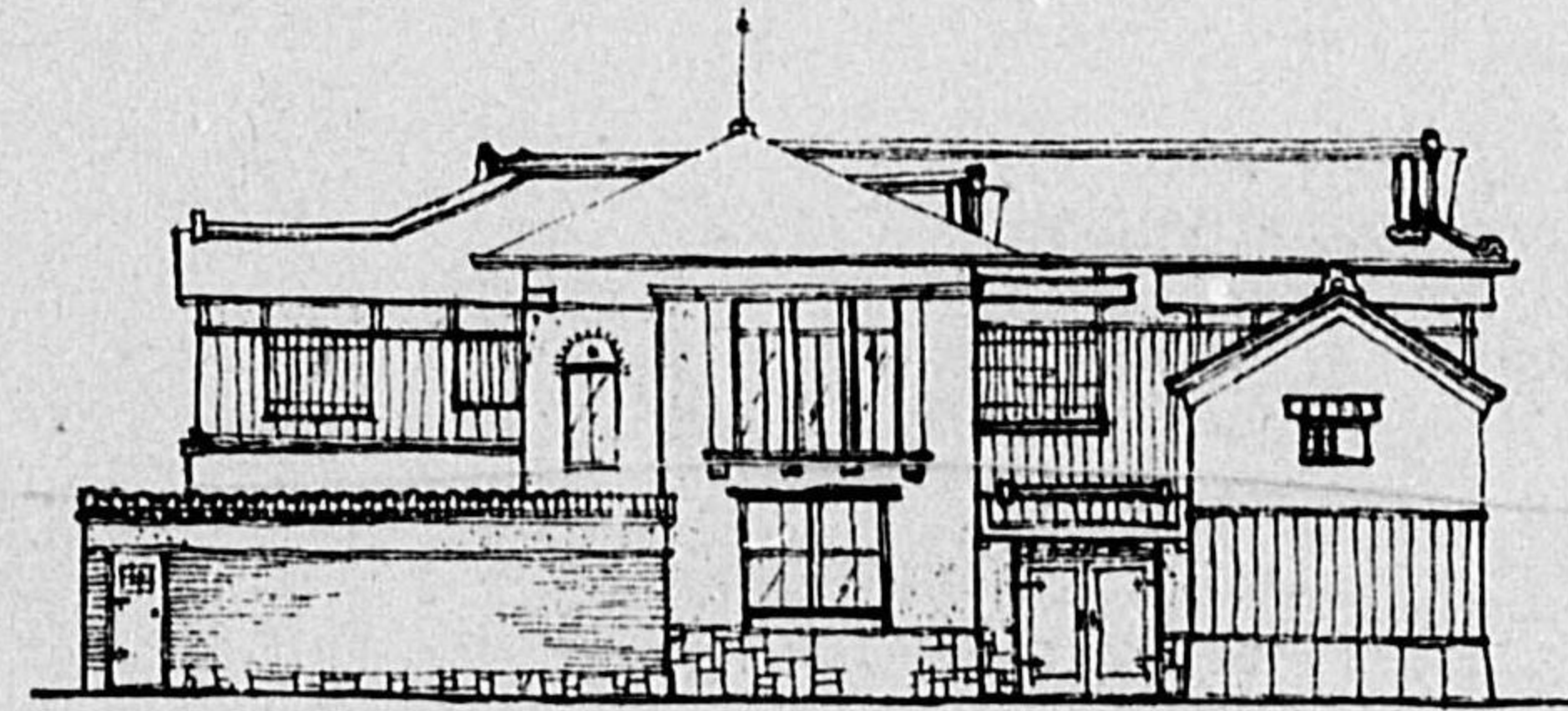
屋の連絡に便利な様に苦心してあります。



壹階平面圖

建坪 壹階 二十五坪三合  
貳階 十二坪七合  
延坪 三十八坪

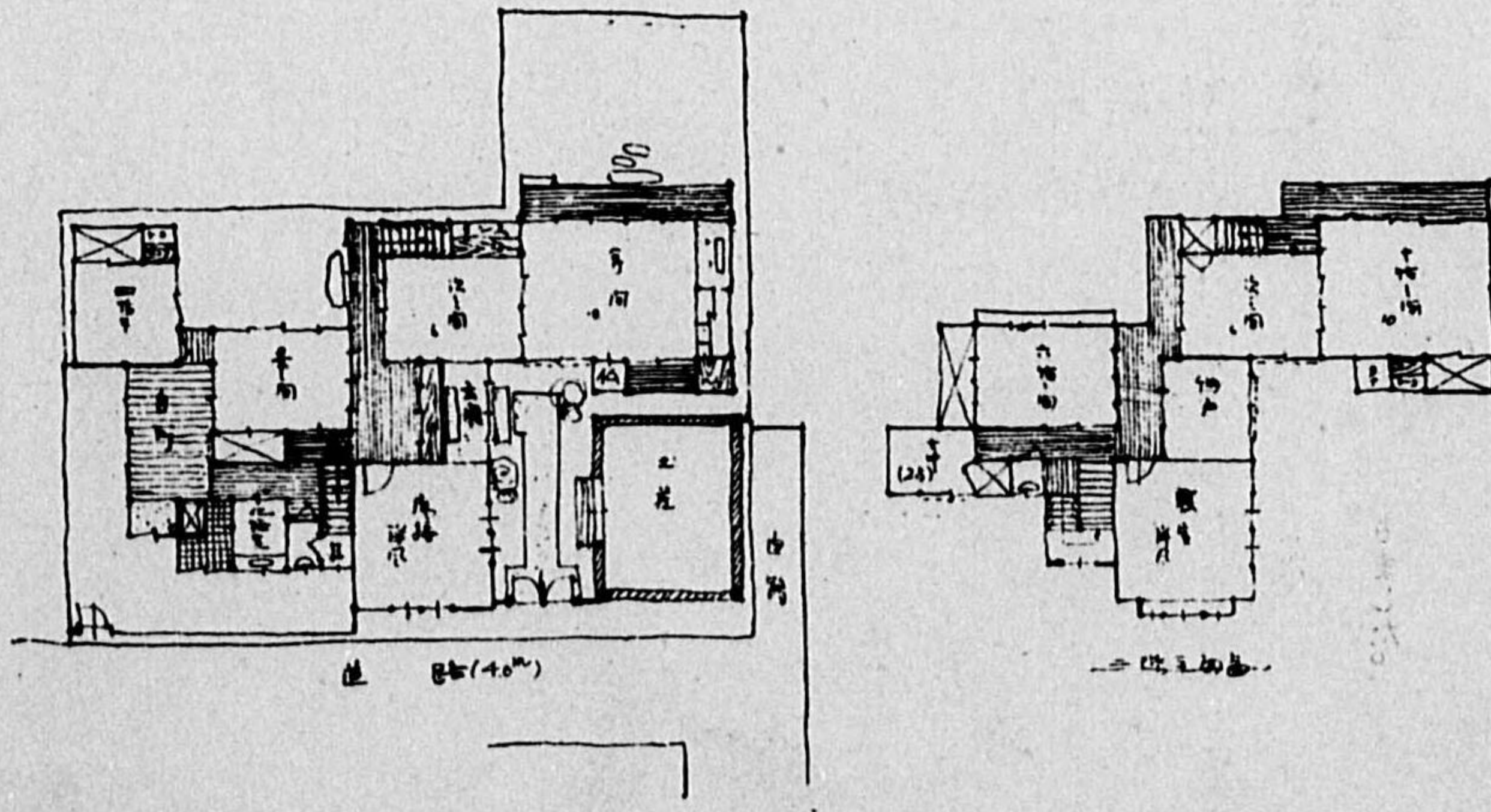
郊外に建つ家族五六人向の住宅です。外觀は主として日本風ですが、玄関ポーチ廻りをスマートな洋風にあつかひ、ホールにて日本座敷との見切をつけますが決して不調和なものではありません。應接室も洋風椅子式とし書齋に兼用致します。居間入帖に續いて茶の間四帖半を取り、又臺所勝手口外に屋根付の洗濯場を設けてあり、浴室の湯をコックにて利用すれば大變便利かと思ひます。階上は客間入帖に次の間三帖を取り、子供室は洋風椅子式とします。大體に於て建坪の割に部屋數多く、随つて廊下を少なく、しかも各部



丁氏邸

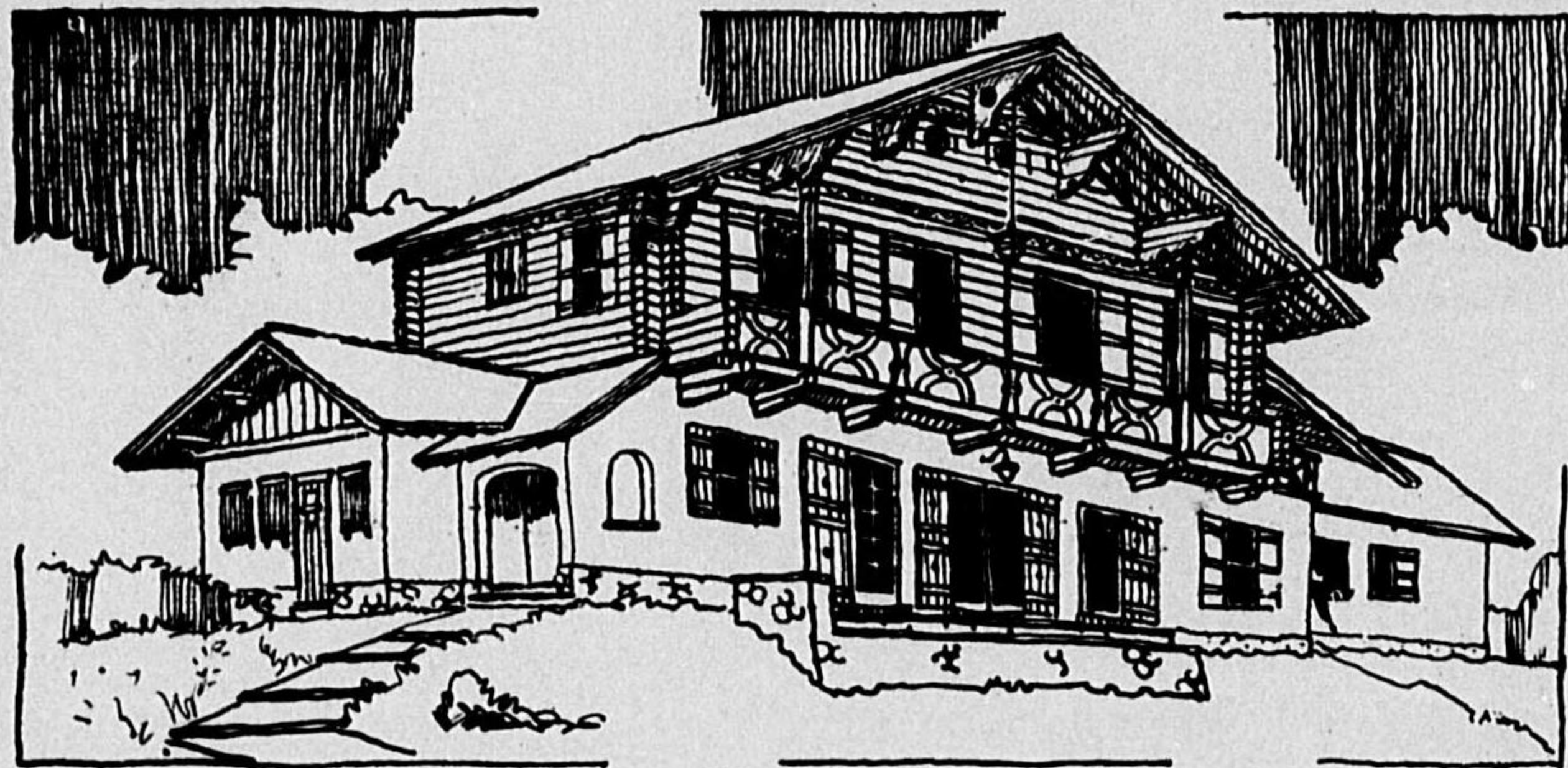
一、敷地約八十坪  
二、建坪 一階 三十三坪五合  
二階 二十七坪七合五勺  
土蔵 建坪 五坪 (二階建)

市街地に建つ住宅で前は巾四米の道路に面して居ります。土蔵及洋風室を外部に現はして其の他は塀で圍ふものであります。大體に於て押入を各室に配し、特に二階に納戸及女中室を持つてゆきました。前面道路が巾四米である爲め、取締規則により土蔵及洋風室の一部が十分の高さに取れぬ事になりますので其部分を後退せしめねばならぬ事となります。外觀は洋風室及前面の塀を洋風モルタル塗としてそれに屋根のある門を取付けました。





ス イ ス 式 の 住 宅



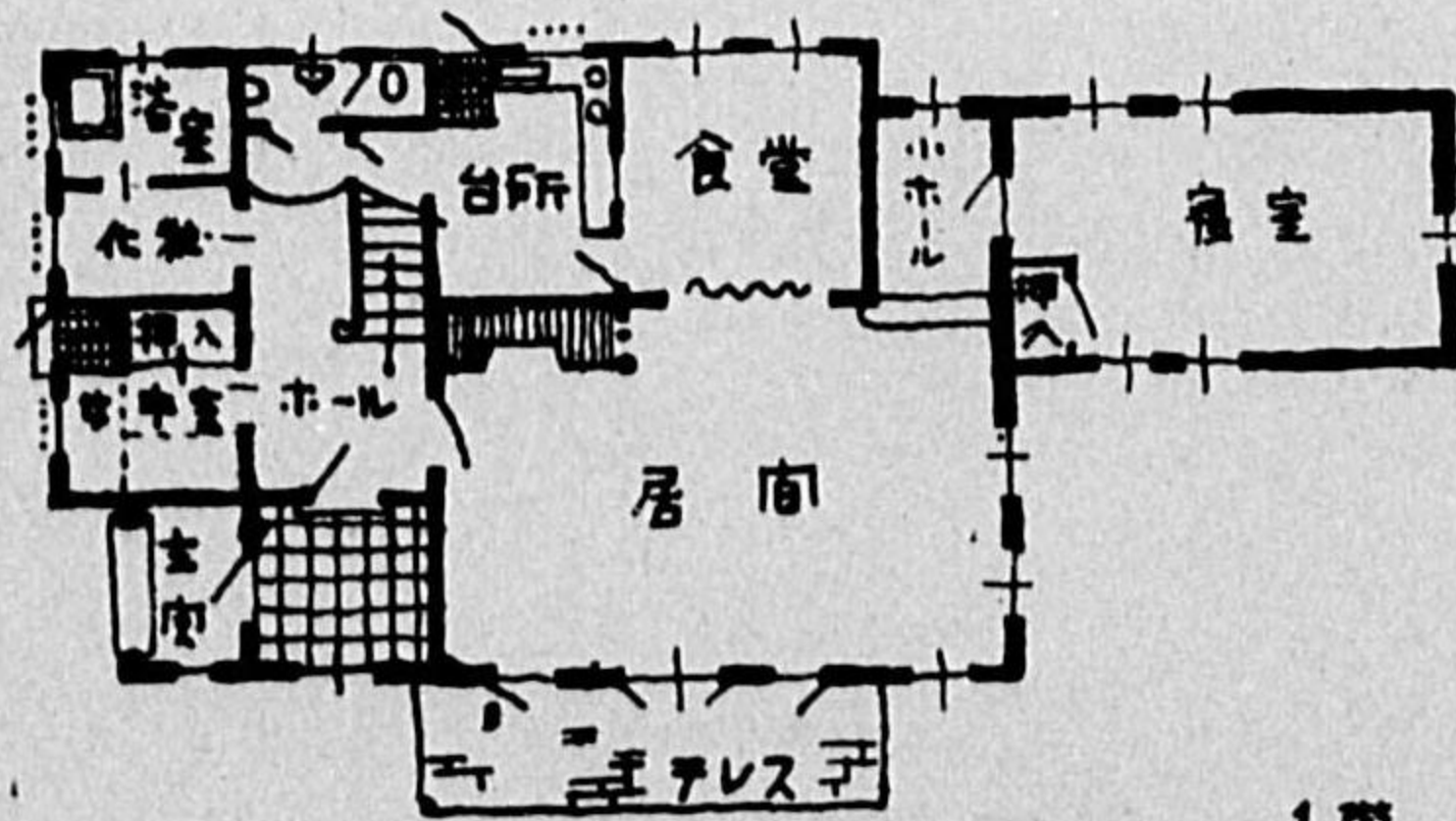
宇 井 の 左 ス ト ス

— スイス風の家 —

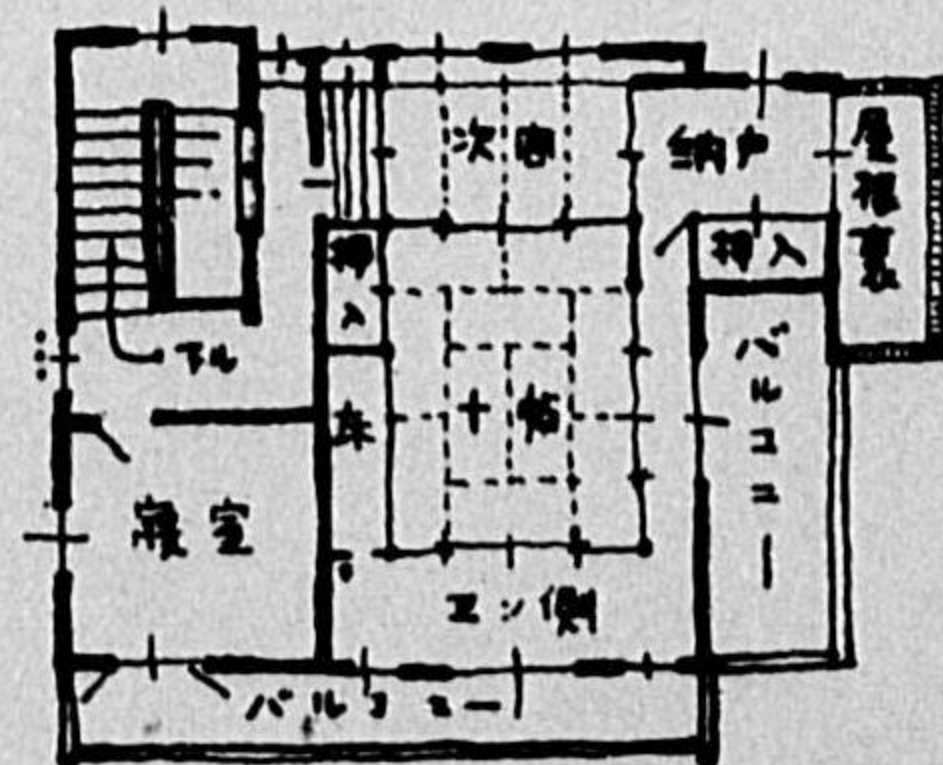
建坪 一階 四十坪  
 二階 二十四坪  
 延 六十四坪

背後には山を背負ひ、前面は目近かに海を望む傾斜地に建つ家。正面に大きな切妻屋根と持ち出しになつたバルコニー、丸太張りの二階部分と云つた様にスタイルも地勢に相應しいスイスの山間建築に依りました。

間取りは主として洋室本位に、和室としては十帖と次の間を階上に取りました。南側のテレスと二階のバルコニーからは静かな入江とそれに續く海原の眺望をほしいままにすることが出来ます。



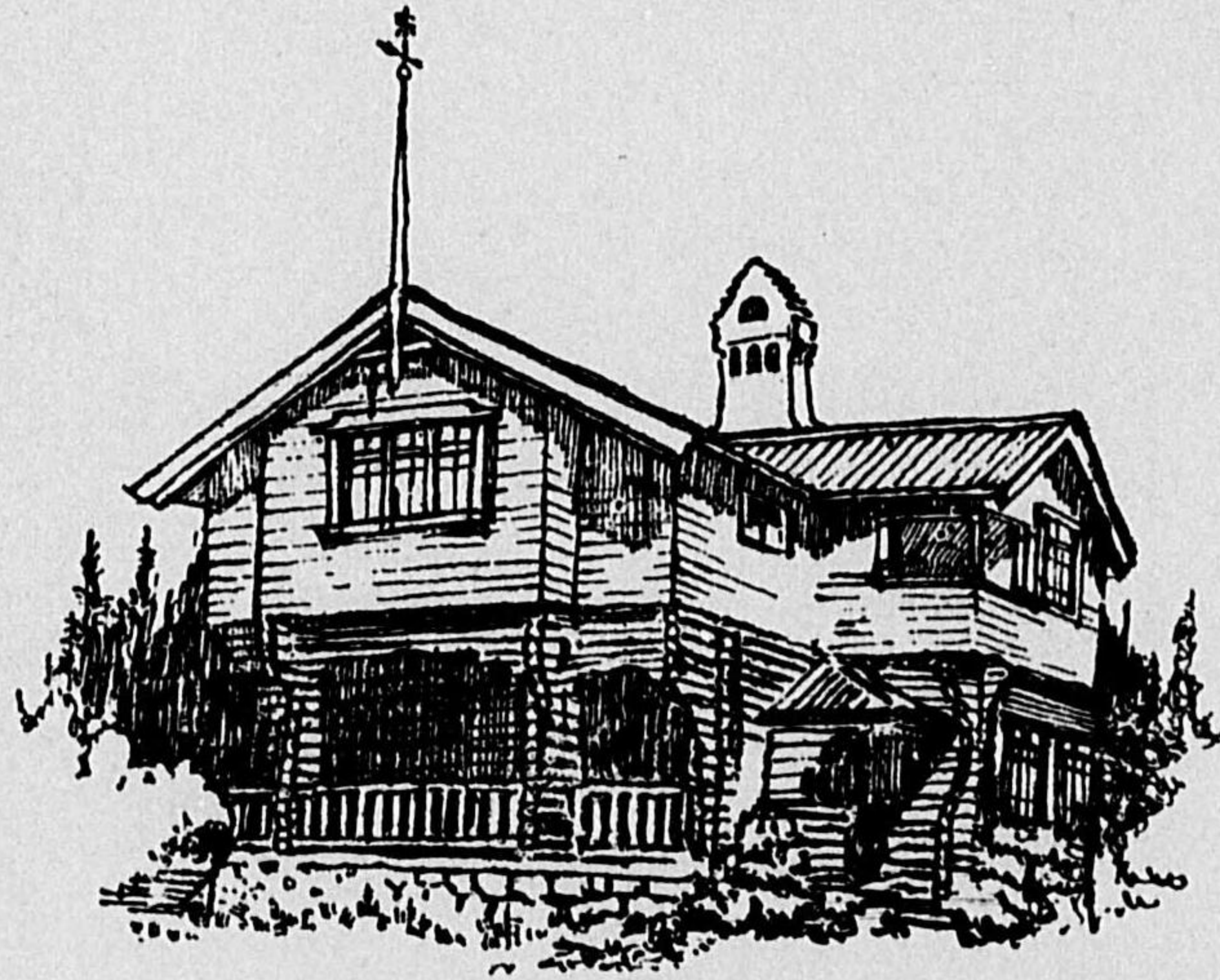
1階



2階

丸太造りの住宅

丸太の家



丸太の家

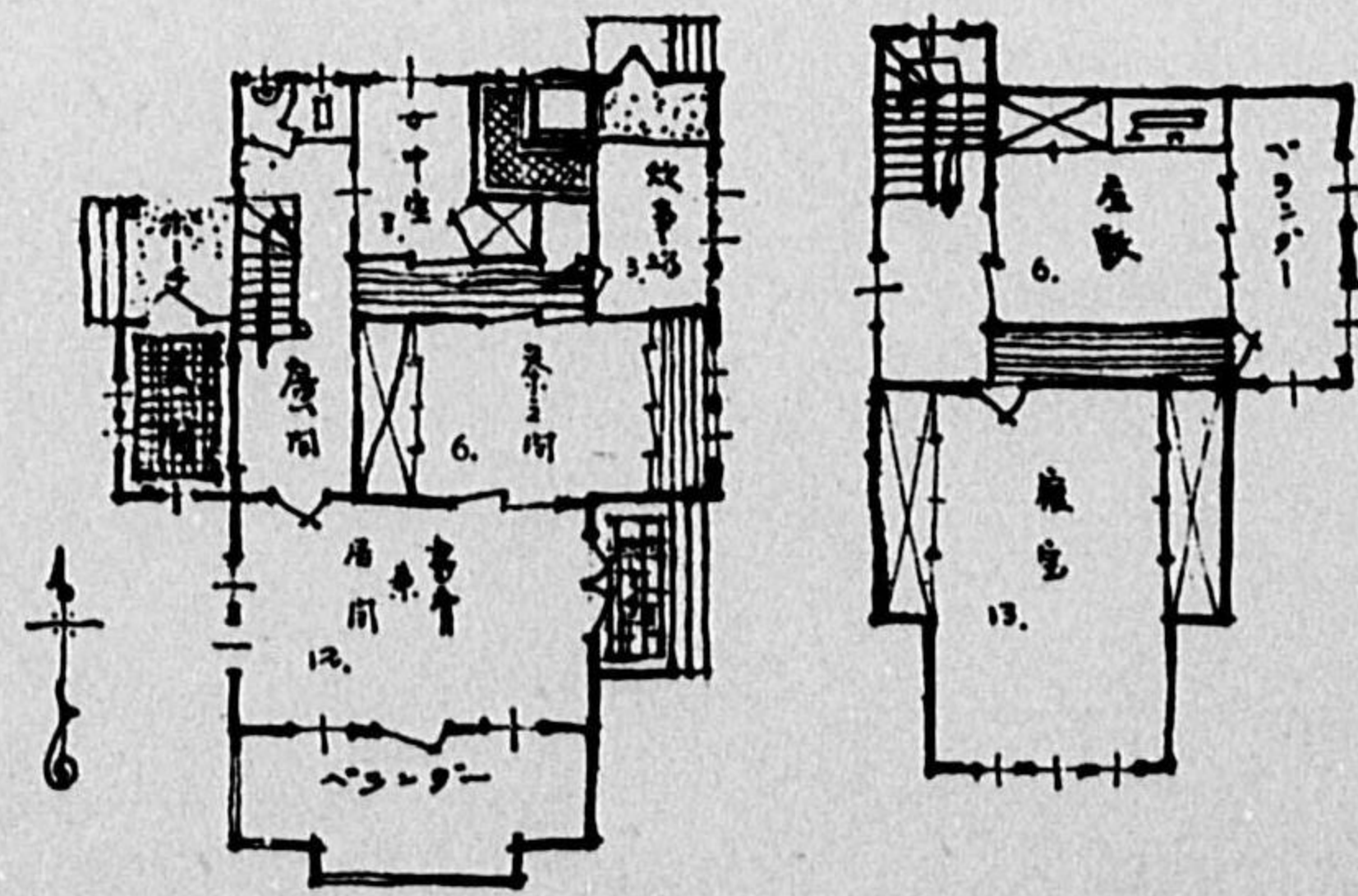
一、敷地 二百坪以上  
 一、建坪 三十坪七合五勺  
 二階 十九坪

側壁を丸太造に見ゆる様に構造したもの、階上迄丸太にすれば更に面白と思ひます。しかし其れは工費が餘程嵩む事になるので階上は下見板張防雨劑塗の程度といたします。

敷地は成可廣く周圍をゆつたりとして庭木などは餘り多くない方が感じが良い様です。

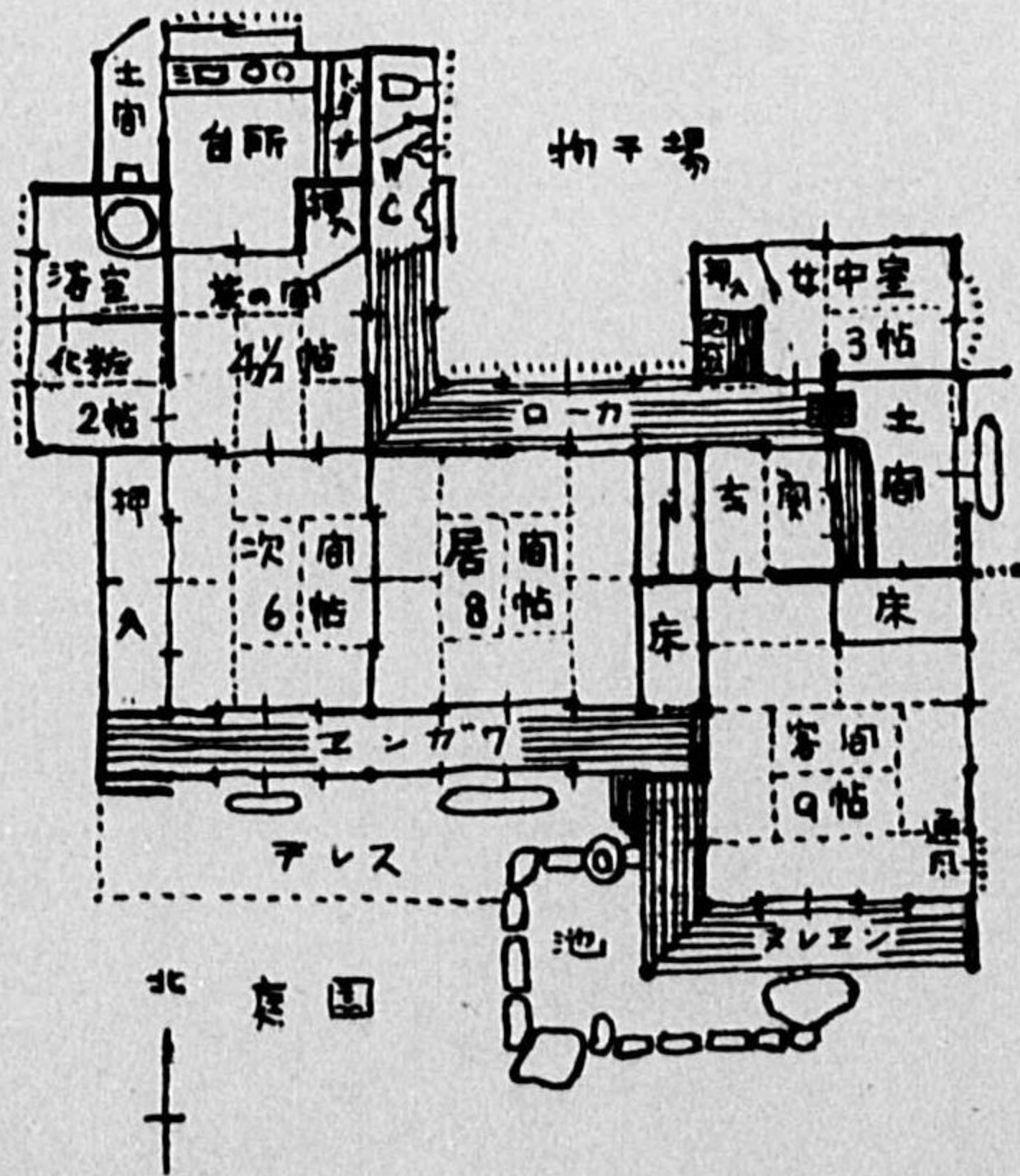
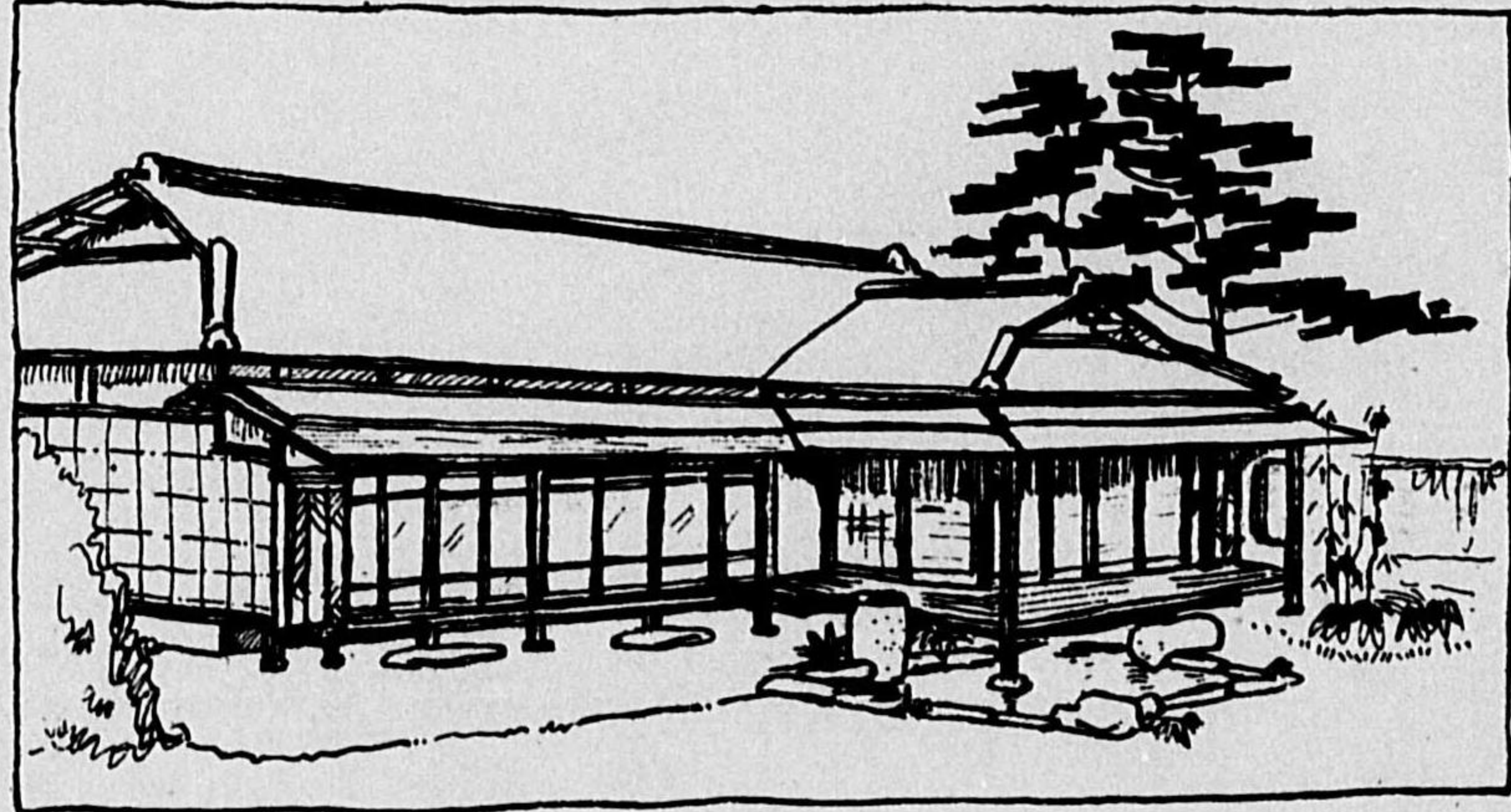
書齋兼居間はもとと廣くせば家の中心の部屋となり、ベランダも十分に利用せらるゝ事となります。

二階寢室には十分の押入がありますが、其れを減じて寢室を二個にしても宜い様です。



純日本式の住宅

宇井の左本日録



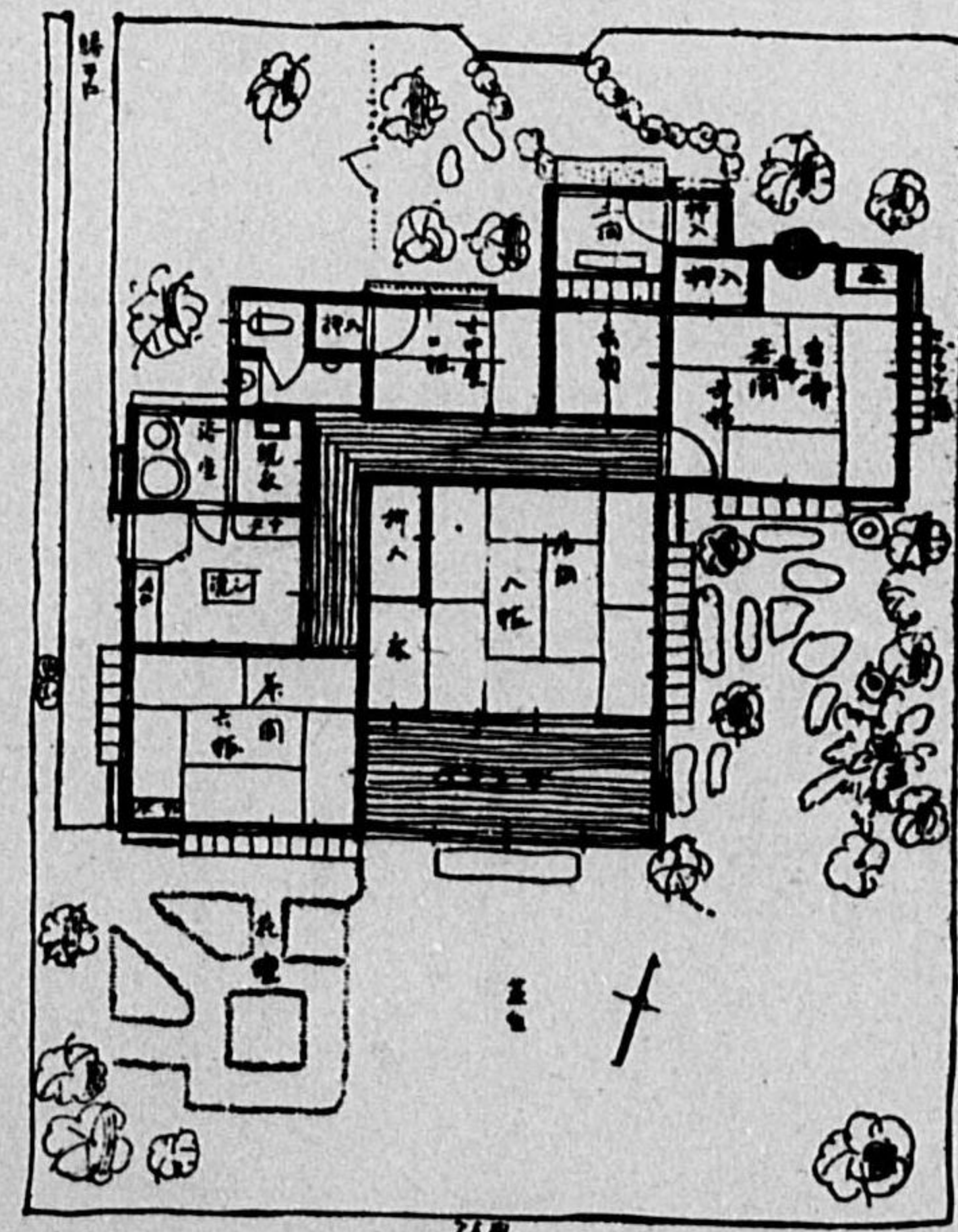
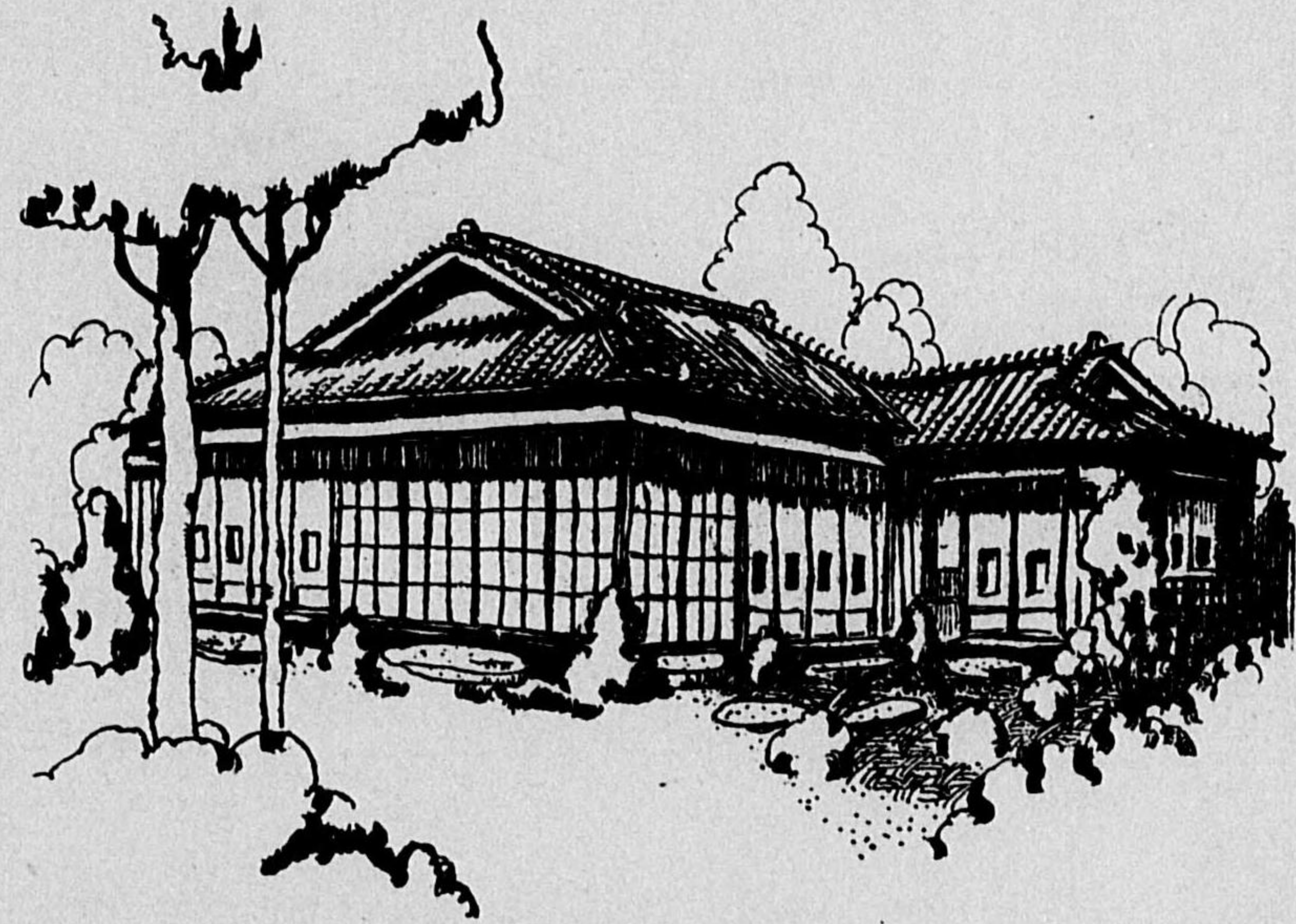
建坪 三十二坪五合

全體を瀟洒に云はゞ數寄屋風に扱つて見ました。南北に長い敷地に三十坪許りの平家建。支關の眞々脇に客間—應接室として九帖の間、二方に濡縁を巡らし茶室風な簡素な部屋としたと思ひます。續いて南面して縁側をもつ六帖、八帖の居間、北側は廊下となつて居り下部に掃出窓を設け夏季の通風をよくします。

その北に茶の間、臺所、浴室と云つた部屋をとりました。中流向の住宅として手頃な大きさだと思ひます。

純日本風の家

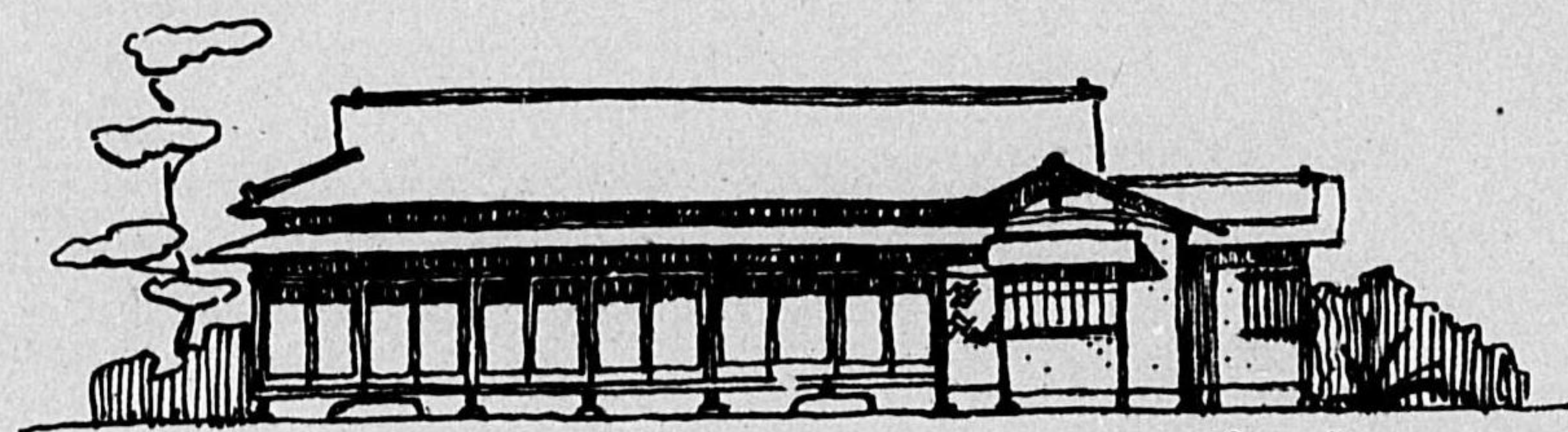
數寄屋風の住宅



建坪 二十九坪  
家族 五・六人

— 居間とベランダを中心にした家 —  
在來の日本室ではあまり來客本位になつて、居間や茶の間が北や西に追ひつめられた感じがしますが、プランで見ると通り日常家族の生活する部屋は何れも南又は東を受ける様にしまして、ベランダは巾六尺五寸で居間にも茶の間にも通じて雨降の子供の遊び場になつたり籐椅子を置けば夏向の應接室になつたり冬は日向ぼつこも出来ます。そして書齋兼客間は氣分の落つく様に家族の部屋と分離して居ります。

豊寄屋風の卦宇

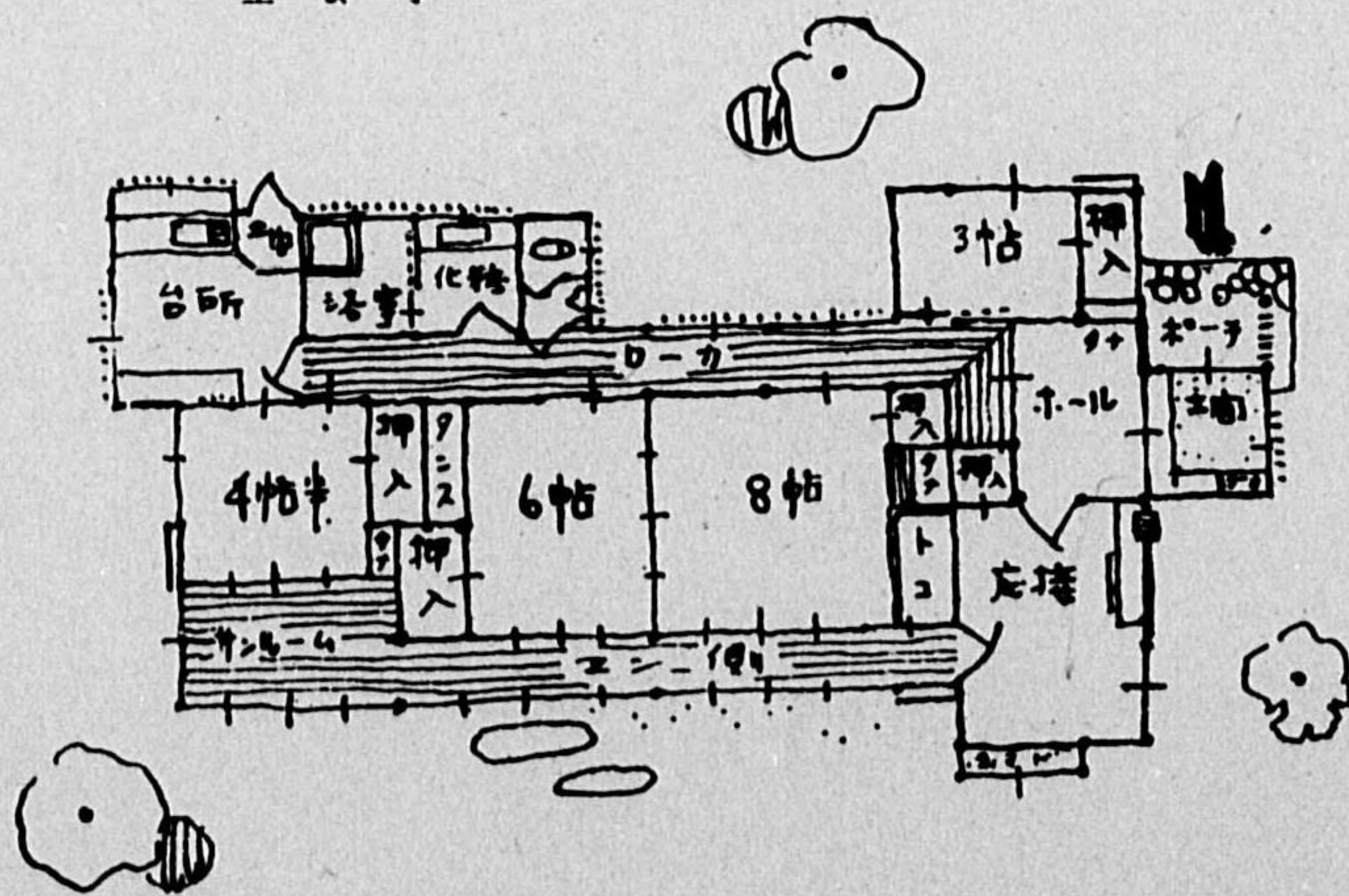


南側面

— 豊寄屋風小住宅 —

建坪 三十二坪

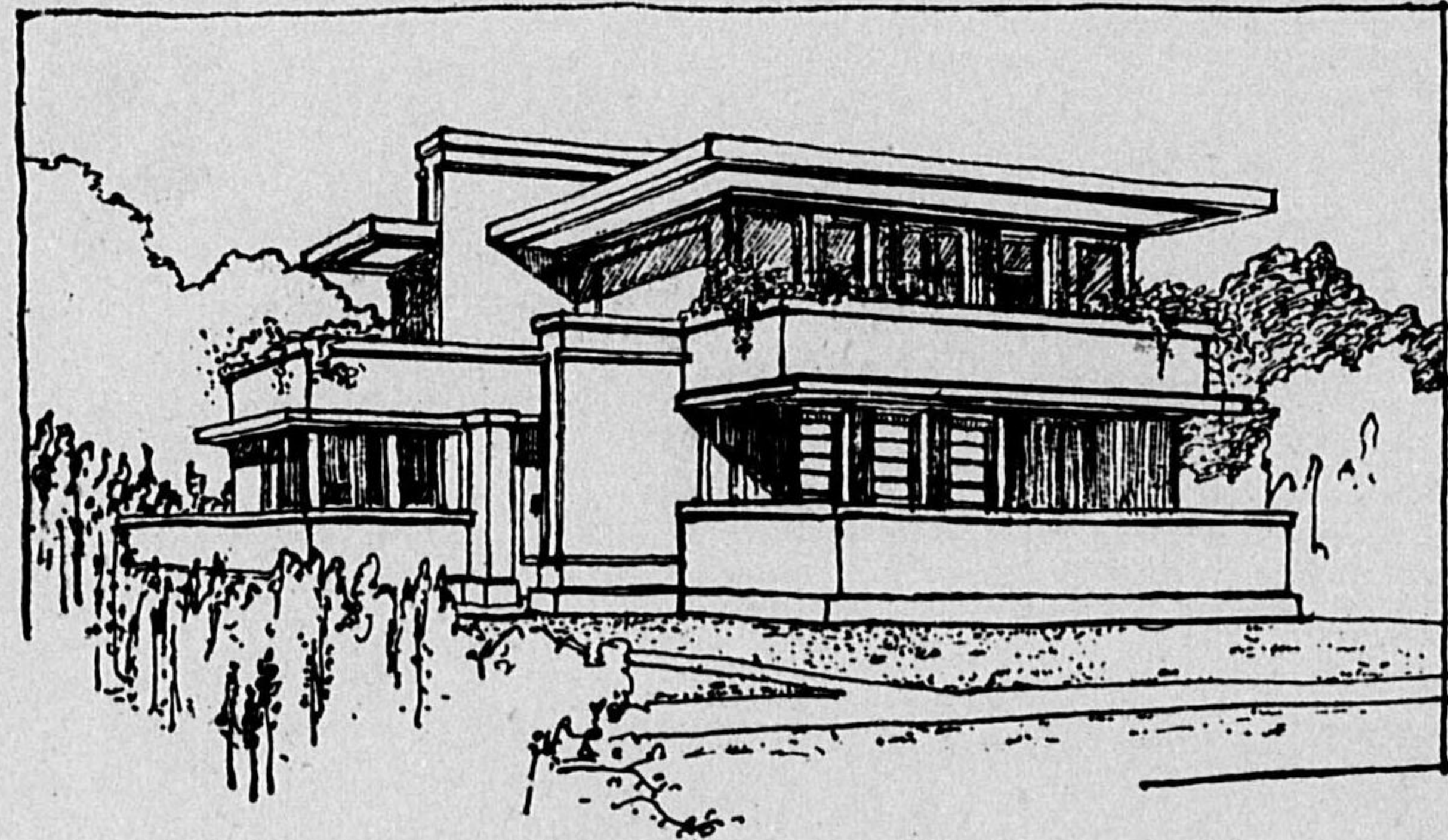
六帖の應接室（洋風）を持った和風小住宅夏の小別荘等に相應しく風通しのよい涼しい間取としました。外觀は豊寄屋風の瀟洒なものとなりました。





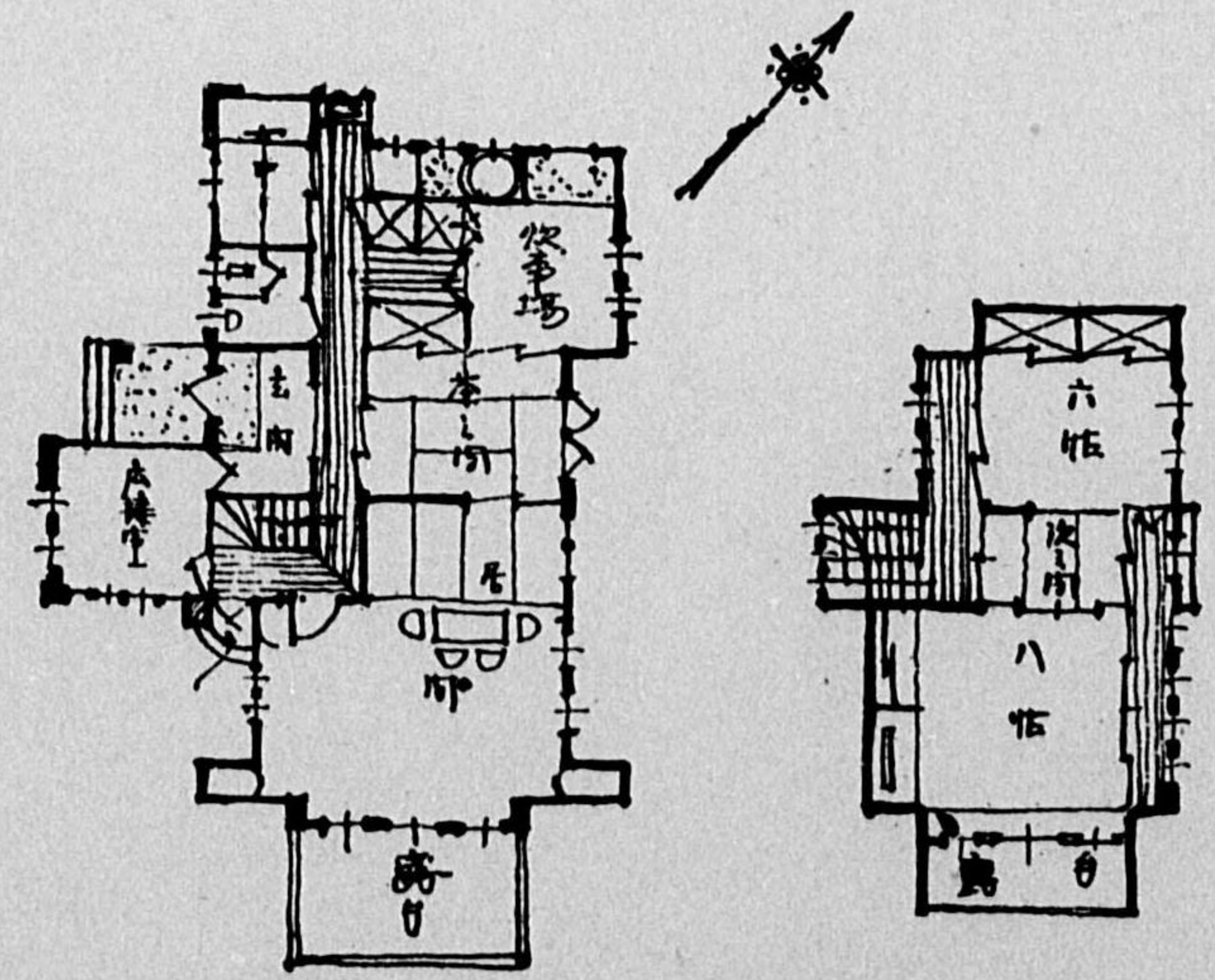
ラ イ ト 式 の 住 宅

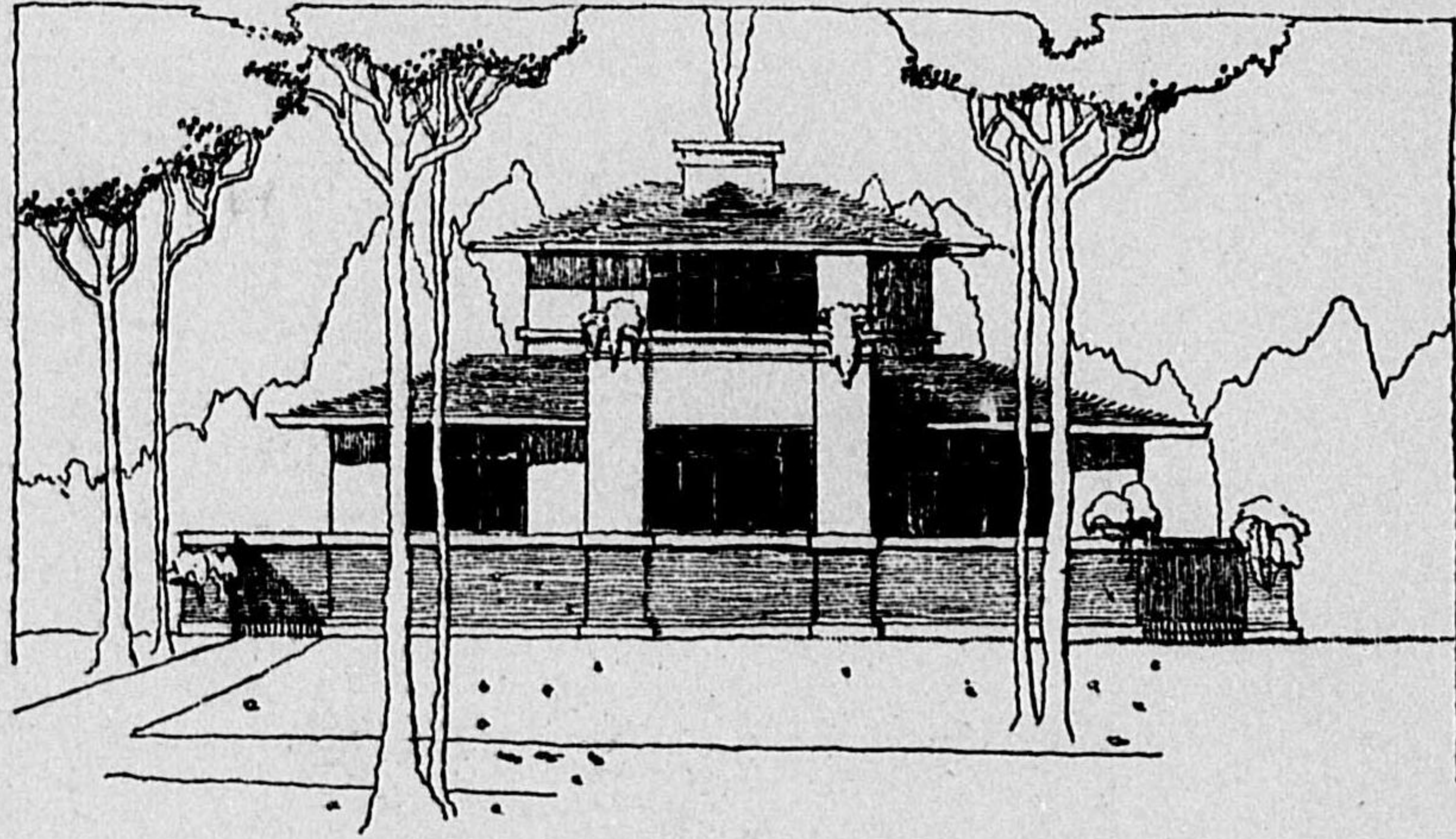
宇井の左ノト



外部洋風色付「モルタル」塗としまして、屋根は「フラット」即ち陸屋根造とします。その一部は納涼などに利用しても宜しいと思ひます。軒は十分に出した方が感じが良い様です。客用としては應接間を玄關脇に取りまして家族の部屋と全く離し居間は洋風にして其の一部に疊敷の部分設けるのも便利な場合があると思ひます。二階は寝室として利用します。

地敷 百五十坪内外  
 建坪 一階 二十七坪五合  
 二階 十三坪七合五勺  
 外に露臺四坪  
 合計 四十五坪二合五勺

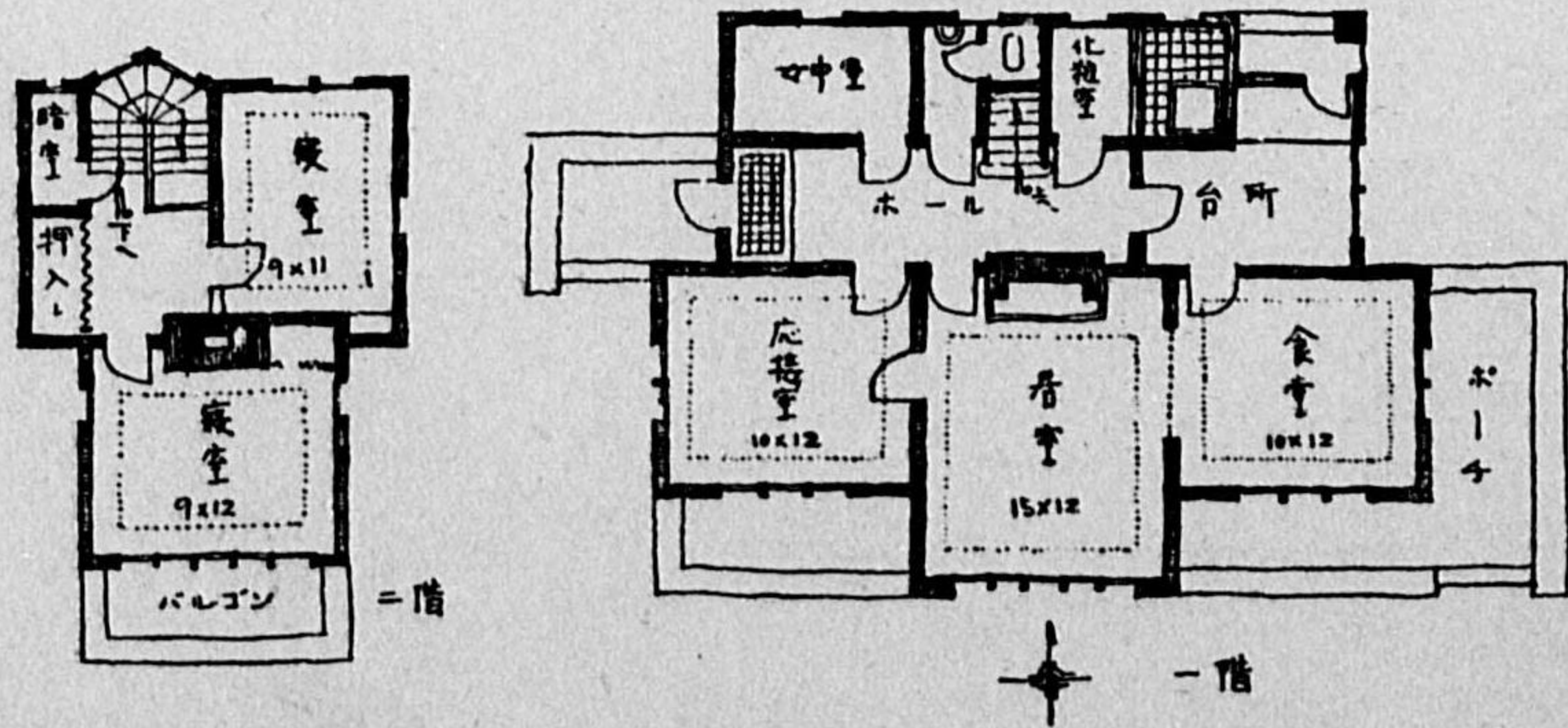




住宅の外観をシンメトリーにするのは、あまり整然とし過ぎて一般にかた苦しい感じを與へるもので、住宅にはどちらかと云へば不向きの様であります。或場合には建物の立派さ、上品さを増すこともあるのであります。

今度はその気もちでやりました一階二階共どの室もその室の目的を達するに充分の廣さがあり二階寢室は二つしかありませんが、暗室と押入をやめてもう一間造ることも出来ます。

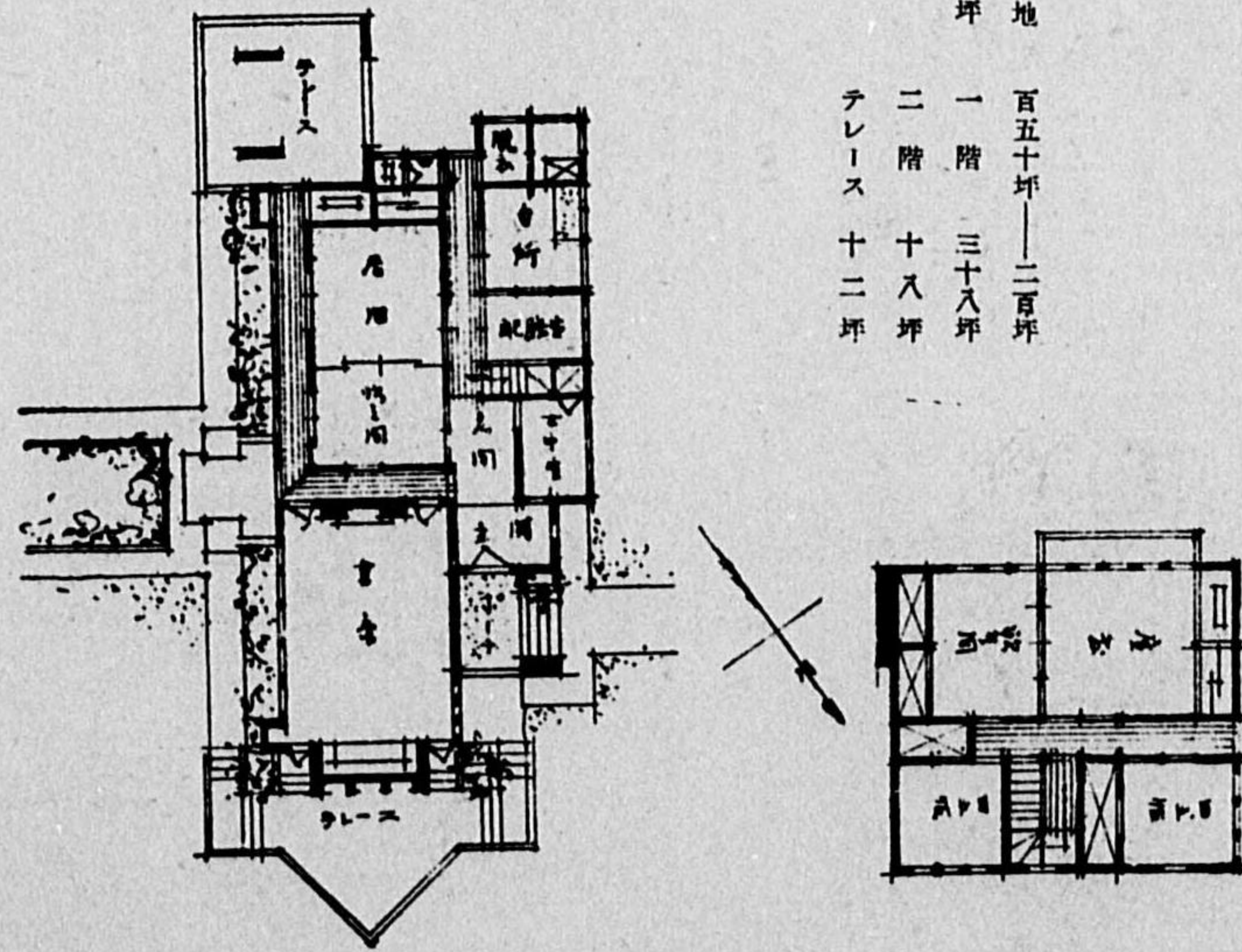
外部仕上 煉瓦積  
 壁 モルタル塗  
 屋根 天然スレート葺  
 内部仕上 各室共木形張出し漆喰塗  
 坪数 一階 二十一坪七五  
 二階 九坪五  
 家族 四五人



東南の最も日當り良き方位に居間其の他の主なる室を配置しまして日光を十分に受け入れます。小兒等はテレスで遊ぶ事のでせう。

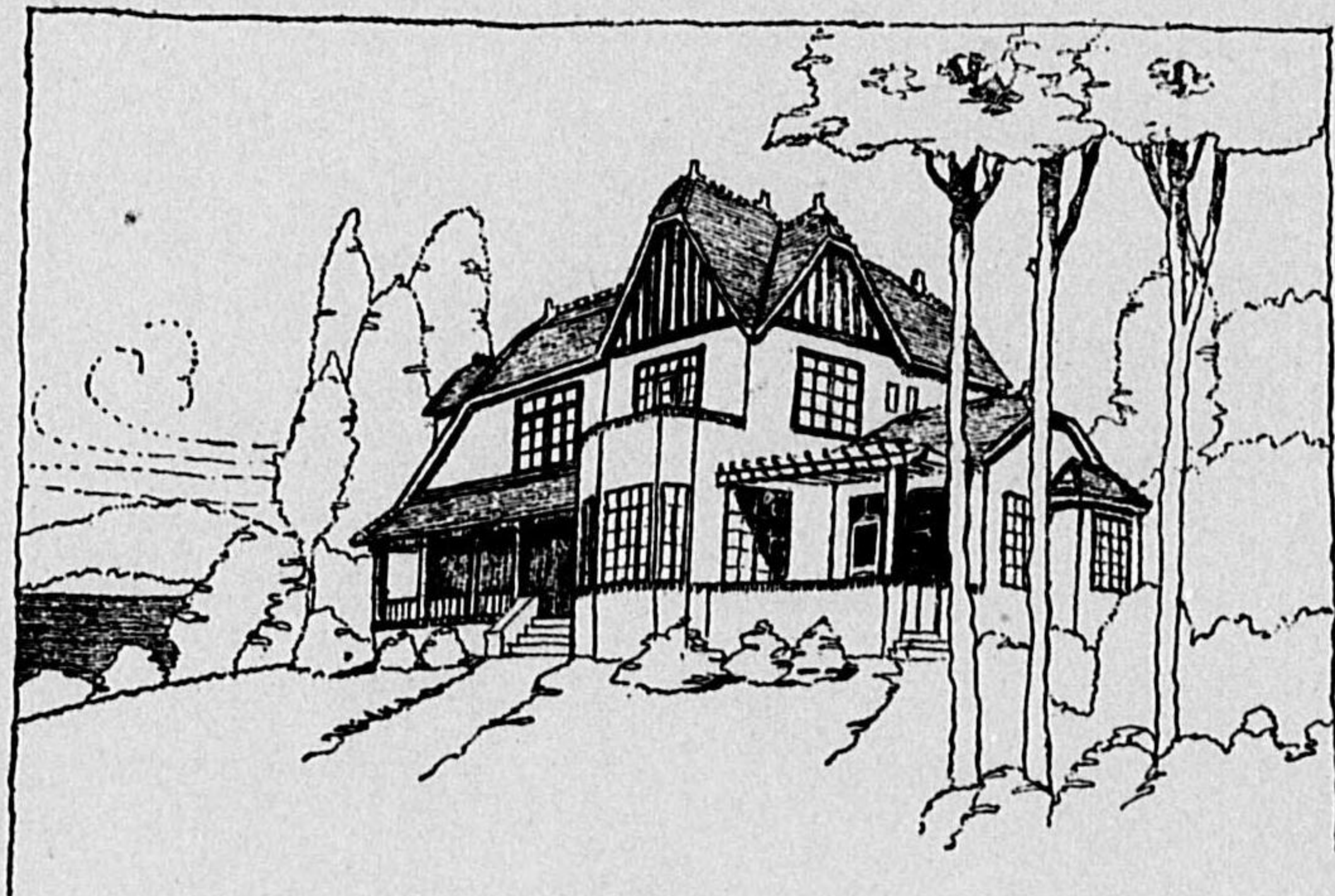
書齋は客間兼用とし、寢室には二階の座敷を使用するのが便利と思ひます。

敷地 百五十坪—二百坪  
 一階 三十八坪  
 二階 十八坪  
 テレス 十二坪

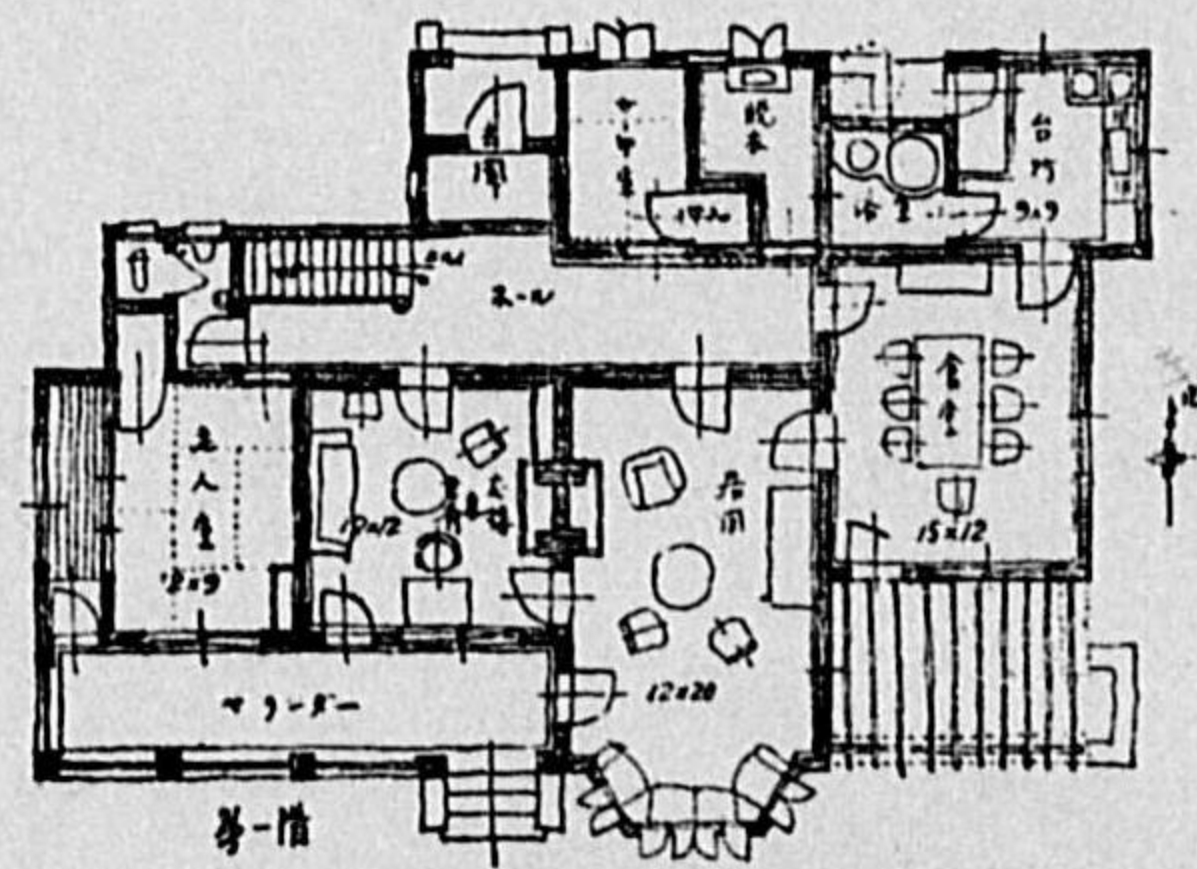


ハーフチンバー式の住宅

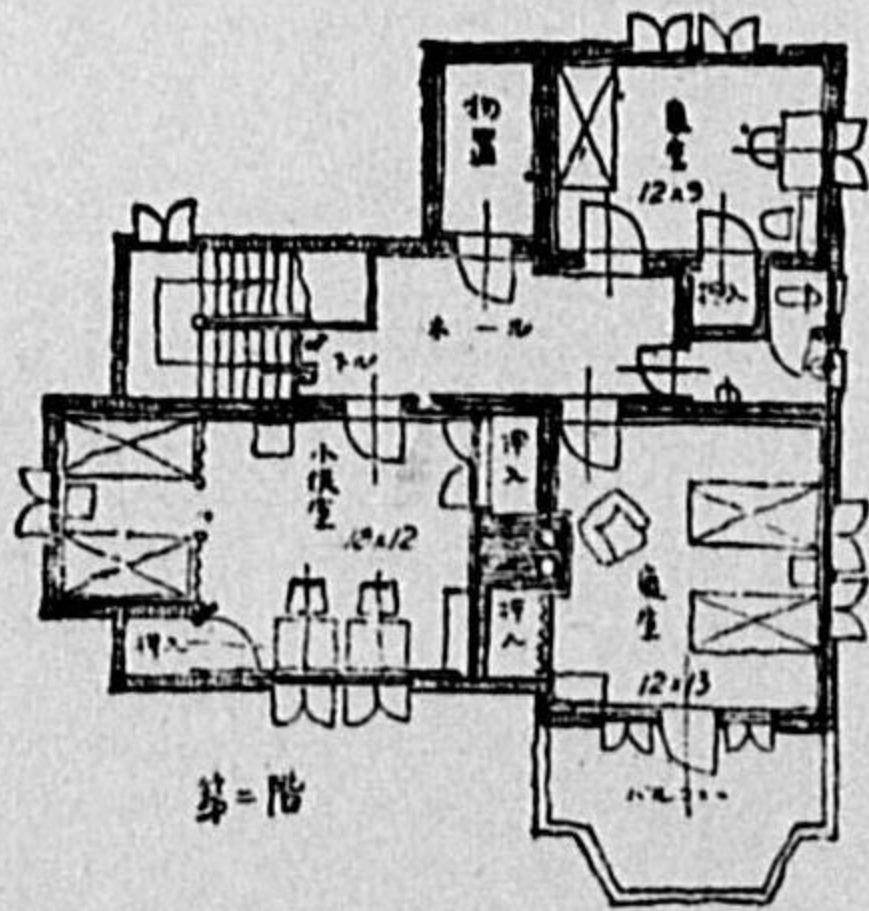




—— 中流紳士の家 ——



第一階



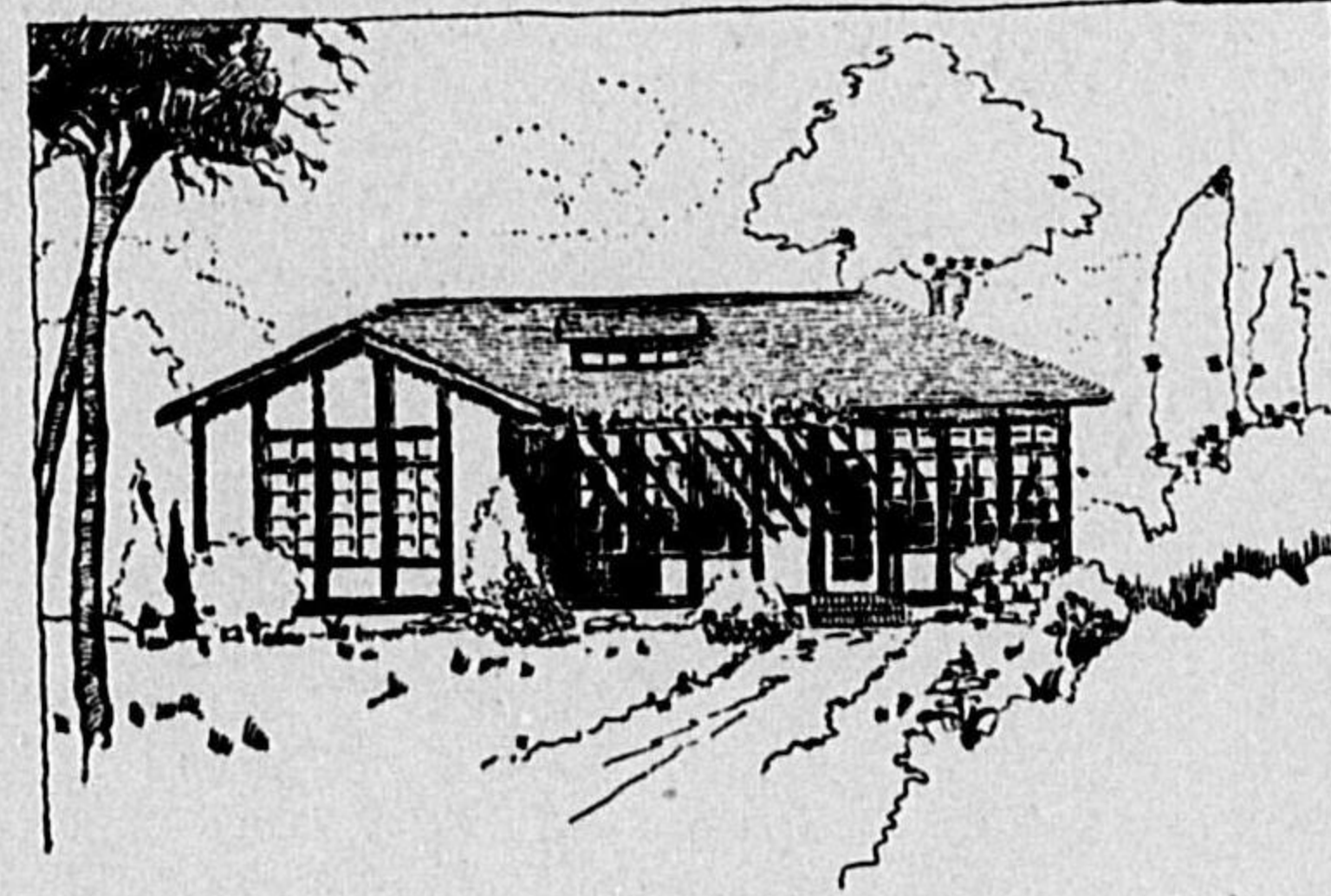
第二階

坪数 一階 四一・五坪  
二階 二一・〇坪  
家族 夫婦、子供四、五人、老人二人、女中一人

背面に山をおひ、前面に廣い平野か又は海の見下せる處を想像してやりました。  
外觀は大體英國風ですが、それは住む紳士の好みを現して居ります。  
屋根は黒色天然スレート葺とし、壁の色は眞白かクリーム色にします。

宇井の左一ハとモテ一ハ

住宅のデッチコッチ

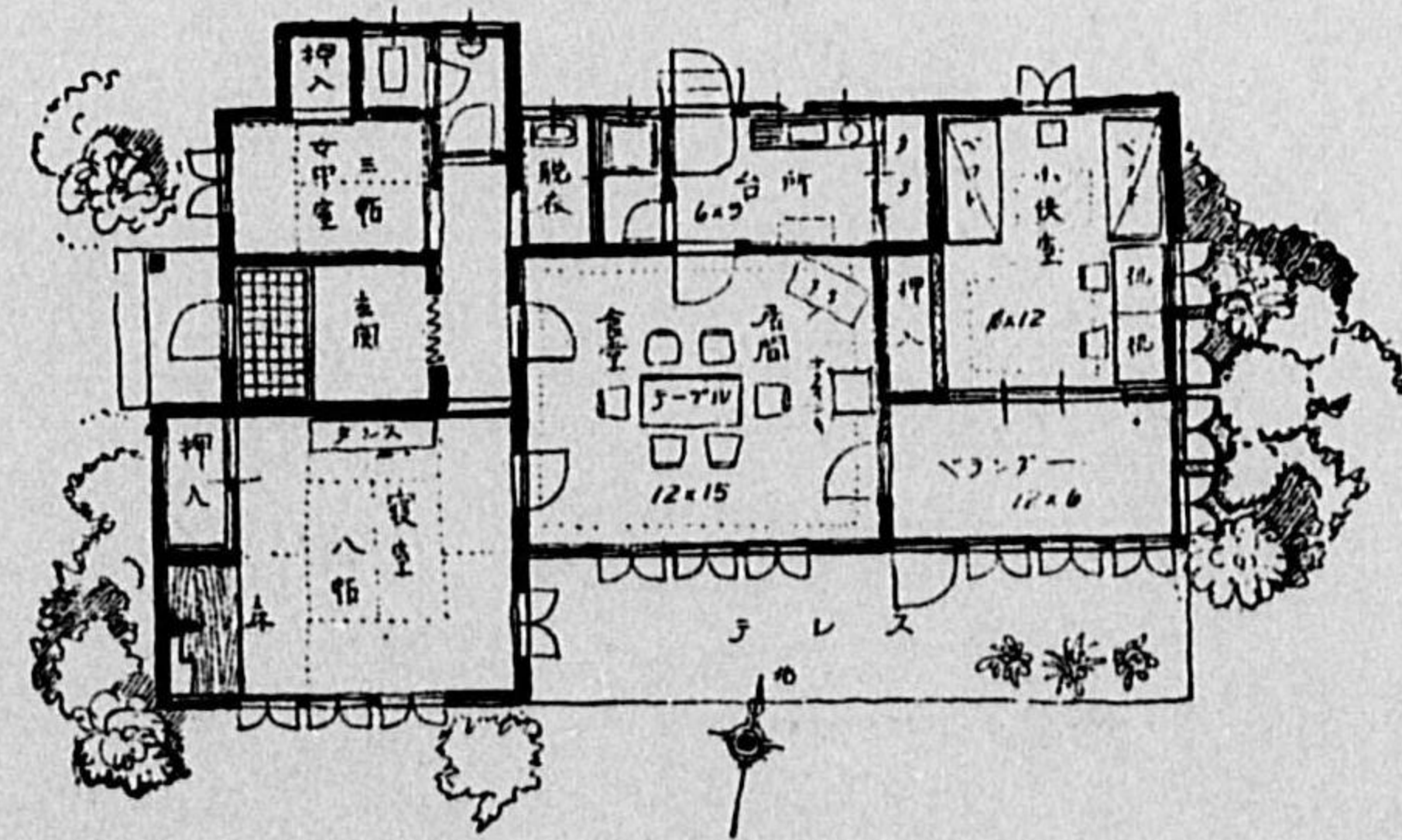


生活様式を和洋折衷にして居る現代の人にはこの様なプランの住宅も必要かと思ひます。居間兼食堂は此家の中心で團樂の所です。第二國民の爲には東南を受けた日當りもよい所に

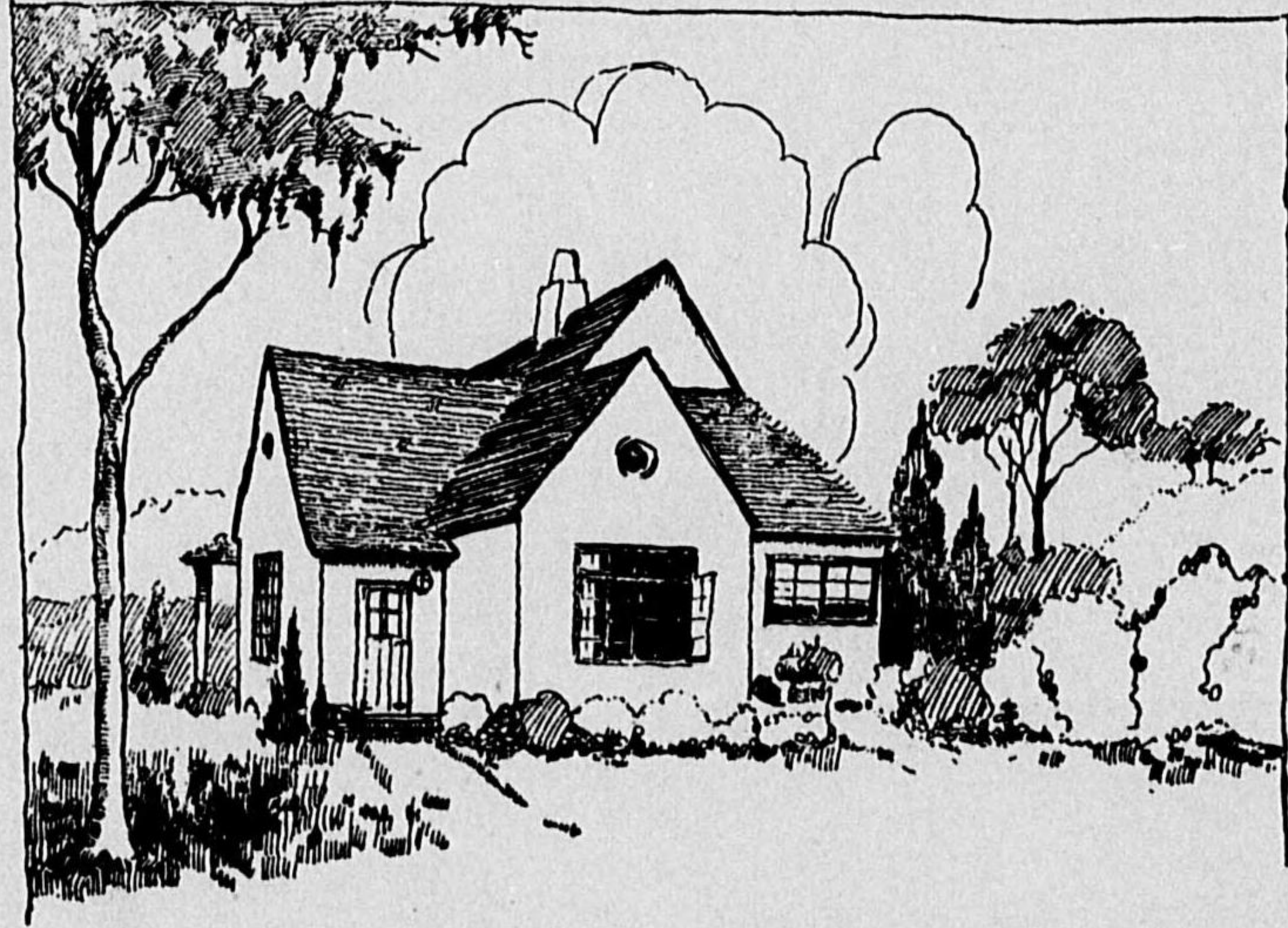
ベランダを取  
り冬や雨天の時  
の遊び場に、  
寝室は身體の發  
育上洋式にし  
ます。  
來客は日本間  
の八帖か居間兼  
食堂に通すこと  
にします。  
女中室もこの  
位の大きさの家  
には不用の様に

思ひますか不用  
の人は納戸とし  
て用ひます。

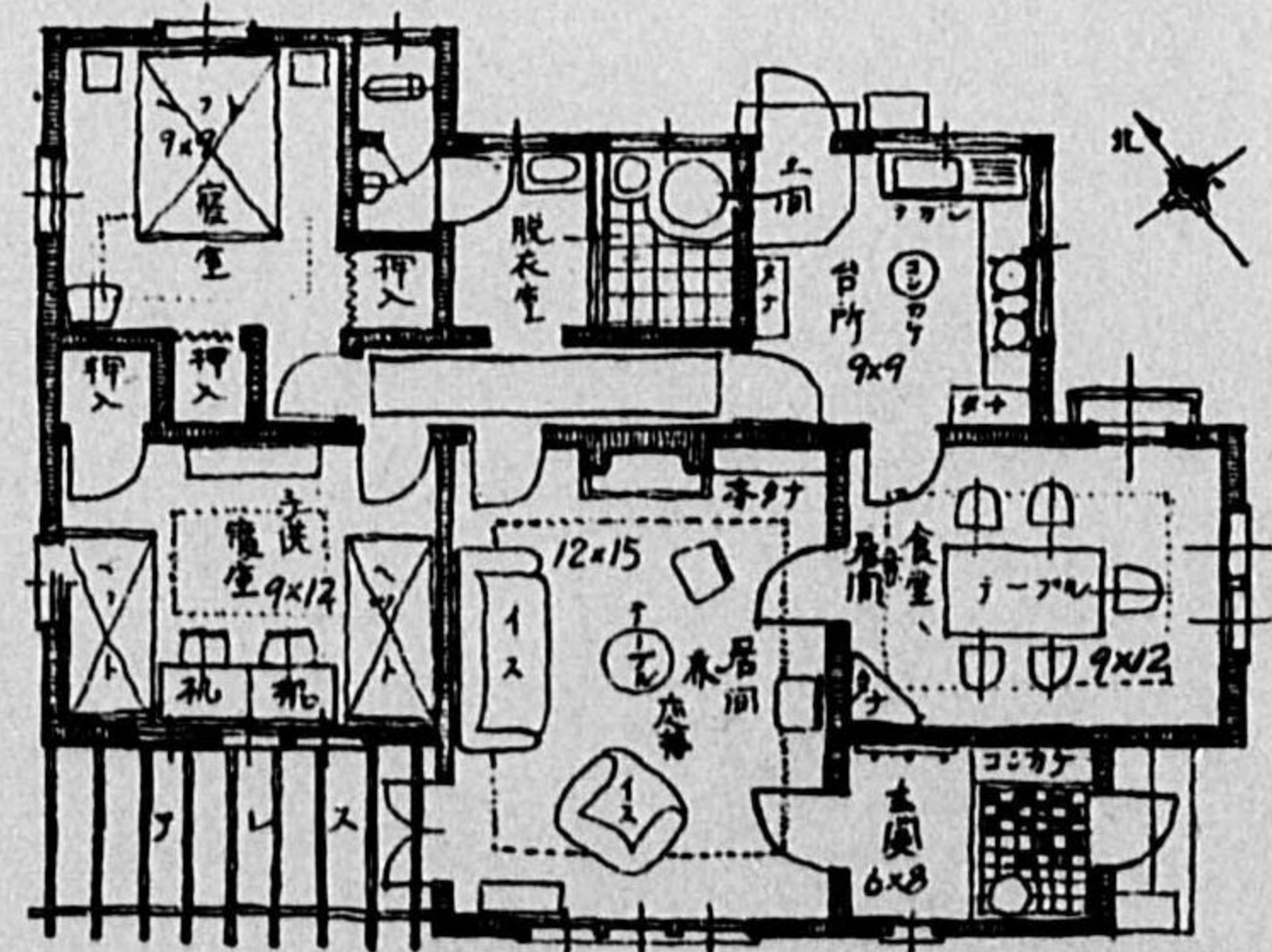
外部はハーフ  
チンバーといふ  
と西洋風ですが  
福島縣の邊で盛  
面に用ひて居る壁  
を半分見せたも  
のです。  
壁は白色か又  
はクリーム色の  
漆喰塗、屋根は  
スレート葺にし  
ます。



宇井の左キッセル



建物の様式はコテージ風で内部は全部椅子式とします。各部屋の配置は常に家族の居間となる大きな室を中心に置き、その周囲に各室を配列したのですが、各室からすぐに居間に通じて居ないので一見不便の様ですが、一方から考へて、各室が各々獨立して廊下をへだてて居間になつて居るので部屋の體裁上プライベージが、保たれる事になり、小さい家が案外廣く感じられ、そして暖爐の左側のドアを開けるとすぐ各部屋に通じて居るので決して不便ではないと思ひます。



建物の仕上、屋根スレート葺、壁白色モルタル塗、各室、天井壁共漆喰塗、床米松板敷とします。

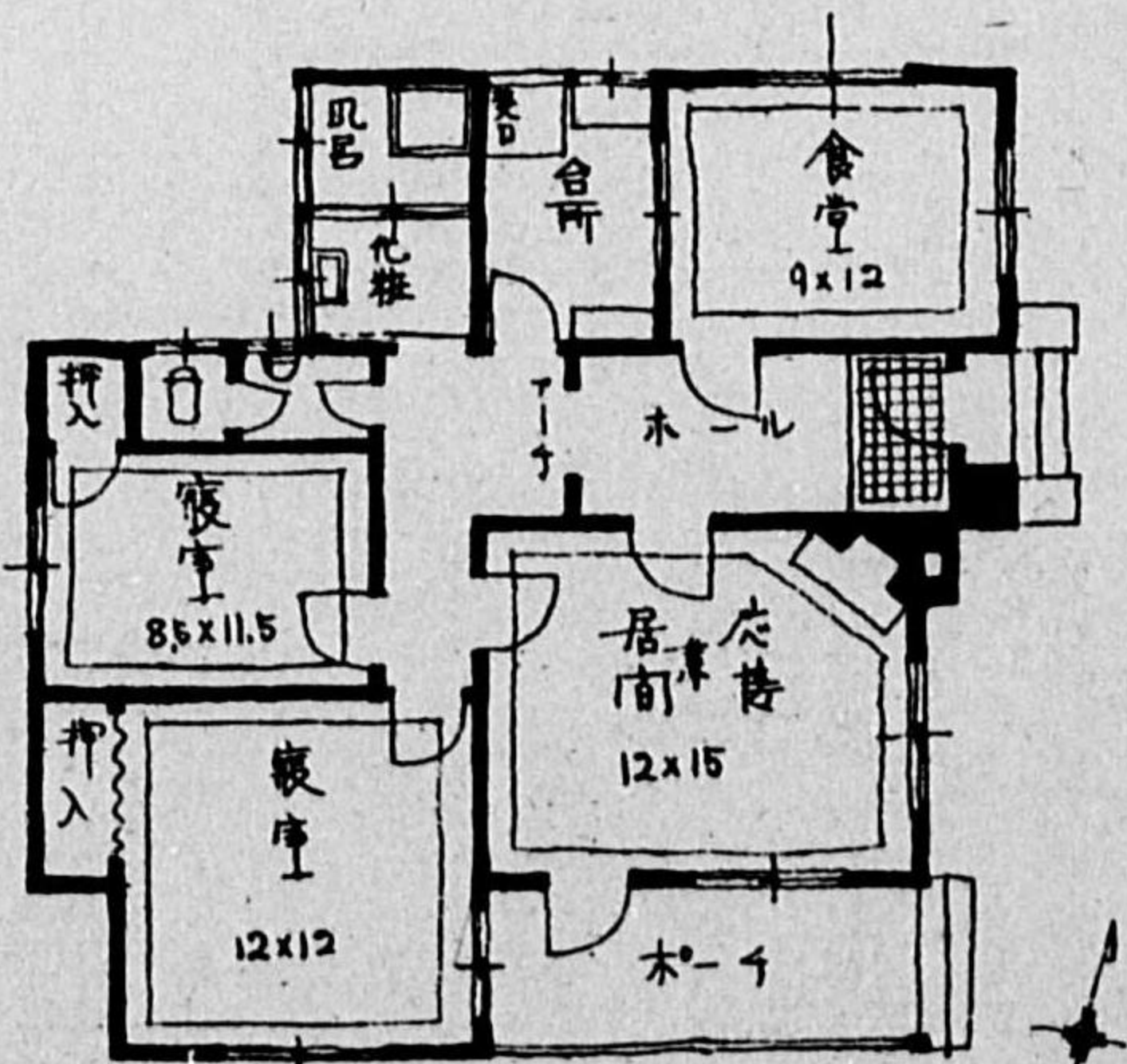
建 坪 二十一坪  
家 族 五人まで



建坪 二十五坪 (ポーチ共)  
家族 四、五人

壁は赤味を帯びた色に、屋根はその一層強い色のフランス瓦にします。すると刺戟の強いよごれた市の中で緑樹を見出した時のよろこびと同じよろこびが得られると思ひます。

そして外部腰積は丸石を用ひ、テレスも亂石敷にし、内部暖爐廻りは荒仕上の石を張り、天井には木の梁形を見せる様にすれば自然に接したすいぶん感じのいゝ部屋になると思ひます。



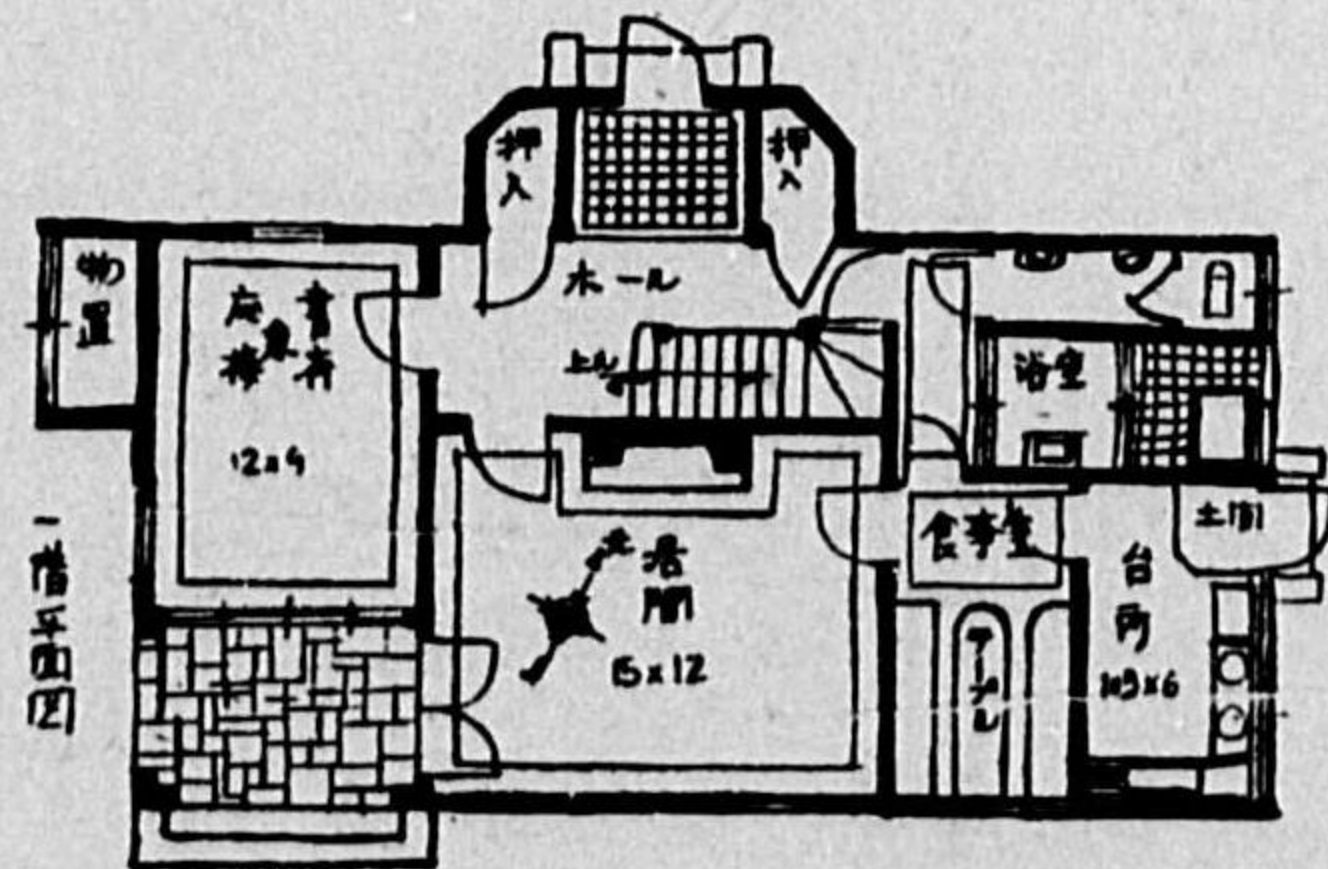
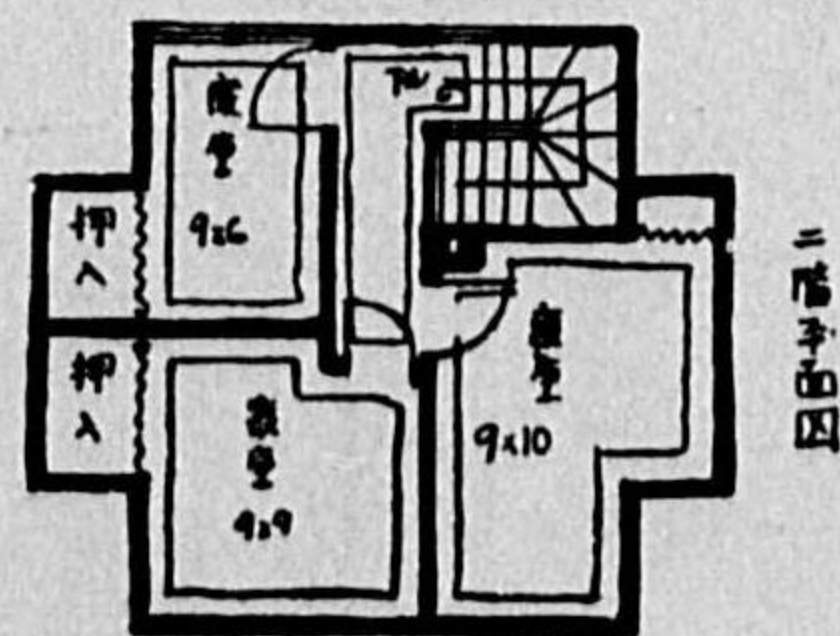
外觀はあまり奇を好まず、平凡である所にこの家の親しさと餘裕とを感じます。

屋根は黒色のスレート葺、二階の窓の廻りはハーフチンパ―として、一階と共に白色又は桃色の漆喰塗にすれば似付くと思ひます。

内部のホール、應接室、居間等は高い羽目板とすれば、外部と共にやゝ英國風の整ふた落付いた住宅になると思ひます。

食事室は朝晝等簡単に食事をする時には、此處でやり晩や來客等の時は、居間を食堂と兼ね、その時は食事室は配膳室になります。

坪數 一階 二〇坪  
二階 九坪  
(ポーチ共)  
家族 四、五人



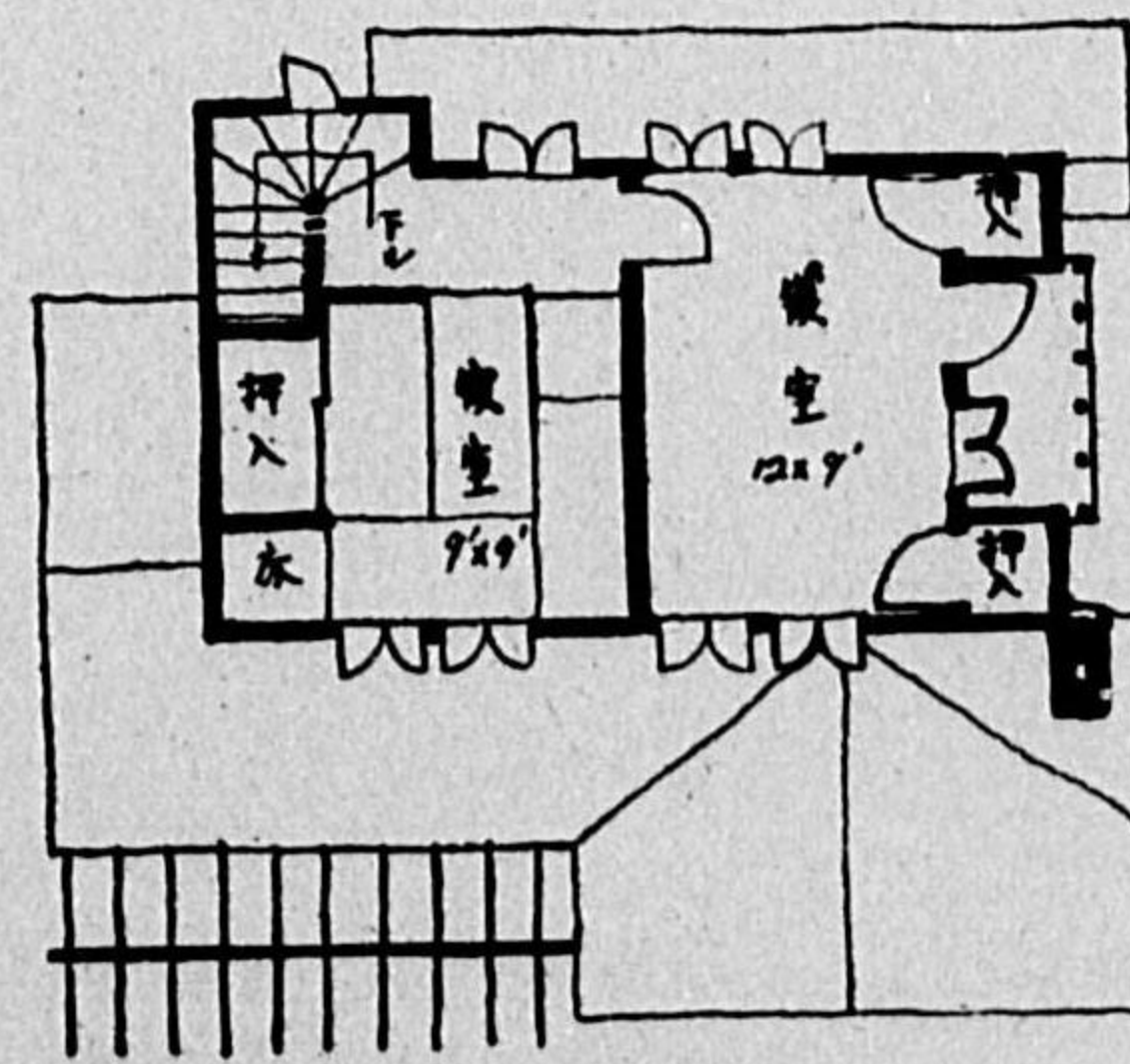


バンガロー式の住宅

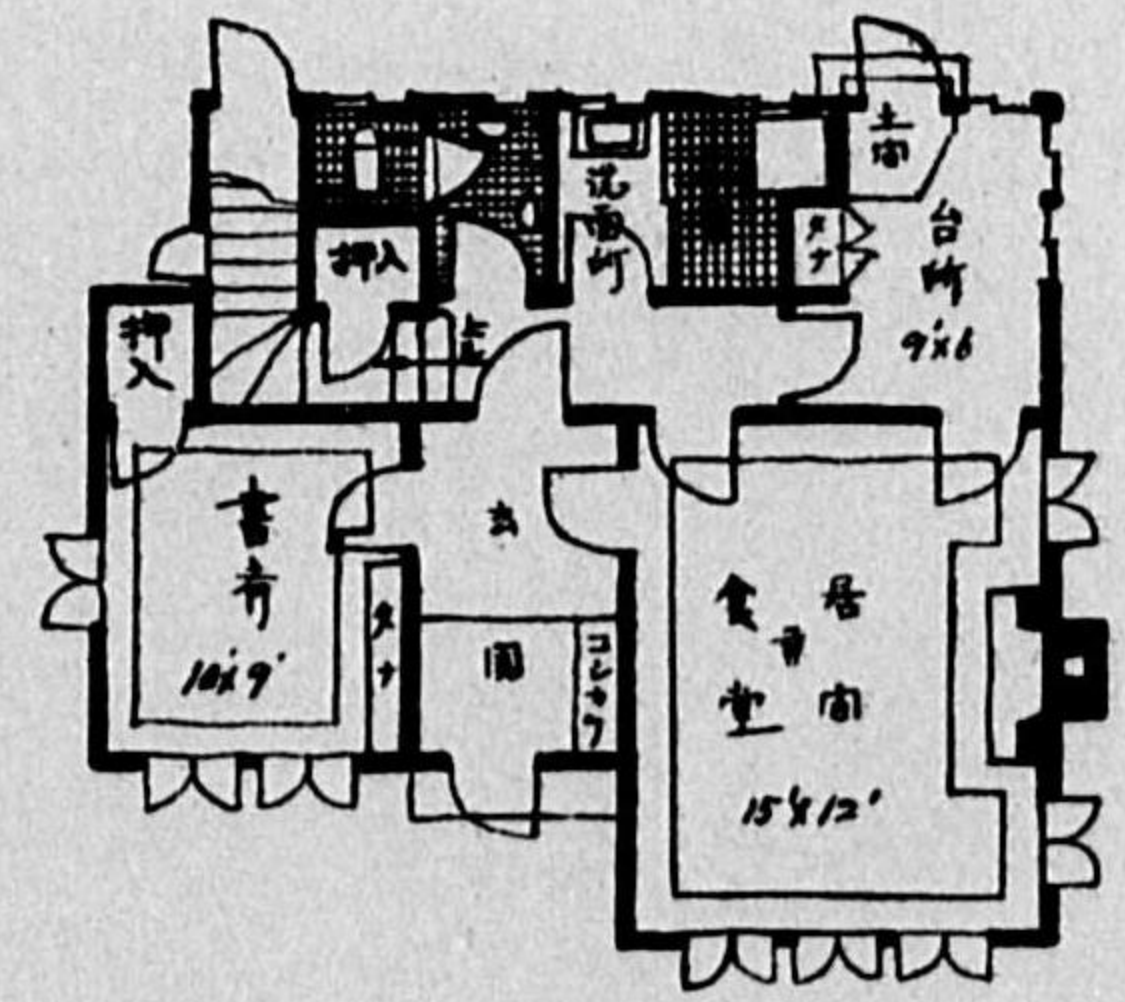


採光と通風に注意いたしました二階のバルコニーは、すわぶん気もちのよいものになると思ひます。

家族 四、五人  
 一階 十五坪四  
 二階 八坪七

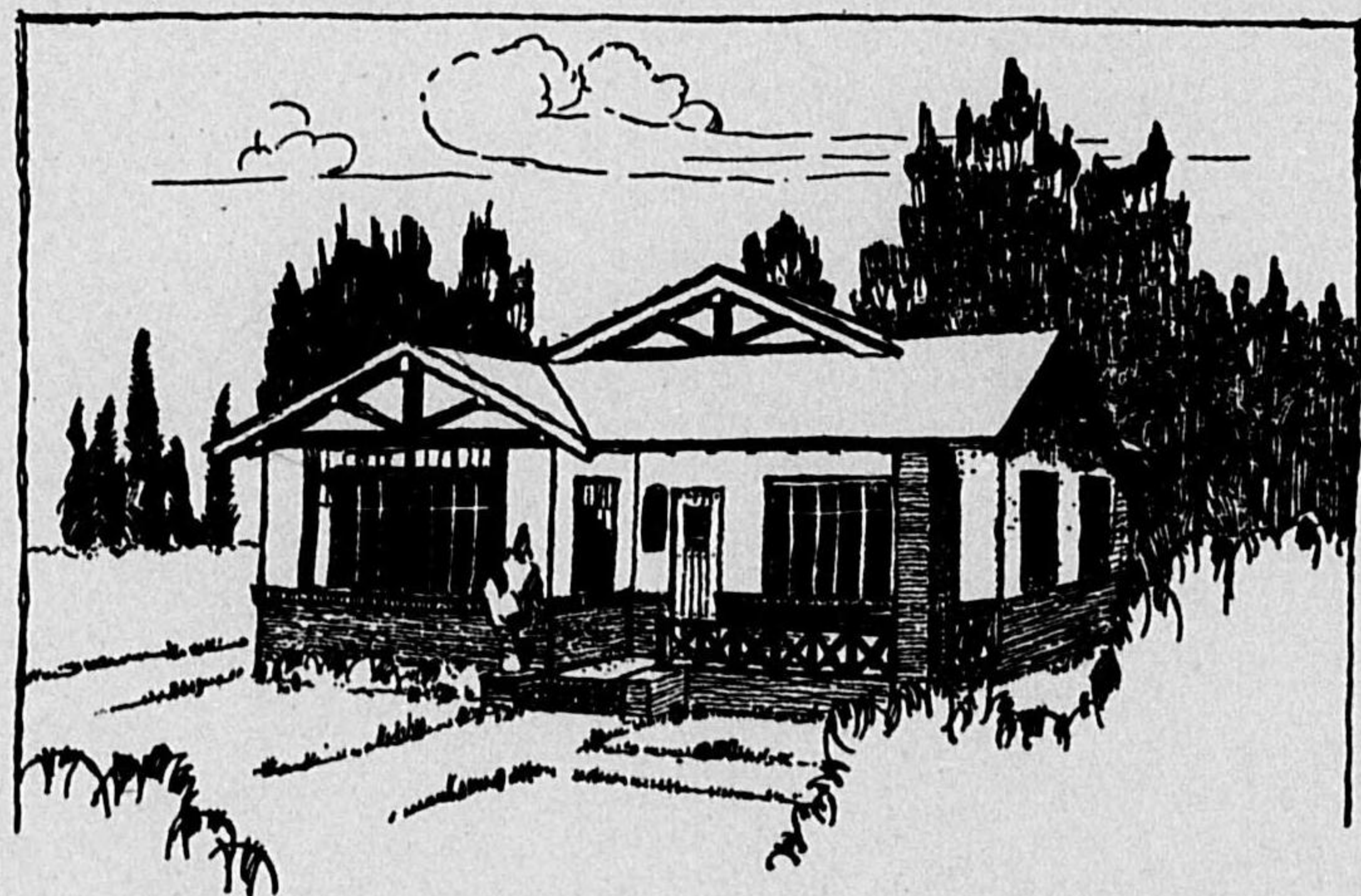


二階平面図



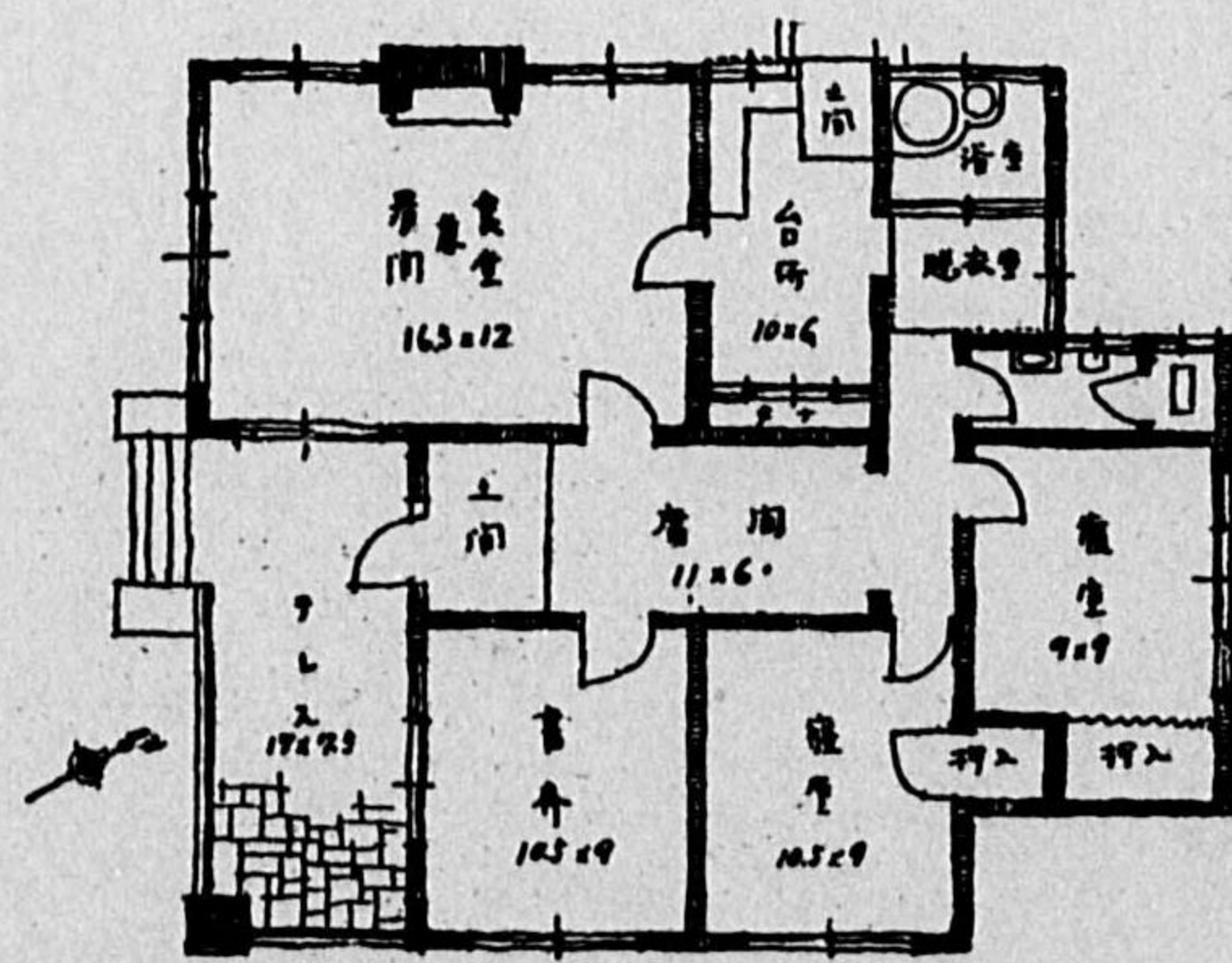
一階平面図

宇井の左一口はこみ



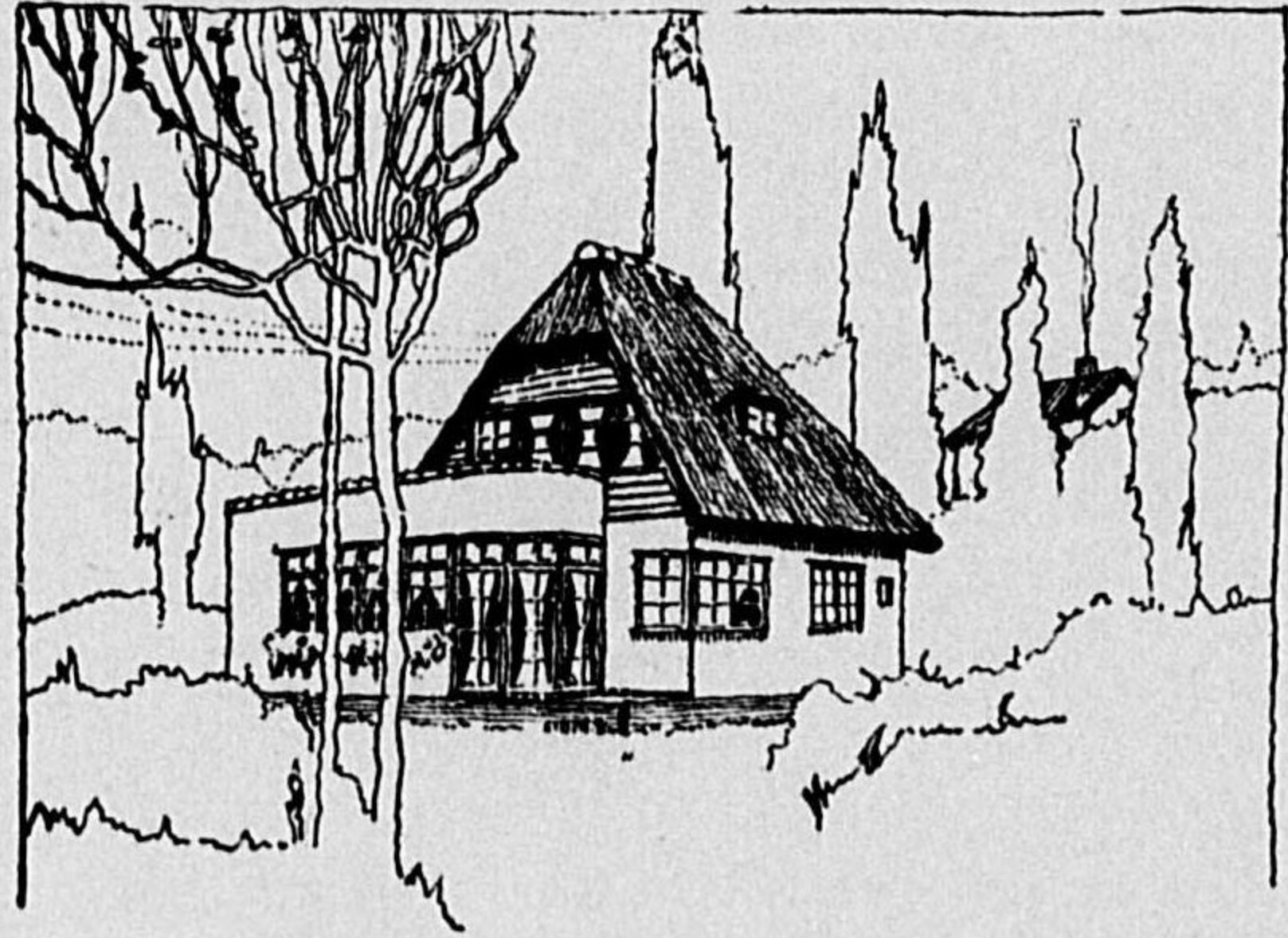
この家の變つた處は軒の出の多いことにあるので日本の様に雨の多い處では、この式の西洋住宅が發達して然るべきであると思ひます。  
 従つてこの様式で和洋折衷の住宅を造ると他の様式に見る様な木に金式の不調和はのがれ得られます。  
 三坪半のテレスは之からの夕涼みや盆栽等の楽しみ場の所にもなります。

坪数 二十五坪(テレス共)  
 家族 四、五人

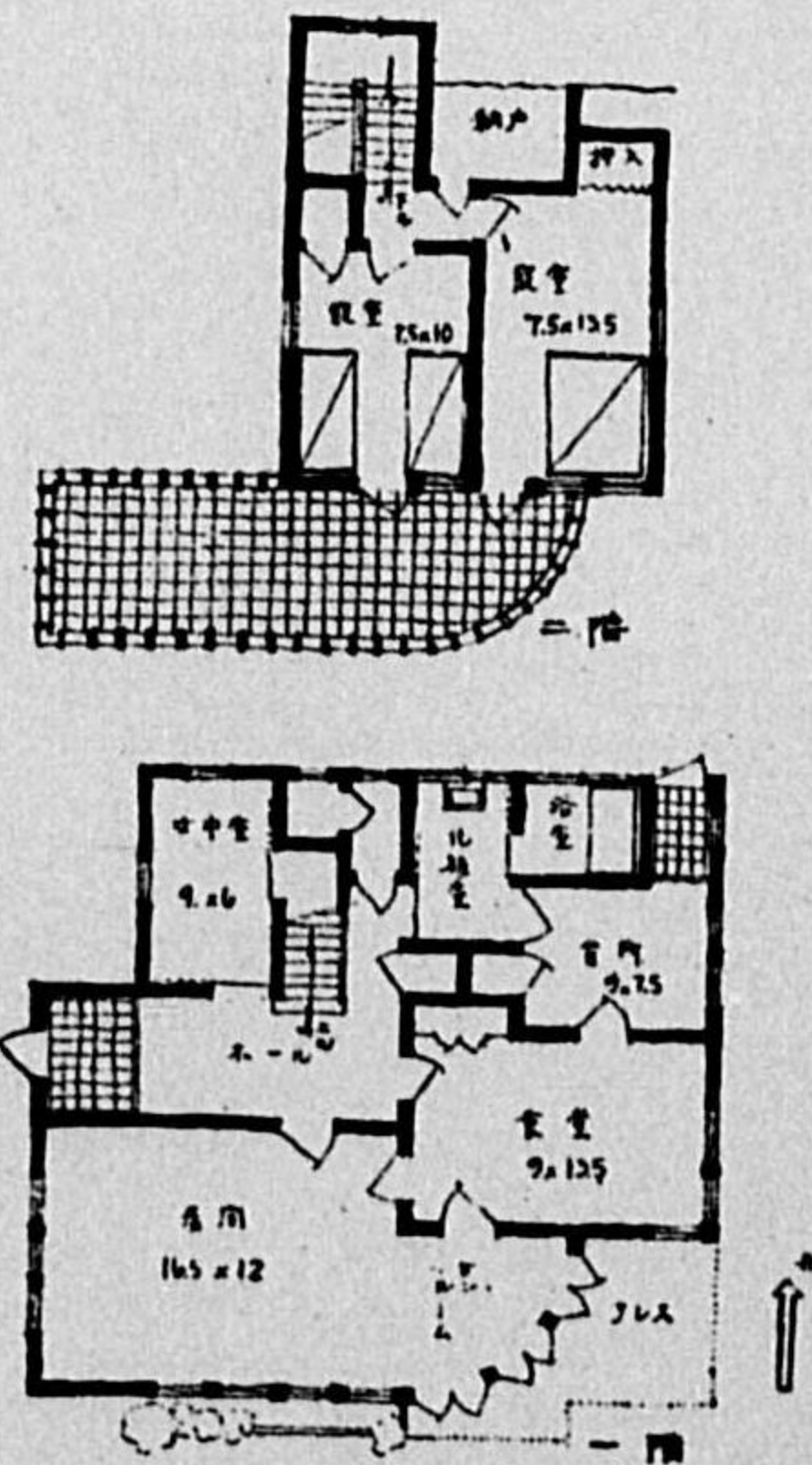


茅 葺 の 住 宅

茅葺の葦の宇



茅葺屋根の家



オランダの田園住宅にヒントを得て設計したのですが、オランダまで行かなくとも、吾國の地方の農家を改造して新しい親しみやすい住宅が出来ます。

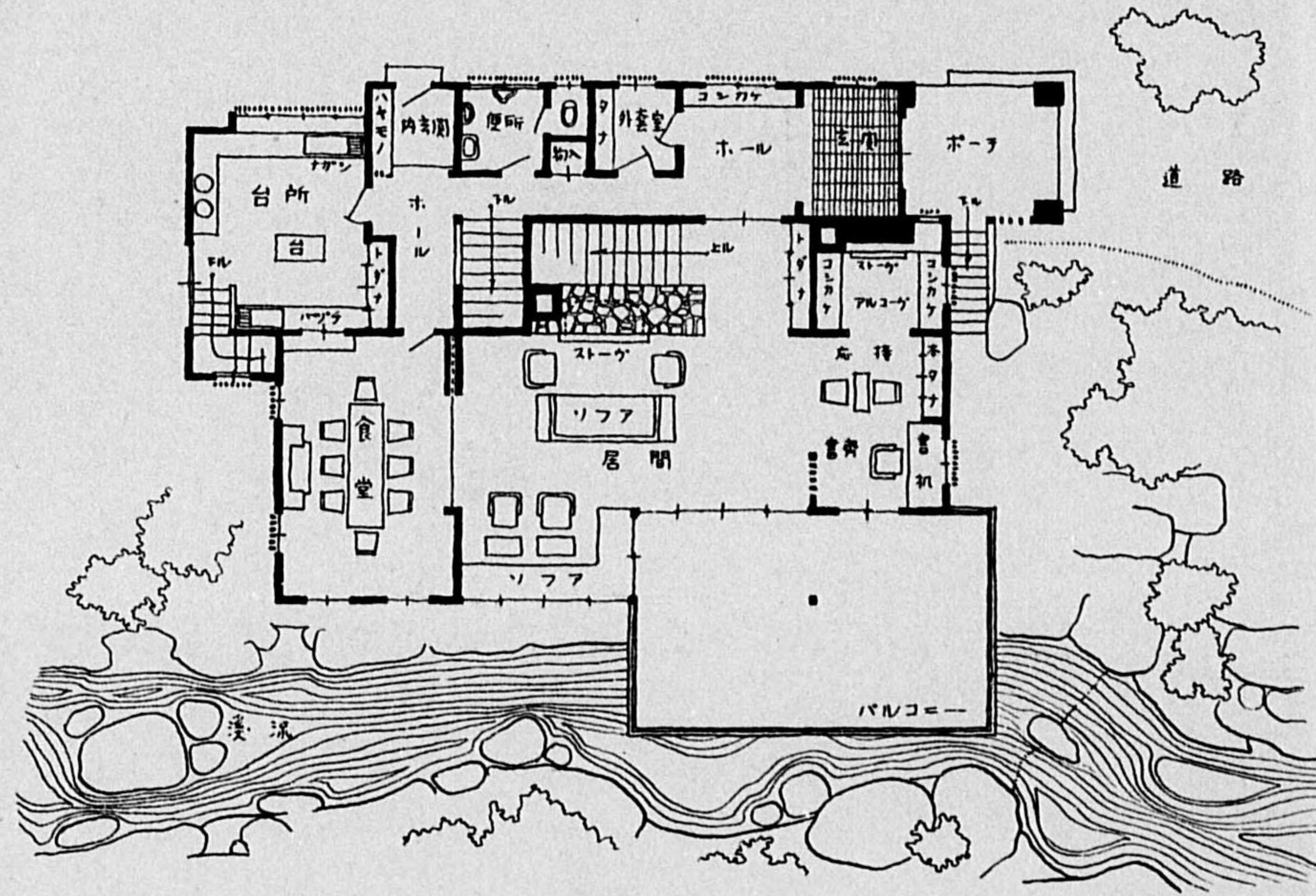
屋根の茅には防火液を浸み込ませ、大棟及バルコニーの圍りは赤褐色の丸瓦を以て葺き、壁の色はクリーム色、悉粹は褐色又は純白色とす。

臺所、食堂、サンルーム居間は何れも日當りのよい所としてありますから、衛生的な氣持のよい住宅になると思ひます。

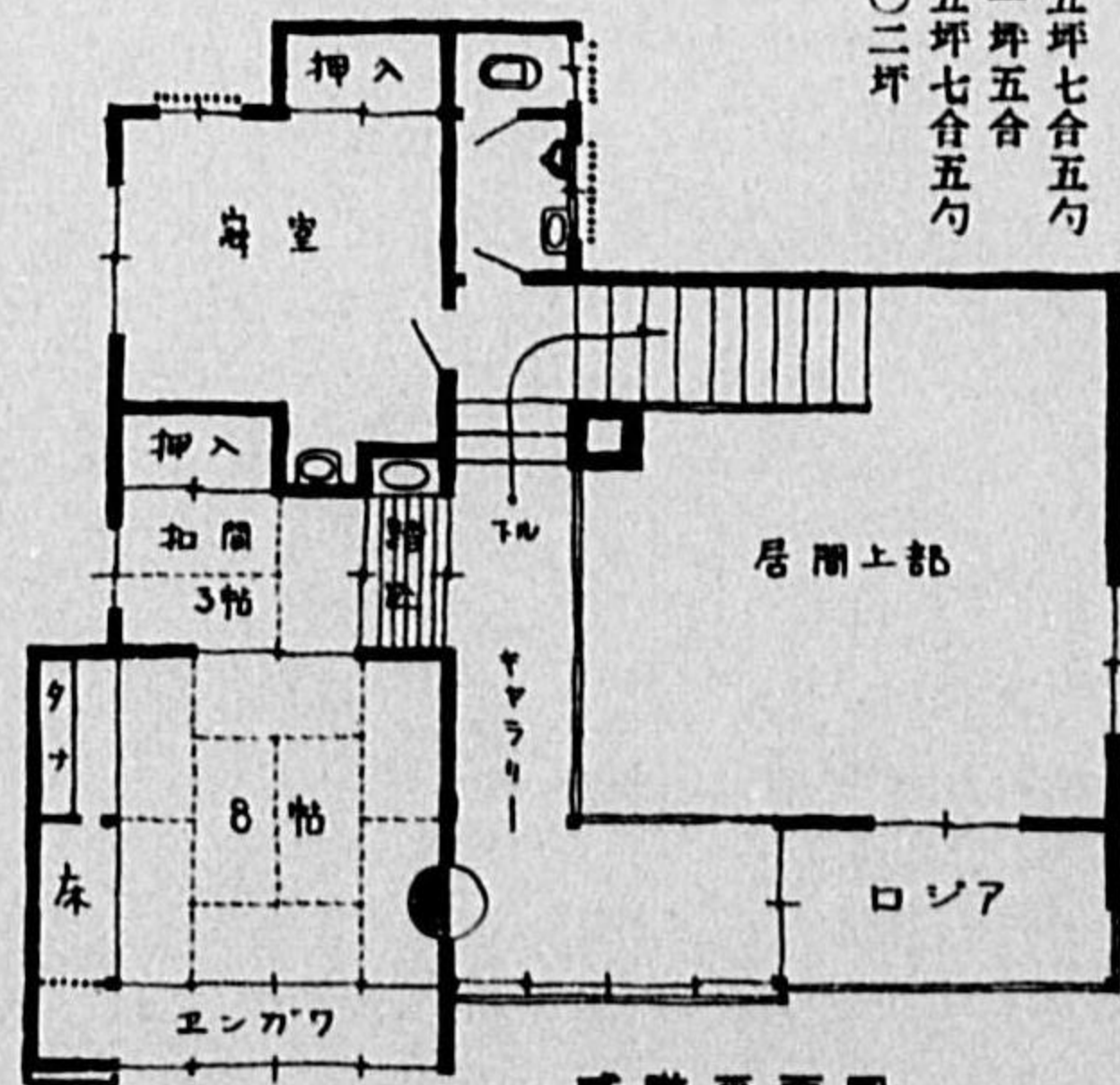
坪数 一階 二一坪  
二階 八、五坪  
家族 五・六人まで

山 の 別 荘

山 之 眼 荘



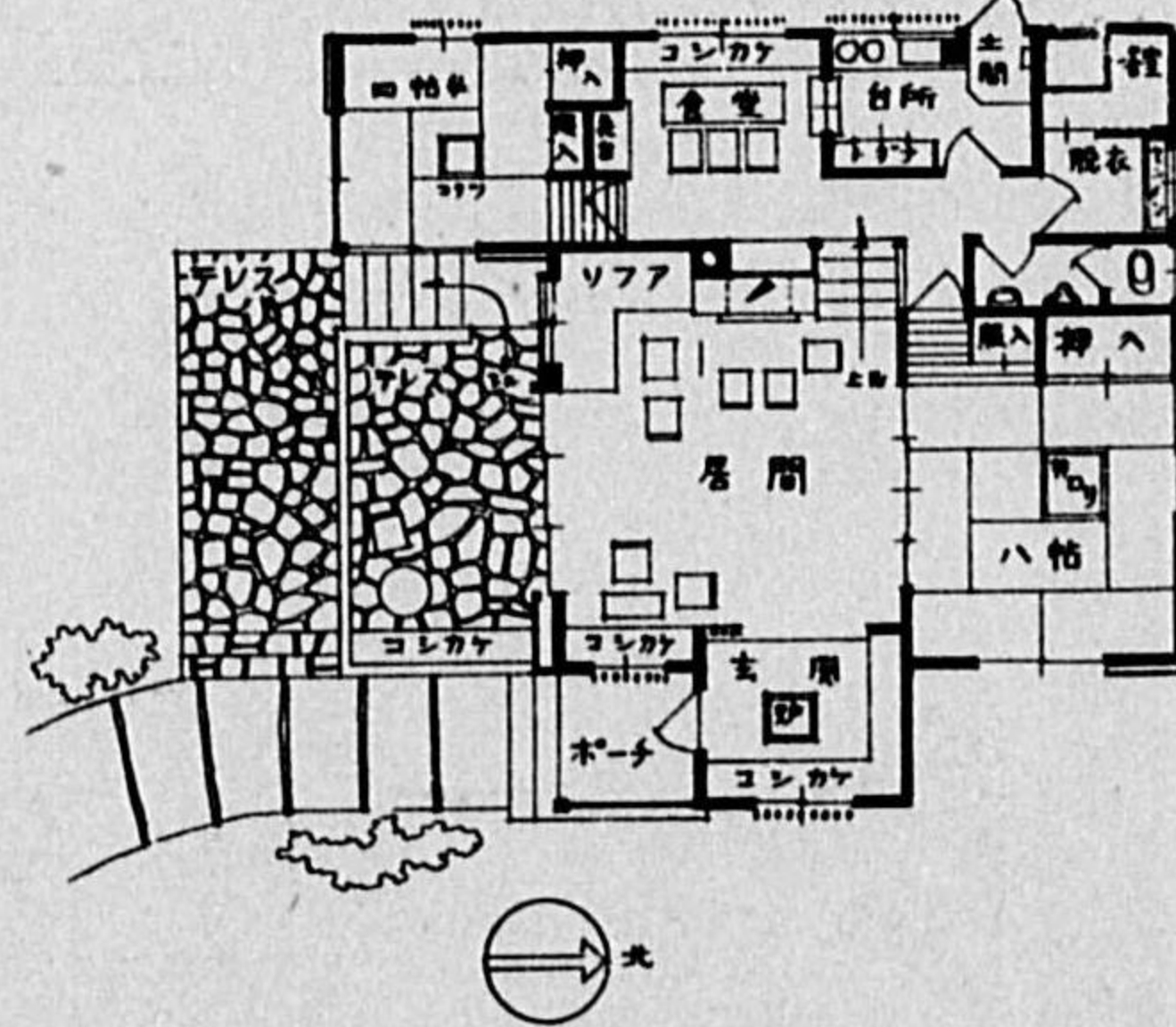
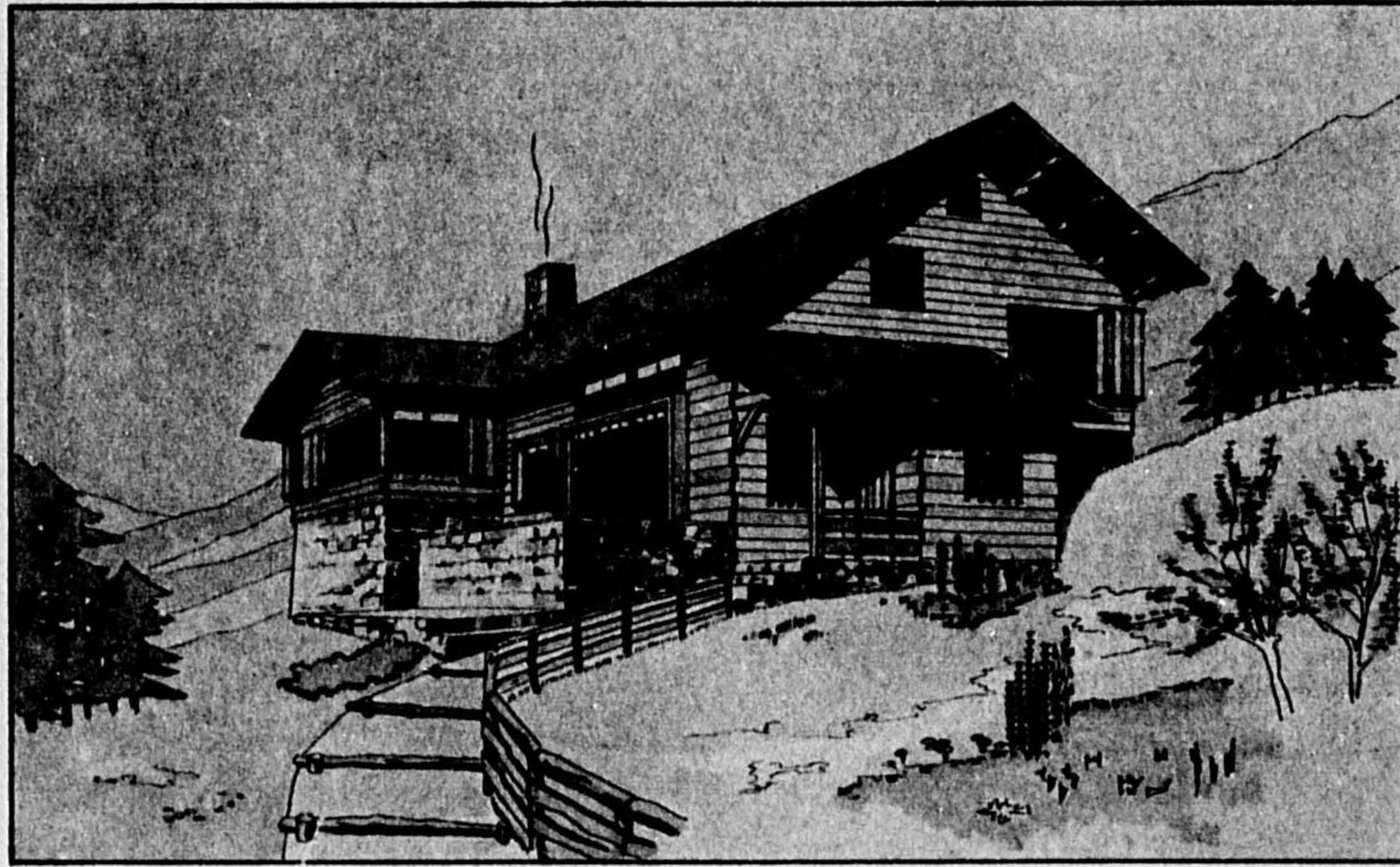
壹階平面図



貳階平面図

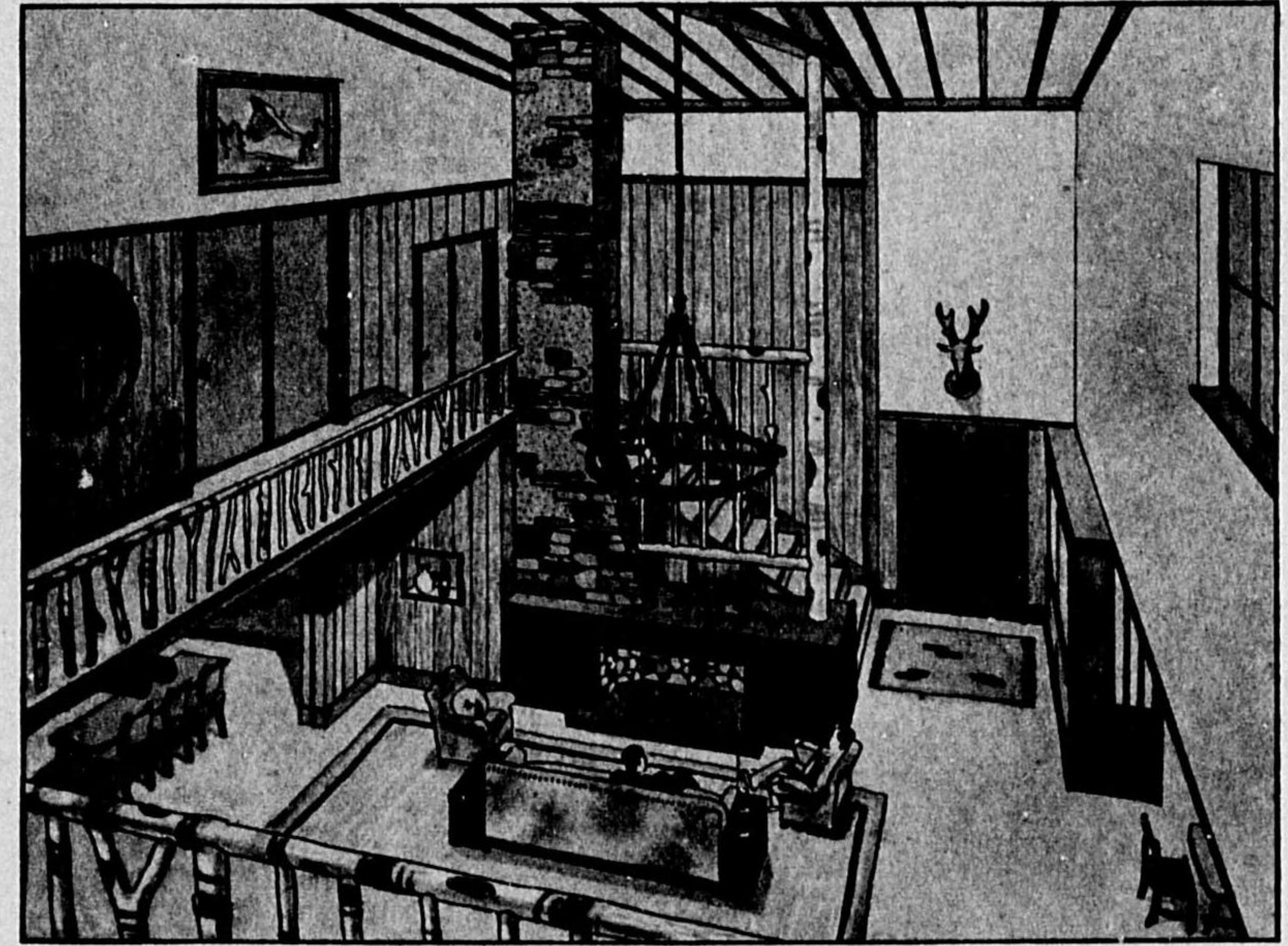
建坪 四五坪七合五勺  
 一階 四五坪七合五勺  
 二階 三一坪五合  
 地階 二五坪七合五勺  
 計 一〇二坪

— 溪流に臨む山の別荘 —  
 山間の避暑地或は温泉地等に相應しい別荘の案。二階迄吹抜きの大きな居間を中心に食堂、應接室、二階には寢室。深遠くつき出たバルコニーは夏の背の歌談に、肌寒の春秋の日光浴によく、四季さままの溪のながめを恣にします。朝起き出でて先づ二階のロソアに、山の靈氣を含んだ空気を鼻と共に胸一杯吸ひ込む爽快は如何許りせう。斜面を利用した半地下室のゆつたりとした浴室に自然の温泉でも引き入れることが出来たら申分のないものでせう。  
 (口繪参照)

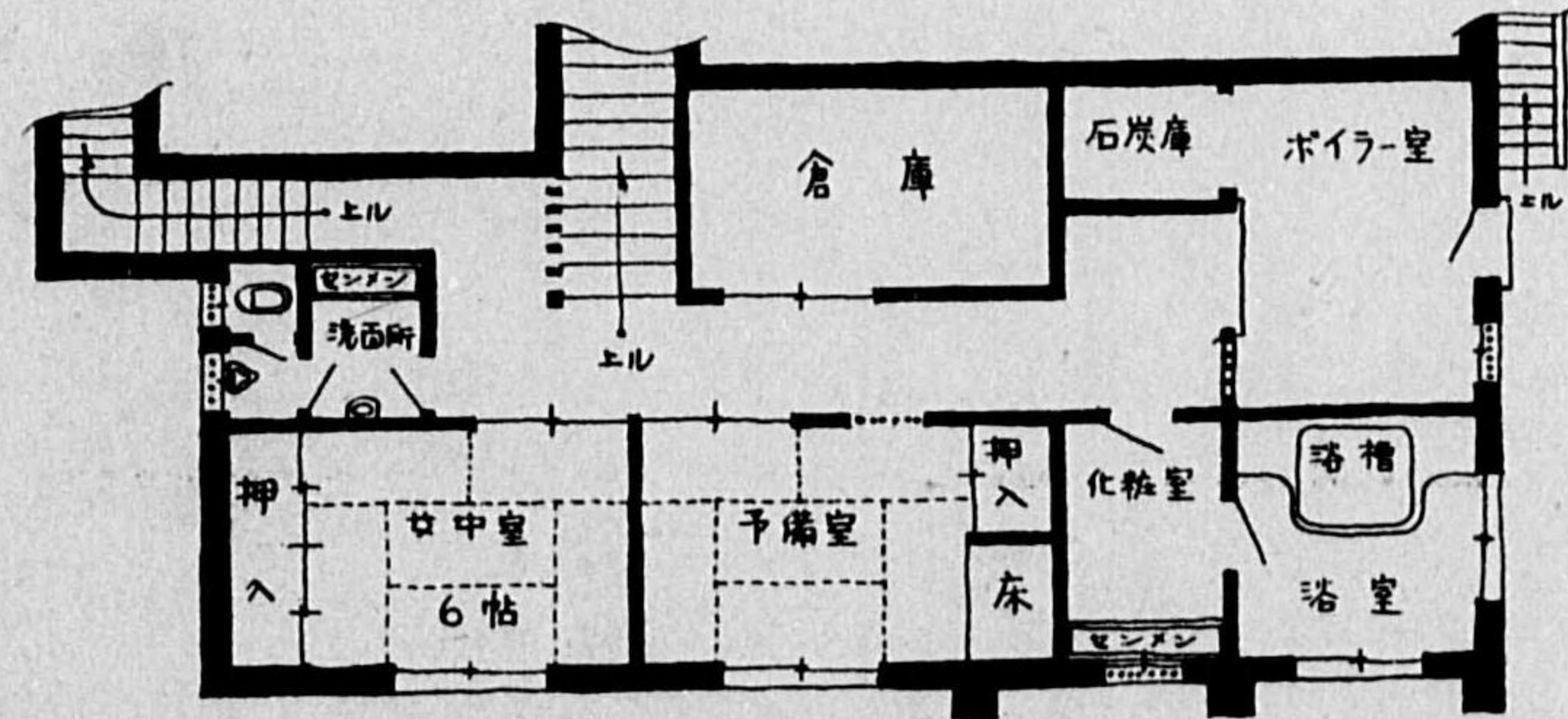


建坪二十五坪  
山腹の斜面をうまく利用して玄關から居間、更に一段高く寢室と平面に高低を付けて見ました。(断面圖参照) 四季を通じての山の景観にこんな小別荘は如何です。玄關は土間に爐を切り一寸した休憩に、冬期は又此の部屋をスキー、其他衣類の乾燥の爲に當てます。居間の前には高低二段のテラスを設けました。四方の展望を恣にし乍ら夏の夕べ等屋外の食事も楽しいものと思ひます。

—高原の別荘—



室内圖



地下平面圖

子 供 本 位 の 住 宅

1. .... 40

2. .... 41

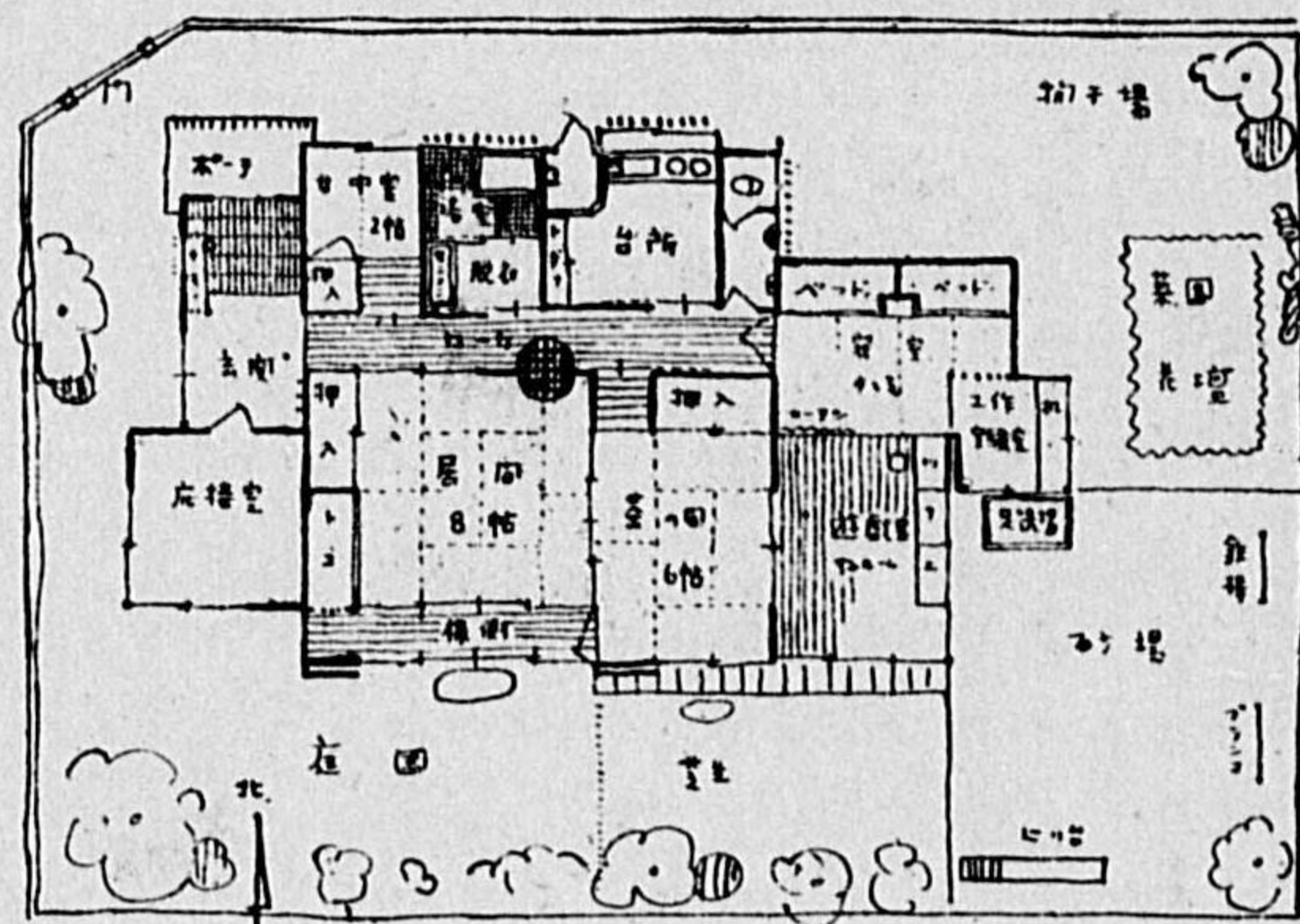


宇井の立本冊子

10 ..... 1  
14 ..... 2

建坪 三十坪

守供本位の家

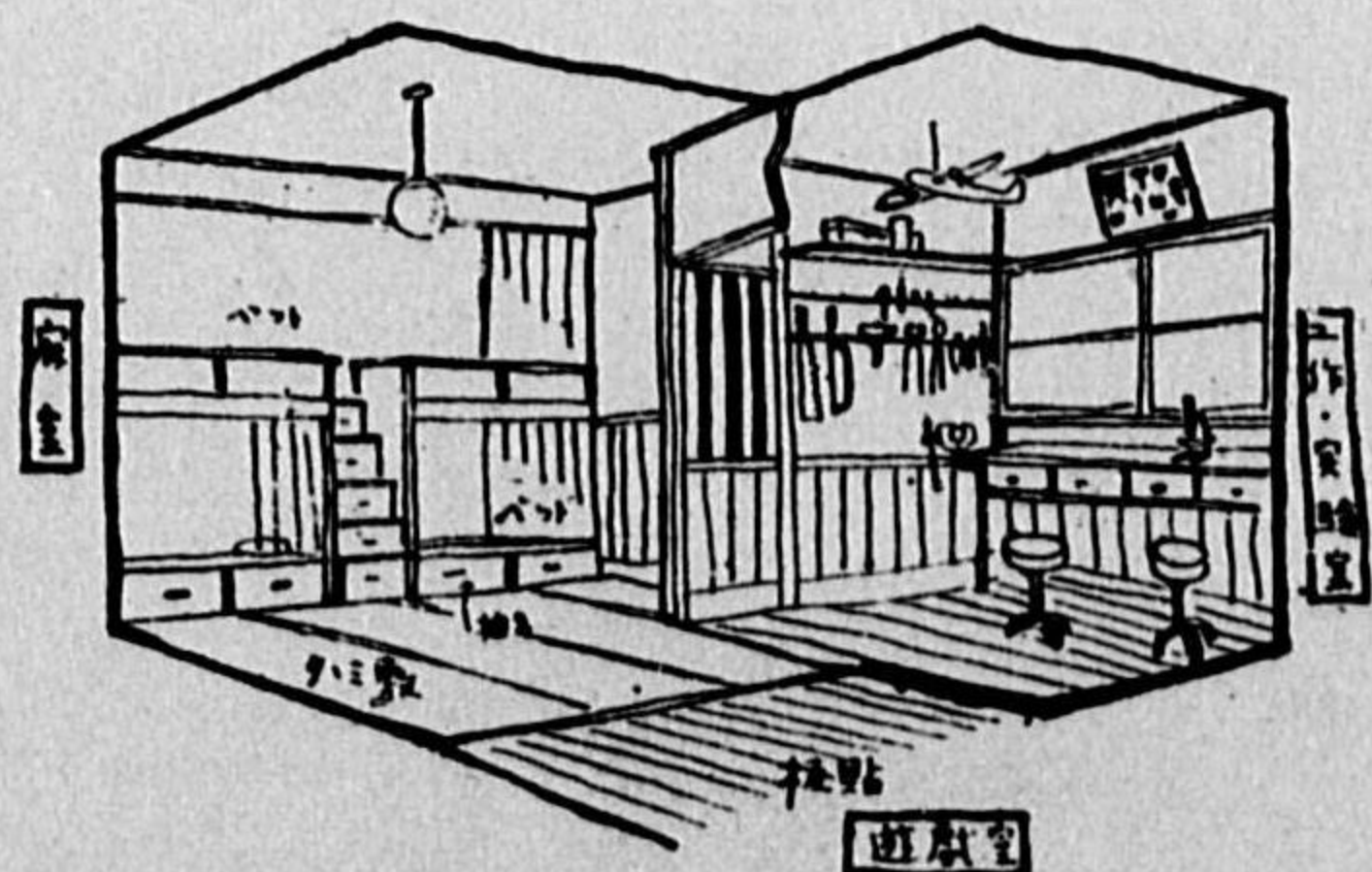


新體制の春を迎へるに當つて次の時代を背負つて立つ第二の國民の知育、體育、徳育の向上を目的とする子供本位の家を考へて見ました。街路で遊ばは叱られる。家の内で走れば叱られる。玩具等を散亂すれば叱られると云つたみじめな子供達の爲に伸びくとした部屋を先づ興へてやります。在來の住宅は大人本位です。構造からして子供達には適して居ません。それで叱られるのです。

部屋は東南に面して開放の出来る日當りのいゝ位置を撰びます。床と壁は板貼、これで玩具の電車や自動車やゴシ／＼床にすりつけても三輪車を乗り廻しても叱られません。壁には樂書用の大きな塗板も備えてやります。大人の考へた子供用の壁紙を美麗に貼り廻した壁等よりどれだけ嬉しい物でせう。

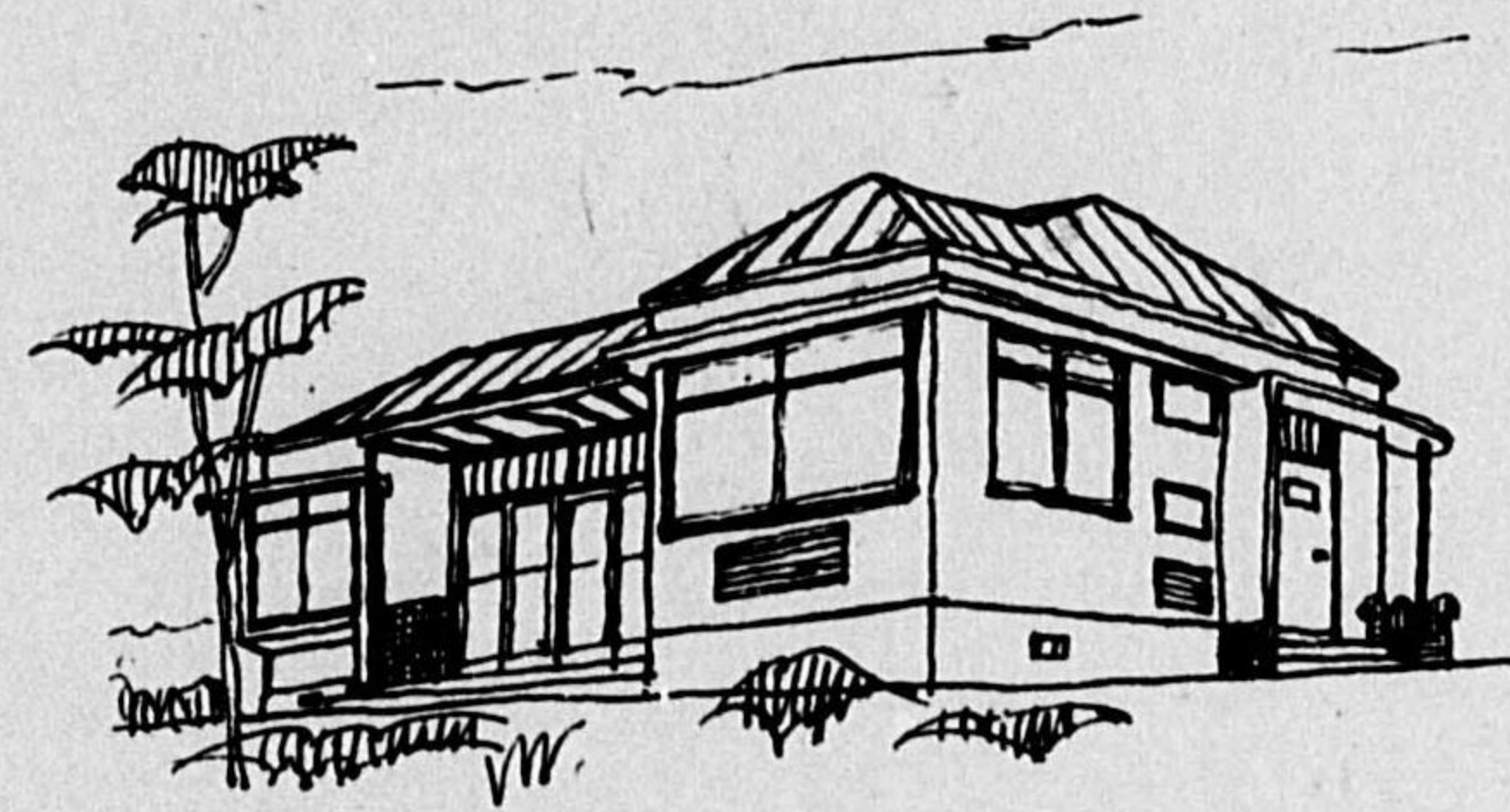
大きな子供の爲にはその旺盛な研究心にこたえて工作・實驗室をつけてやります。此の部屋は子供に科學する心、創作する心を培ふでせう。壁にはいろんな工具器具を整理する棚、机には萬力もつけてやります。寢室は二段の汽車式、ベッドの下や梯子段は抽出をつけて肌着等を入れ、兩親の監督の下に自分の事は自分でする習慣をつけませう。

庭には砂場と芝生をとり懸垂用の鐵棒、ブランコ、迂り臺等を適當に設けませう、又自然を愛する情緒、觀察力を養ふ爲に花壇、菜園も作つてやりたいものです。部屋の前には足洗場、一々臺所へ行つて足を洗へと云つてやるのは云ふ方が無理です。以上は單なる試案です。細い點はその子供の天性に隨つて、又暖い親心に依つて考へて頂く事としませう。



# 生長する家

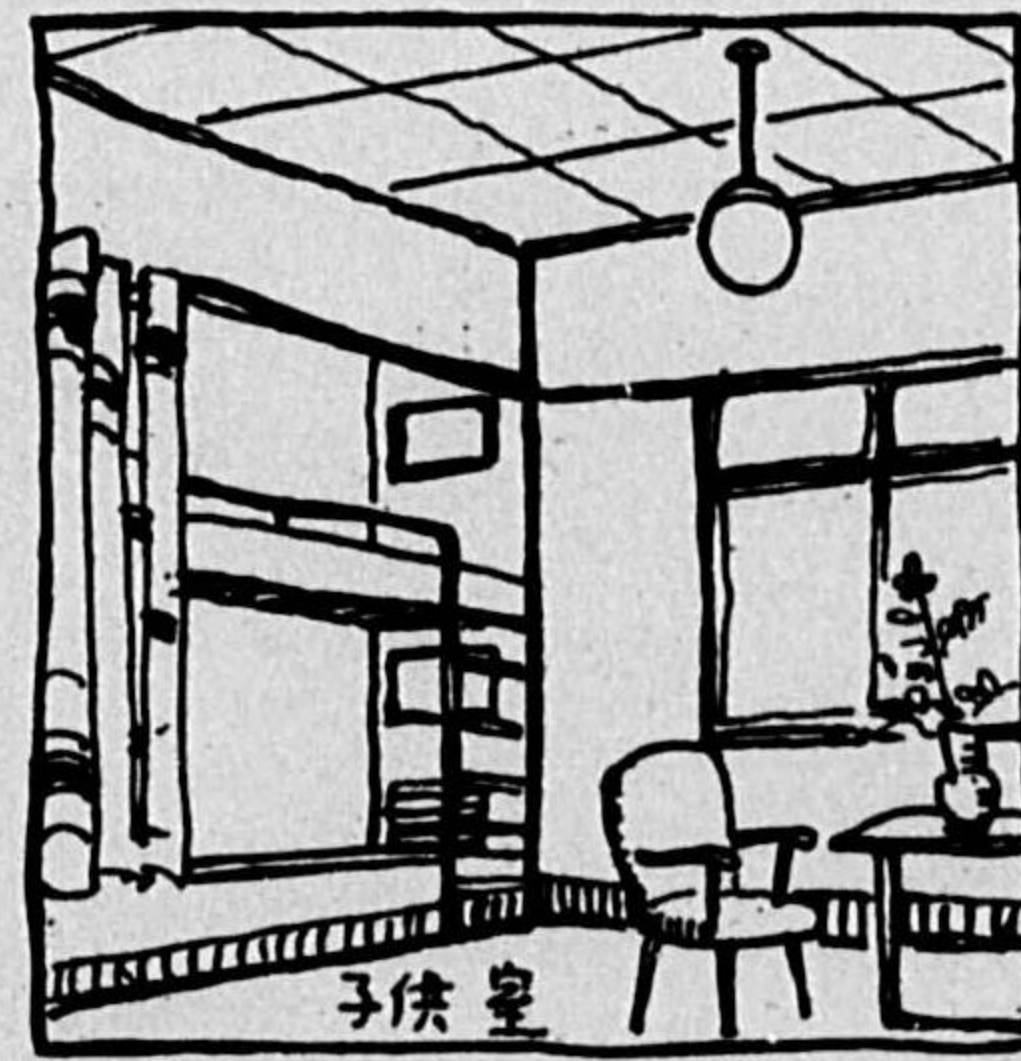
- 1. .... 42
- 2. .... 43
- 3. .... 44



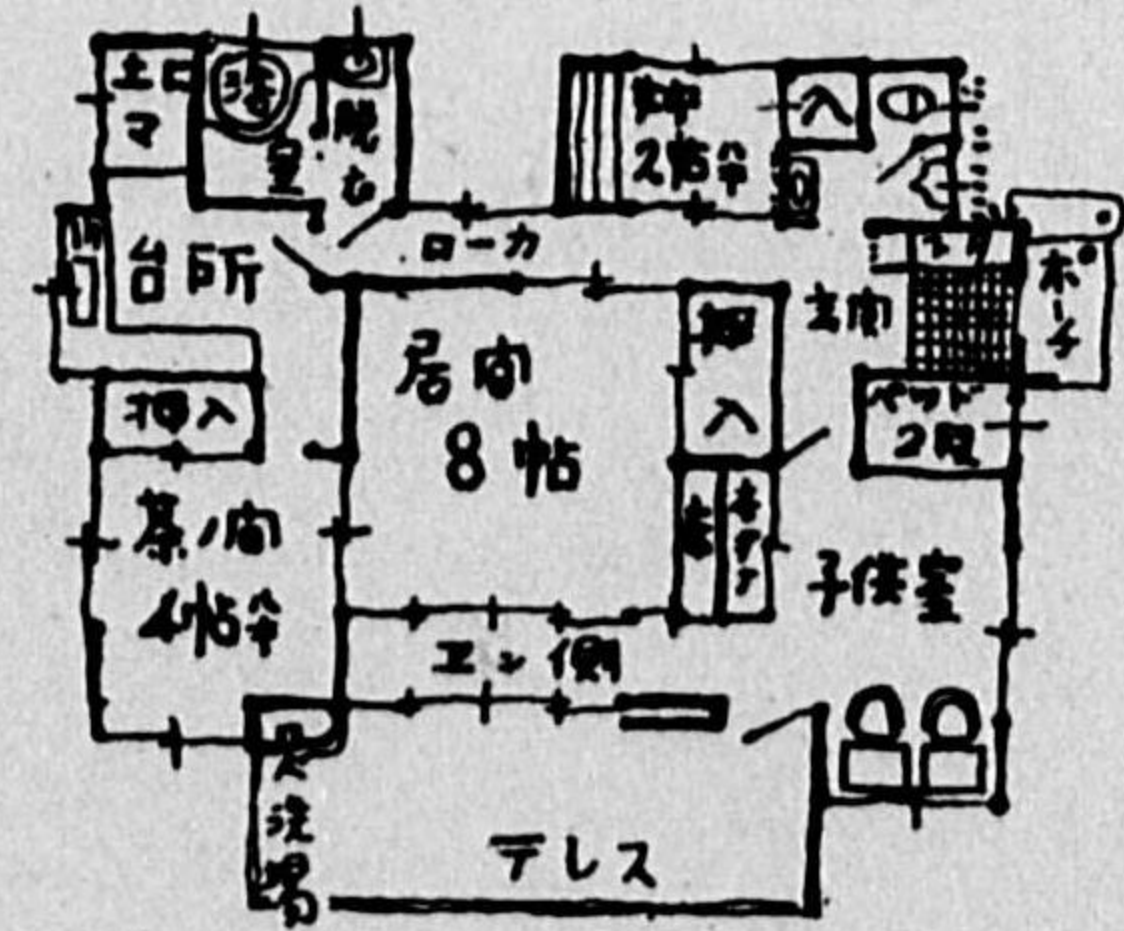
—子供を主とした家—

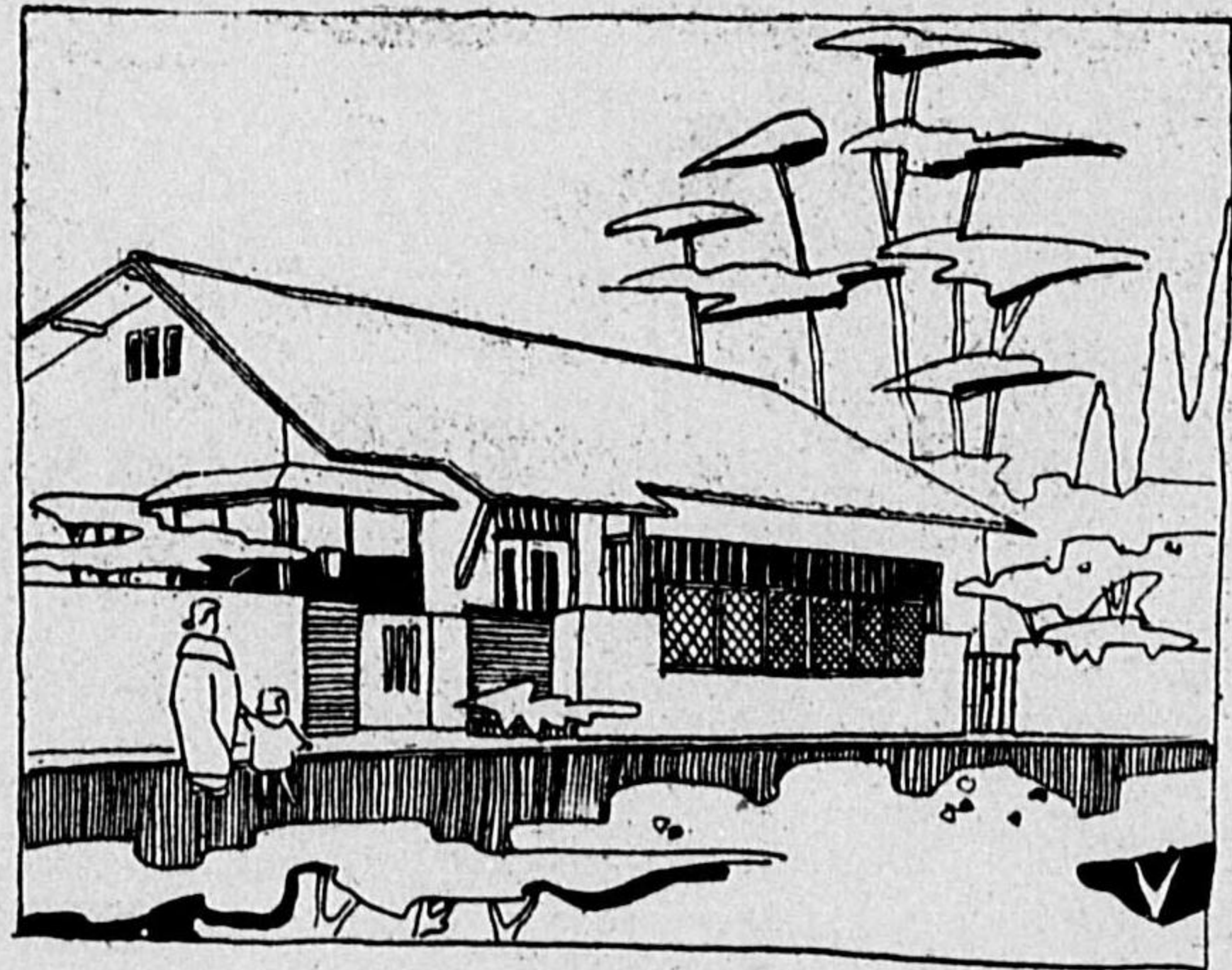
建坪 二十五坪一六

子供本位に計畫された郊外小住宅、東南のいゝ方向に子供室を取り、縁側續きに居間、茶の間に連つて居ます。更に玄関とテレスには直接出入口がつけられて居ります。發育盛りの子供の事ですから總て椅子式の部屋とし、



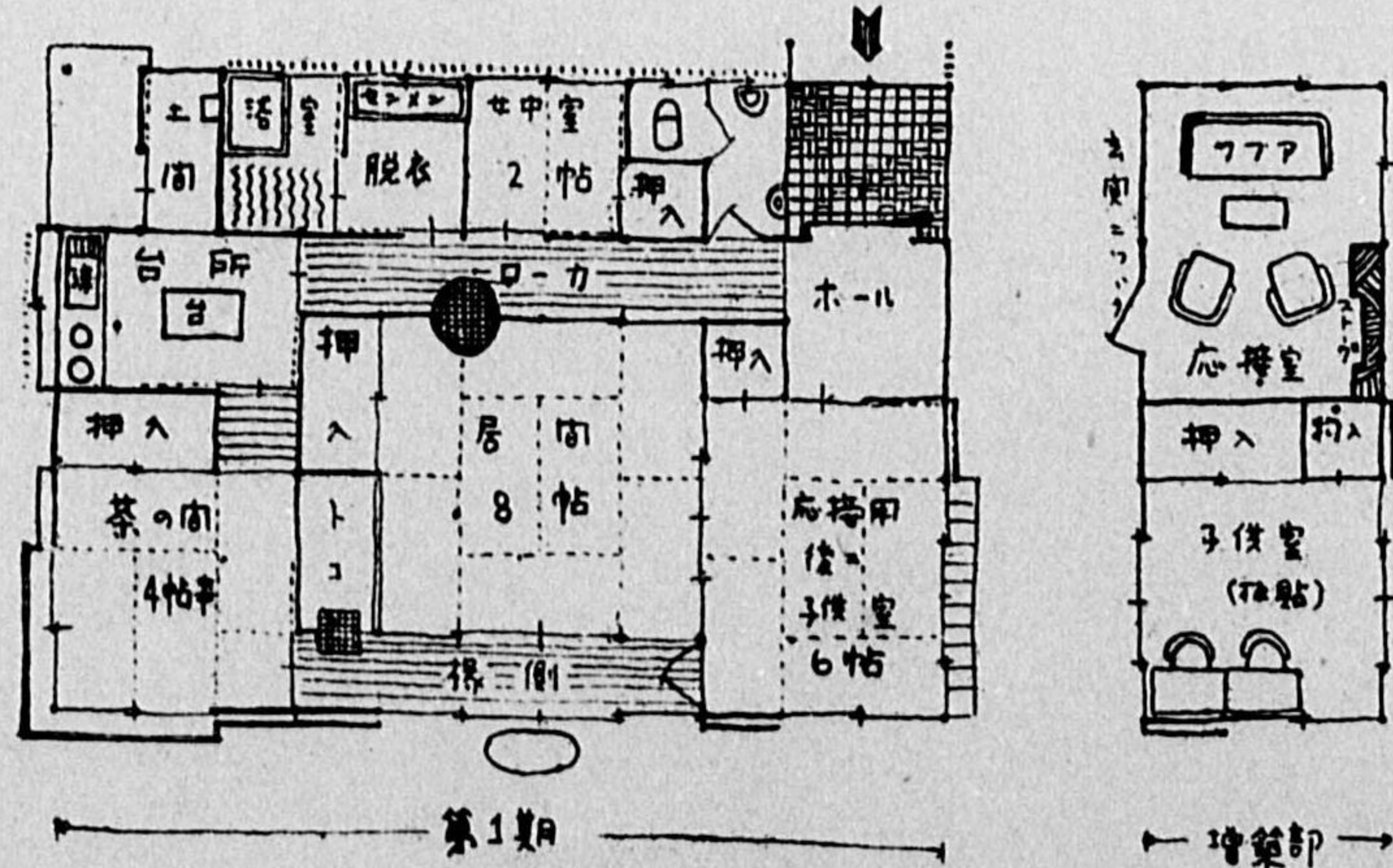
寢臺は北側に丁度寢臺車の様に二段とし、小窓と通風のガラス窓を設け、夏分でも涼しく休める様にしました。又野山や川遊び、土いぢりの後の爲にテレスの一隅に足洗場を設け、平常は壁泉代りの裝飾ともなり庭の打水、植木の給水等いろ／＼に使つて戴きます。





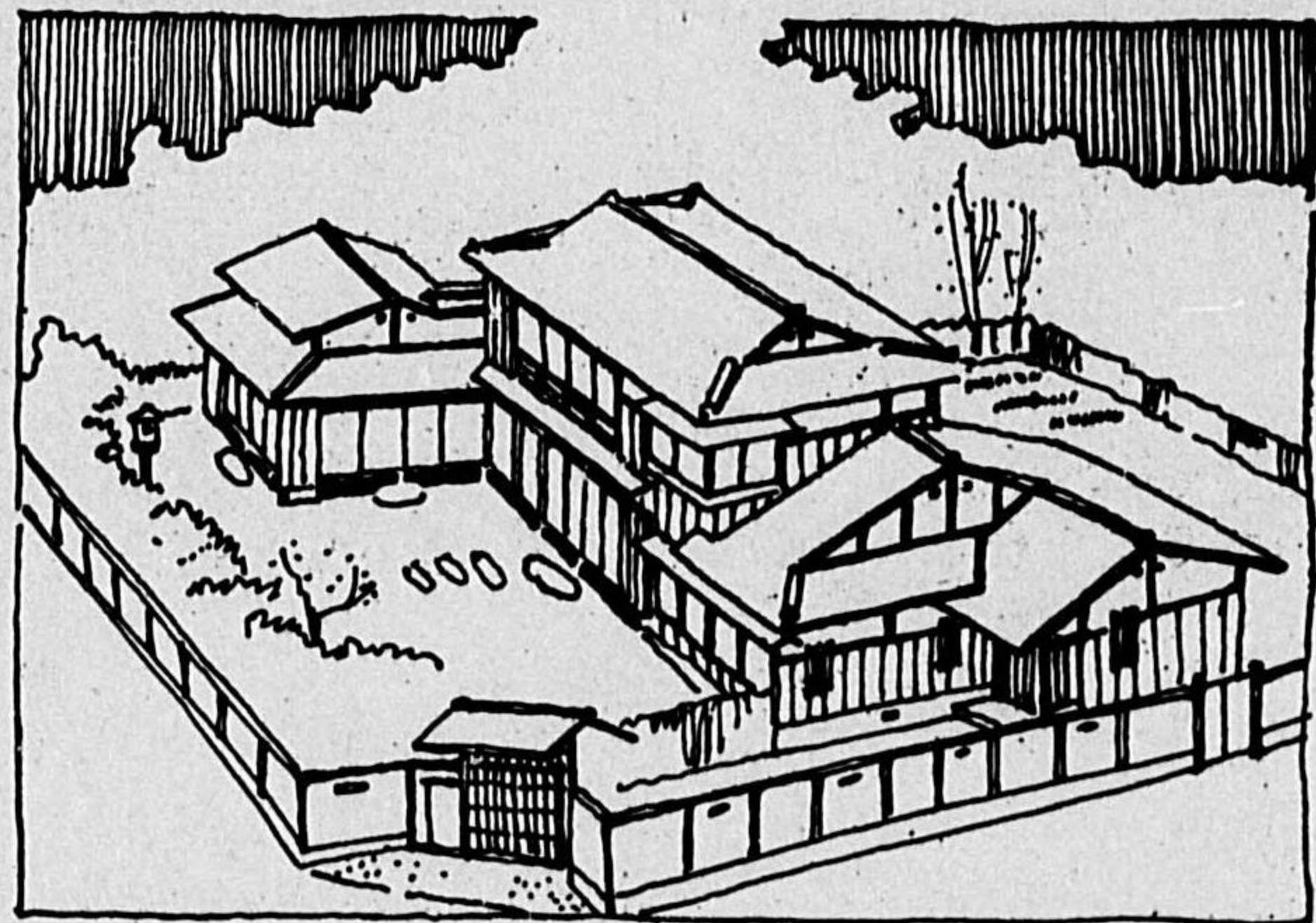
建坪 第一期 二十一坪五合  
増築後 二十七坪五合

生活の向上、膨脹に伴つて  
建増し得る謂はゞ人と共に成  
長する家を考へて見ました。  
最初は夫婦に女中、それに  
幼児程度のもを基準にして  
八帖の居間と四帖半の茶の間  
應接用として六帖、小住宅と  
して各室の融通性を増す爲に  
全部和室とします。後に増築  
に當つては洋風應接間と子供  
室を加へます。  
建物は外觀の簡單質素、増  
築の便宜、工費の節約等の爲に長方形で出入りの少い形に纏めました。



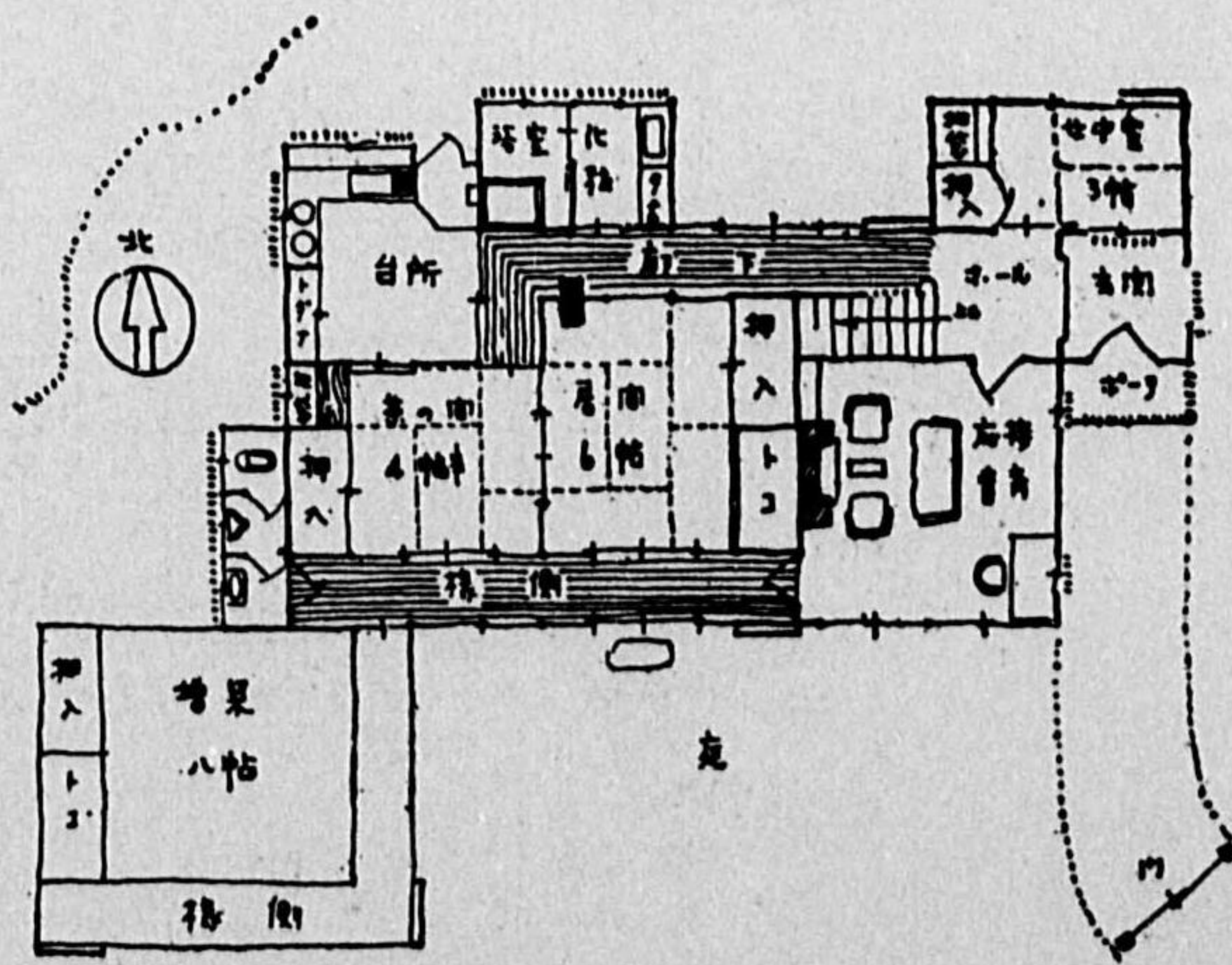
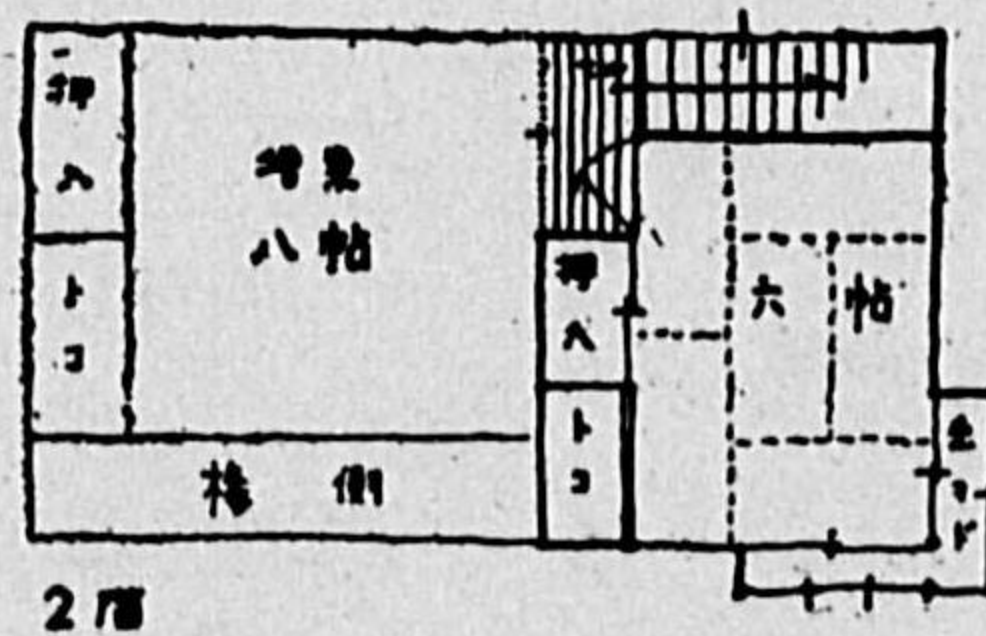
家 の 具 土

34 ..... 1  
34 ..... 2  
44 ..... 3

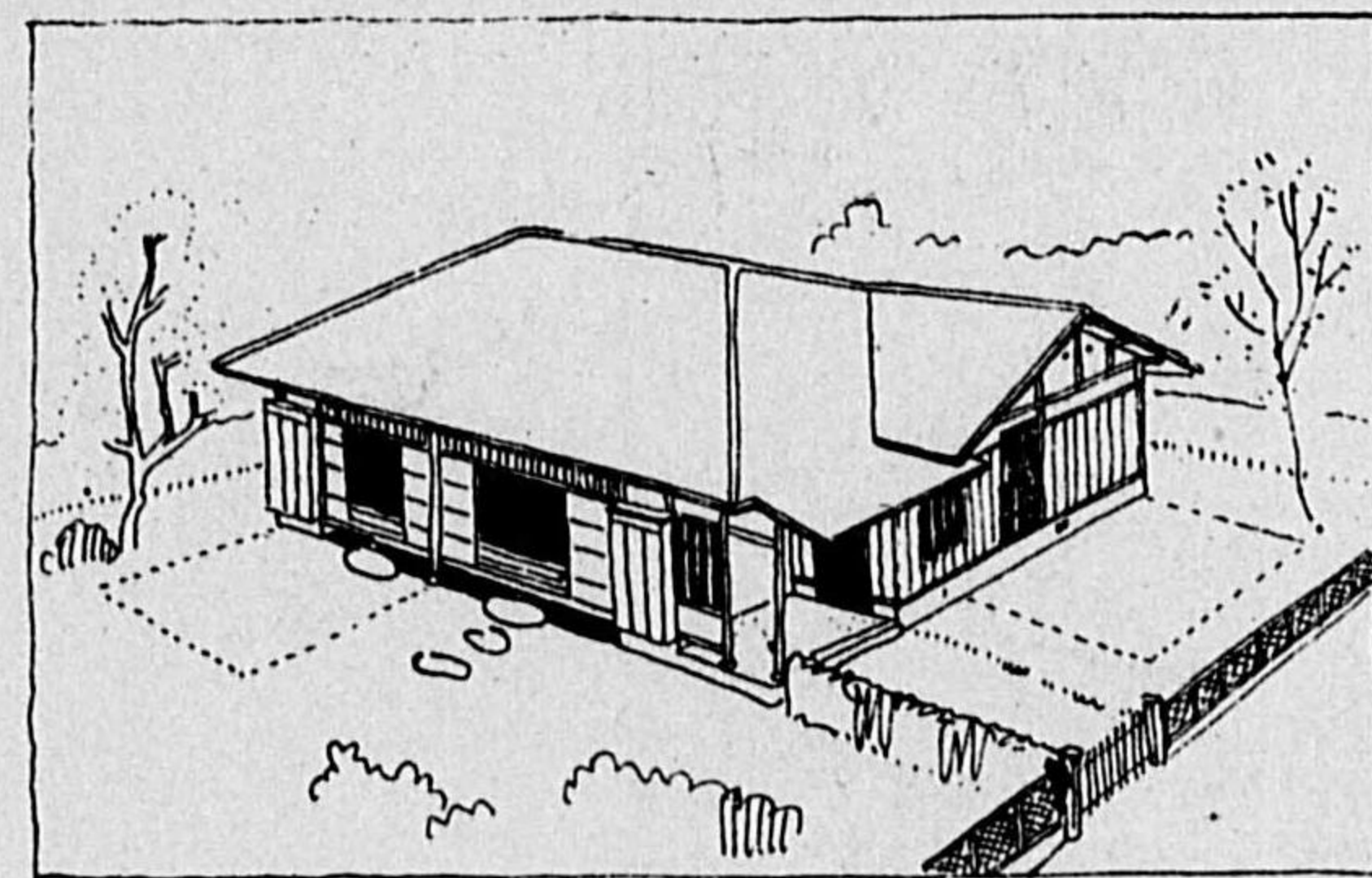


増築竣工後  
 延 二階 二十九坪  
 四十二坪七合五勺

現在木造建築物の制限に依りまして三十坪以上の住宅は許されませんが將來、此規則が緩和された曉建増しが出来得る様な案を——と云ふ讀者の御希望に依つて考へて見ました。假定の敷地は東南に道路があり北西には山林があると云ふ場所です。門は東南(巽)にとり家は南面して、八帖大の應接室と椽側に面して六帖と四帖半をとりました。茶の間と臺所の連絡も考へ、且つ鬼門も避ける様考へしました。便所は

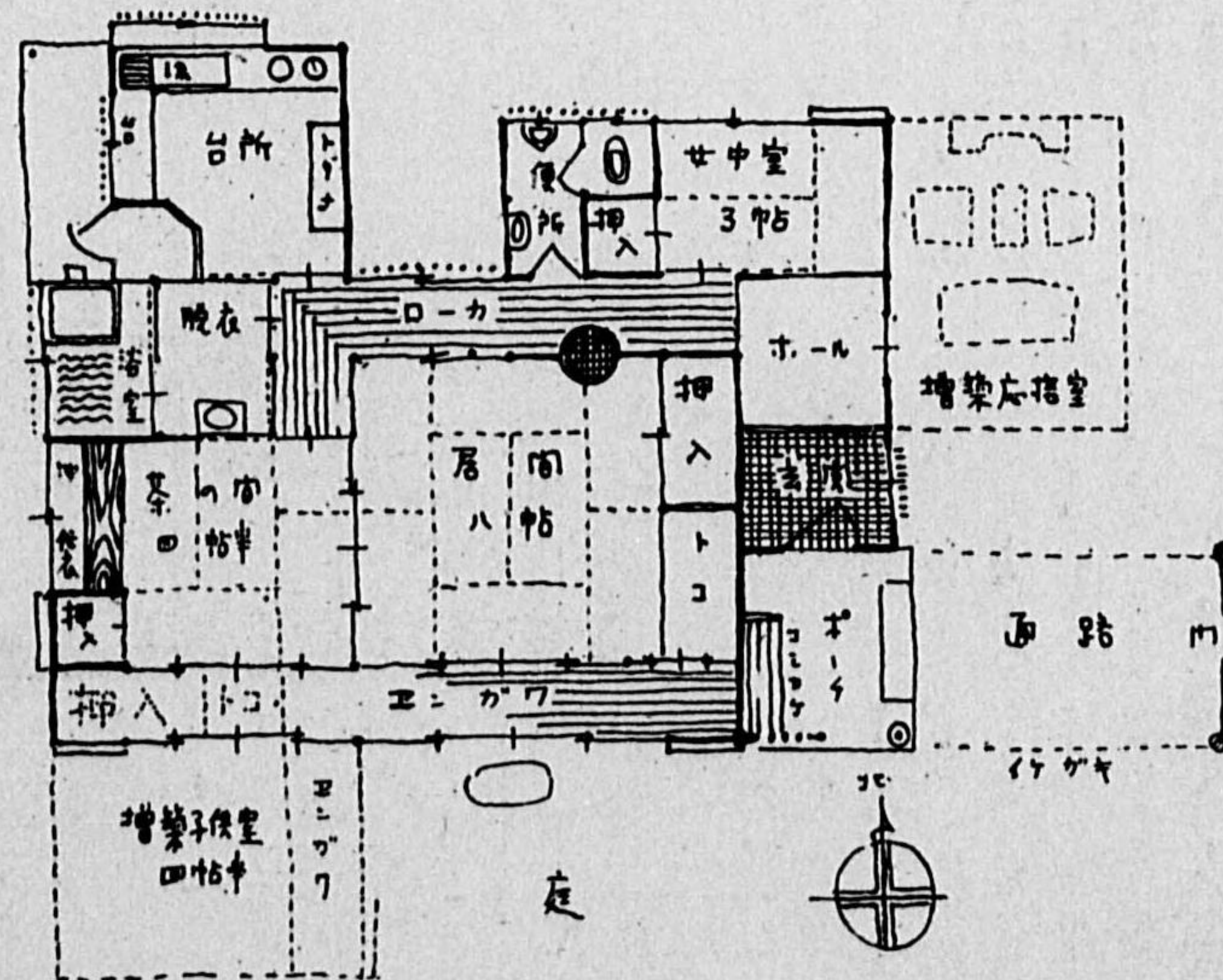


鬼門の方向にはありませんが増築後ではかゝらぬ位置です。又建増した場合此の位置が便利だと思ひます。二階から少々不便な點もありますがこれは建増す場合もう一箇所女中室の押入の西側へでも上便所を序に建増しされれば便利と思ひます。



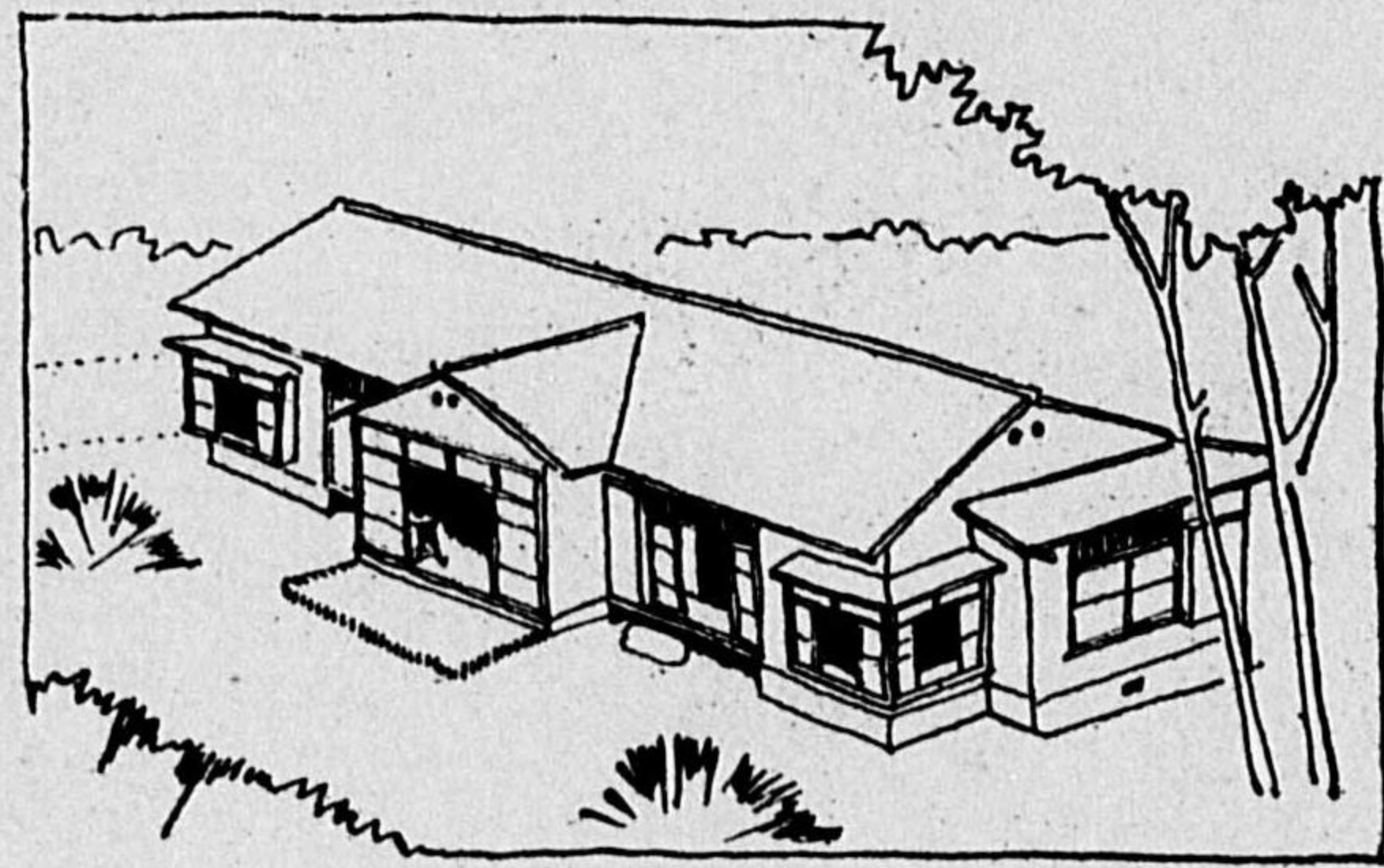
増築前  
 二十四坪六合  
 増築後  
 三十一坪二合

前同様東南に道路をもつ敷地で建増しの出来る小住宅、最初は夫婦に女中一人位の家族、後洋室の應接室(六帖大)を東に面して増築、更に南側に小供室を建増し致します。



二 家 族 住 宅

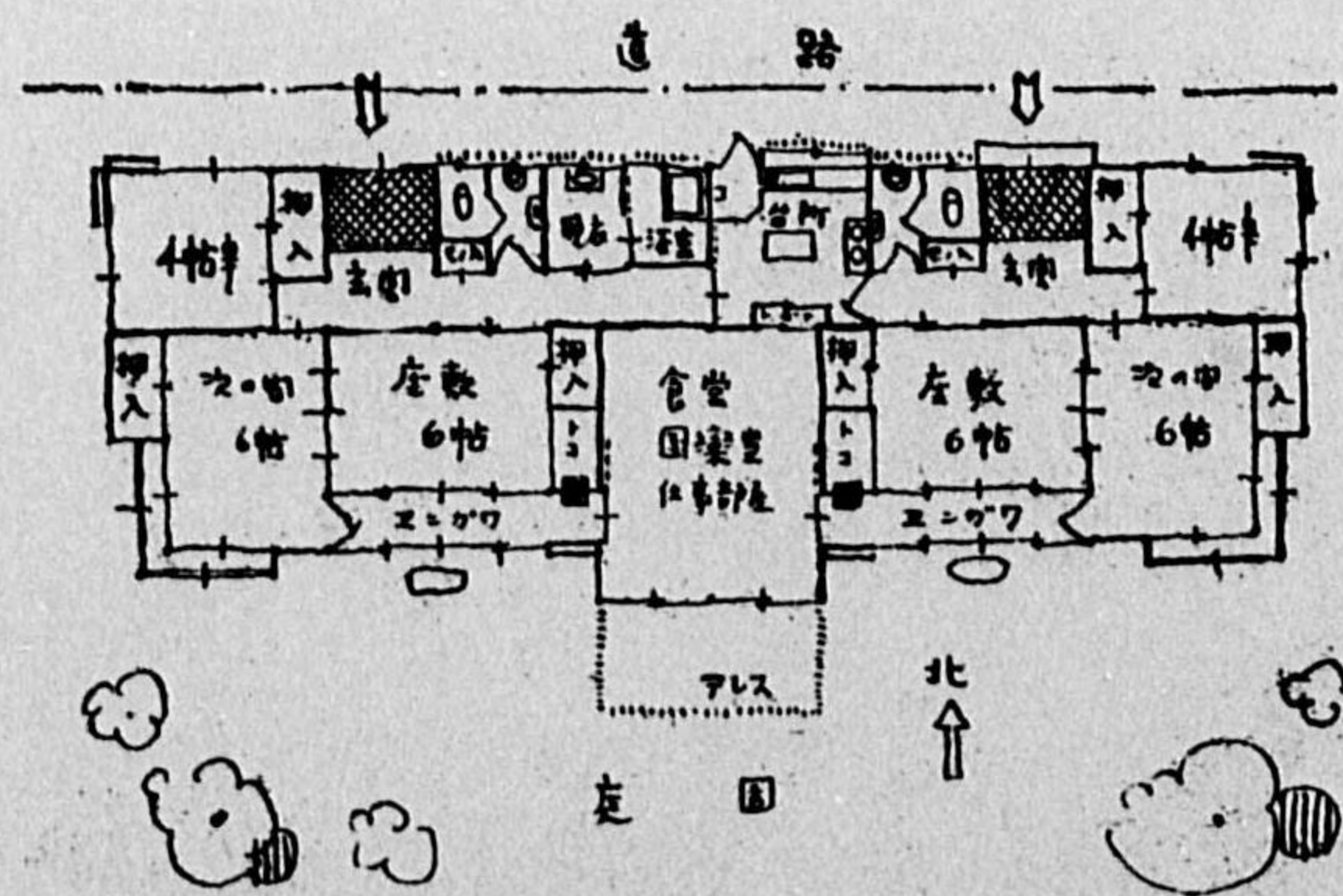
C



建坪 三十八坪五合

単なる二戸建とは一寸目先を變へて二家族住宅と云ふのを計畫して見ました。つまり兄弟とか親友とかぞう云つた極く親密な關係の二家族が一つの共同部分を持つた一つ家に棲み且各々獨立性のある部屋を併せ持つと云ふ案です。先づ浴室、臺所を共通のものとしませう。これは近頃隣組等で時々試みられる共同炊事を實踐するもので之に依つて建坪、時間其他諸々の冗費を節約する目的です。それから十帖大の洋室を共有し、團樂食事、仕事等の部屋に當てます。差しづめミシン等でも一つで済むと云ふ譯です。獨立の部屋は平面圖の通り六帖二つと四帖半持ちます。どなたかこう云つた新體制の家を試みられる方は御座いませんか？二家族棲む家ならば三十九坪迄は許可される事になつて居ます。

— 二家族住宅 —

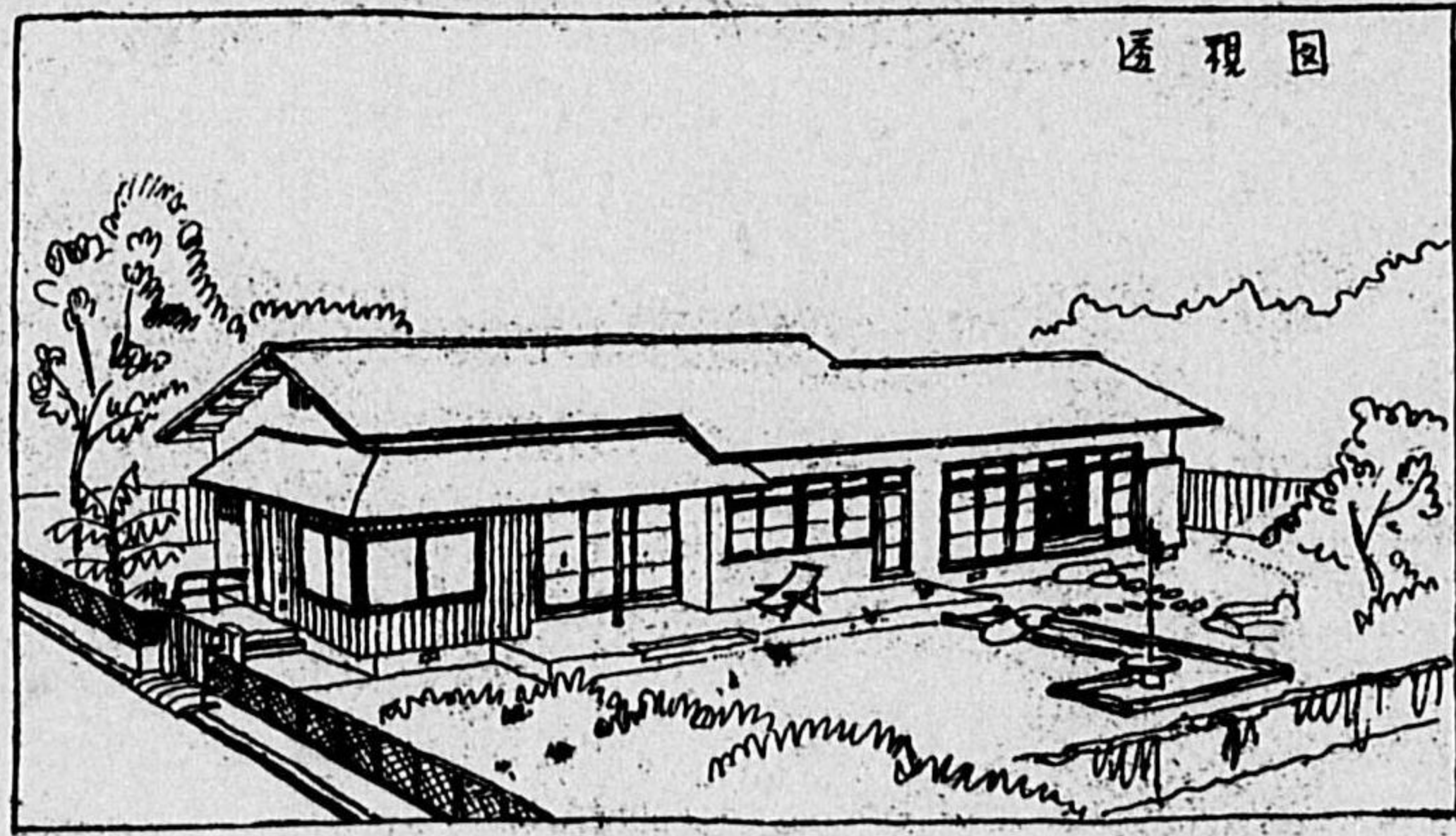


二 家 族 宅 建 坪

新 時 代 の 住 宅

1. .... 46

2. .... 47

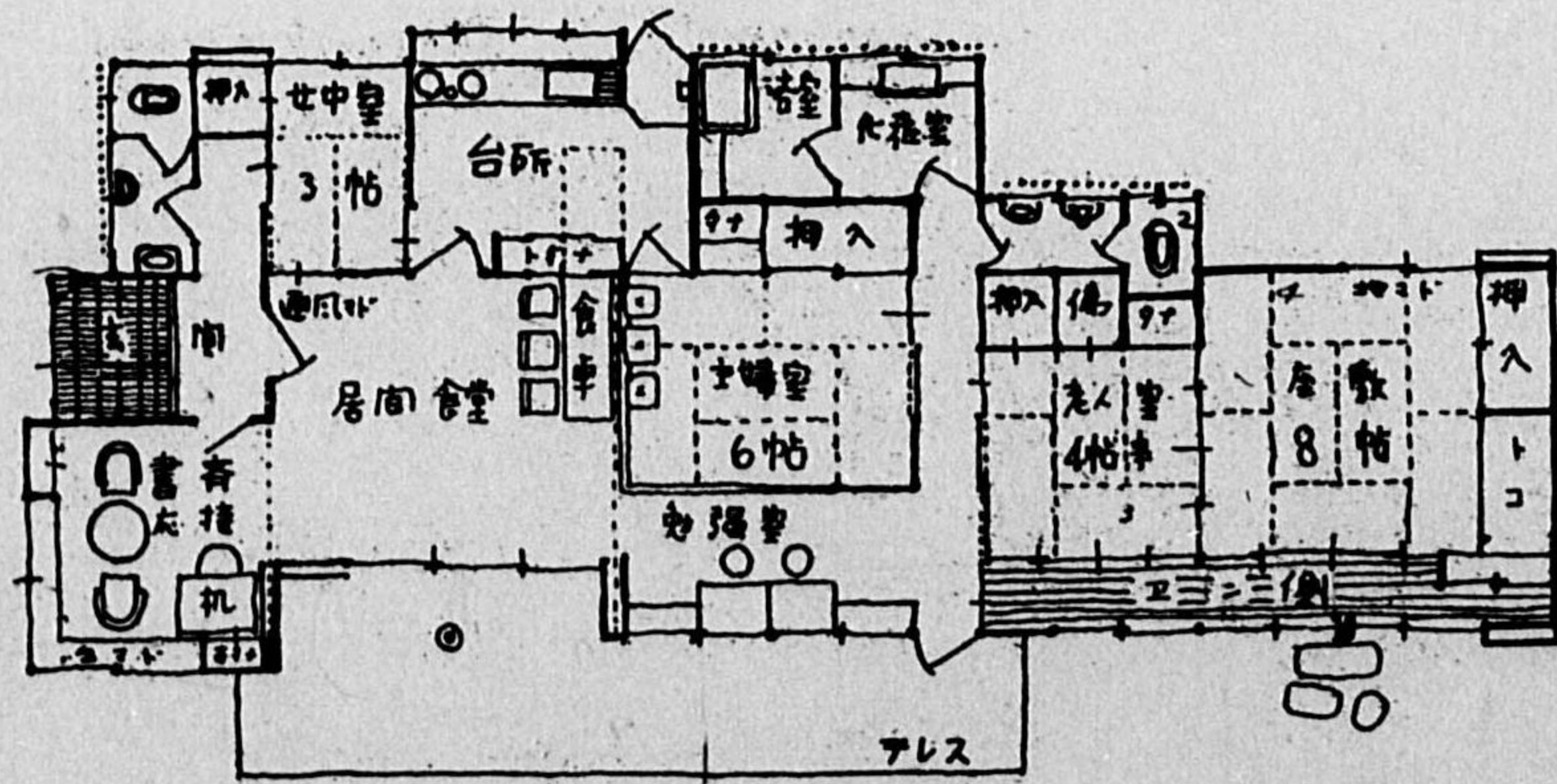


透視図

時代に即した新しい生活の爲の小住宅。外觀は質實に、瓦葺の切妻屋根と色モルタルの外壁、間取は日本の風土と習慣を考へ開放的に取扱ひ間仕切戸は總て引込み式とし開放すれば書齋居間主婦室子供室が一室となり、主婦は居乍らにして子供の勉強、臺所の女中を監督し乍ら、一方主人來客老人等の奉仕に便利な位置としました。主婦室は夜子供の寢室として用ひます。食卓は車付とし引出せば食卓臺所に押込めば點線の様に臺所の調理、配膳臺となり、食卓としては座敷からと洋式の椅子とから使用出来る様にしました。

建坪 三十四坪七合五勺

—新時代の住宅—



宇 井 の 介 初 稿

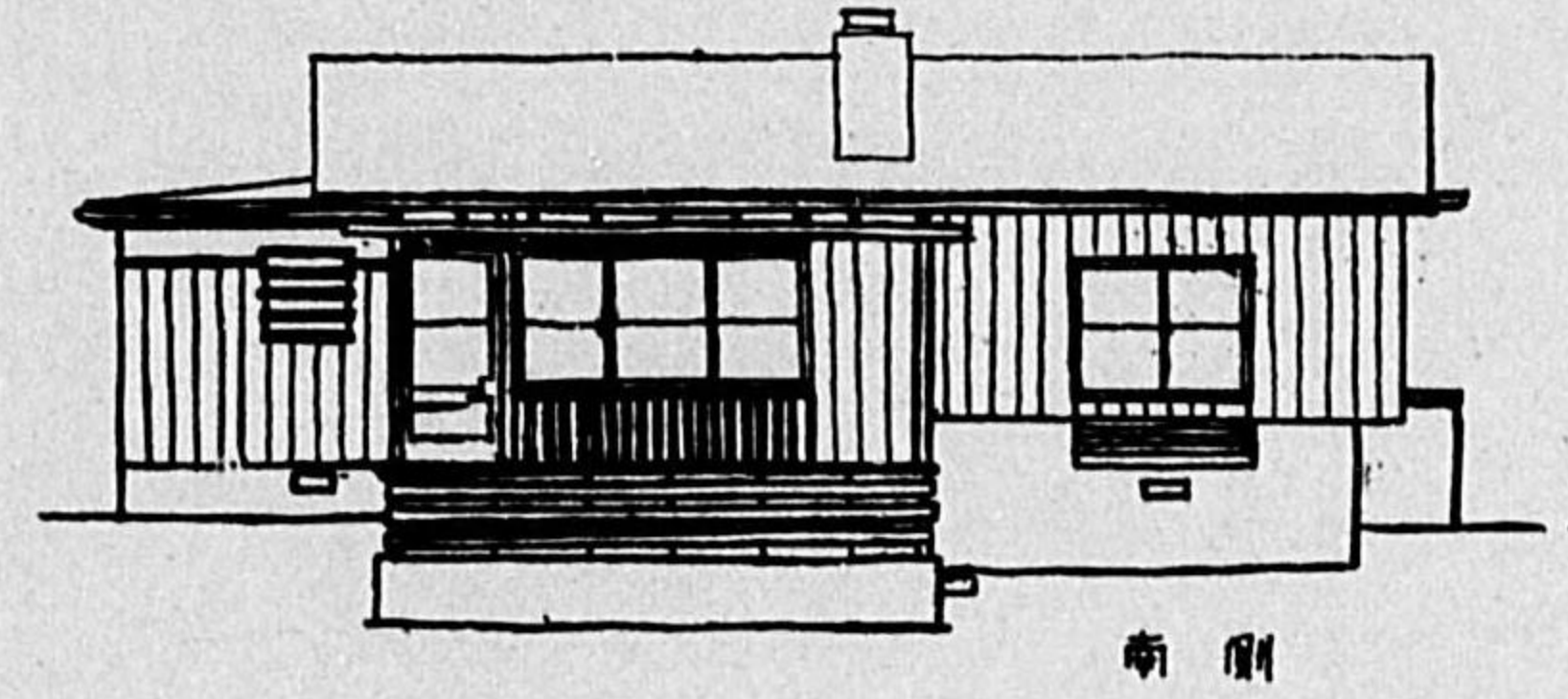
04 ..... 1

74 ..... 2

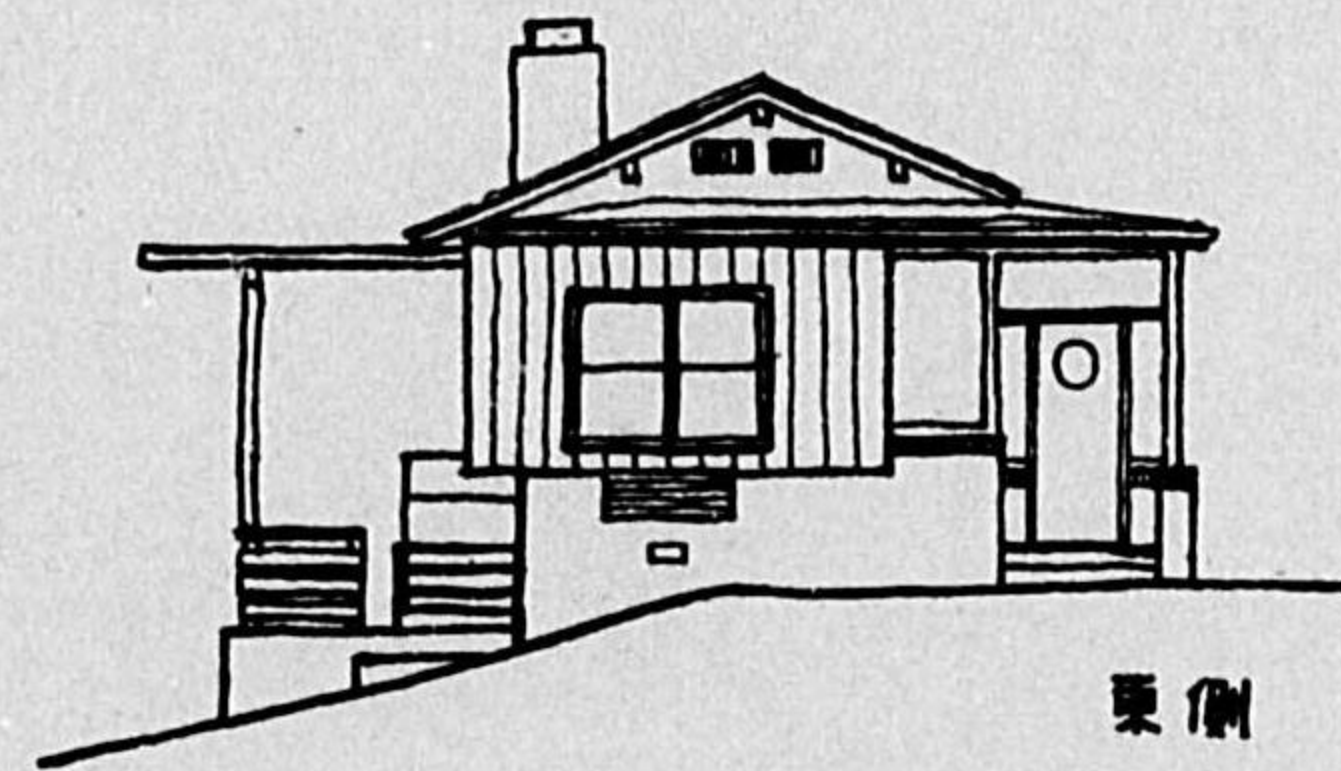


# 週末住宅

1. 水邊の家	
1. ....	48
2. ....	49
3. ....	50
2. 林間の家	
1. ....	51
2. ....	52
3. 海邊の家	
1. ....	53
2. ....	54



南側



東側

—新しく家庭を持たれる方々に—

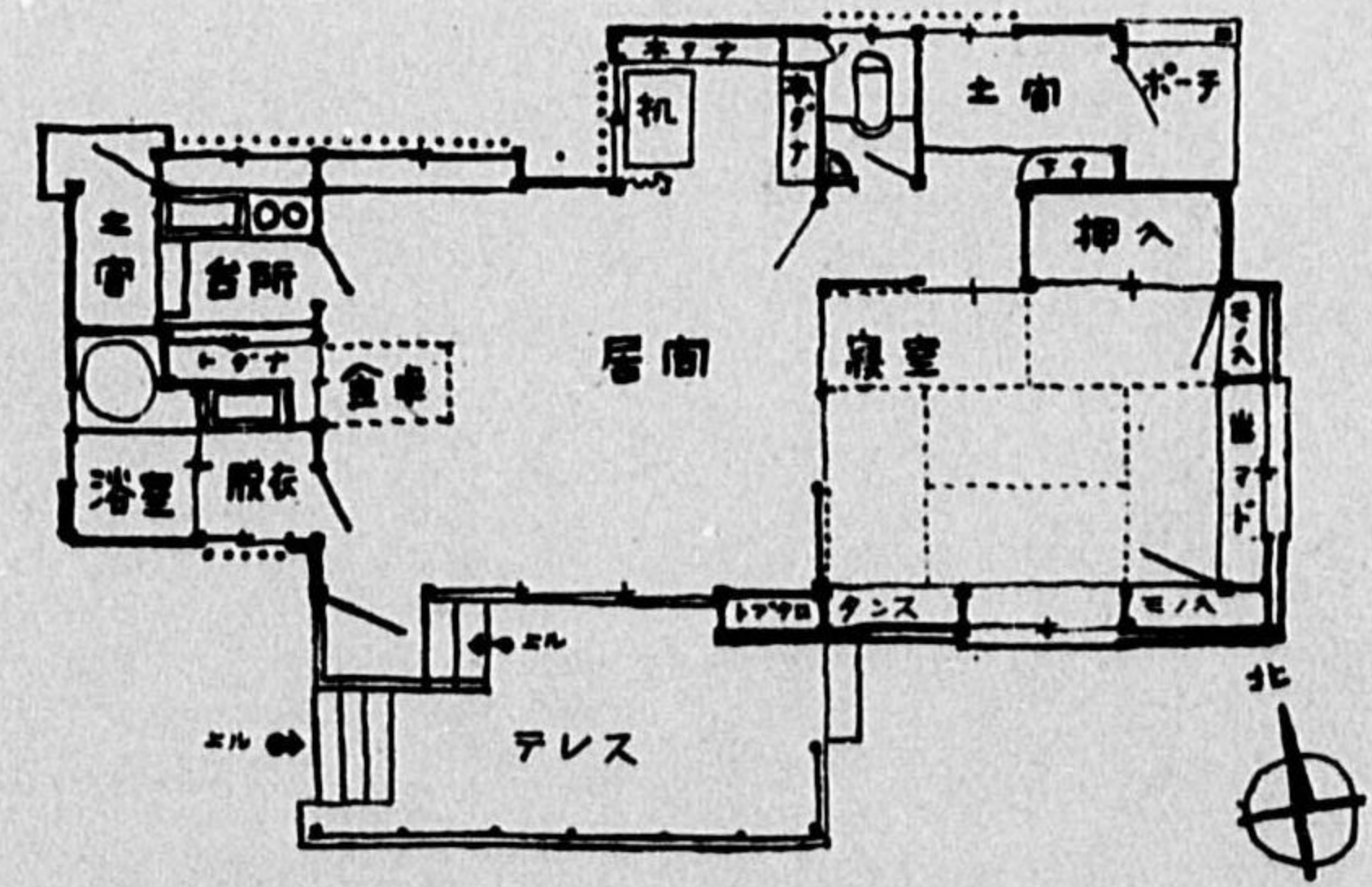
K氏のお住居を紹介します。

阪急沿線の或る丘の斜面に建つ楽しいさゝやかな御住居で御主人は建築家、御自分の設計です。

坪数は十四坪許り、新しく家庭を持たれる新婚の方々の爲に相應しい間取りと思ひます。東南に面して六帖の寢室、これは二方が出窓となり、窓面にはダンス置場、洋服入れ等が取られ

一方の押入れと相俟つて小さい部屋を順序よく整理に便されて居ります。

南面して居間兼食堂の六帖大の洋間、一隅には書齋としての一坪足らずの入込み、食卓は疊込みとして平時は壁パネルとなり、倒せば臺所との間のハッチ窓が開かれる仕組みになつて居ります。と云つた風に狭い面積を有効に使ふべくいろいろの行き届いた注意が拂はれて居ります。



水 邊 の 家

宇 井 末 園

家 の 数 水 1

84 ..... 1

94 ..... 2

90 ..... 3

家 の 数 林 2

18 ..... 1

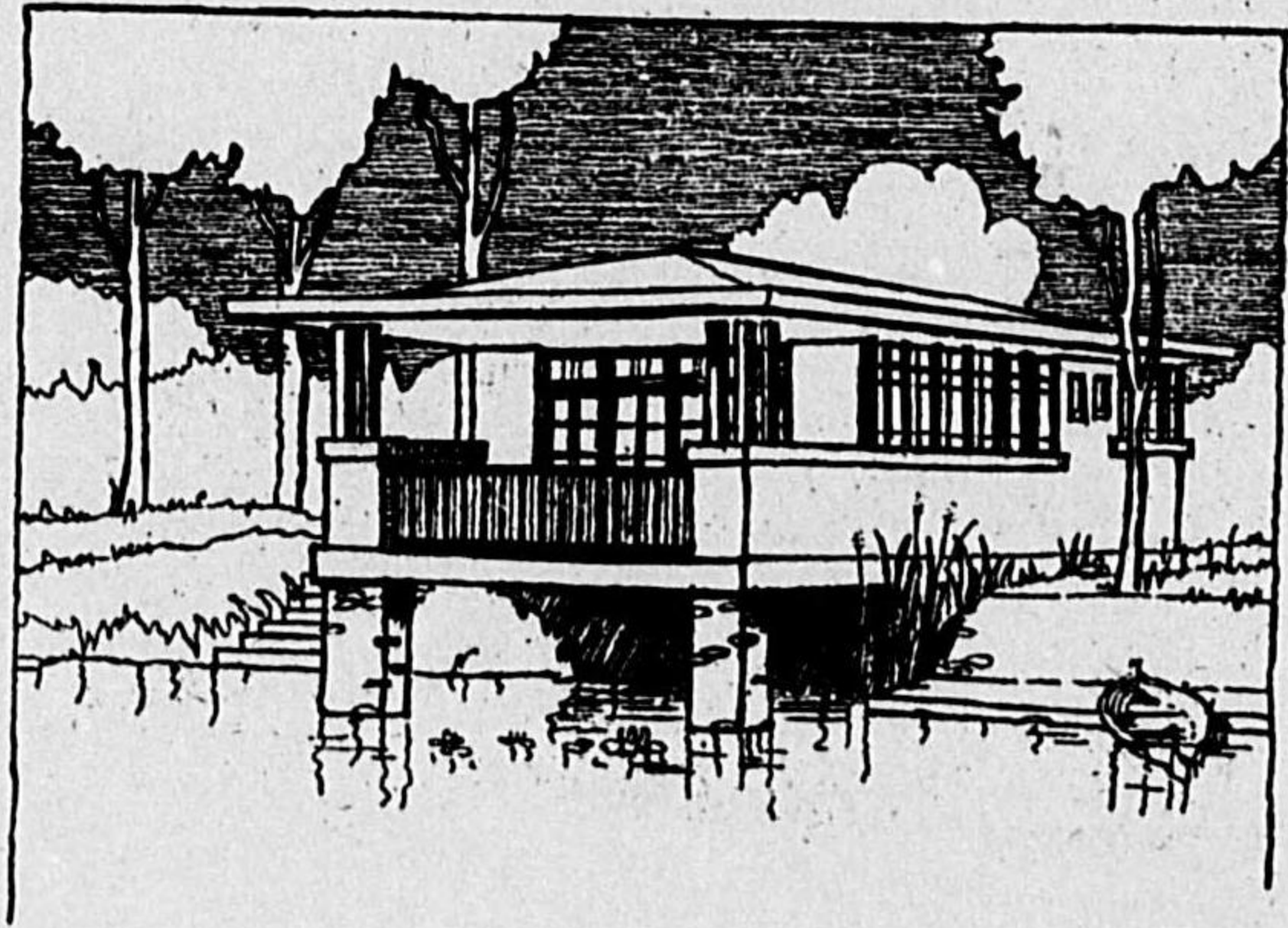
25 ..... 2

家 の 数 新 3

22 ..... 1

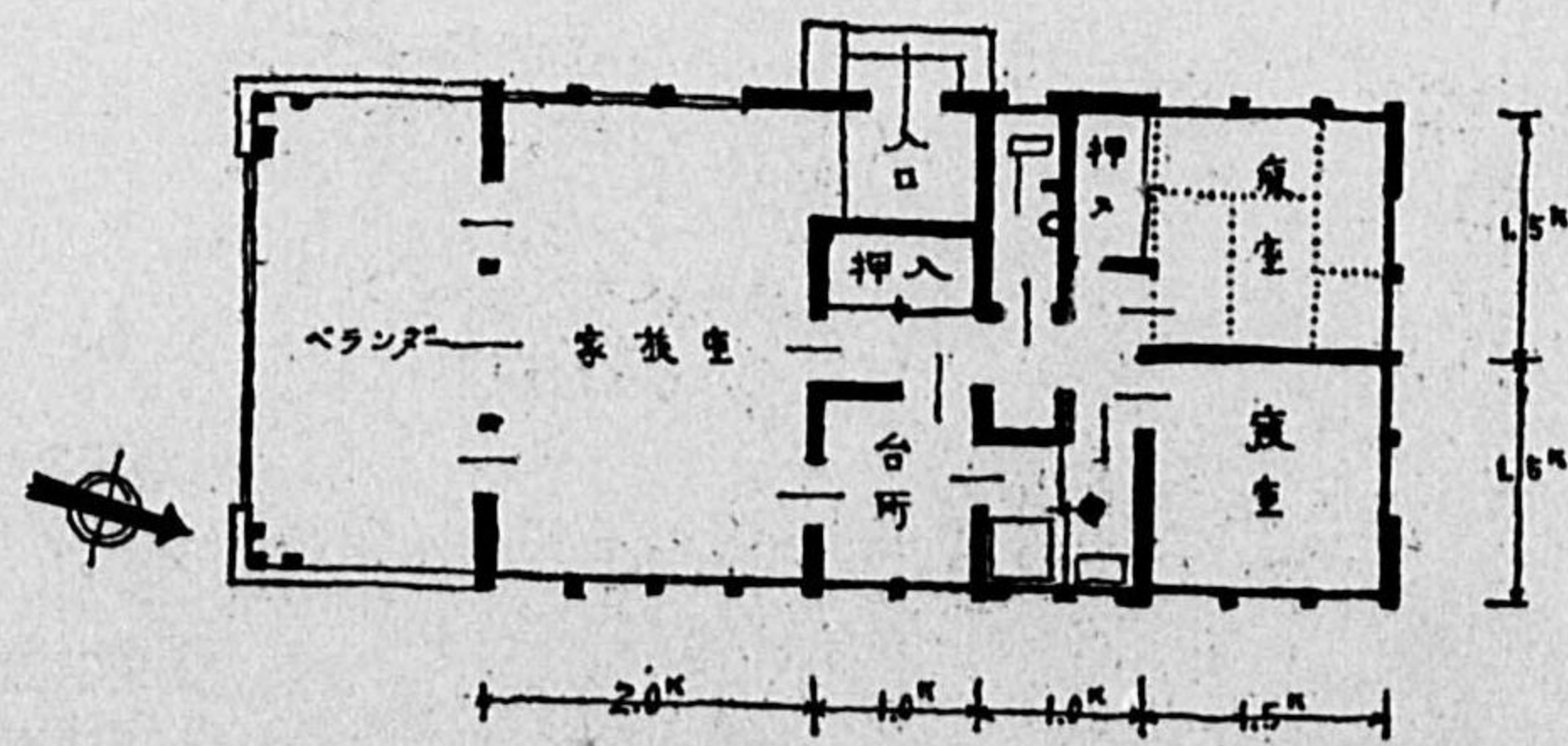
24 ..... 2

水 邊 の 家

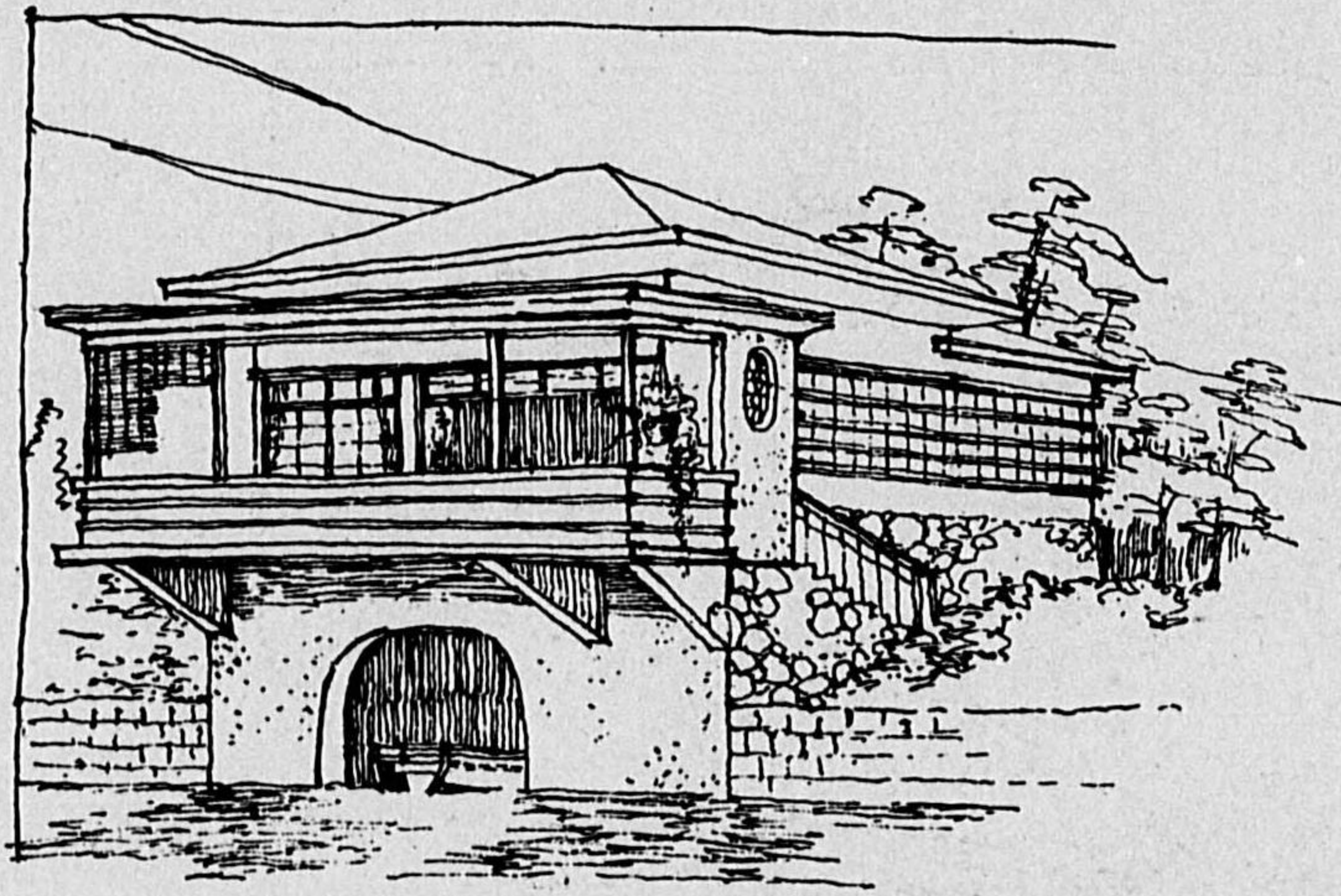


湖水に望むサンマーハウス

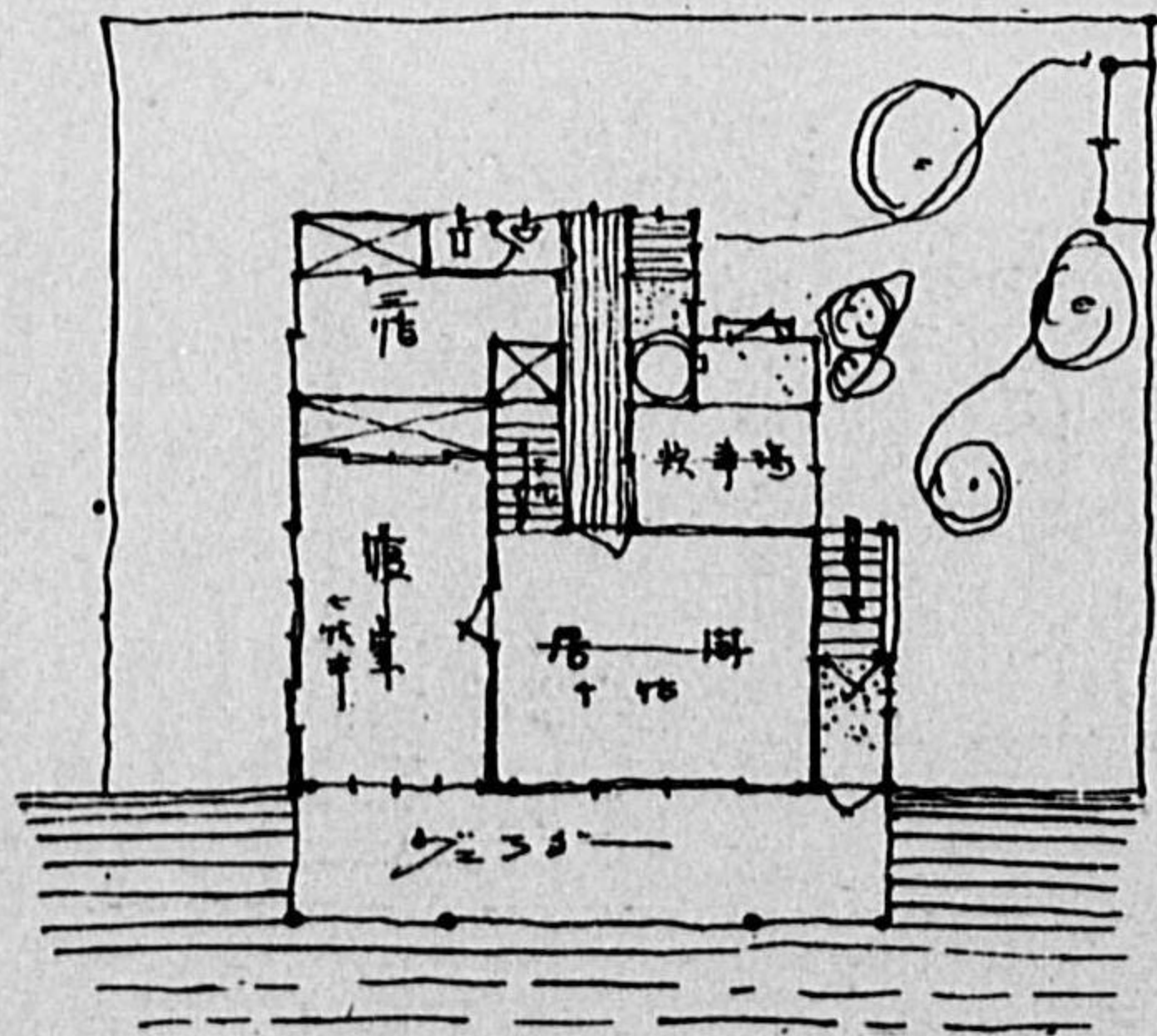
家族室とベランダがこの家の中心をなし、光線と軟風と風景を思ふまゝに取り入れることが出来、食事も夕涼みも大抵このベランダでするやうにします。  
 屋根はスレート葺、外壁は漆喰塗にし大體の家の形はライト式を加味します。



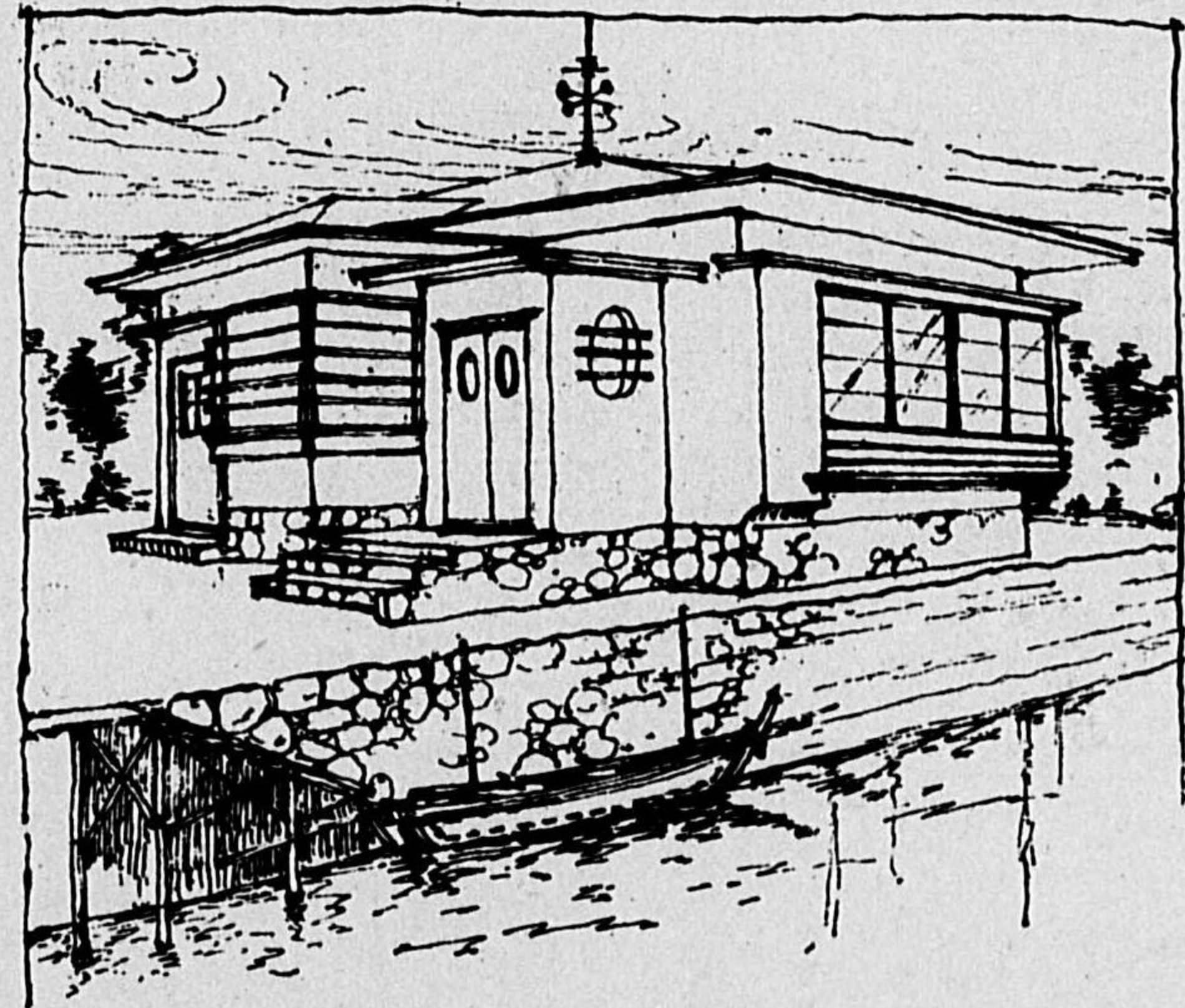
建築面積 一六・五坪  
 家族 四、五人位



夏になると山と水が戀しくなります。  
 近來小別荘キヤンパスバンカロー或はサンデーハウス、シーハウスとかいふものが愈々多く建てられます。それは大ていは電鐵會社、土地會社、又は組合とか、經營してゐるもので、餘りに簡單すぎる様に思はれます。尤も之れ等のものは性質として簡素を尊ぶのが本來ではあります。尤も之れ等を通させるには適して居ないものが多い様です。  
 ここには水邊に建つ其等に類したものを暫くして見ました。  
 敷地は五、六十坪で、建坪は十八坪、材料は尤も簡單な杉材と松材位、場合に依れば丸木の様なものでも宜いと思ひます。  
 傾斜の様な場所地下に艇庫を持つては更に良いと思ひます。費用は大分高くなりますがボート又は釣舟を繋いで置きます。  
 一階の居間とウエランダが娛樂室であります。三帖は兼備室で老人とか女中室に當ても良いと思ひます。總て室内裝飾などは簡素なもの、要するに一夏を自然に親しむ事にしたと思ひます。



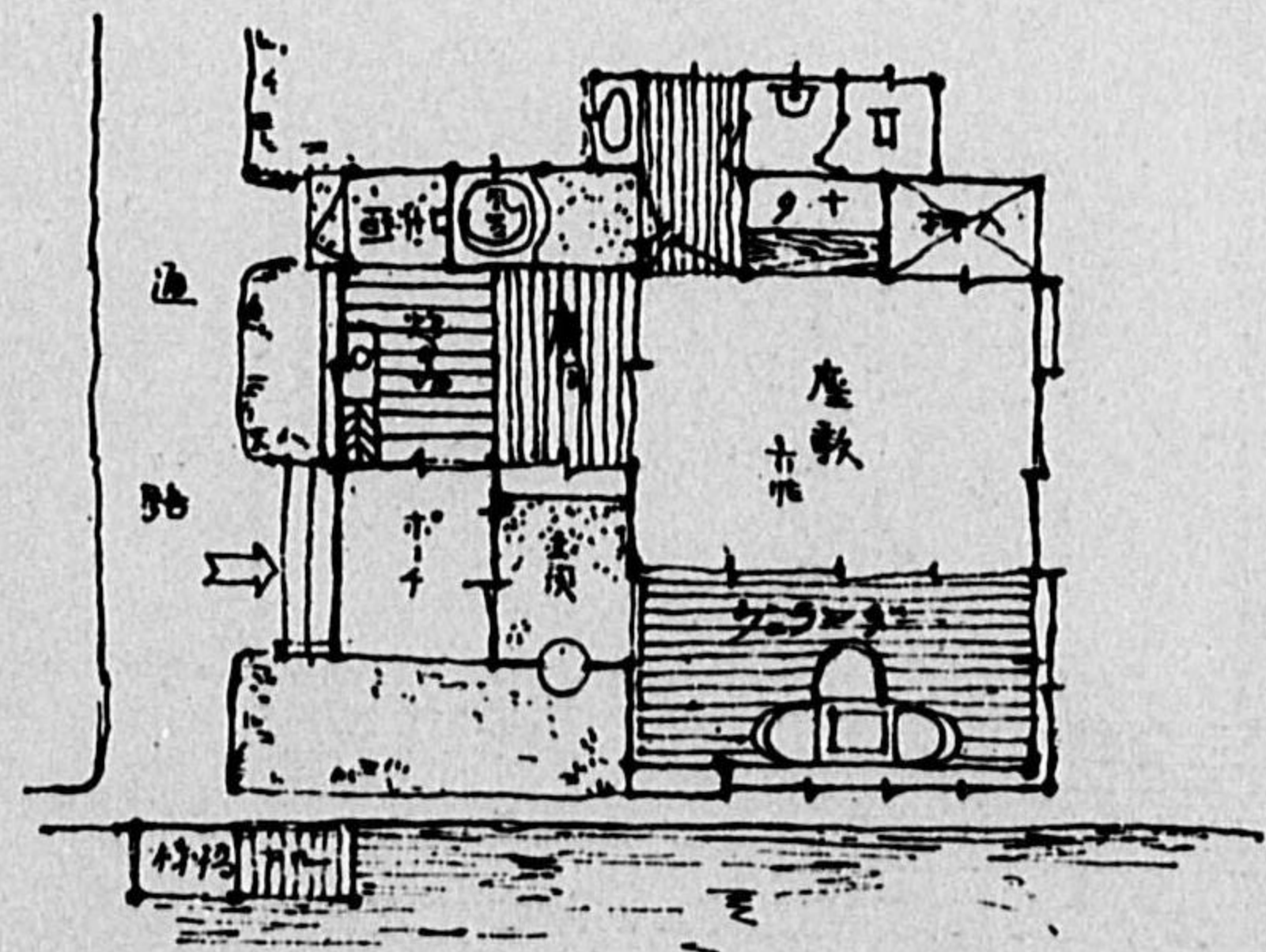
小供の爲の水邊に建つ小別荘



週末...釣りの家

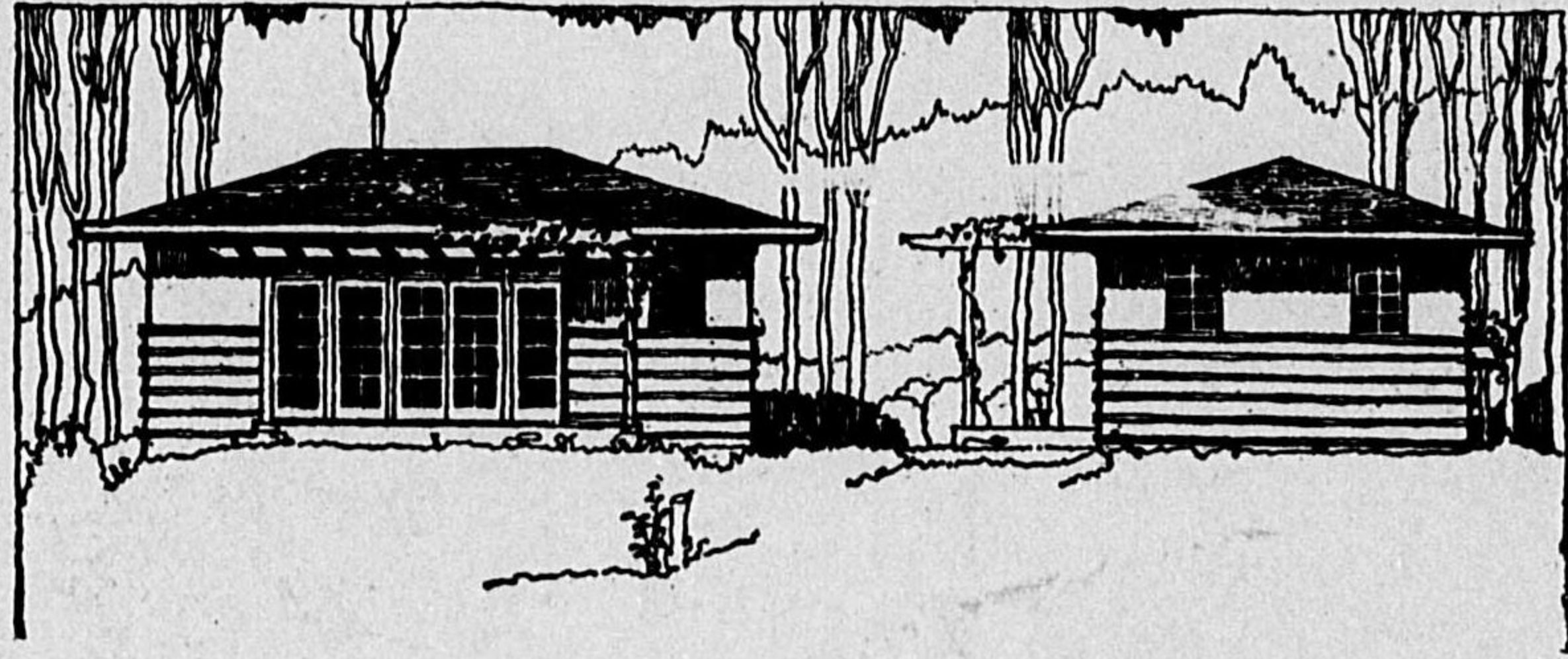
一、敷地 三十坪位  
 一、建坪 十坪

魚釣の好シーズンになりました。釣りの好きな方が一家打揃ふて、都會から程遠くない二時間位で行ける海岸、湖邊、或は河に近い場所に一週間の勞苦を洗ひ落すために、一泊位の豫定で出かけることのできるかうした家を建て、見るのも趣味深いものです。潮時を見て釣りに出て行く、飯れば液潤たる銀鱈紅鰯が家族の夕餉の食卓を賑はせる。ほんとうに釣りの好きな人には不愉快な宿屋に泊る世話もなく、泳い期間から見ればかへつて經濟的で、一家打ち揃ふての行樂でありますから、擧げることの出来ない利益が窺はれることと思はれます。その上、夏になれば避暑、海邊なら海水浴が出来ますし、その他趣向を考へれば利用價値は充分であります。  
 敷地も廣い場所を要せず、建物も極く簡素なもので結構です。



林 間 の 家

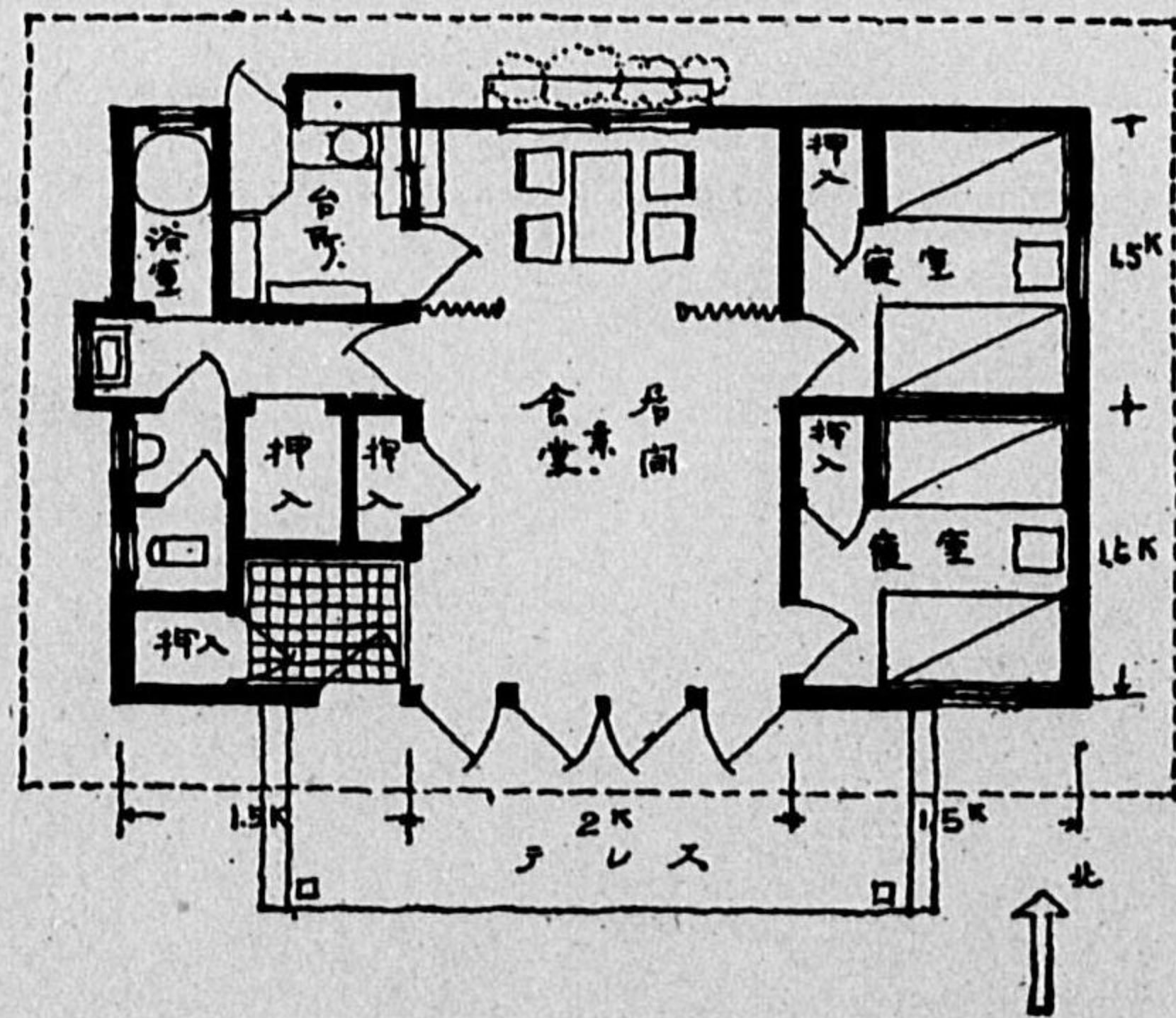
林 間 の 家



三間に五間の短形プランで恰度十五坪になる様にサンマーハウスといふても一年中生活の出来る様に小住宅のつもりでやりましたから小人数のモダン人の住宅にもなります。外部仕上は、腰下見板張り上は漆喰塗。屋根はスレート葺とします。

建坪 一五坪  
家族 四、五人まで

— 林間のサンマーハウス —



家の邊の海

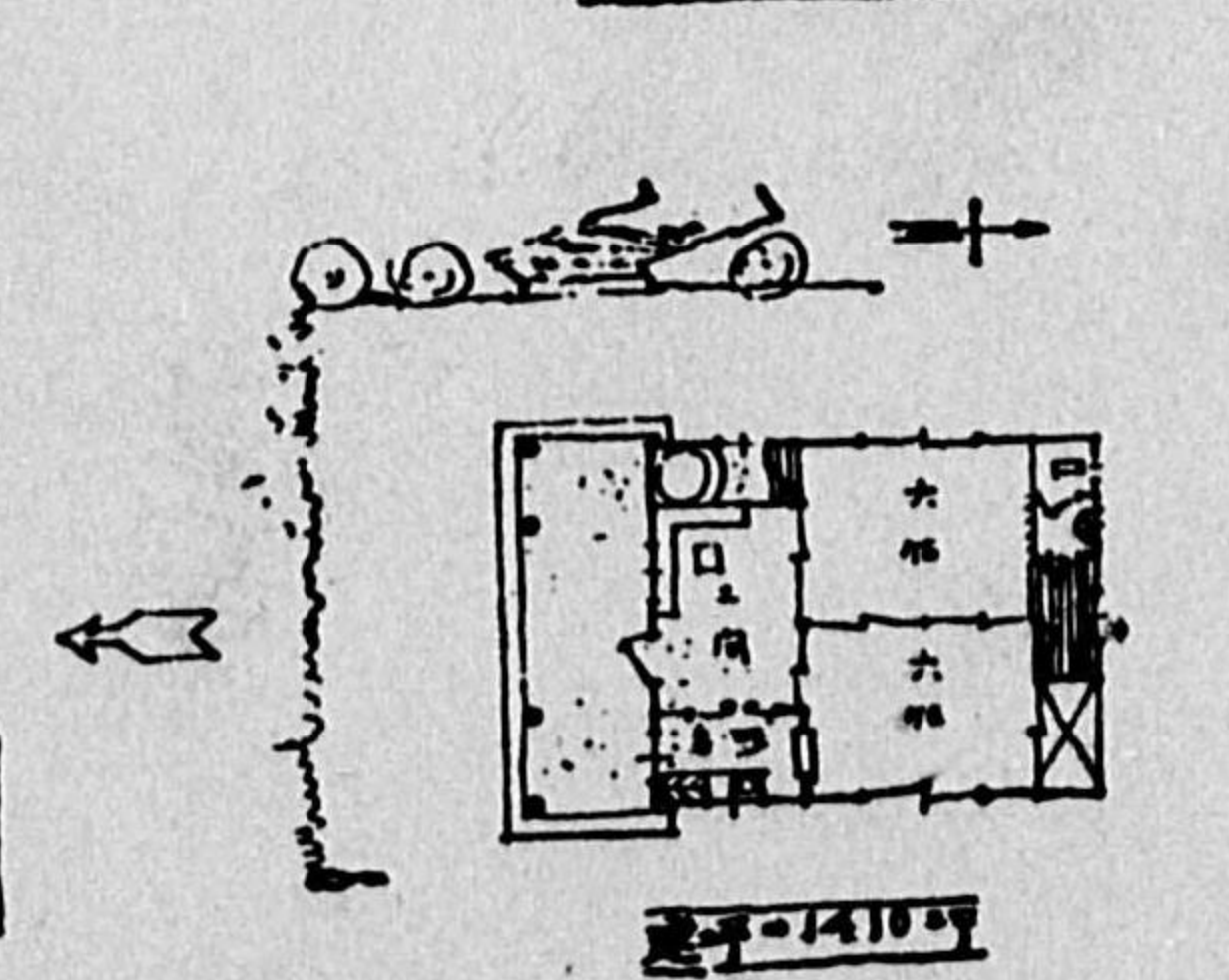
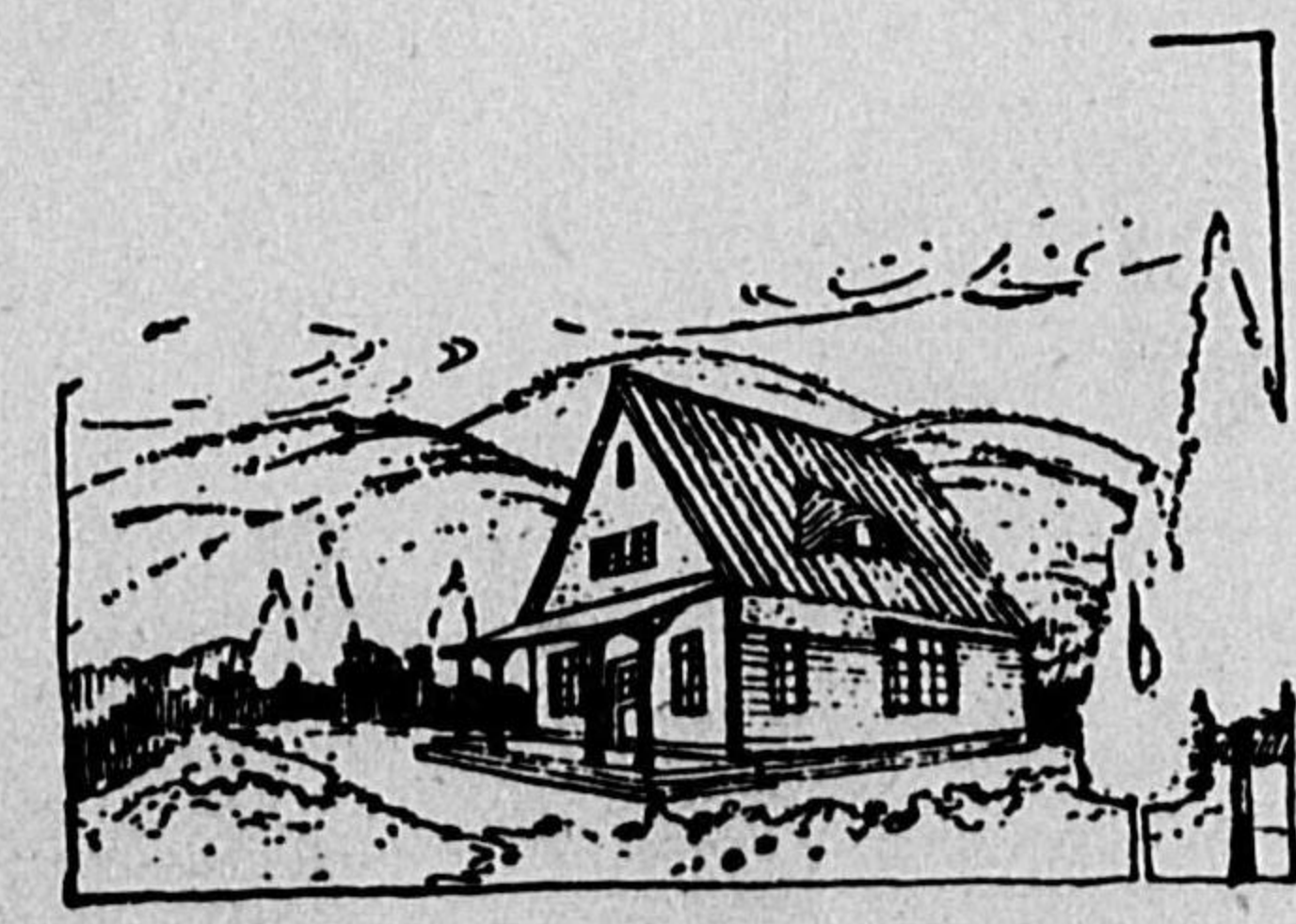
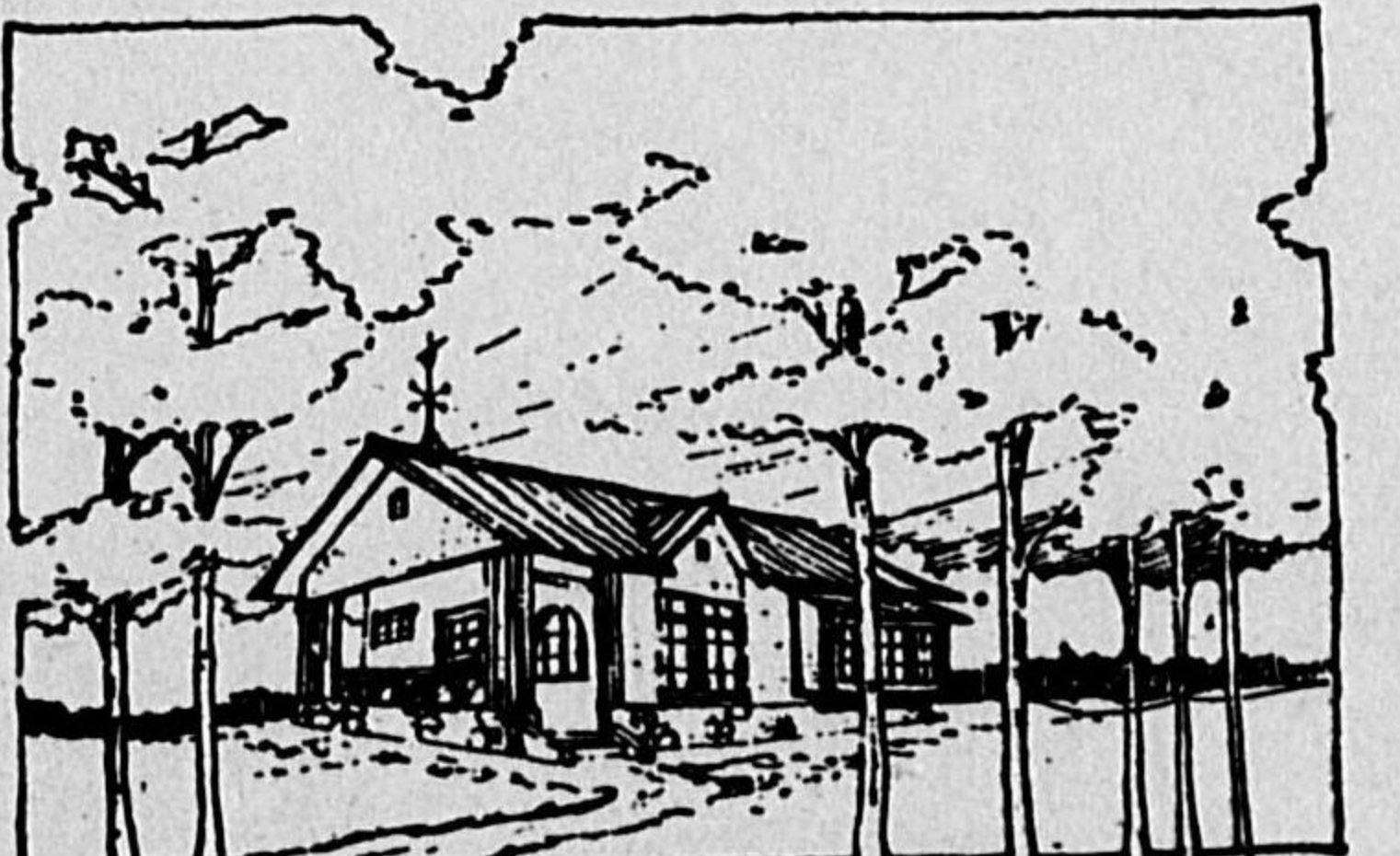
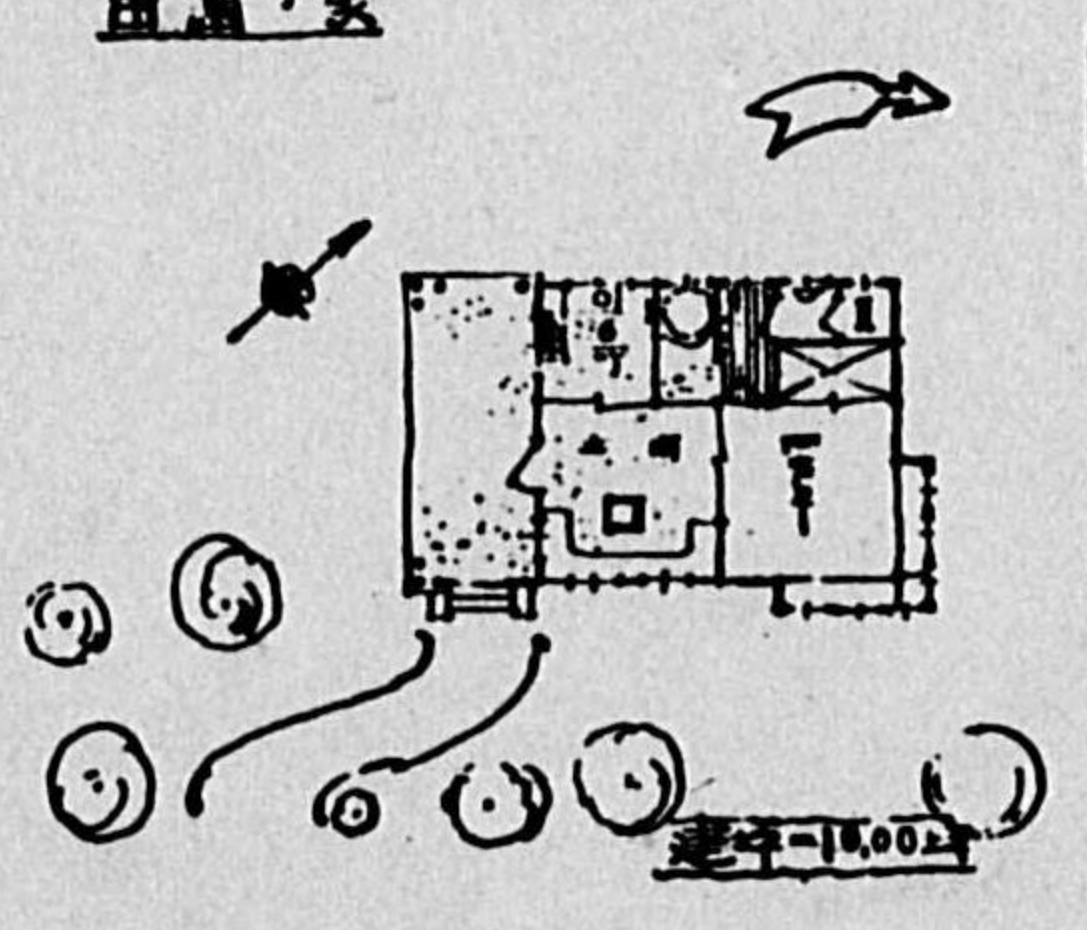
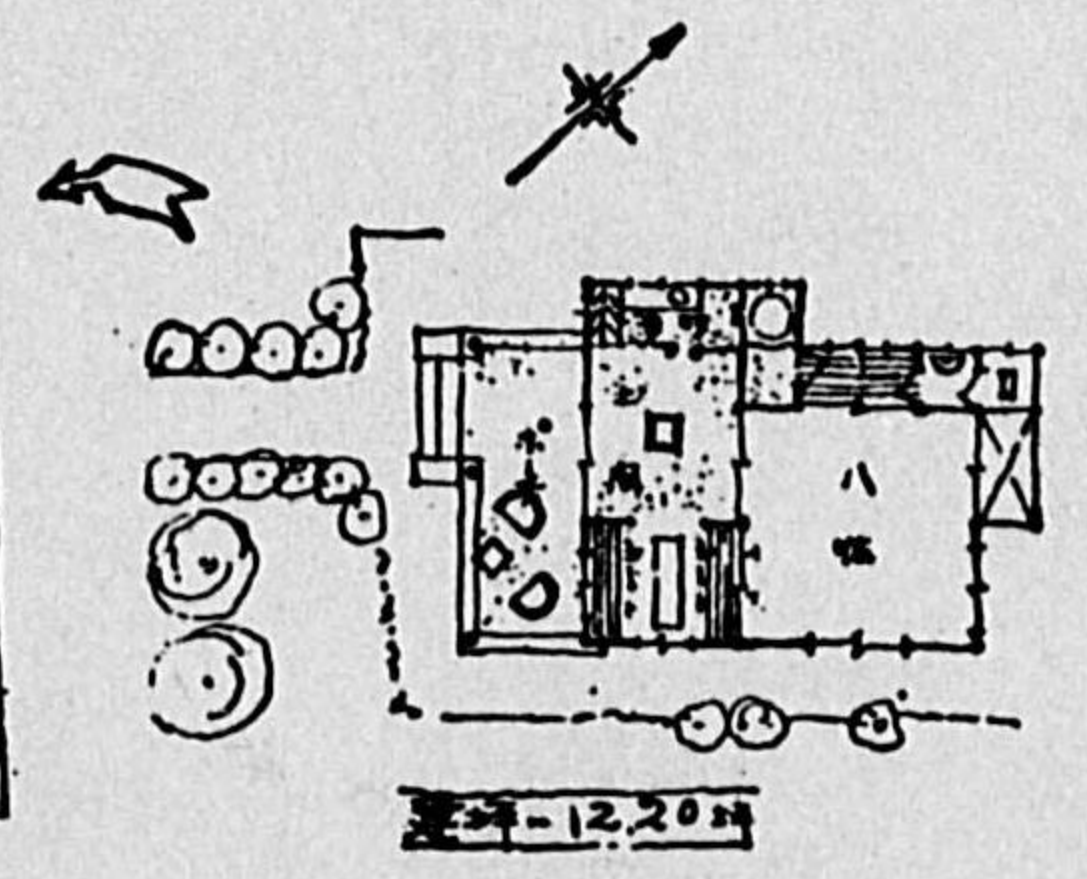
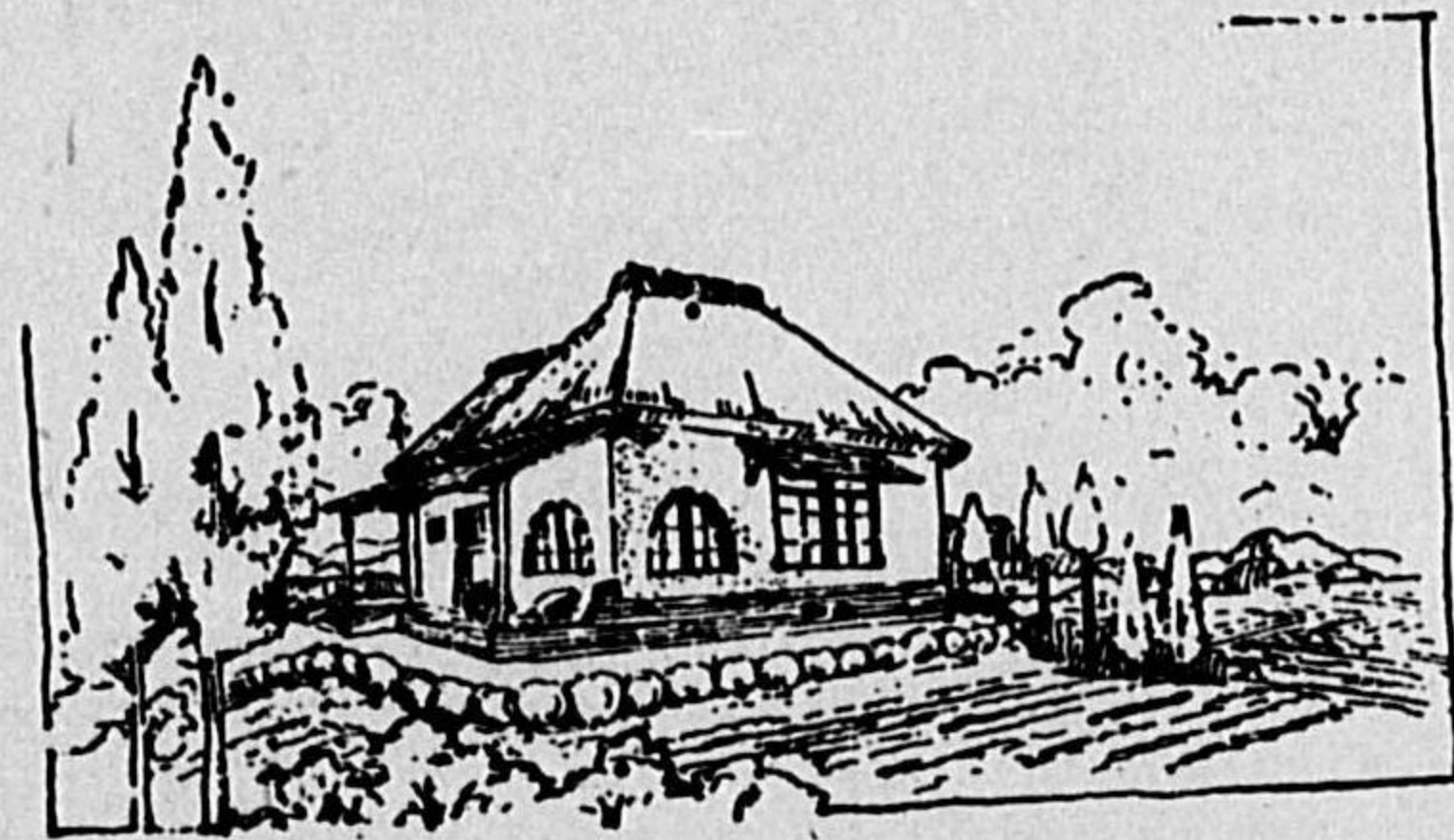
サンデーハウス

—(ワイーク エンドハウス)—

土曜日の午後仕事を成可  
く早く片付けて郊外電車の  
停車場に駆け付けます。南  
海ならば泉南地方、高野線  
ならば紀見峠、千早口あた  
り、阪急にて六甲の山腹と  
か能勢方面とか、先づ電車  
で一時間か一時間半位行け  
ば山間にも、田圃の氣分の  
する所にも達します。そこ  
いふ處に日曜日一日を  
周囲の氣分を十分に味ひつ  
ゝ暮します。其等の家  
をサンデーハウス(ワイー  
クエンドハウス)と申しま  
す。

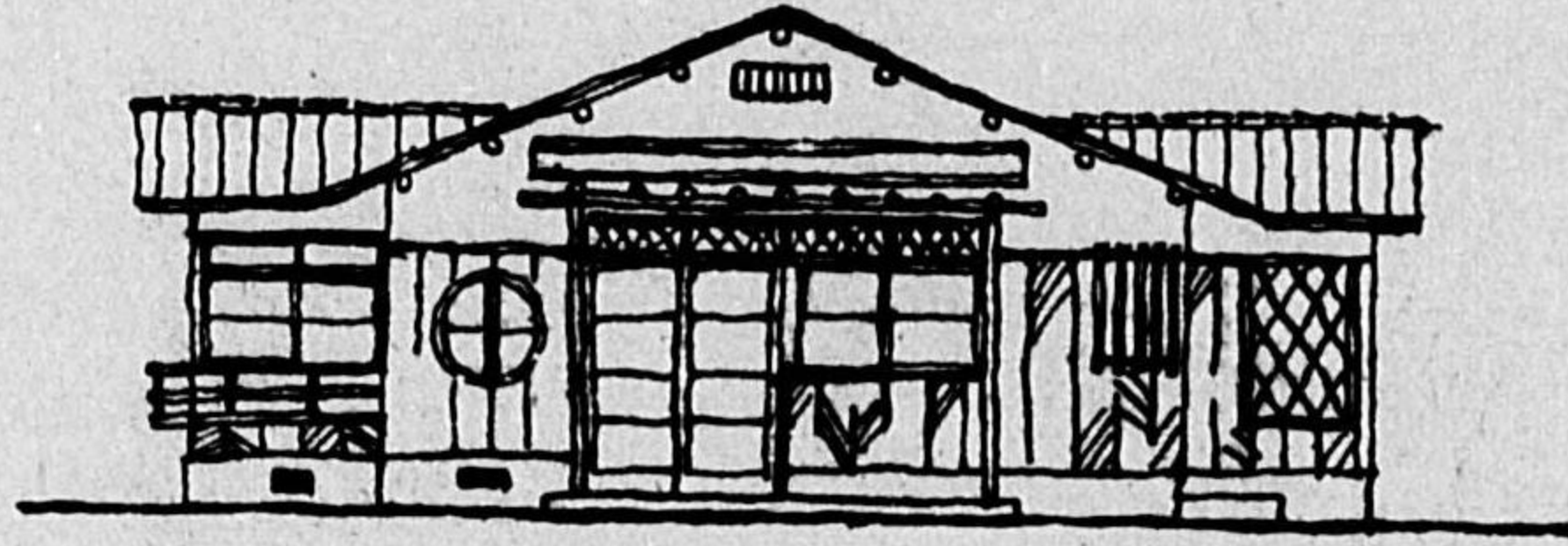
敷地は山地、林間、田圃  
など地價の極めて安い所に  
て二三百坪位の所を撰定し  
まして圓の様な簡易な家を  
建てます。土曜日の晩は泊  
る事も出来ます。

風呂に入つて汗も流せる  
様にしてあり、土間には必  
ず礎を切り此處で自分達の  
造つた芋、山で拾つた栗、  
松茸など焼いて喰べます。  
日曜日一日は自然に十分親  
しむで夕刻露途に就き歸り  
には自分達の作つた茄子や  
胡瓜或は柿、蜜柑などを御  
土産に持つて歸られます。



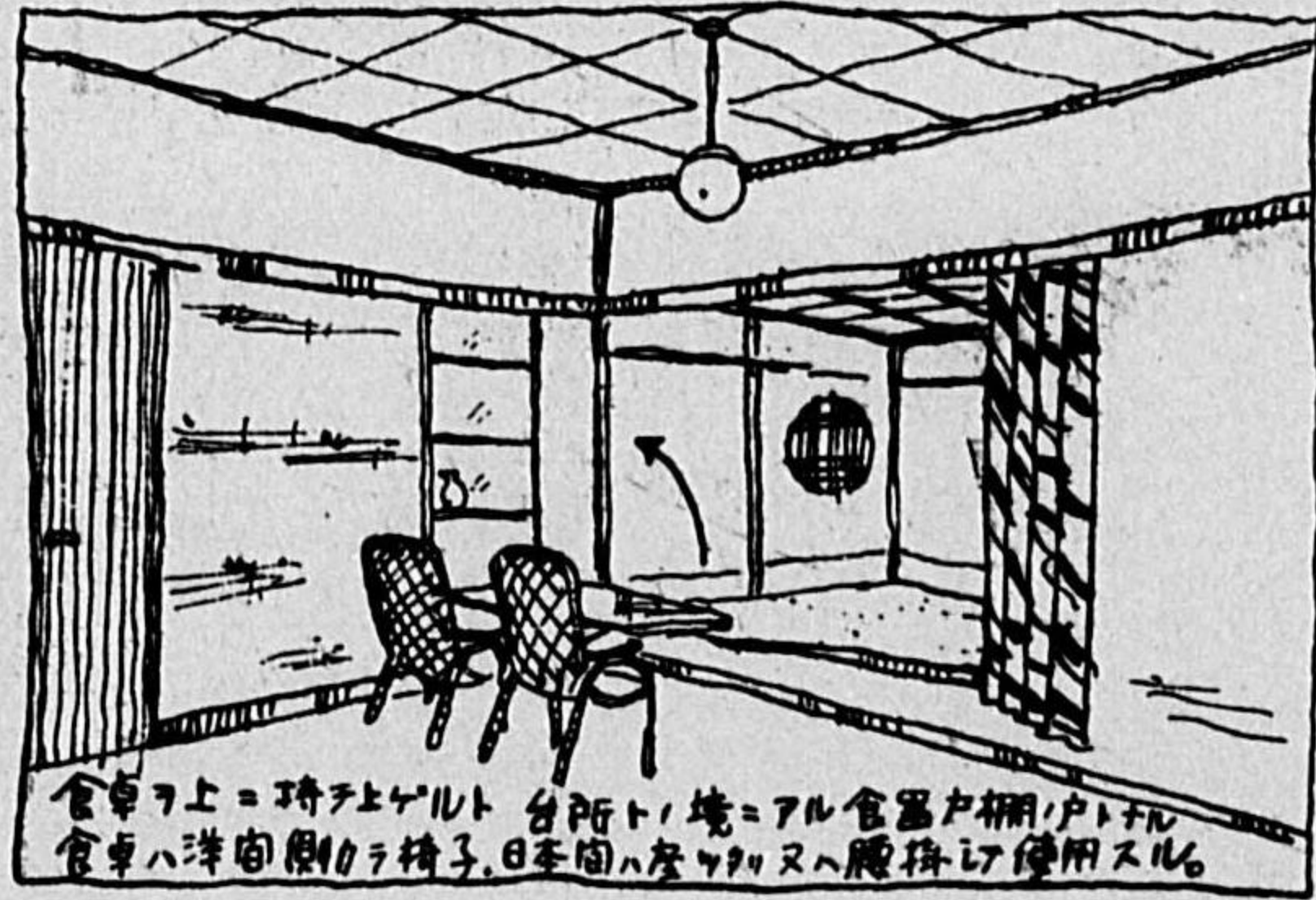
家 園 藝 術

— 夏の小住宅 —



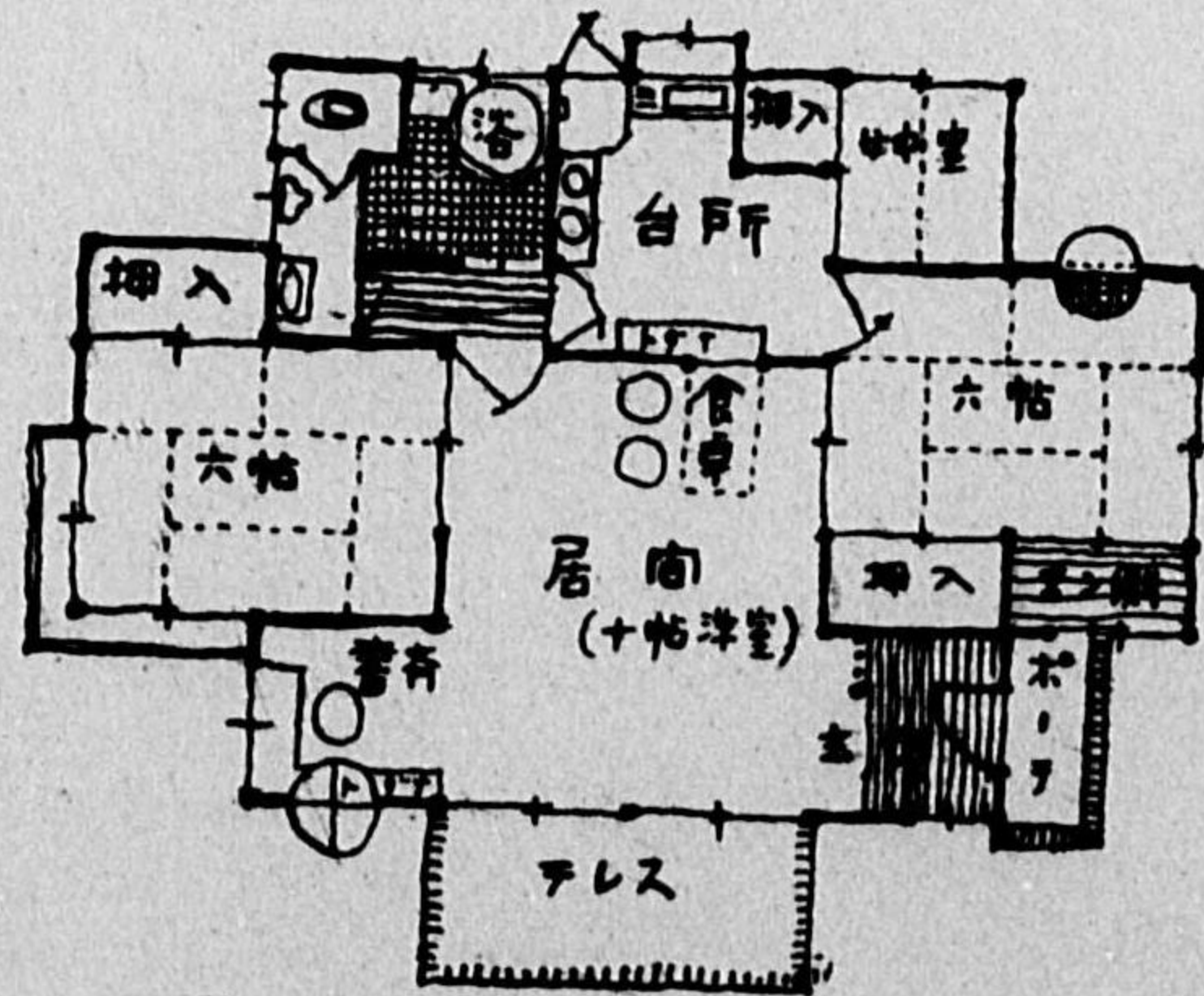
建坪 二十坪

夏季の林間又は海邊の小別荘又は貸別荘向きものを考へて見ました。その意味で支那等も簡単に軽いスクリーンを隔て、直接洋間に入ります。此の洋間は居間に、食堂に、客間にもと使つて頂きます。又一隅に



食卓上は椅子とケルト台所ト境=アル食器戸棚戸トル  
食卓ハ洋間側ト椅子、日本間ハケヤリ又ハ腰掛ヲ使用スル

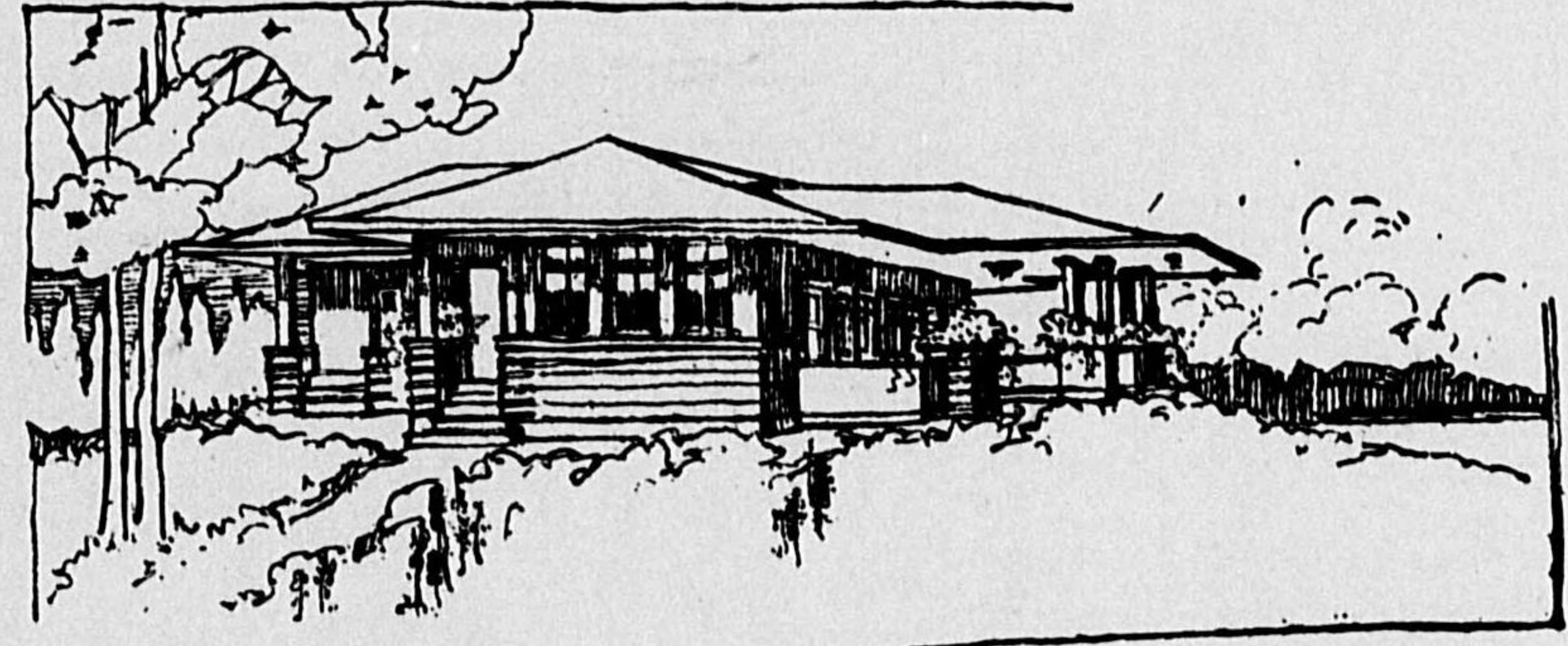
書齋用としての入り込みをとりました。此の部屋の食卓は、平時は臺所との境にある食器戸棚の扉になつて居ますが、使用時は倒して食卓とし、戸棚を臺所と食堂の兩側から共通に使用します。これは簡単な金具で容易に操作されます。で、食卓は洋間側は椅子で、老人等は日本間から座つて又は腰掛けて、日本間と洋間の床高の相違を利用して使つて頂きます。兩側の日本間は寢室として特に通風をよくする様にしました。





二 戸 建 住 宅

- 1. .... 55
- 2. .... 56



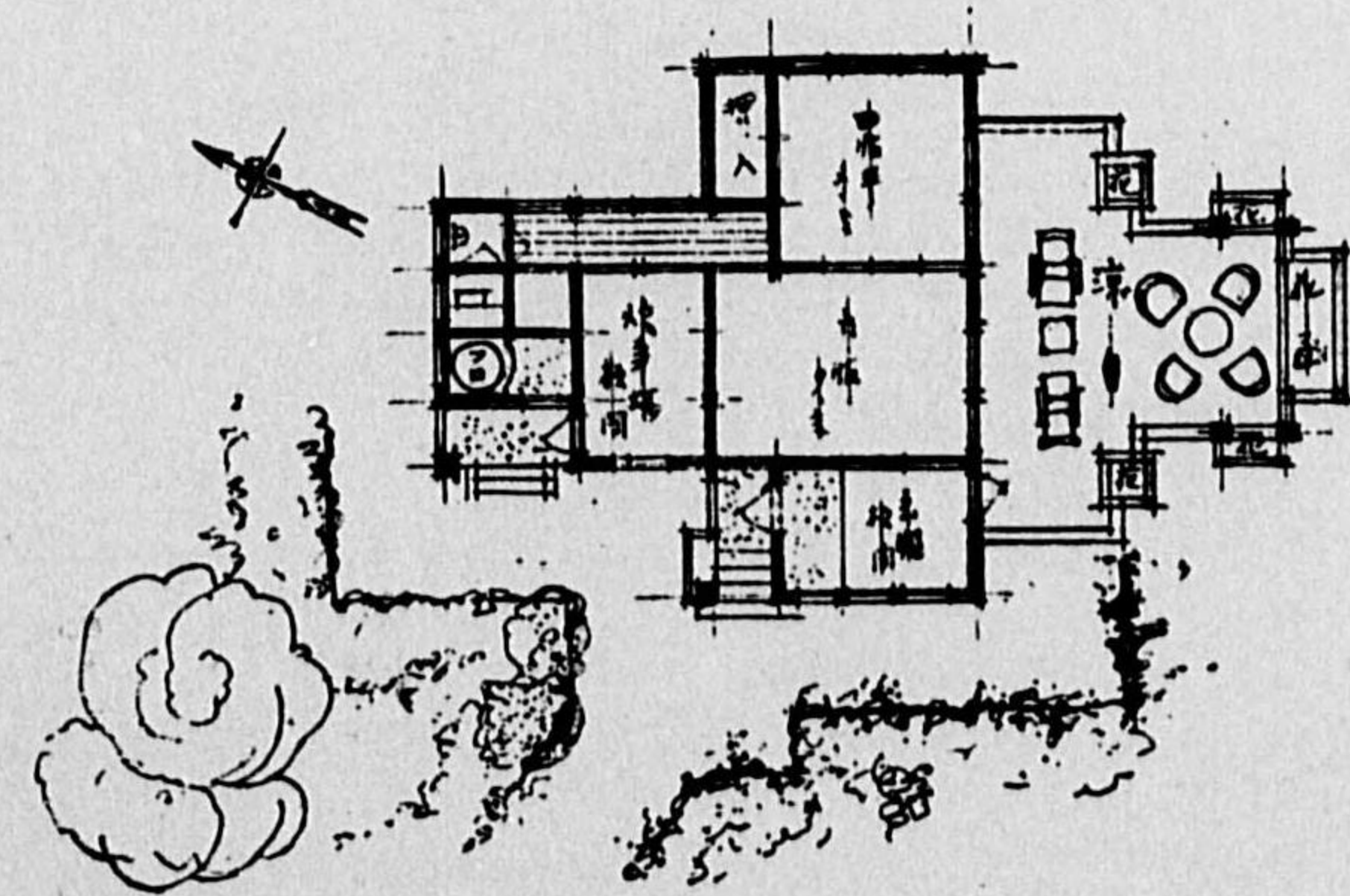
サンマーハウス

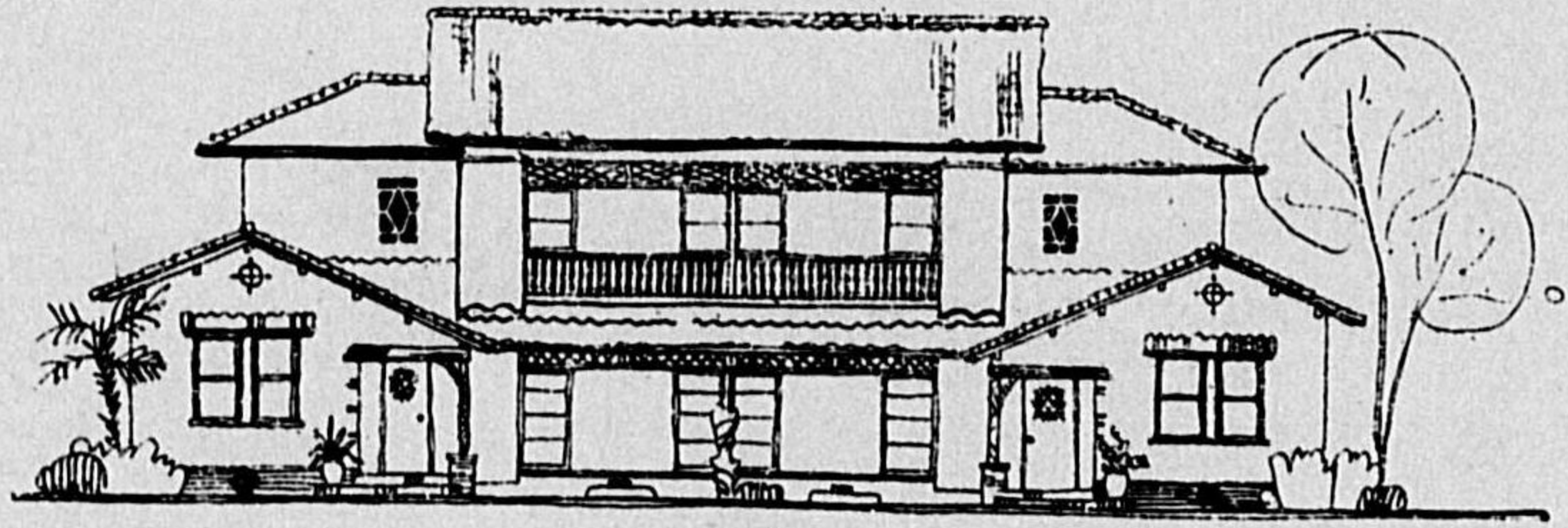
敷地は小高い東南に開けたのが理想であり、また海に面すれば更に結構であります。

材料は粗末なものにて宜しく、小兒などは何人でも気兼ねなしに一夏を自由に過せる様にしたいたと思ひます。故に木材などは米材の並材を用ひ、外部は粗木のまゝ防腐剤を塗付け、その他の部分はモルタル塗とします。涼臺は此の家の中心となるものに、殆んど終日小兒等は遊び廻ります。故に床板は米材の樽板張りが良い様です。涼しい様に軒出を多くして、其の下には草花など置いたら一層涼味を感じる事と思ひます。

に 建 敷  
費 坪 地

千 十 五、六  
五 百 十  
圓 坪 坪



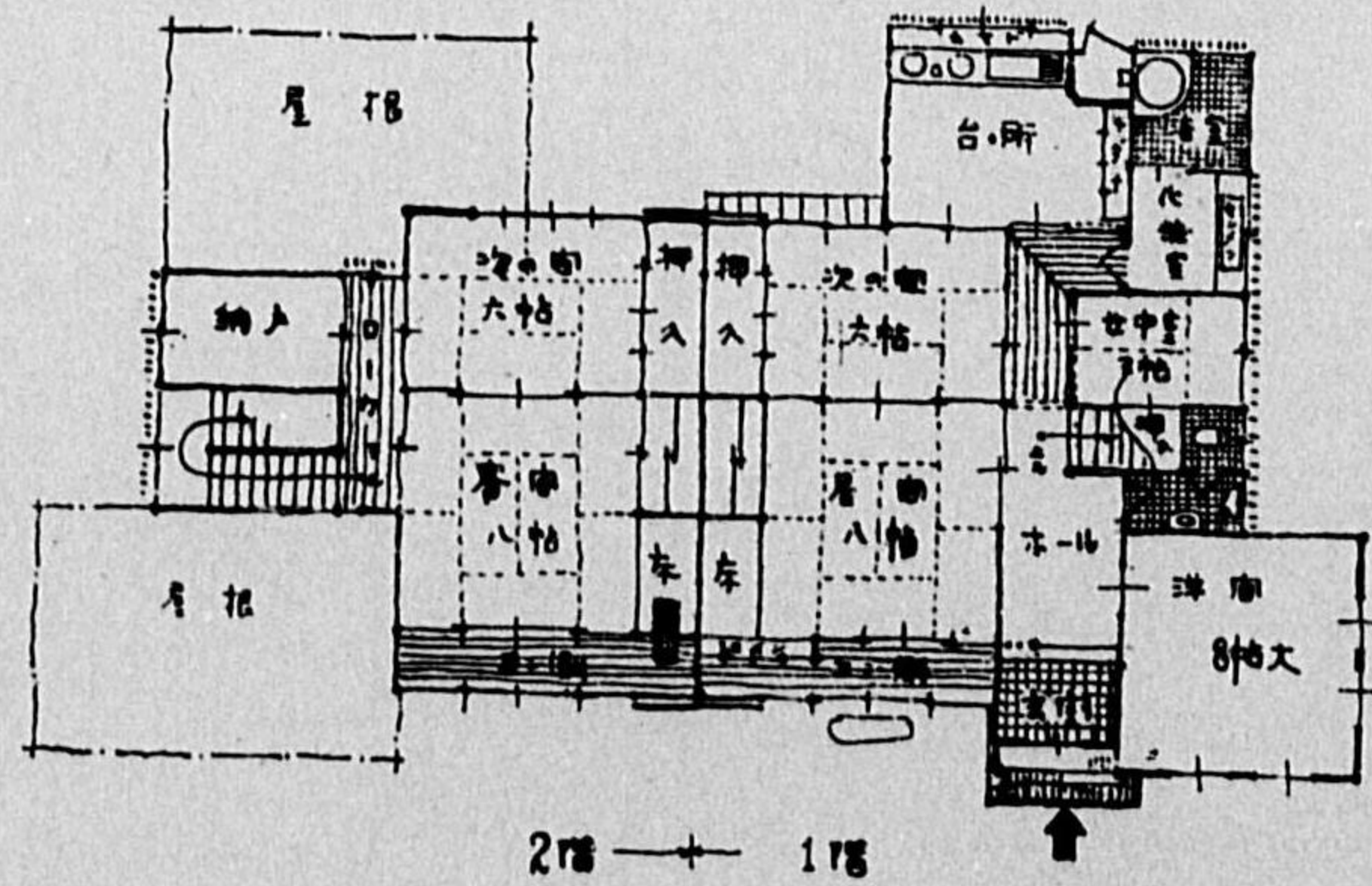


立 面 図

郊外の高級借家向きとして二戸建の住宅を考へて見ました。外部及玄関・應接室を洋風とし階下階上に夫々二間續きの日本間をとり廊下等の無駄な部分を出來るだけ少く考へました。

延坪	建坪
二階	一階
二十八坪	五十一坪
七十九坪	

二戸建住宅



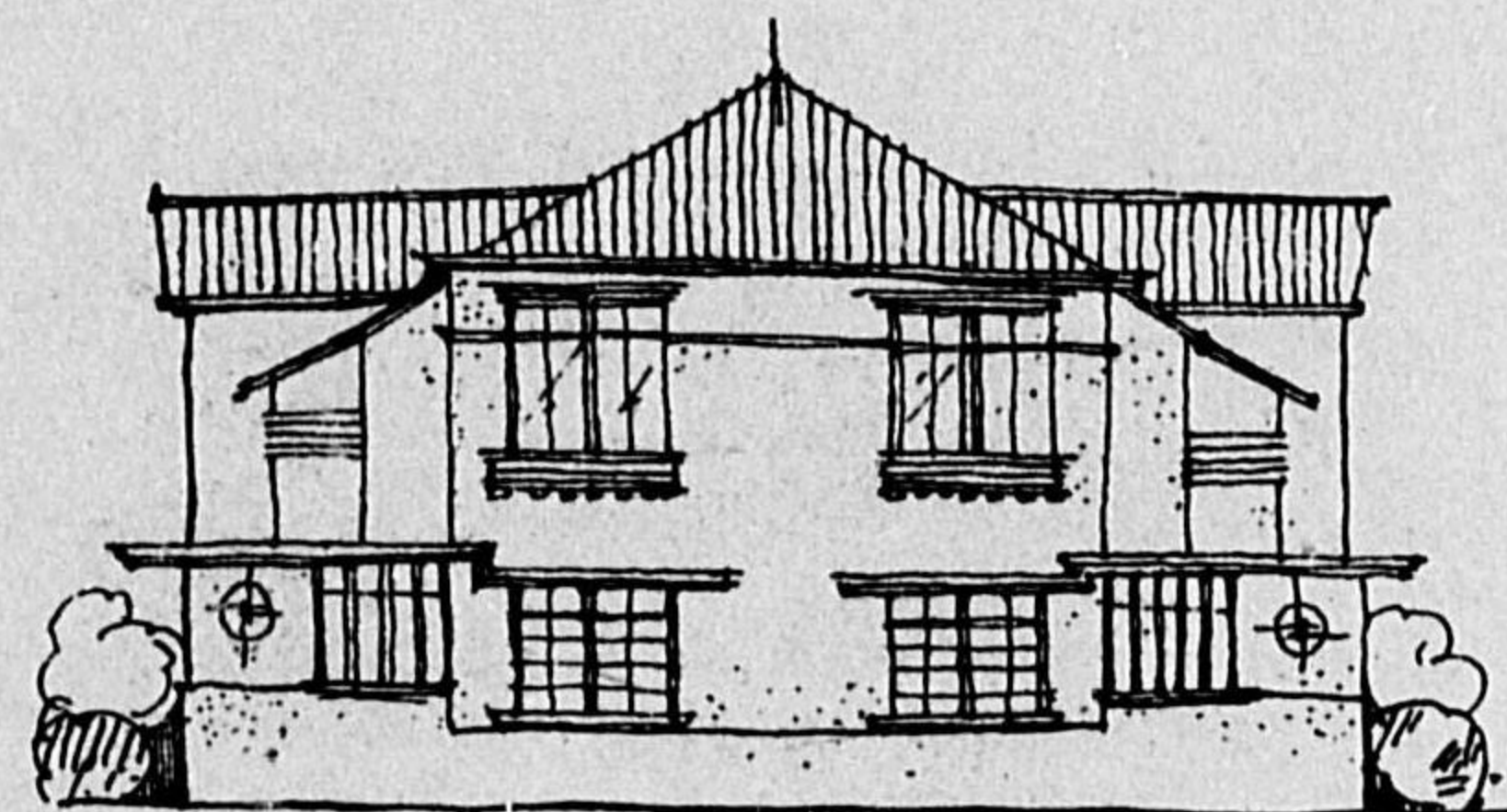
二 戸 建 宅

22 ..... 1

22 ..... 2

# 市街地の住宅

- 1. .... 57
- 2. .... 58
- 3. .... 59
- 4. .... 60

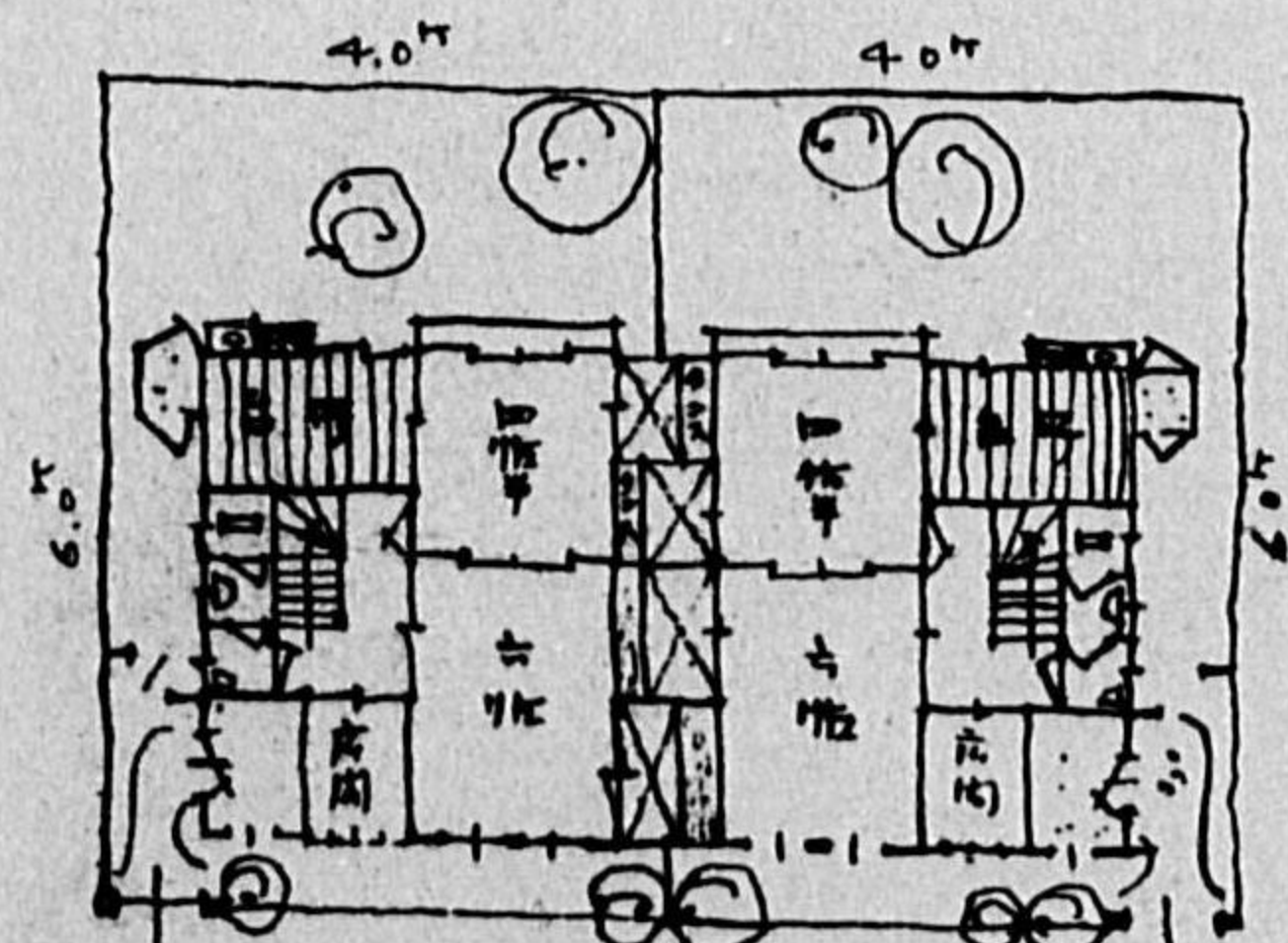


正面図

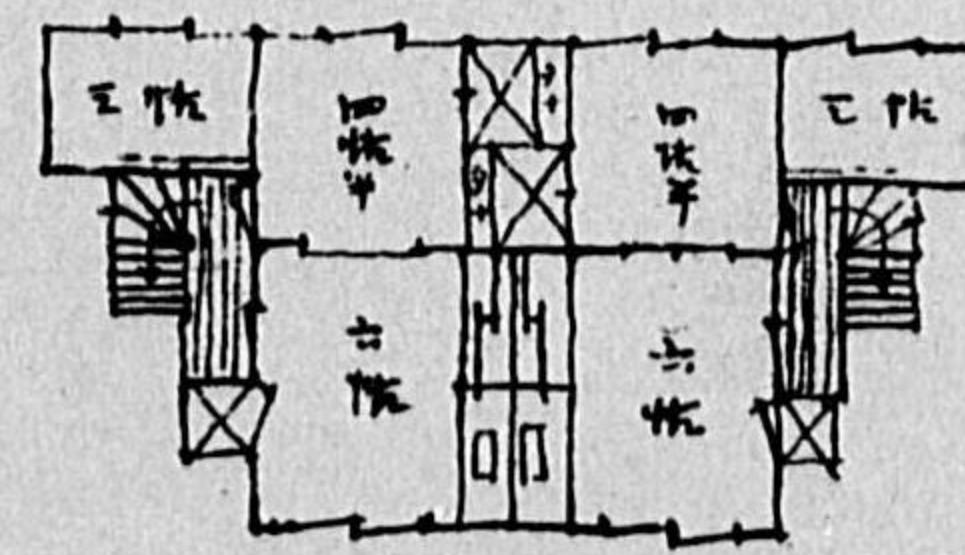
二戸建の貸家

敷地	各戸	二四・〇〇坪
建坪	一階	一三・五〇坪
	二階	九・六〇坪
合計		二三・一〇坪

二戸建の折衷風の貸家であります。敷地は有利にする爲め凸凹を少なく建坪を小さくする爲に棟側の如きを除き、押入だけは充分に取る事にいたします。且つタンス戸棚を置くのに便利な棟奥行一尺六寸程の地板敷の個所を設けました。六帖座敷には床、棚は少々浅い方が宜しいので四尺五寸を二ツ割にいたしました。外部はメタルラス張り、モルタル塗が丈夫で宜いと思ひます。

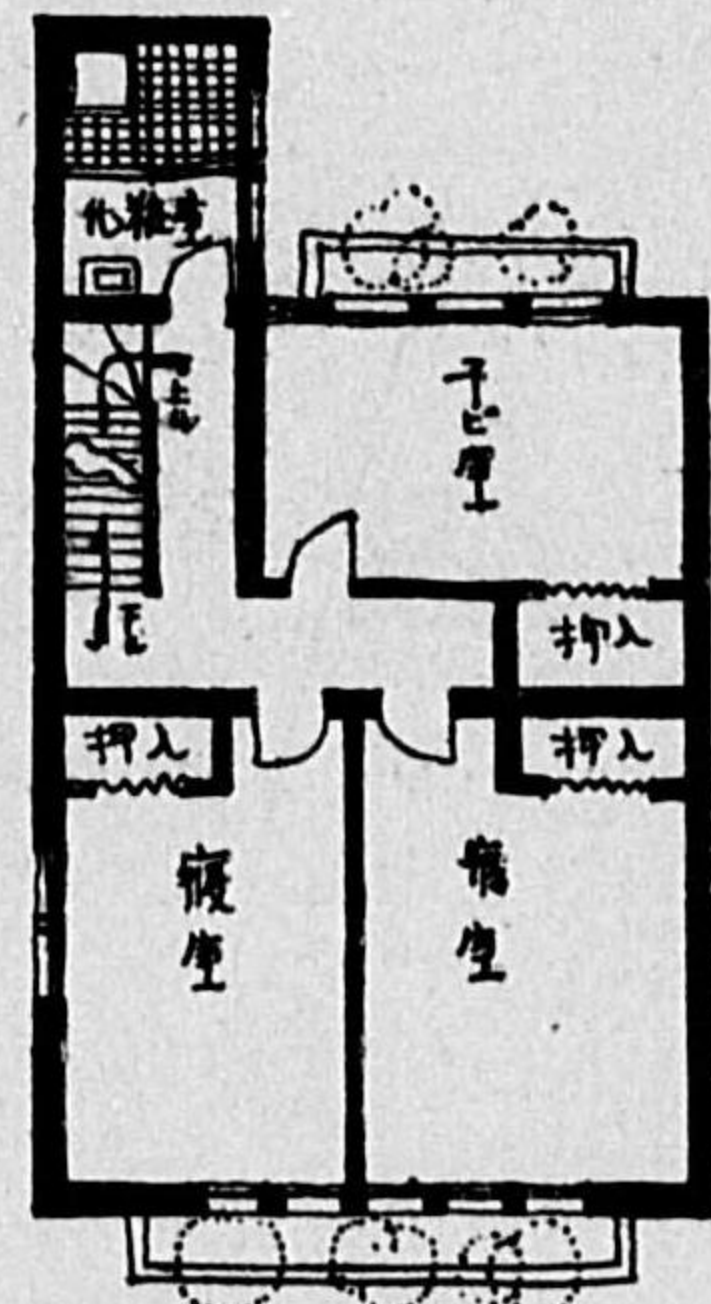
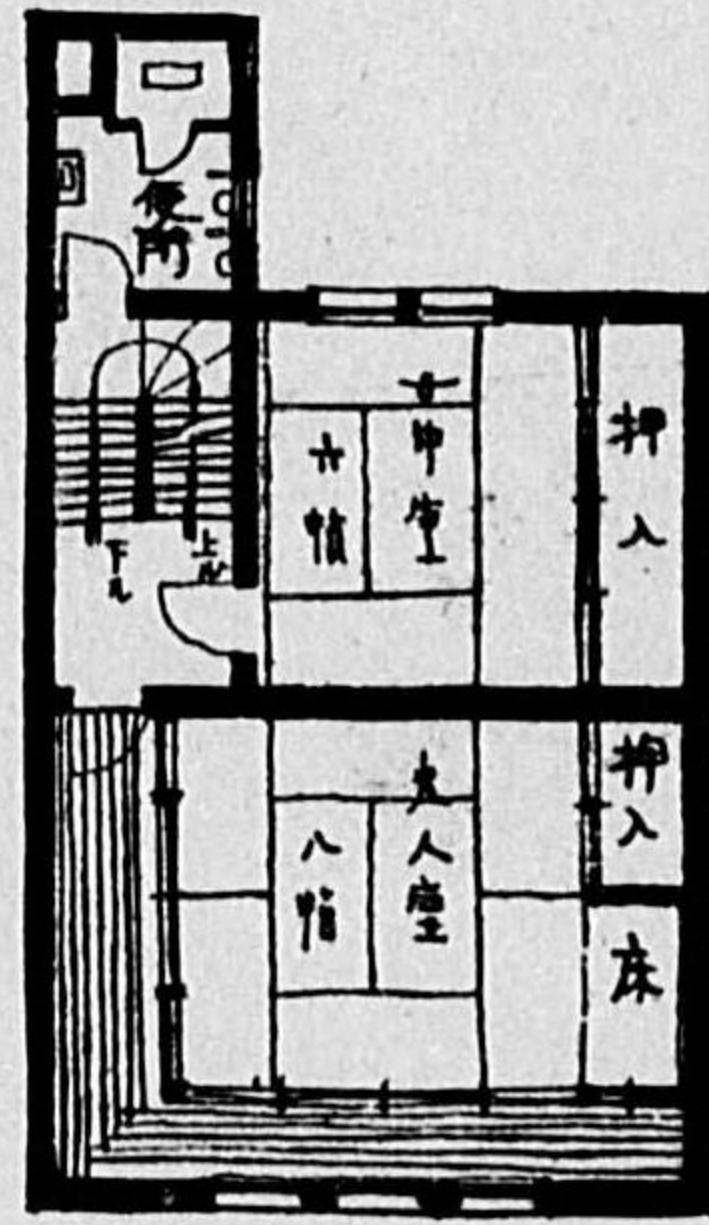
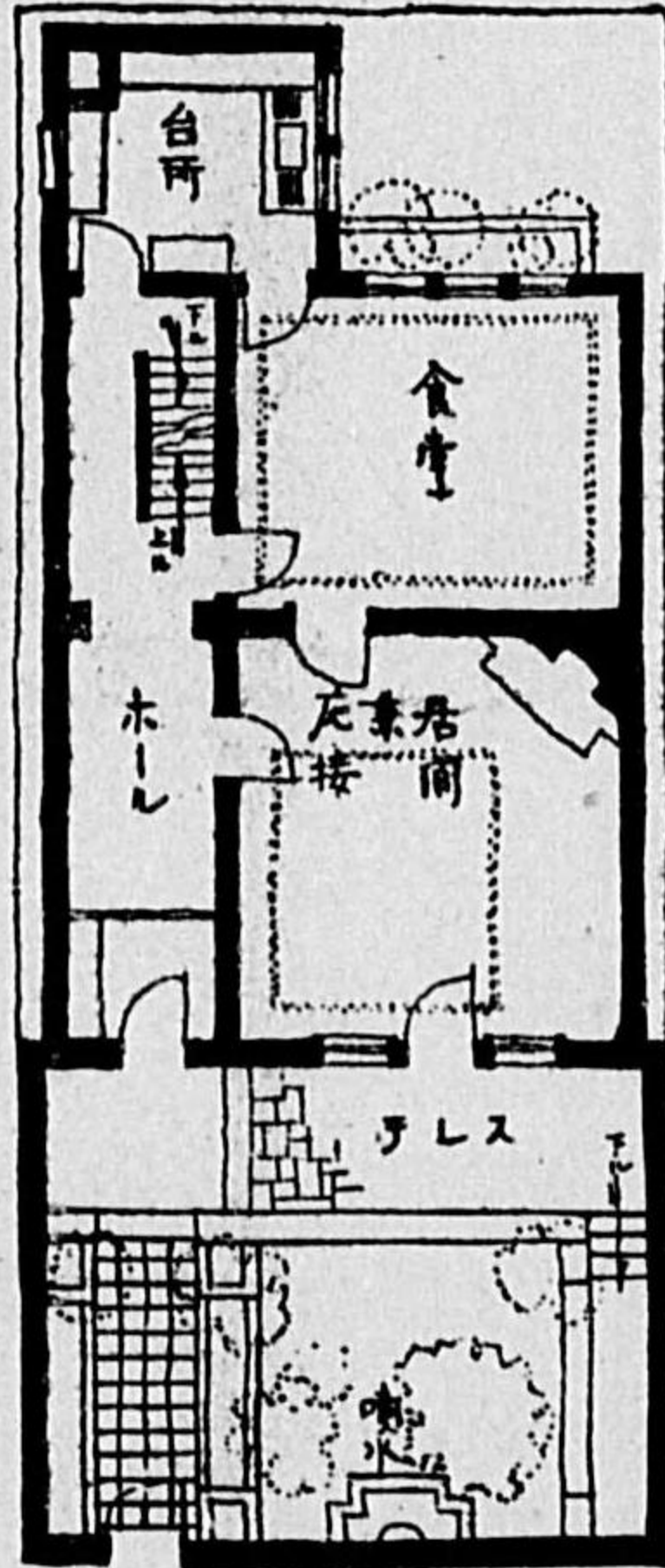
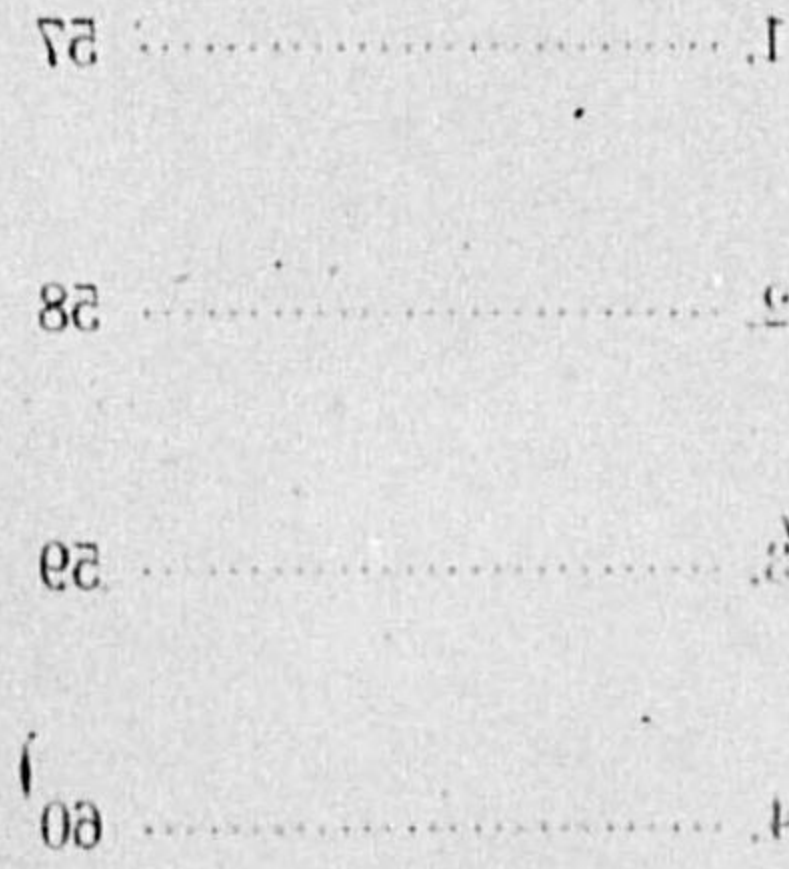


一階平面図



一階平面図

宇井の市街



二階平面図

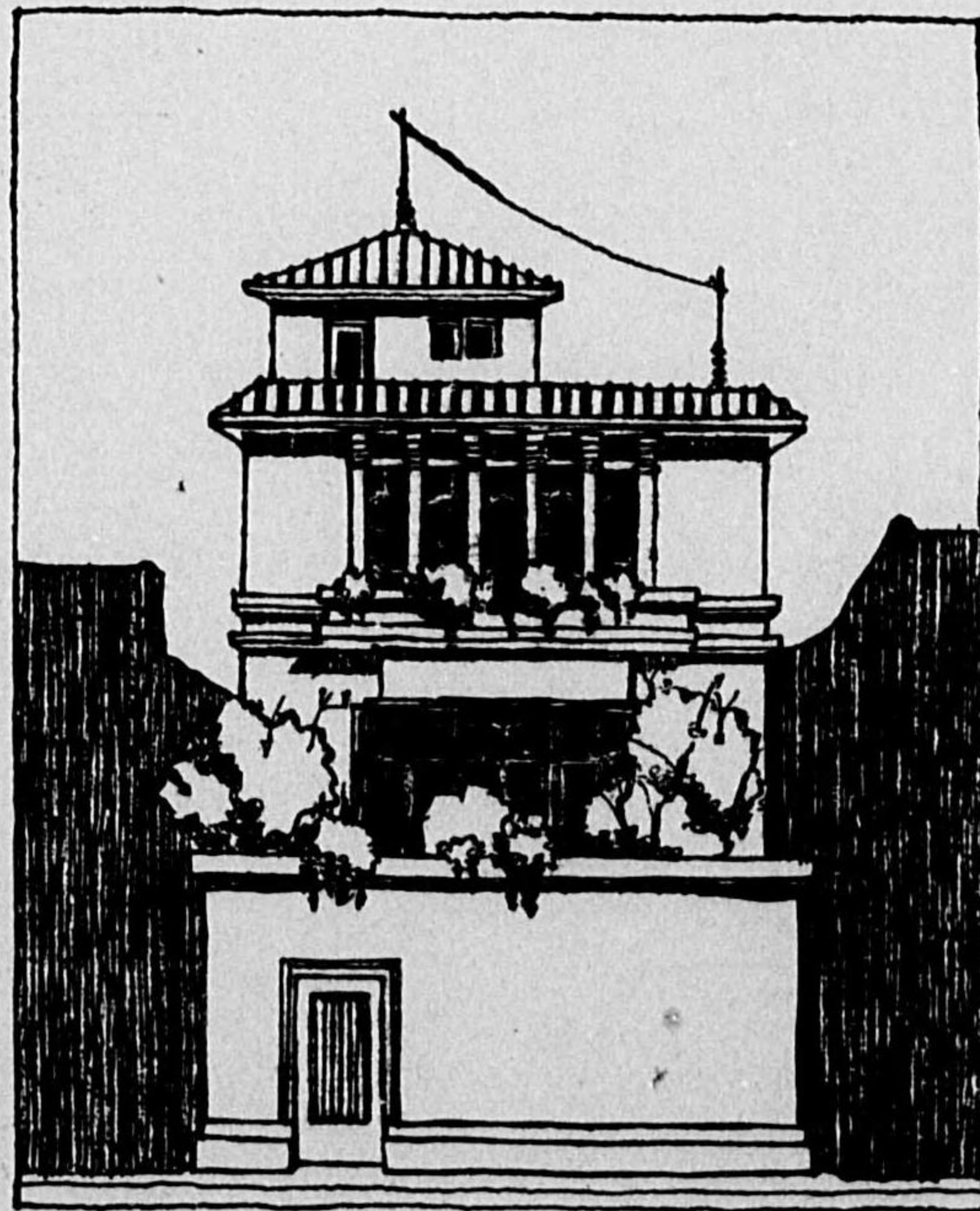
三階平面図

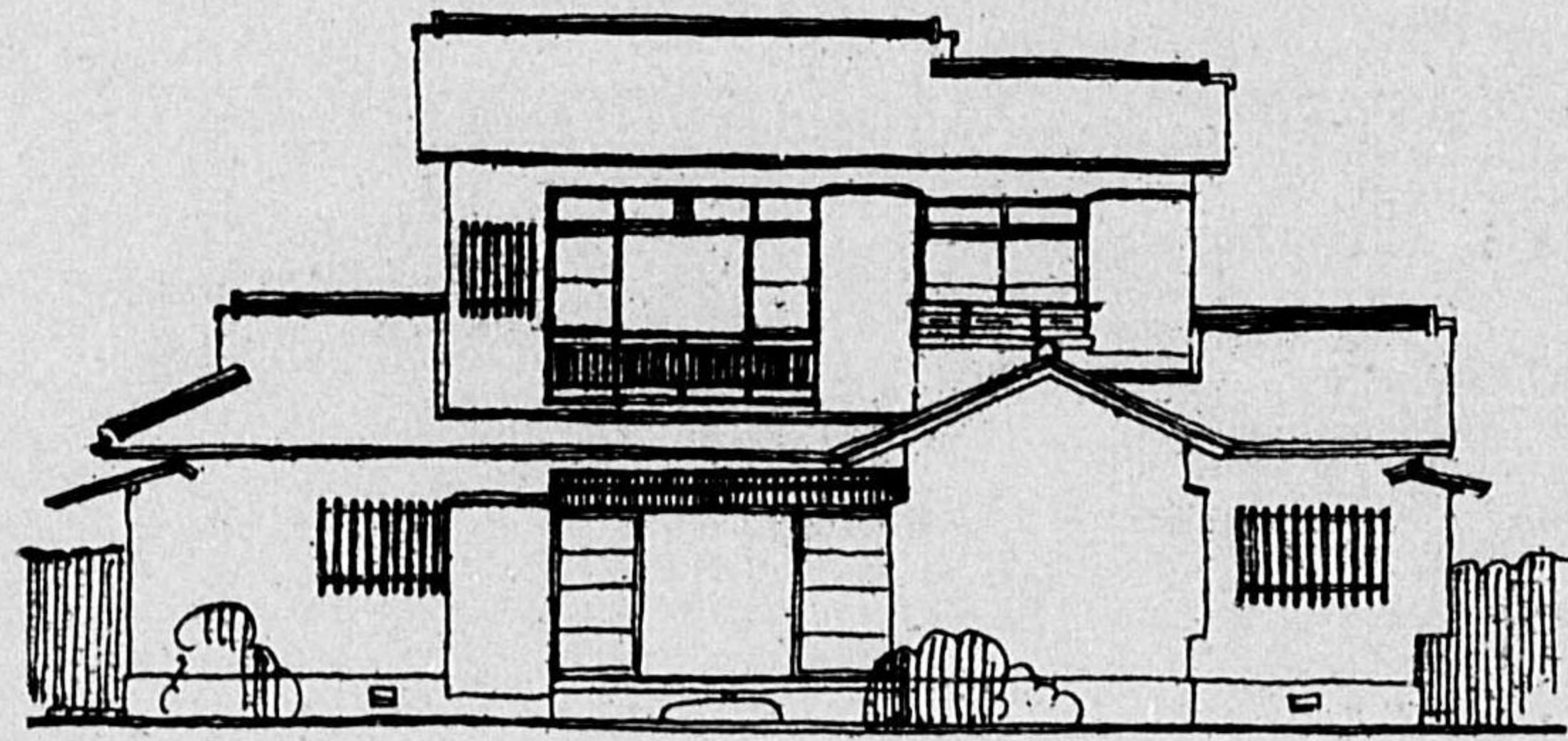


配置図

敷地 市内 間口四間 奥行九間半  
 建物 一階十九坪七五 二三階各十八坪五 地下室及屋上十一坪

色々の事情の爲に不健康を知らながら土一升金一升の價のする都市の真中に住宅を持たねばならぬ場合が多くあります。今度はそんな場合を假定してやつて見ました。  
 敷地。間口四間奥行九間半、構造は鐵筋コンクリート造として耐火耐震的となし前庭の圍りには鐵コンクリート造の高塙を圍らし市中の道路の繁雜をセパレートする爲と防火及盜難除とします。  
 屋上は物干場及庭園を造り地下室は倉庫として從來の土蔵の代りに用ひ、猶便所浴室等は完全なる衛生設備を施します。

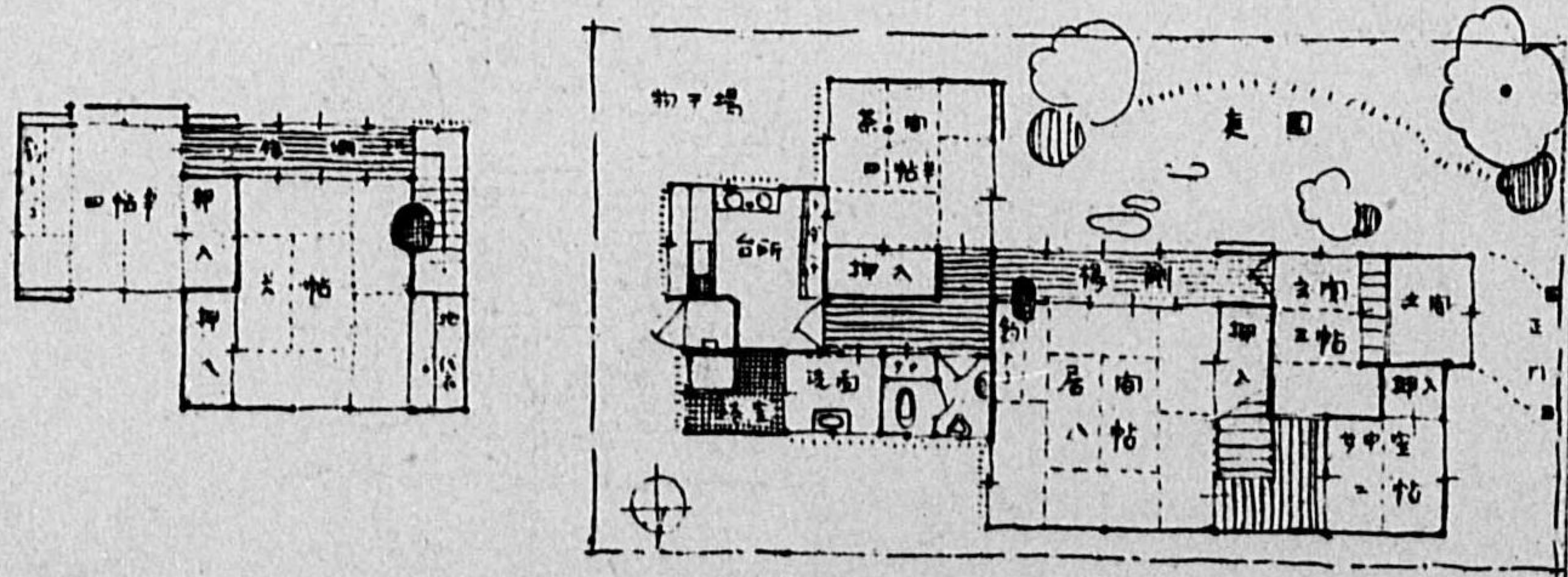




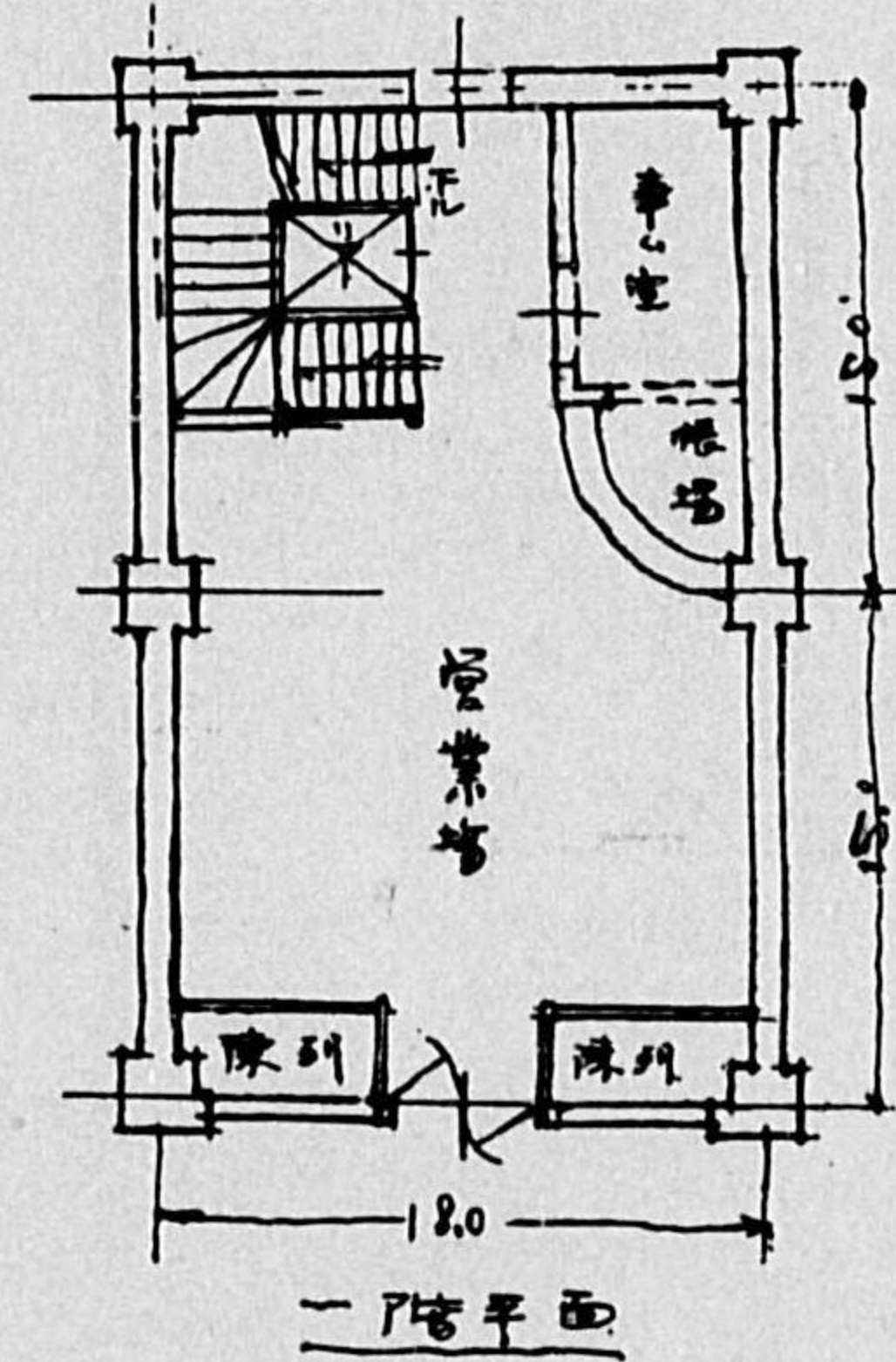
— 三十坪の住宅 —

木造建物の制限令が出まして三〇坪以上の住宅は許可されぬ事となりましたのでこの範囲内で二階建、五・六人家族向の中流住宅を考へて見ました。外部は耐火的にも耐久的にも爲のよい鐵網モルタル塗とし専ら實用的なものとし

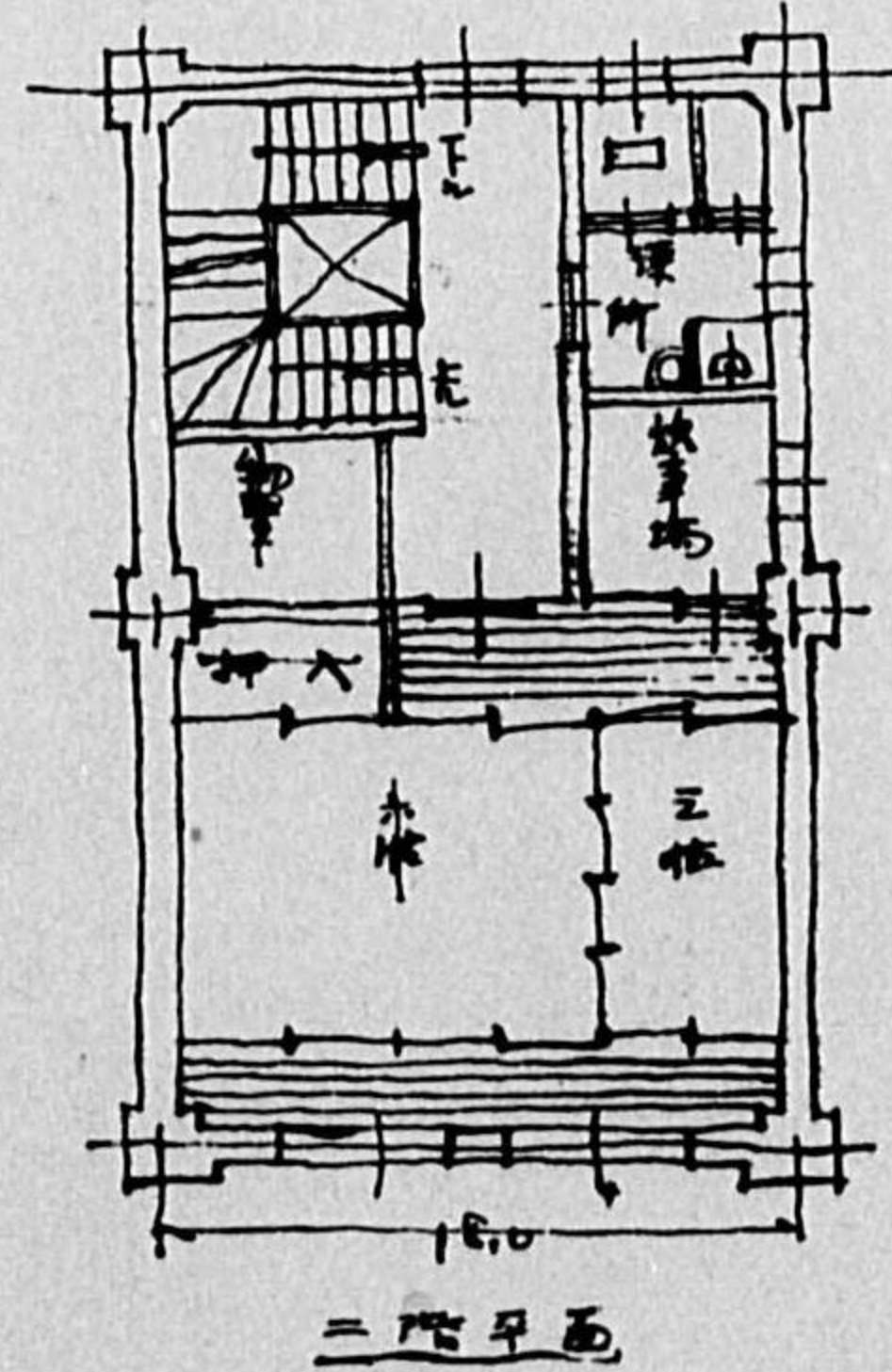
坪数	一階	二〇坪三合
計	二階	九坪七合
		三〇坪



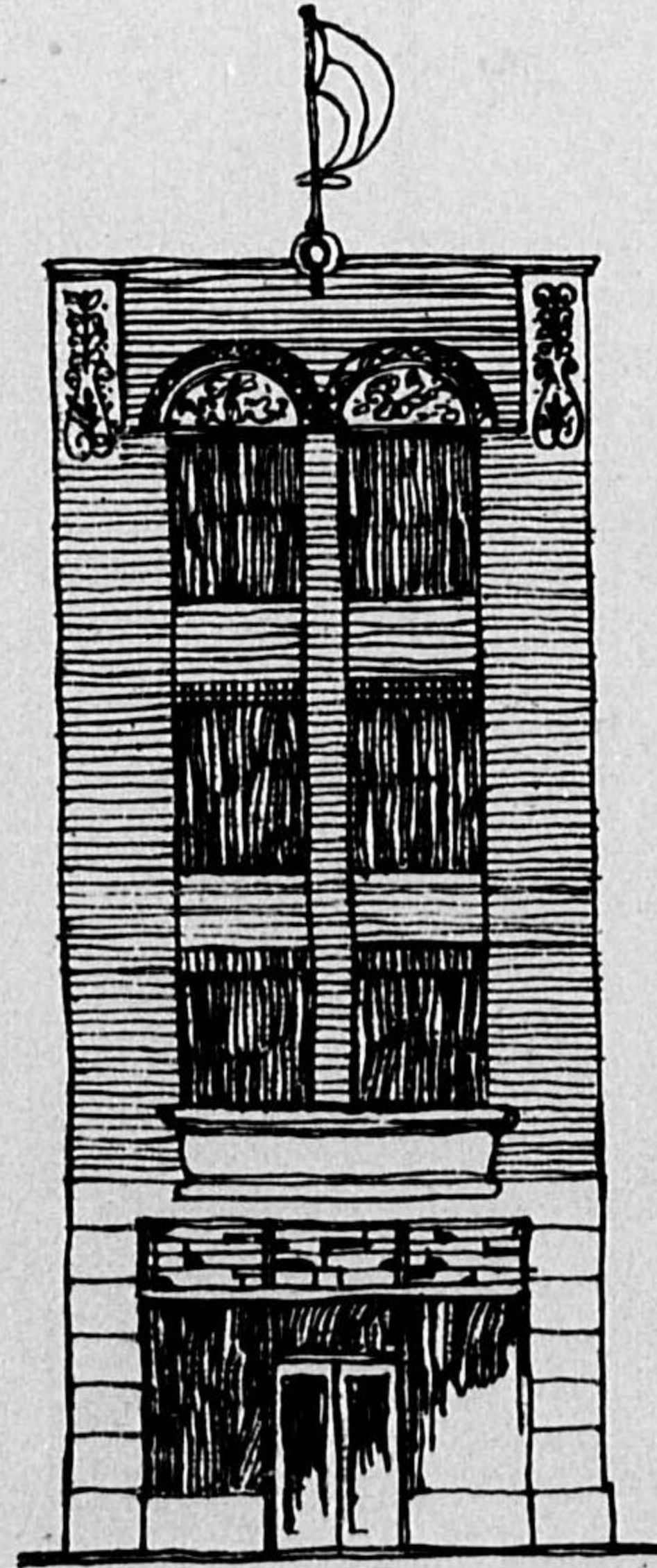
敷地 三十坪内外  
 建坪 一階 十五坪 (柱心に)  
 二階 四階 同 (同)  
 地下階 十六坪五合  
 市街地に建つ營業所、一階は全部營業場として地下階は倉庫、便所等、二階 三階は住宅に當て四階は店員の室に當てます。  
 構造は鐵筋コンクリート造として外部はタイルテラコッタと言つたものを張付け其の他はモルタル塗であります。



一階平面



二階平面

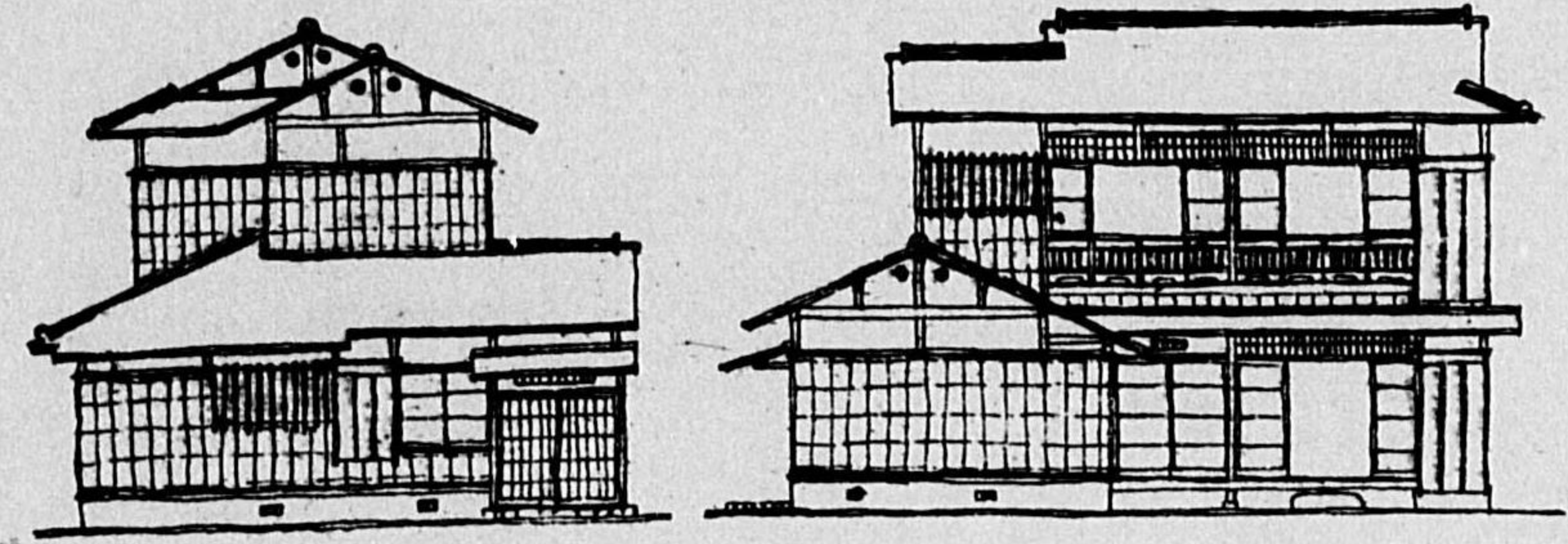


— 營業場を持つ住宅 —

# 借家を持つ住宅

1. .... 61

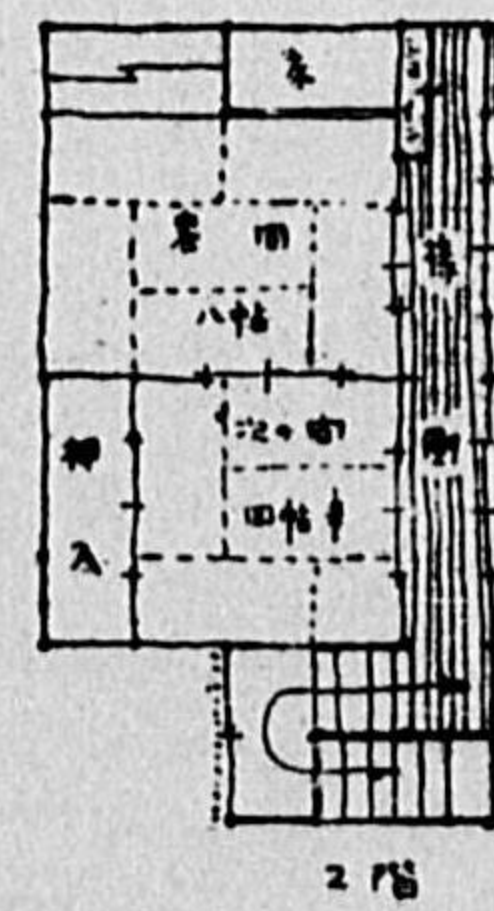
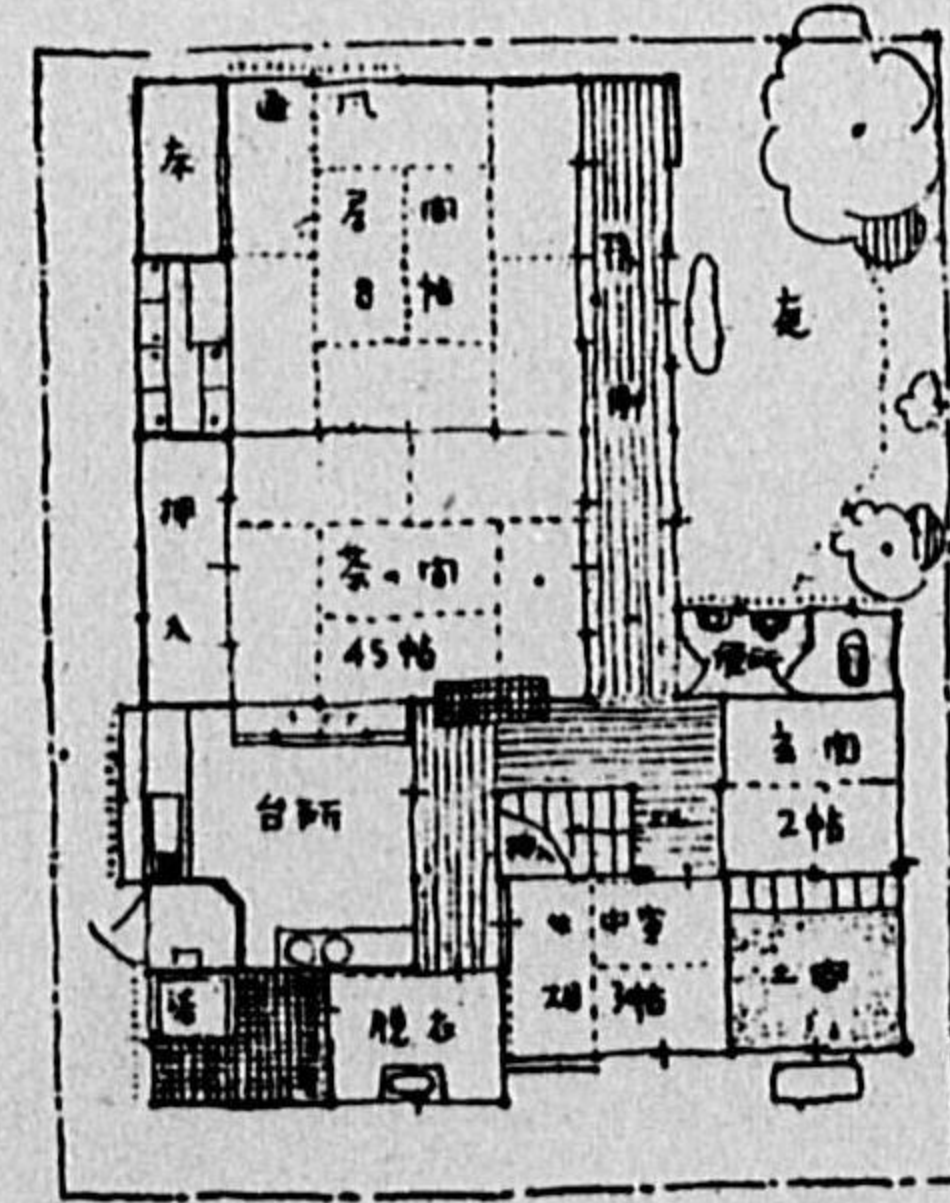
2. .... 62

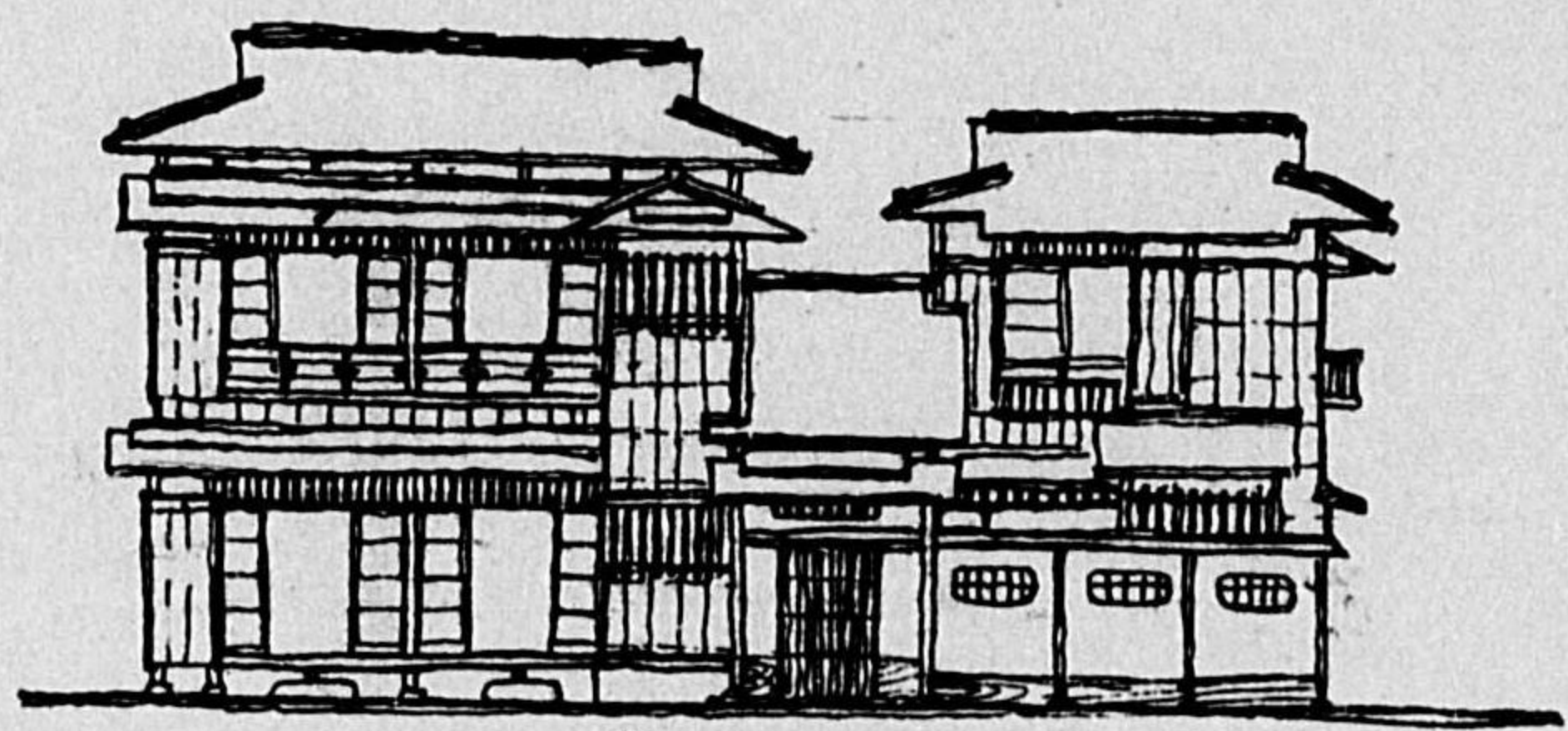


比較的敷地の狭い市街地の住宅として又は郊外の高級借家として適當の計畫。南面して階下に八帖六帖、階上に六帖、四帖半をとり椽側をつけました。敷地の關係で境界に面して窓を餘り取り得ないものとして考へて見ました。

建坪 一階 一八坪四〇  
二階 一〇坪二五  
計 二八坪六五

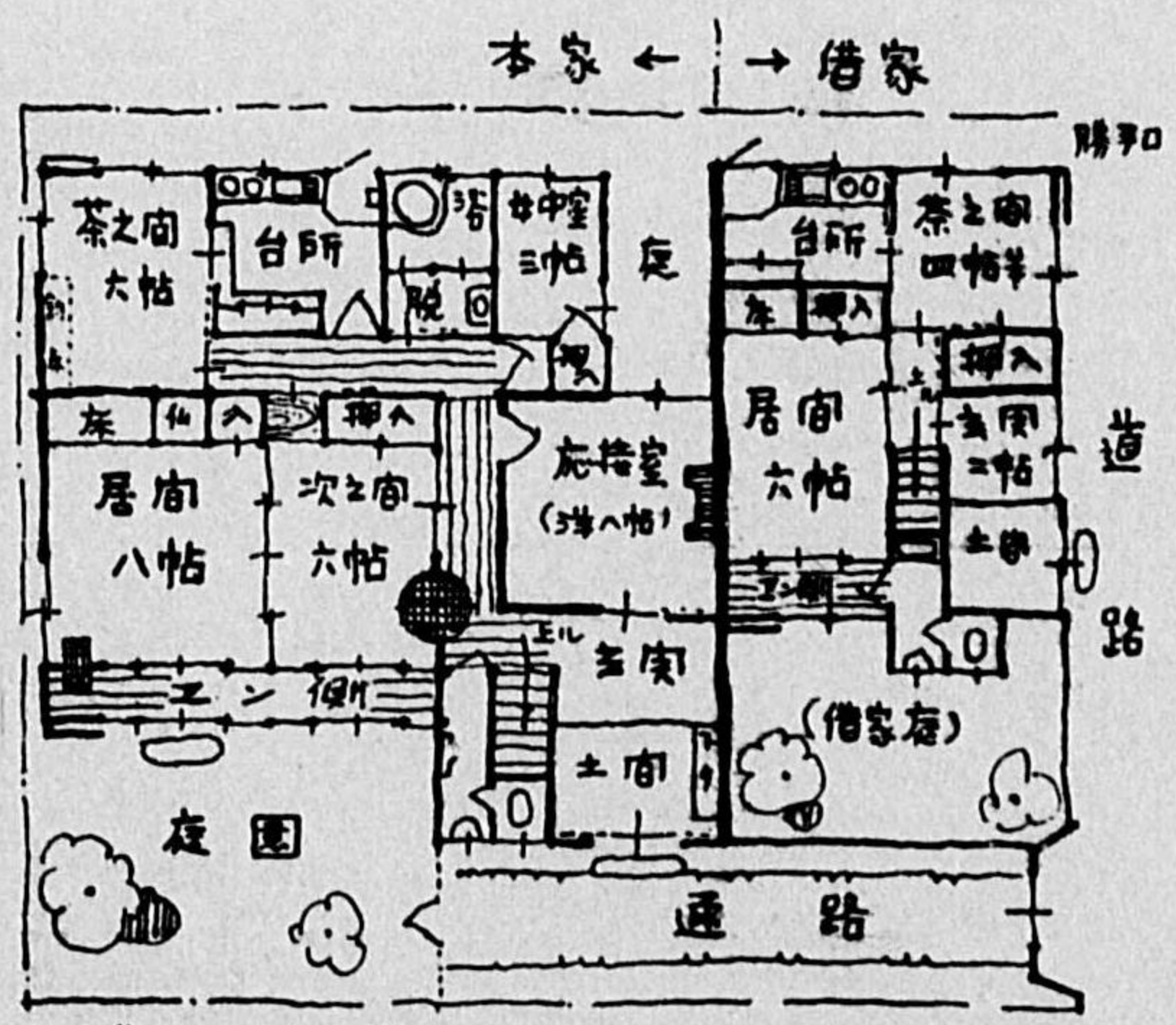
——二階建住宅——





本家 借家

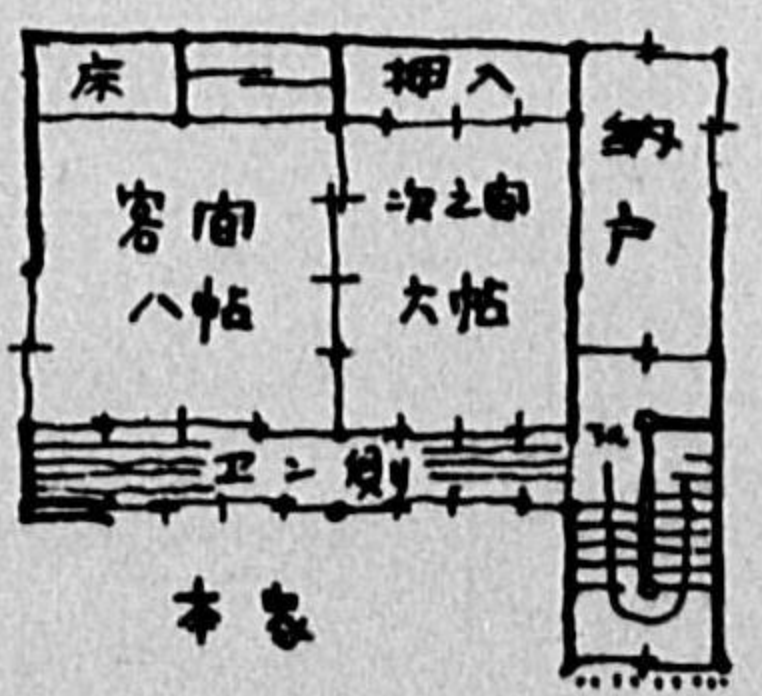
借家をもつ住宅



借家をもつ市街地の住宅。道路に面して借家を取り、本家は  
街路の騒音から遮断します。

計	借家	本家
	延坪	延坪
	七十八坪	五十六坪六
		二十三坪四

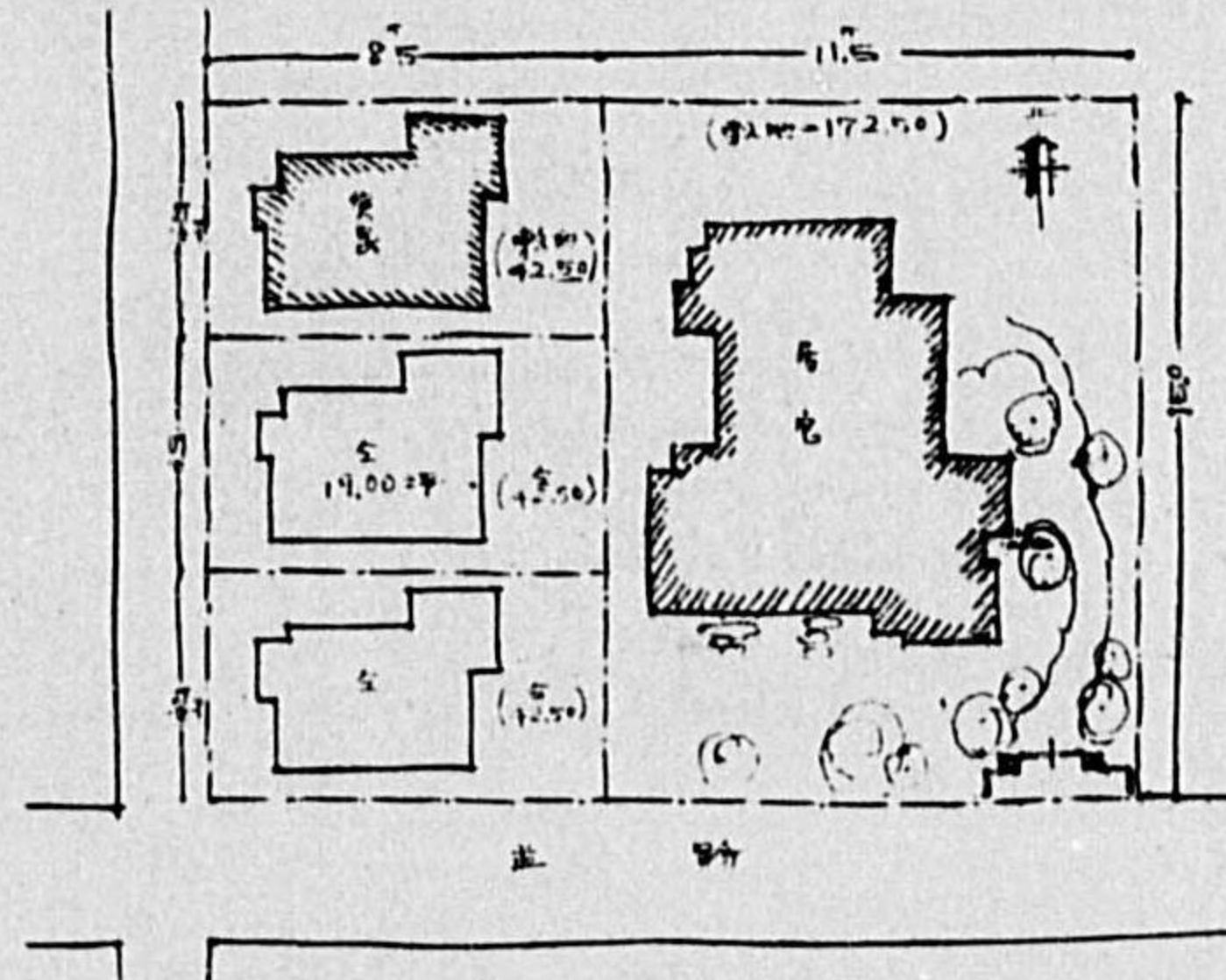
又兩家の取合には應接室をとり、洋風の部屋として二重壁によつて音を遮ります。  
其他は日本間本位とし、本家は一、二階共六帖八帖を主たる部屋とし南側に縁をとります。  
借家も同様六帖を主室として縁をとり北側には兩家共通の勝手口、通路を配置しました。



借家をもつ住宅

10 ..... 1  
50 ..... 2

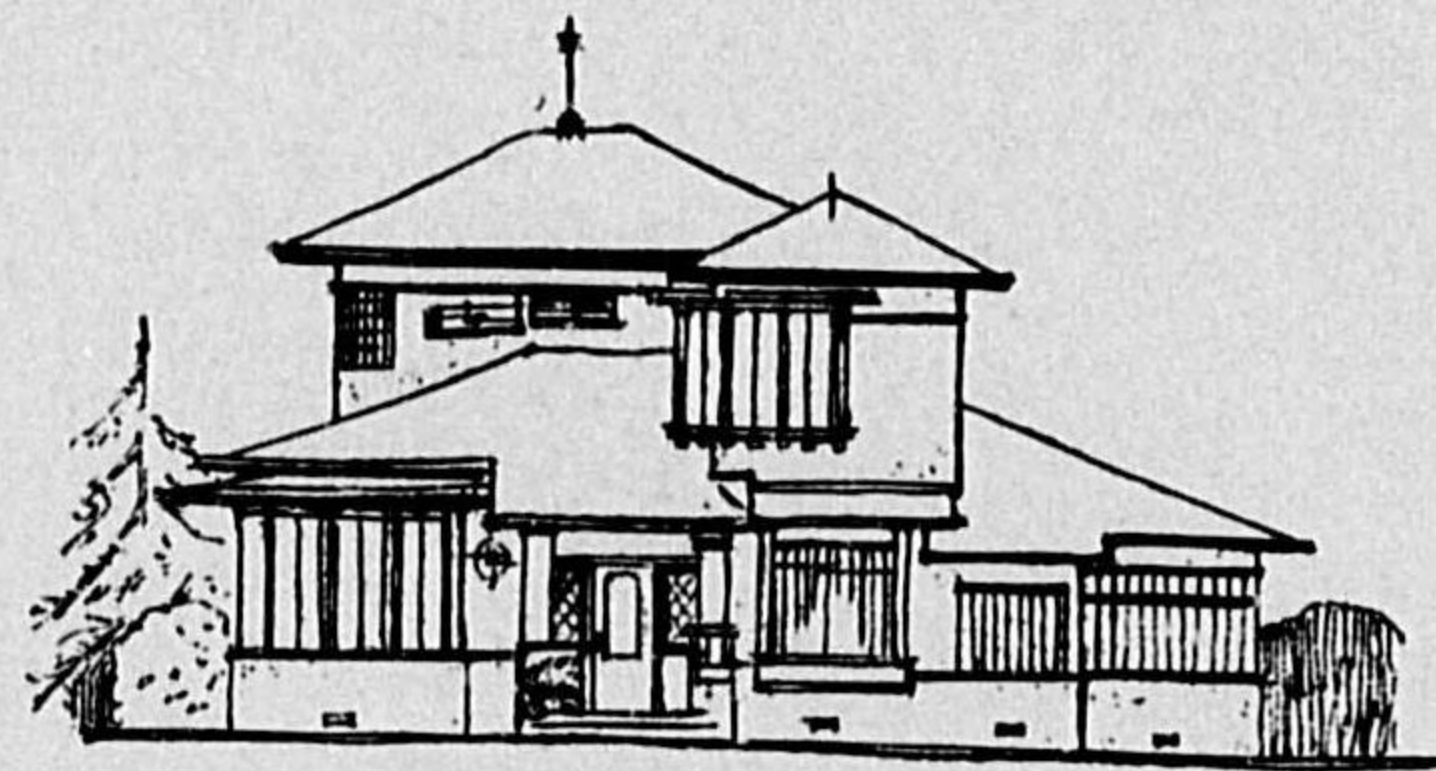
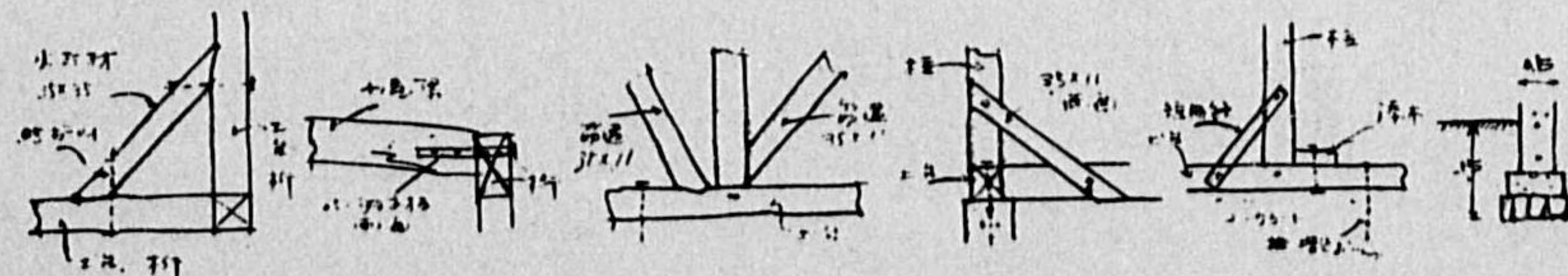
「近郊山手、北に山を隔らし南に展開した高燥な三百坪位の土地に住宅四戸を建てその中一戸は自宅に他は貸家にする」といふ條件であります。



先づ敷地は間口二十間、奥行十五間、前面は南三間以上、側面は西二間以上の道路のある角地と假定しました。配置圖の通り區別いたします。  
貸家も連続のものより各戸獨立のものが一般に喜ばれるので各獨立のものとしたしましたが三戸並びの中央の分は一般に好

まれぬ場合がある様です、其の場合には勿論南側の分は南側の道路より入る平面圖にする必要がありませう。又場合によれば南の分一戸丈け和風にするとよい事も良いと思ひます。  
地價の高い郊外に於ては一戸當り四十二坪五合の敷地は少し多過ぎ三十五坪内外が頭合かも知れません。  
平面圖に於て貸家の方は同一の間取にいたしました。一室洋風室のあるのは借手に喜ばれる様であります。  
様式は先づ和洋折衷風にいたしましたして外部ラス張り、色モルタル塗、内部眞鍮塗 大部分を疊敷といたします。  
一般構造に於きましては過般の風水害以來建築取締規則が敷重になりまして重要部の最少限度が規定されました。勿論在來の貸家には随分亂雑な構造のものが多かつたので此の規定は誠に結構な事と思ひます。  
先づ基礎の深さが黒石下端迄一尺五寸以上、布コンクリート厚が五寸以上、土臺と基礎とは五分ポルト縮め、土臺と柱とは補強鐵物、火打材等を入れます。横架材と柱とも同様。其他壁には筋違を厚一寸一分以上のものを十分に入れる、何れも間面にある例の如き要領に構造する事が必要であります、又其れ丈け工費を要する事となる譯で家賃に影響いたします。が要するに工費次第で木構造に於きまして各欄部に涉り合理的構造法を以てせば地震、風壓等に相當抵抗し得る家屋を建築し得るのであります。  
更に郊外住宅に於て考へなければならぬのは水質であります。鐵分、アンモニア、クロール等の含有量に依つて飲料水に不適當な場合、此れ等の除去は困難を伴ひ相當の設備を必要とします。水の配給は至極簡單であります。  
此の他に考へて置きたいのは、暖房、通風、盜難豫防、火災豫知等で最近最近に設備し得るものもありませんから新築當時に其等の設備をして置けば心丈夫かと思ひます。

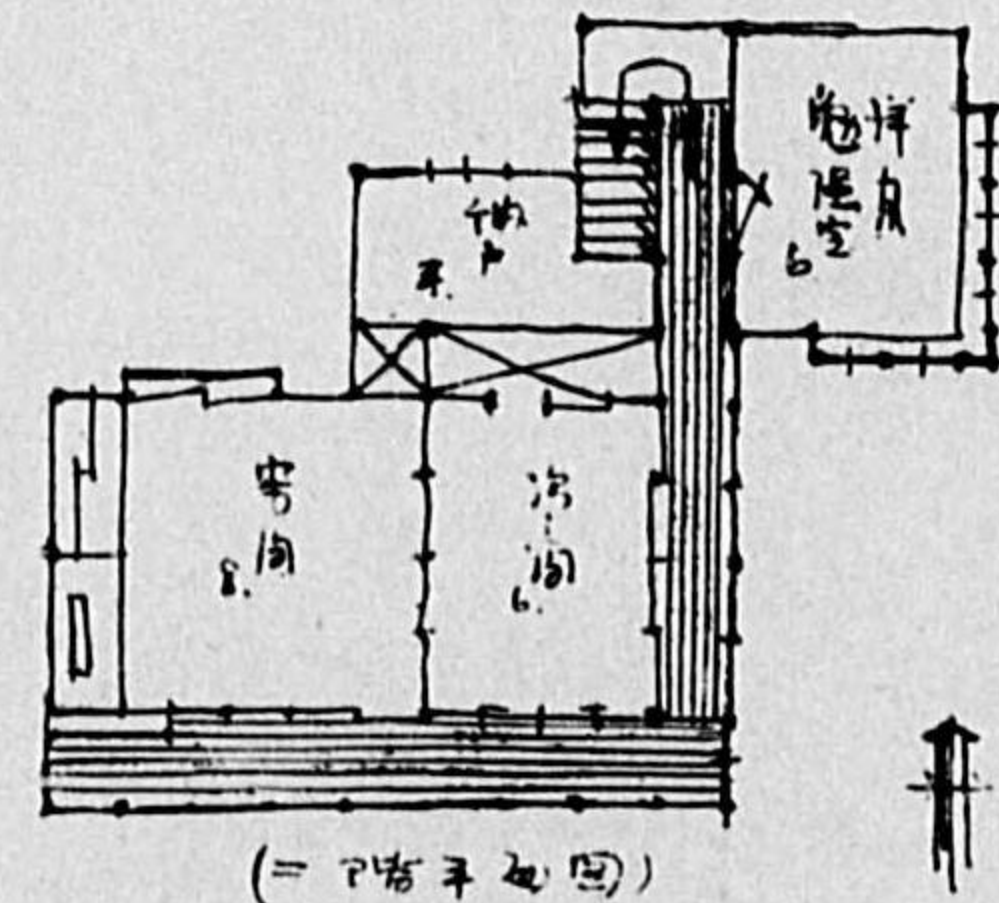
敷地	住宅	二階	一階
百七十二坪五合	四十一坪五合五勺	十九坪八合	五合
四十二坪五合宛	二十坪	九合五勺	七合五勺



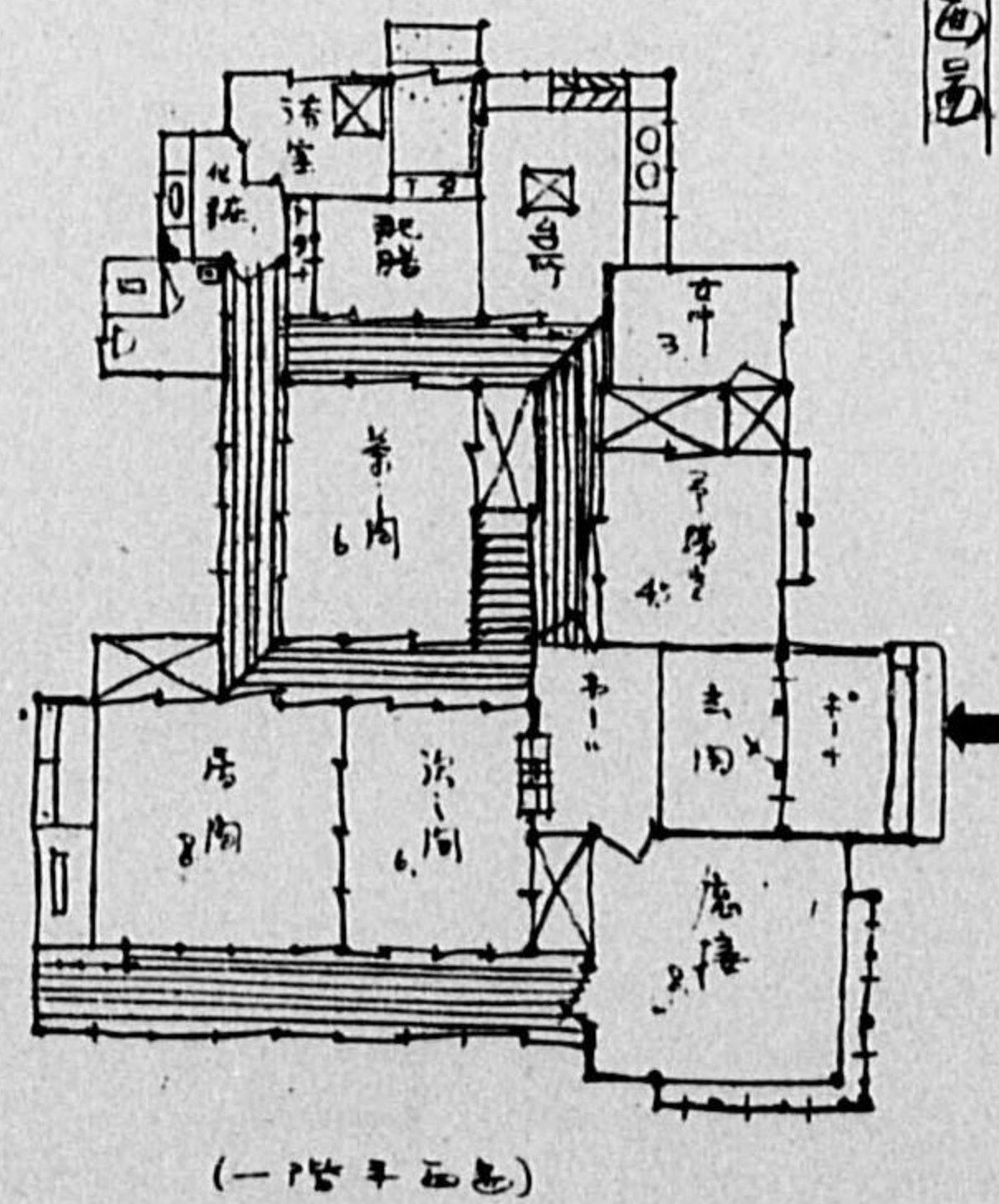
居宅正面圖



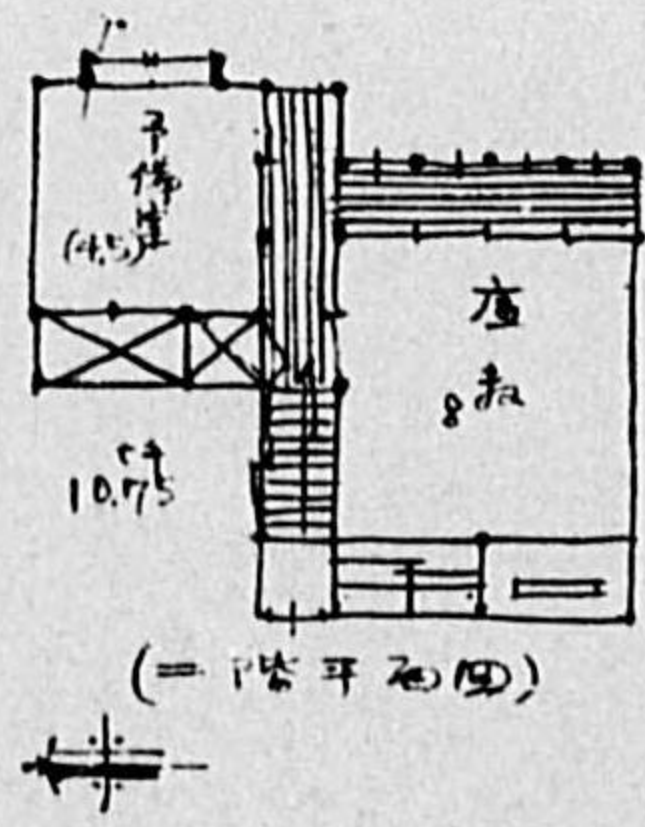
貸家正面圖



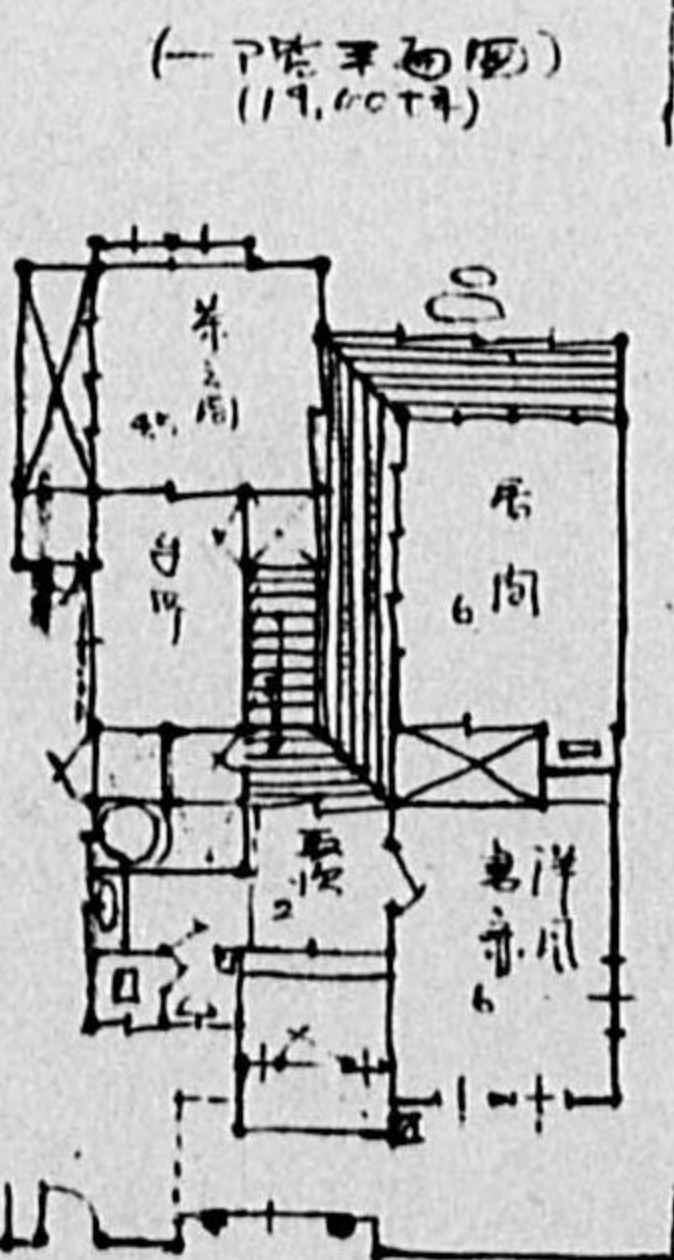
居宅平面圖



居宅平面圖



貸家平面圖



貸家平面圖



# 借家向住宅五案

1. ....	64
2. ....	65
3. ....	66
4. ....	67
5. ....	68

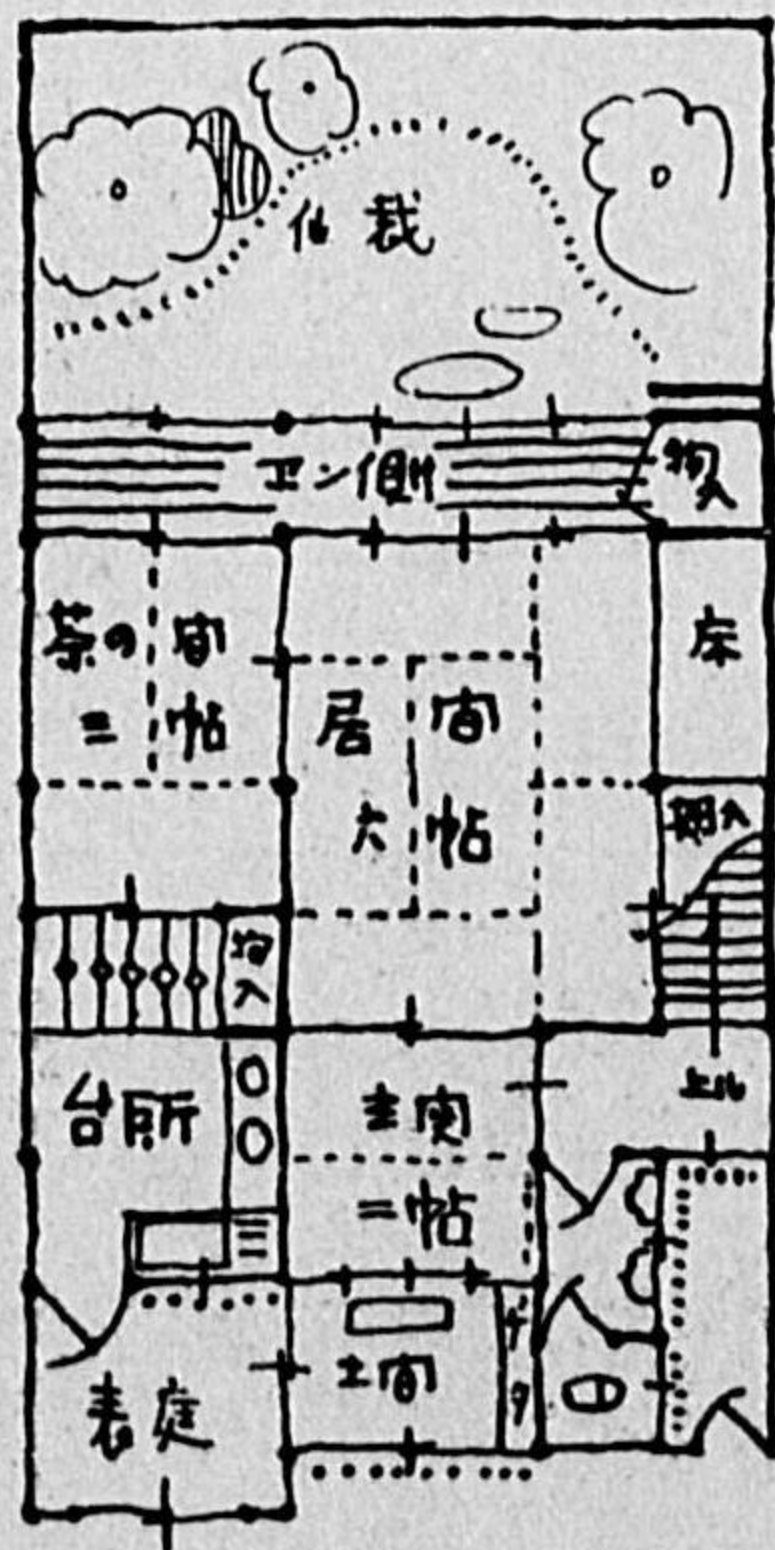


立 面 図

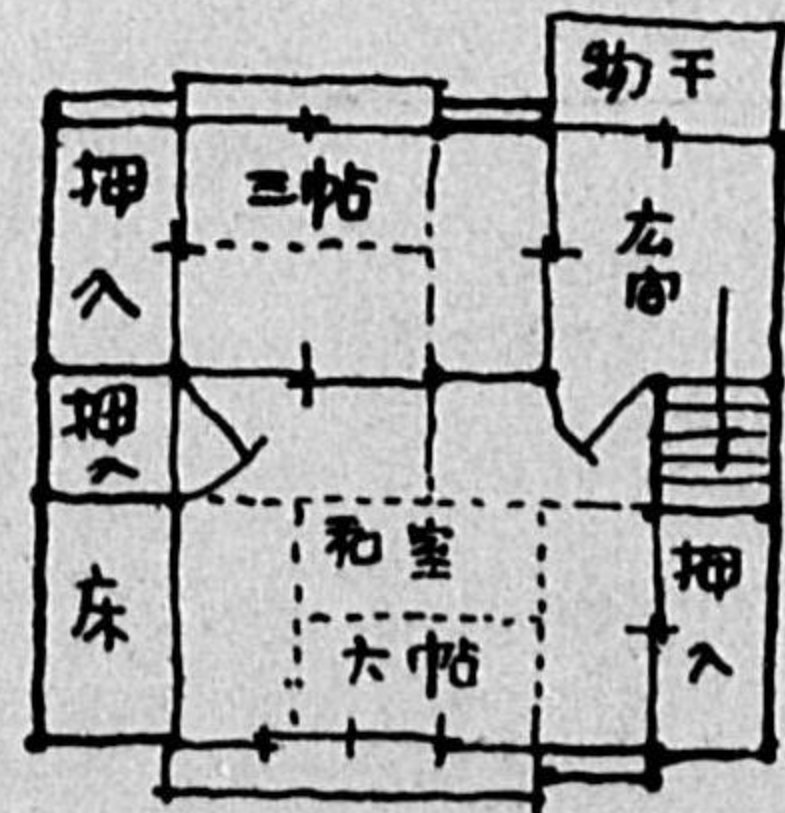
住居用としての借家向きのフランデ長屋風に連続するに適して居ります。階下二帖、三帖、六帖、階上に六帖、三帖を、特に押入を多くとりました。外観は日本風の杉皮貼とし、二戸連続ものを書いて見ました。

建坪 一階 十三坪  
二階 七坪半

借家の計畫



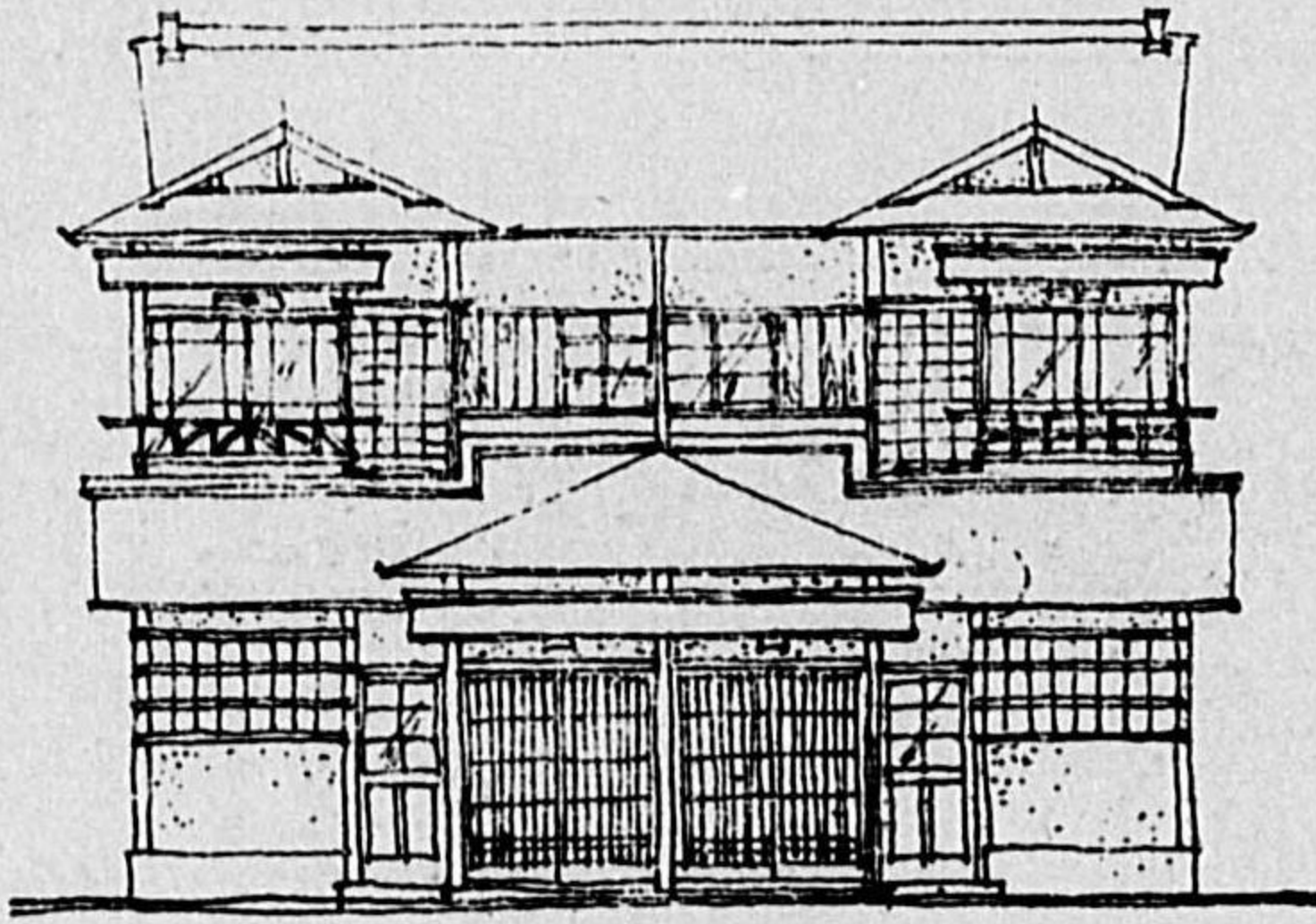
1階



2階

借 家 向 け の 家 計 画

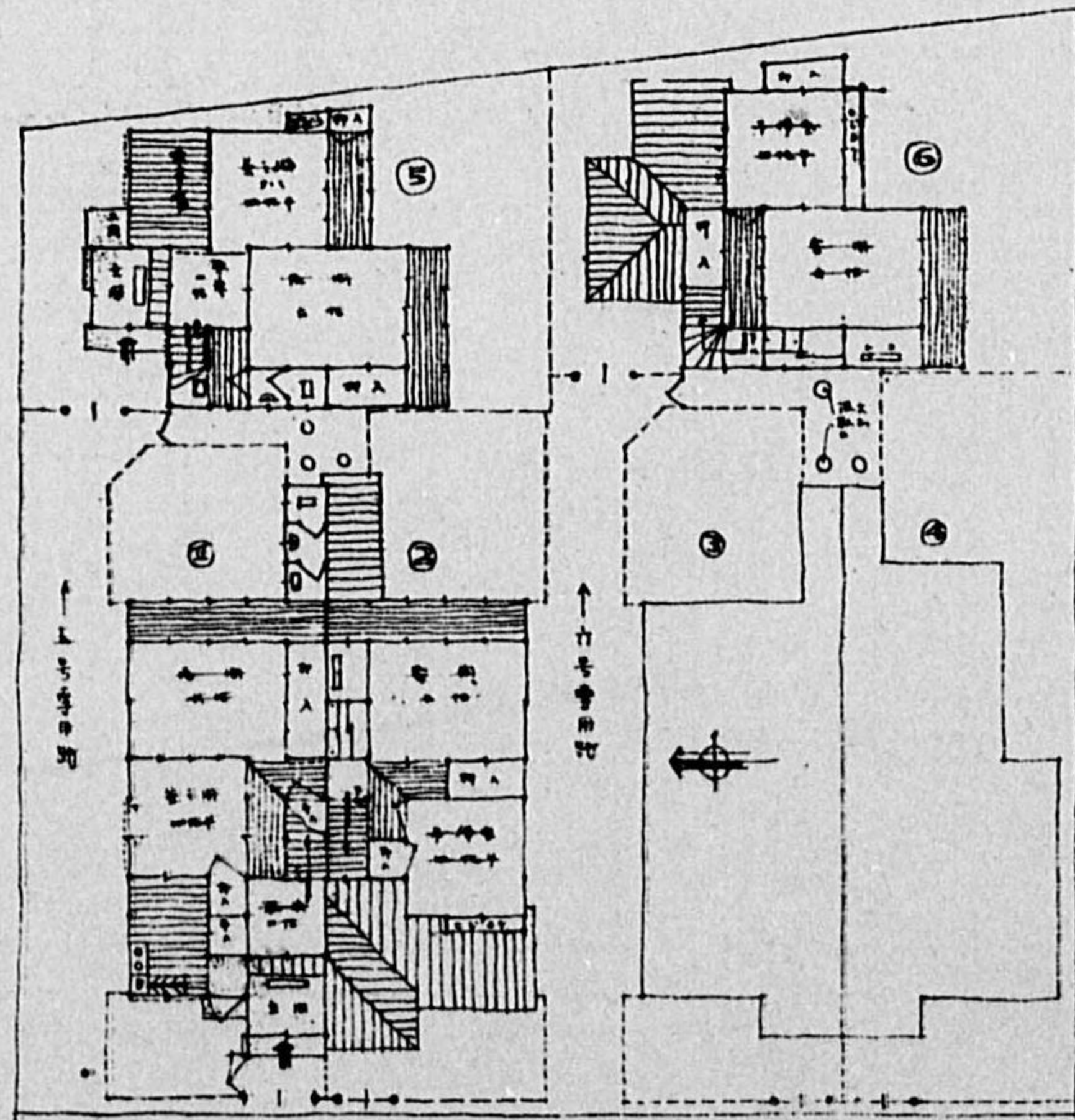
10	.....	1
20	.....	2
30	.....	3
40	.....	4
50	.....	5
60	.....	6



正面高

便所は成る可く一團になる様、即汲取りが便利でお互の家からも感じが良い事になります。平面圖の中で茶の間四帖半は様を取り入れて六帖敷にし肘掛窓にしても良いと思ひます。全體に於て押入を十分にし各室の便利である様配置しました。一戸當りの坪敷は次の様になりました。

① 號敷地	三三坪	建坪	一階	三三坪	二階	九五坪
② 號	三三坪	"	"	三三坪	"	九五坪
③ 號	三三坪	"	"	三三坪	"	九五坪
④ 號	三三坪	"	"	三三坪	"	九五坪
⑤ 號	三三坪	"	"	三三坪	"	九五坪
⑥ 號	三三坪	"	"	三三坪	"	九五坪
⑦ 號	三三坪	"	"	三三坪	"	九五坪
⑧ 號	三三坪	"	"	三三坪	"	九五坪

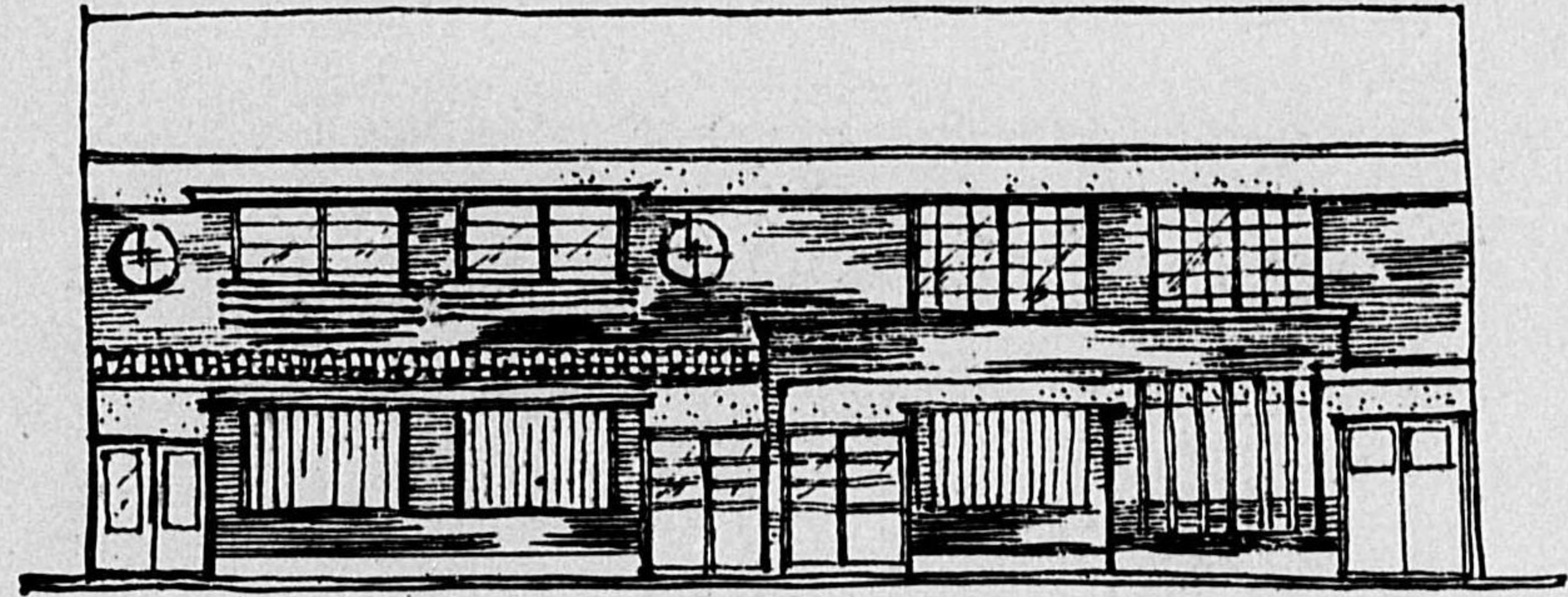


道 路

敷地 百七十六坪餘  
—— T 氏の 貸家 ——  
(間口十三間四分、奥行南側十四間、北側十二間半)

前は三間三分の道路で他の三方は隣地であります。これに六戸の貸家を建てる事にいたしました。此の土地は住居地域であるので敷地の十分の六しか建たないのであります。其處で道路に面して二戸建二棟、後に一戸建二棟建てる事に

しました。後方の家に對しては取締規則として中六尺以上の専用道路が必要であります。處で此の専用路に對しては他の家からの出入口を設ける事が出来ません。其れで圖の様に専用路を設けました。之れで玄関が裏鬼門をよける事になります。

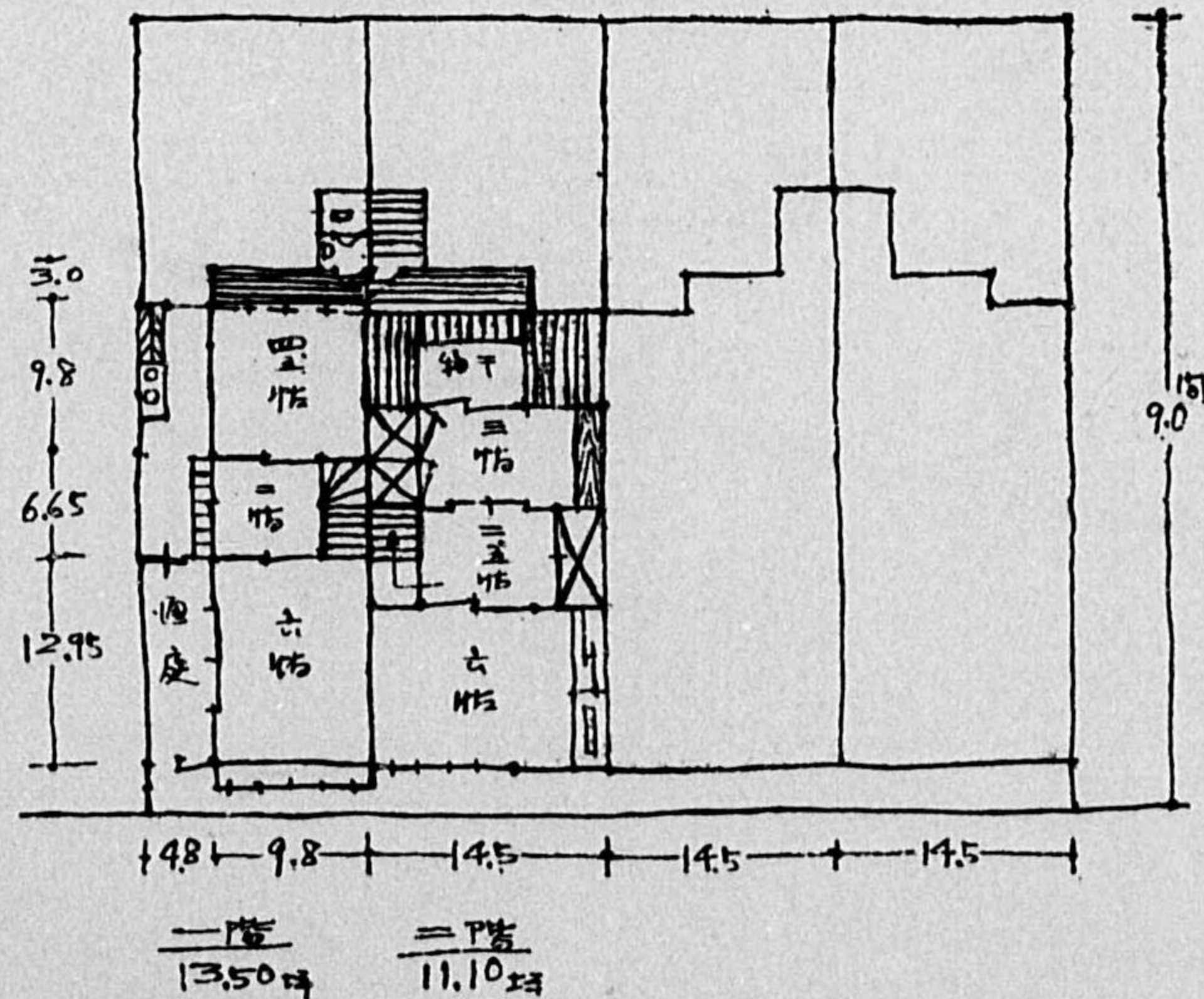


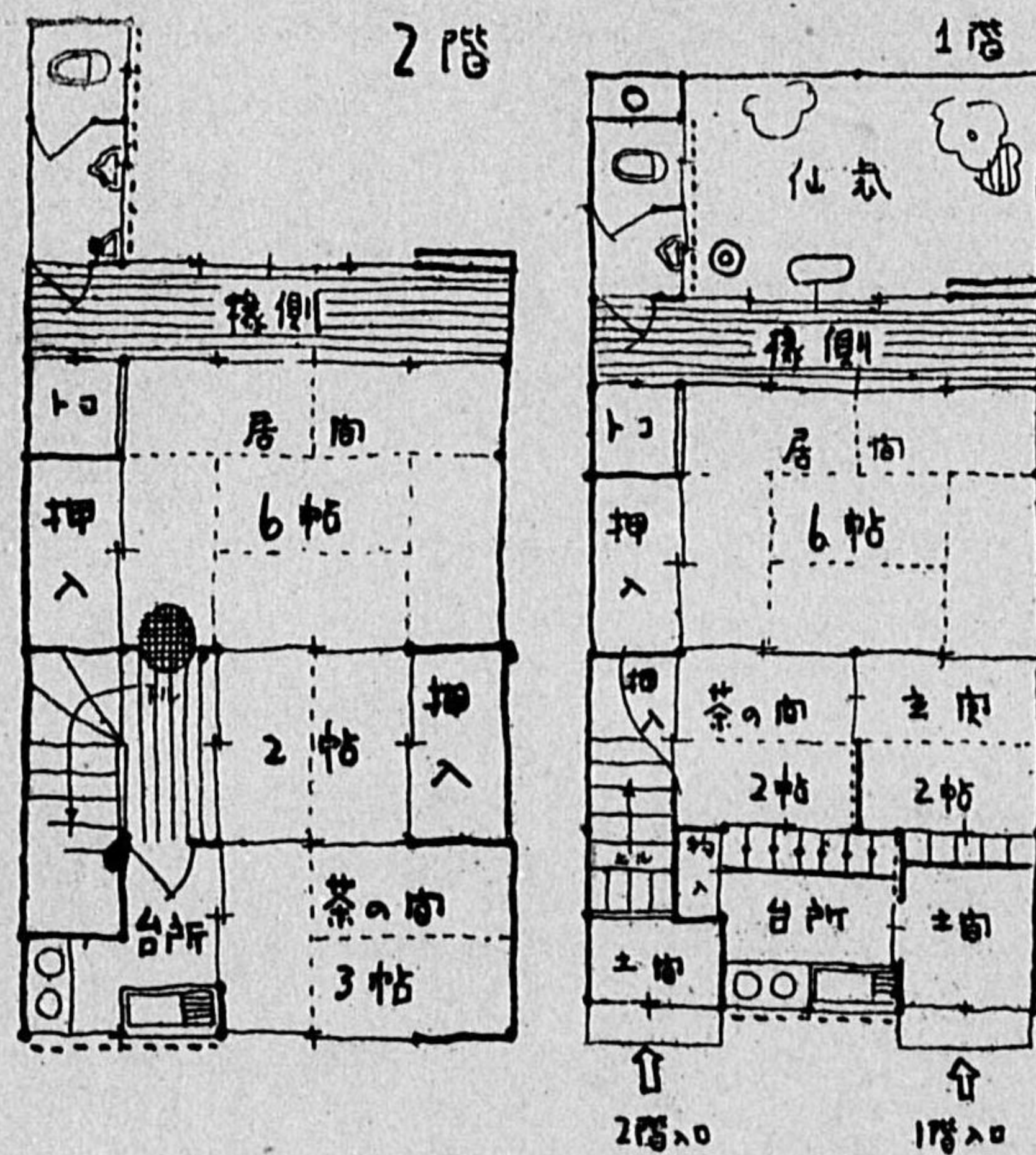
—— 四戸建の 貸家 ——

- 一、敷地 九十坪
- 二、建坪 一戸分
- 三、一階十三坪五分
- 四、二階十一坪一介

敷地は間口十間、奥行九間で前面は三間の道路であり之に四戸建の貸家を建てます。

此の土地が住居地域でありますので建坪は敷地の十分の六だけしか建ちません。其れで一戸當りの敷地を約二間半間口に取りまして各戸同じ間取りとしました。間取りは大阪在來の通庭のあるものであります。外部をタイル張りとして各戸多少の變化あるものとしては如何かと思ひ殊更に變へて見ました。

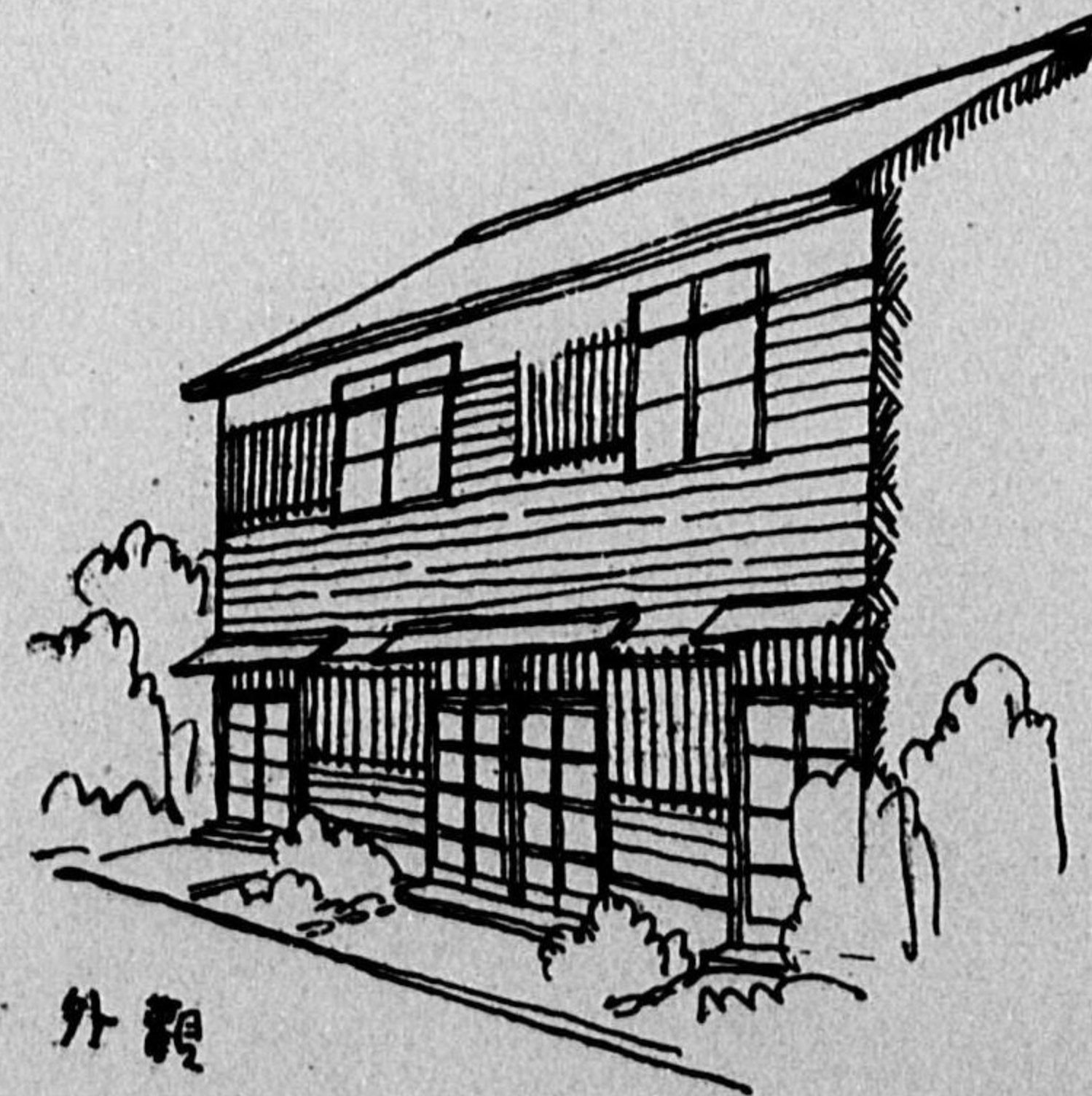




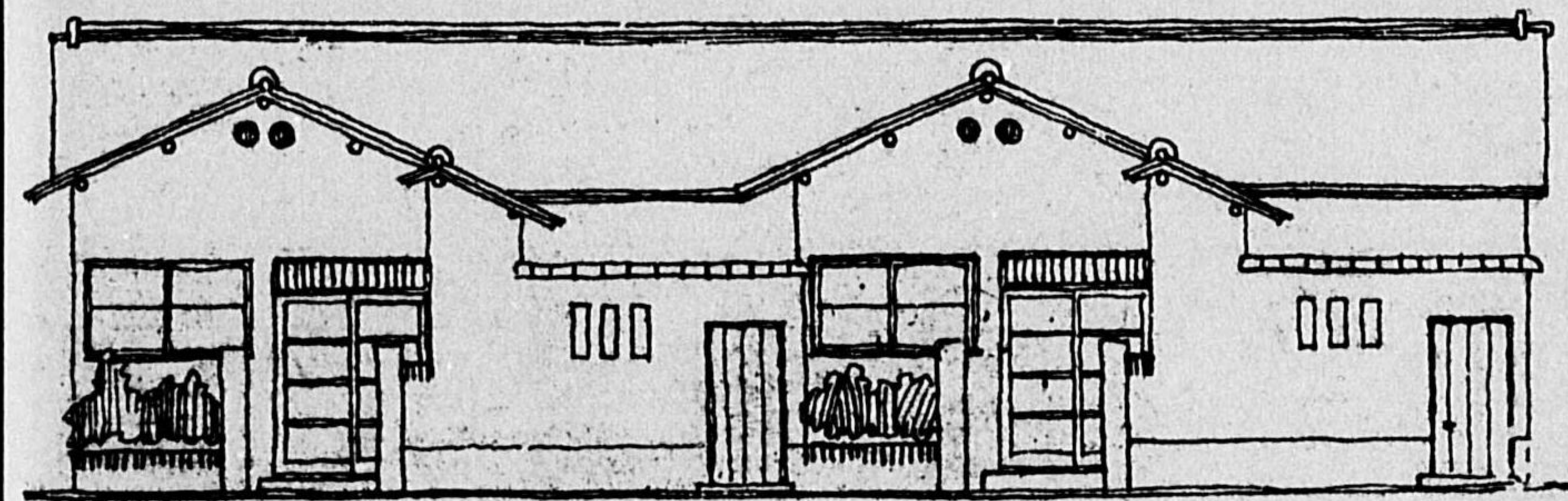
坪数  
一階 十三坪  
二階 十三坪  
計 二十六坪

— 勞務者の家 —

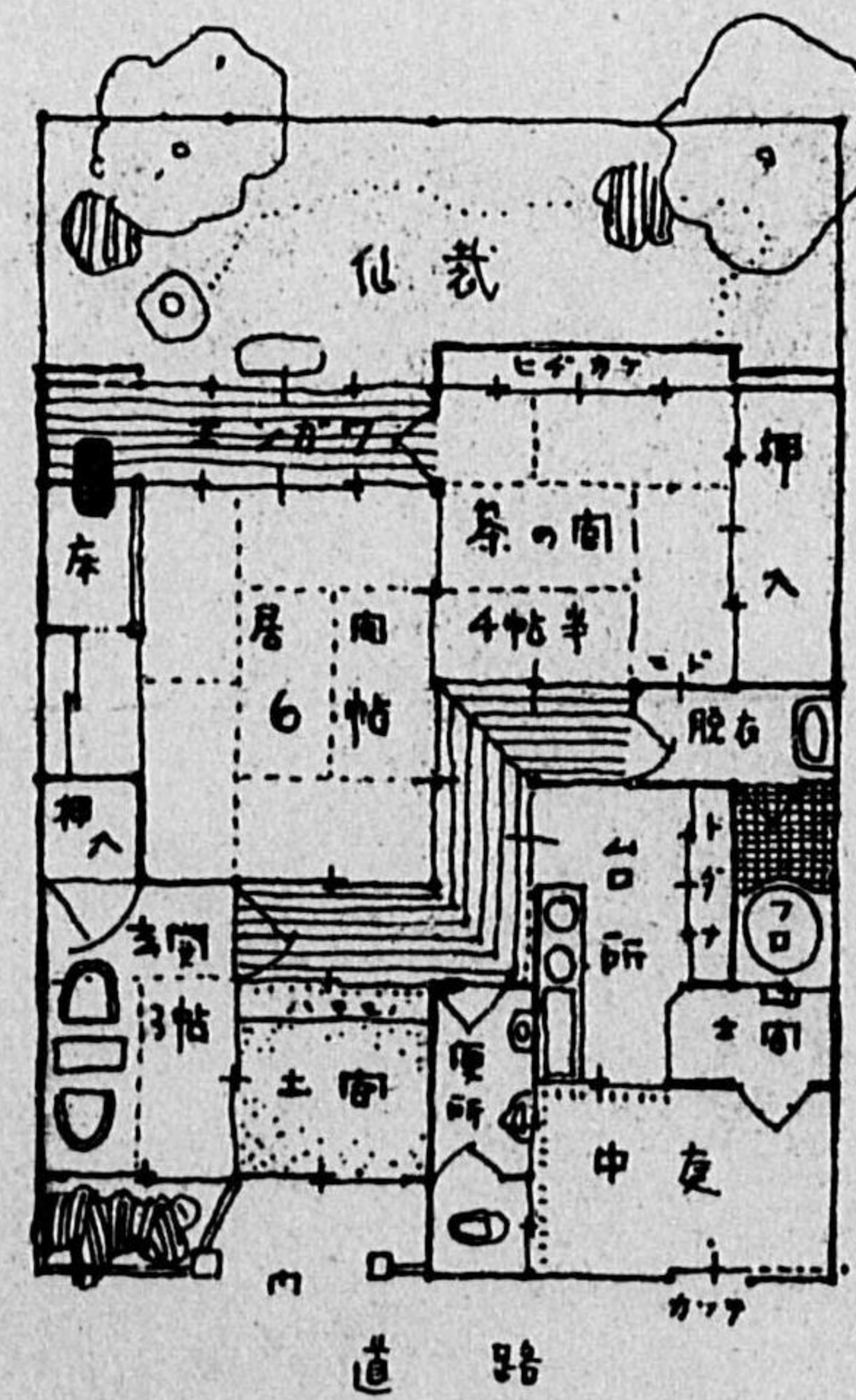
勞務者の住宅。此の度は夫婦者を対象としたもので、階下と階上を別世帯の住居とした謂はアパートと長屋の台の子と云つたものを考案して見ました。勿論横の方向に幾軒でも續け得るやうにしました。  
平家建に較べて一戸當りの工費も割安で土地の經濟にもなります。市街地の勞務者住宅としてこんな形式が増えるのではないかと思はれます。



外觀



正面圖



建坪 十五坪五寸  
借家向きとして数戸連続して建て得る様考へて見ました。玄關の三帖は簡単な家具でも置いて應接用とします。仙裁に面して六帖と四帖半、中庭に面して便所臺所等を取りました。此の中庭は補装をして洗濯場等に當てます。

— 借家向小住宅 —

集 合 住 宅

1. ....	69
2. ....	70
3. ....	71
4. ....	72



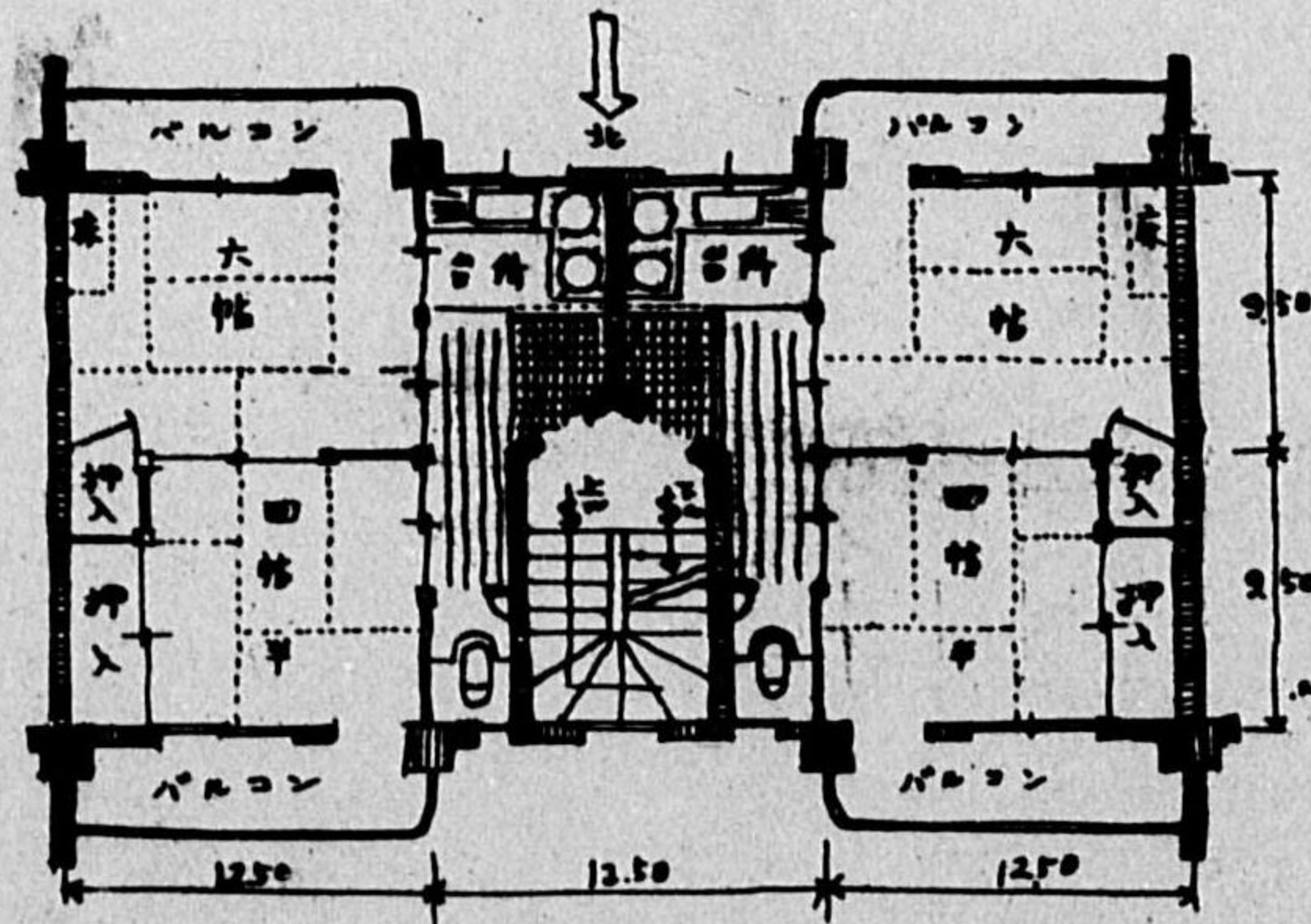
集合住宅 (A)

家族 四人迄  
坪数 十坪 (一家分)

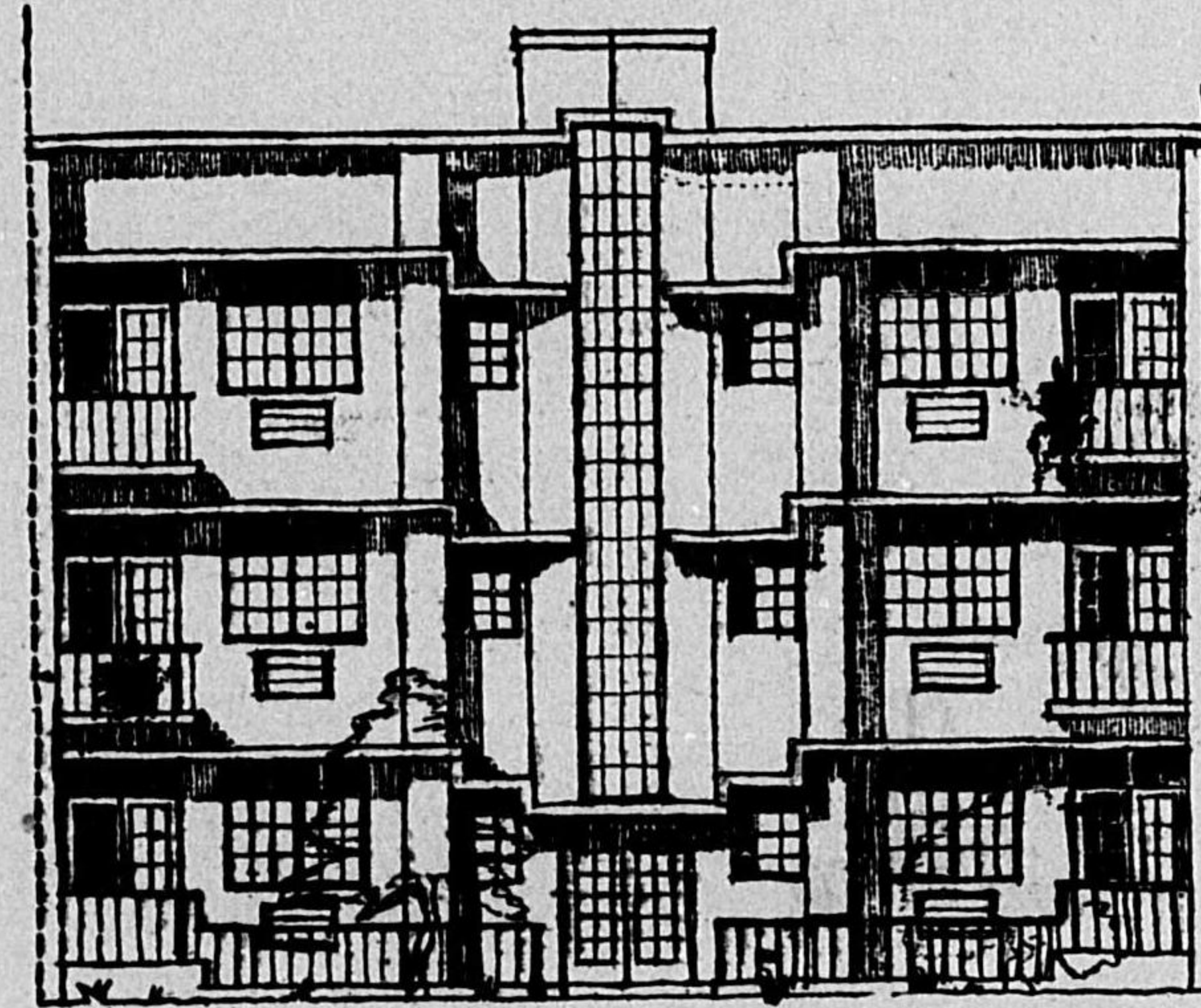
集 合 住 宅

09 ..... 1  
07 ..... 2  
17 ..... 3  
27 ..... 4

市街地に建つ借家は現在大部分木造家屋でありますが、之を鐵筋混  
凝土造に改良すれば衛生上及火災、震災、盗難、耐久、其他上空に  
延びる故に敷地が縮少される事に於て木造は比較にならぬ位劣ります。  
しかしそれは費用の點に於て實行がむづかしいのです。生活が要求す  
る最少限の部屋を秩序よく配置し坪数を少く且長屋式に連續すれば工  
費も低廉になり敢て實行困難でもないと思ひます。  
以上の様な心持ちで今度は小家族の集合住宅をやり續いてこの種の  
住宅を四五やつて見るのでありますが、建物の設備其他の説明は次  
回に致します。



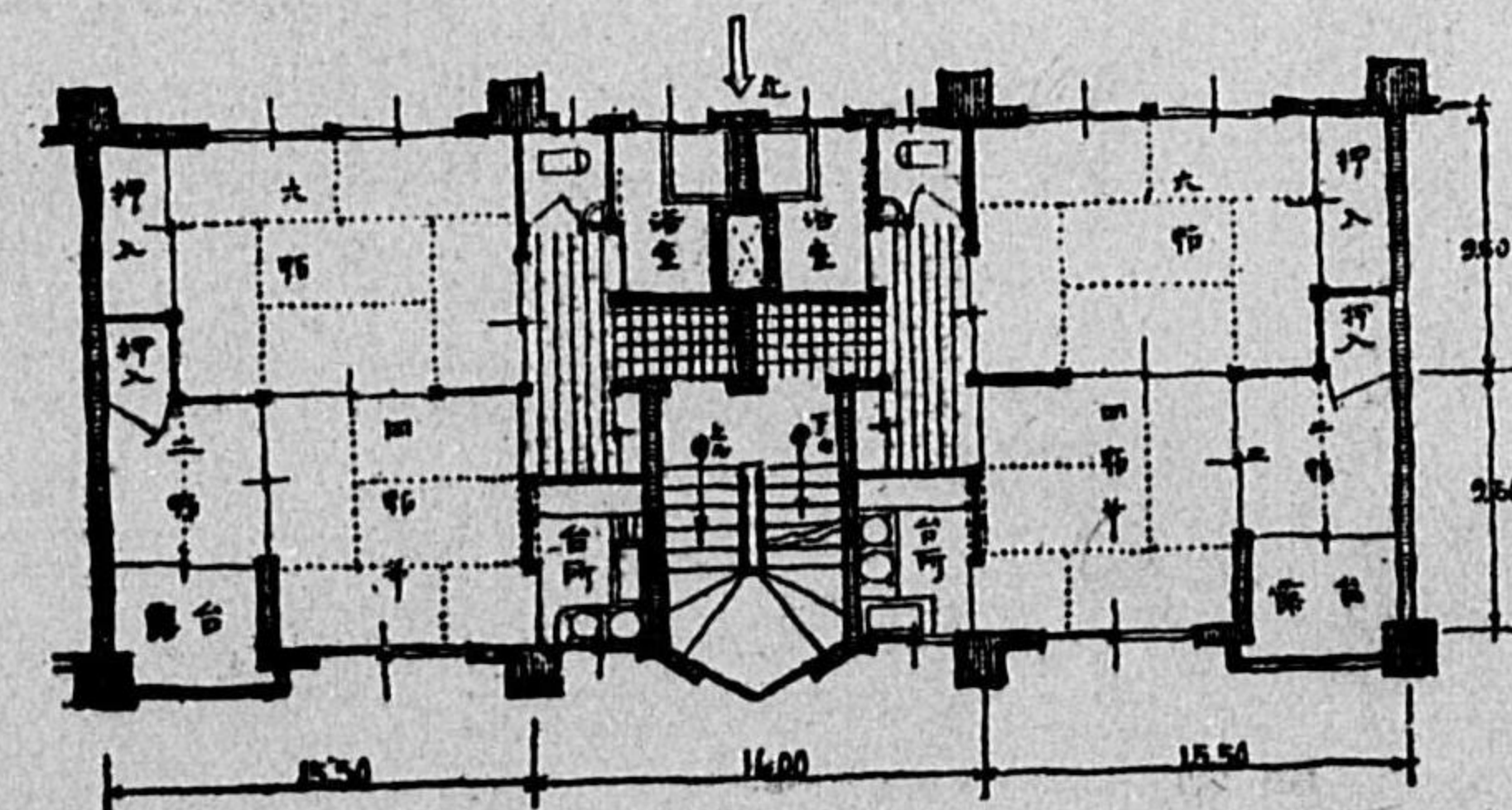
集合住宅(B)



今度は前よりやゝ部屋数の多いプランですが之等のプランを左右に幾つも連続し三階建の鉄筋混泥土造の大長屋とします。さうすると便所、下水、汚水等の浄化槽、瓦斯、電燈、給水、暖房等其の他の設備の中樞が一ヶ所にて済み各々家は経済的に之等愉快な新しい設備に接する事が出来ます。

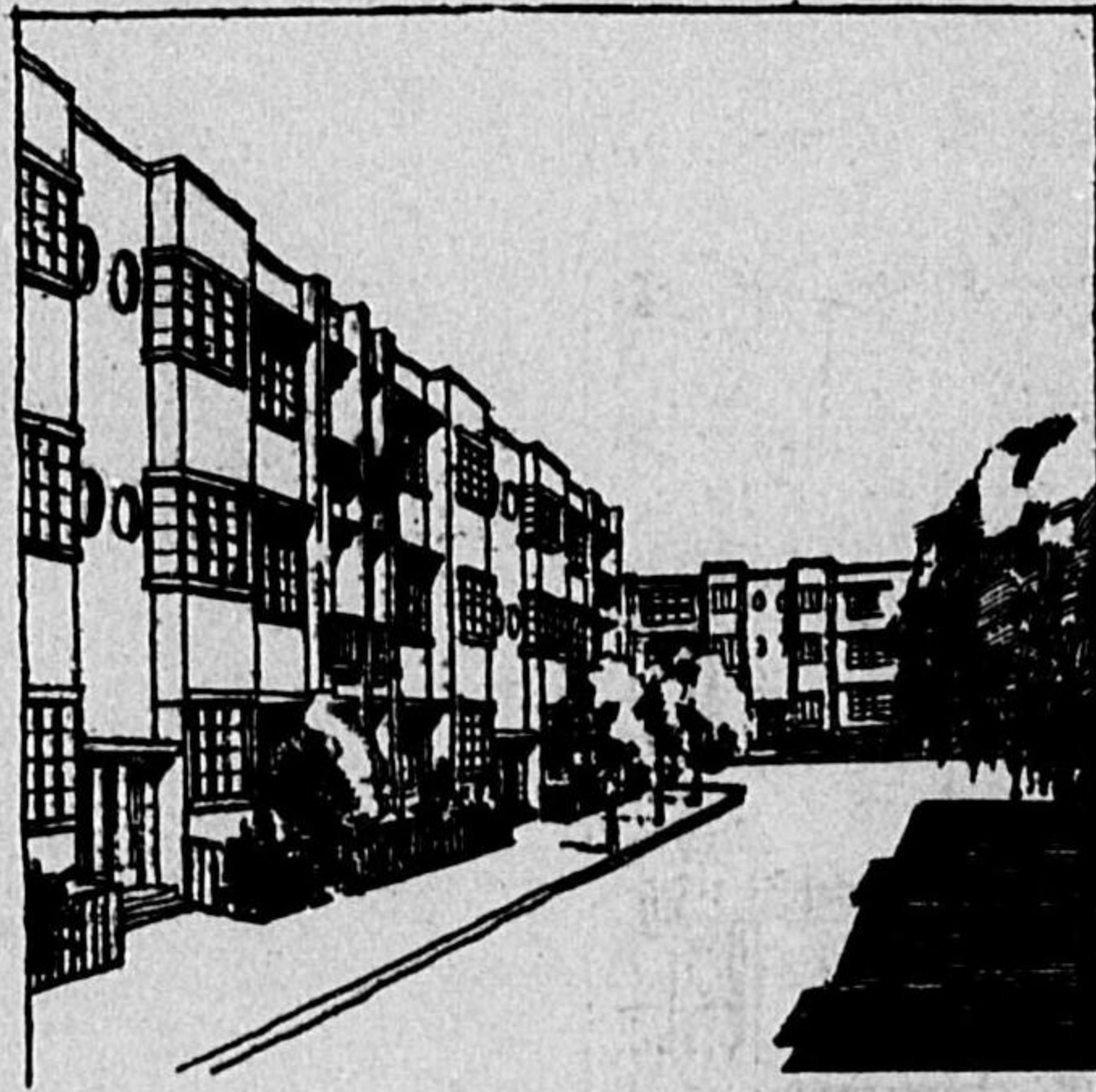
そして各家毎に鉄筋混泥土造りの壁にて仕切り火災の際の類焼を防ぐ様にし、その内部の小さい間仕切は在來の日本住宅同様木造の眞壁壁、床は畳敷、天井は板張りとし鉄筋混泥土造の堅い感じを室内に表さない様にします。

家族 五・六人位  
坪数 十二坪四



集合住宅(C)

家族 四人位迄  
坪数 八・七坪(一家分)

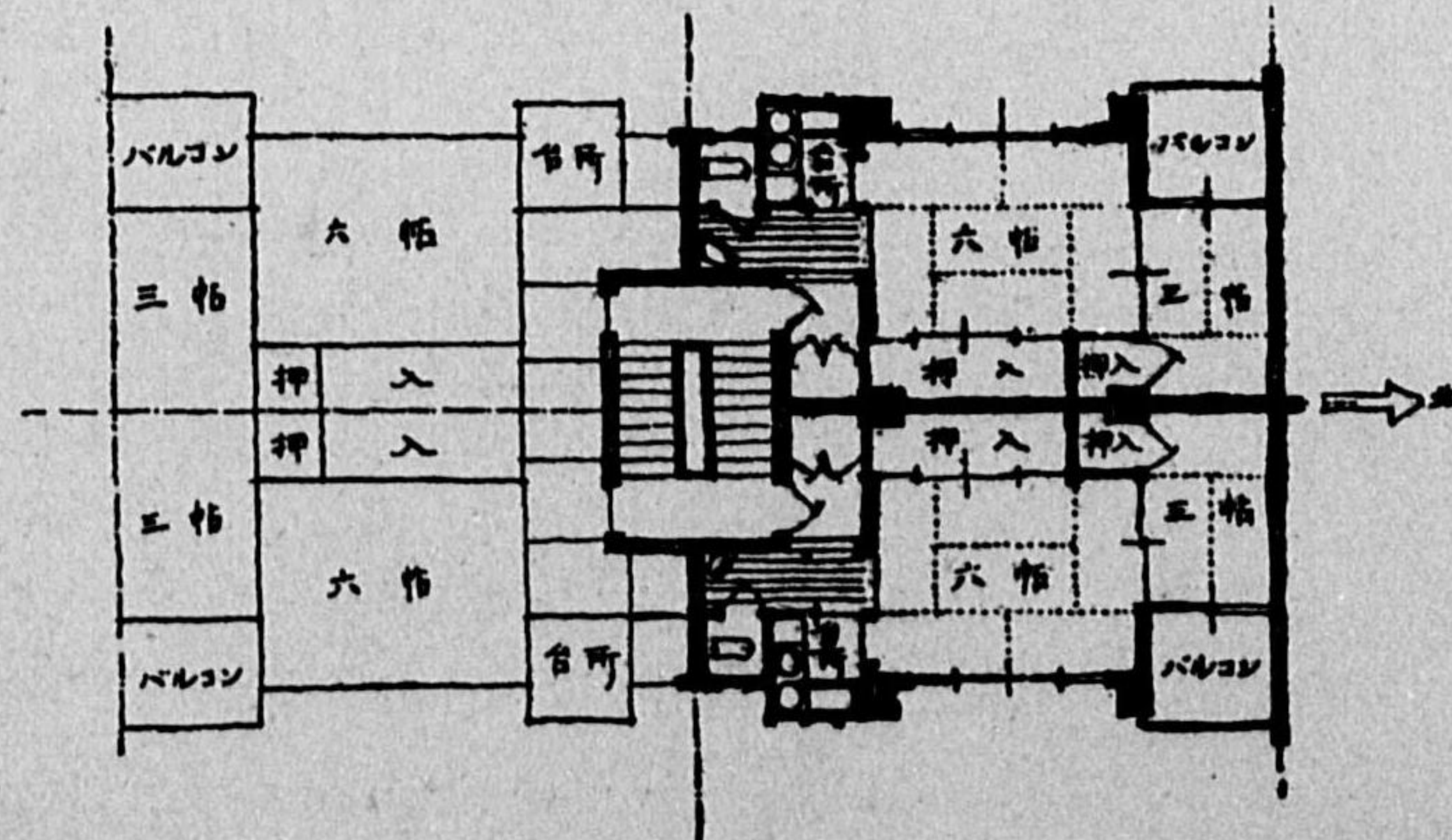


集合住宅をプランの上から大別すると大體二種に分れます。各家族群が一棟の中に幾組も生活し一つの階段によつて出入するもので主に歐洲に於て用ひられるものと、主なる入口及階段(又はエレベーター)が中央の一個所に集中せられ全同一階の家族は全部中央

の廣間によつて交通が出来るもので米國に多く用ひらるゝプランとです。前者は比較的面積が少く済むが敷地毎に完全に仕切られて居る關係上エレベーター等を設けるも使用する事が少いので不経済となり、従つてエレベーターなしに二三階建位迄であるが、後者は各階の廣間に相當の面積を要するので面積は少々不経済ではあるが前者の様な欠點はありません。

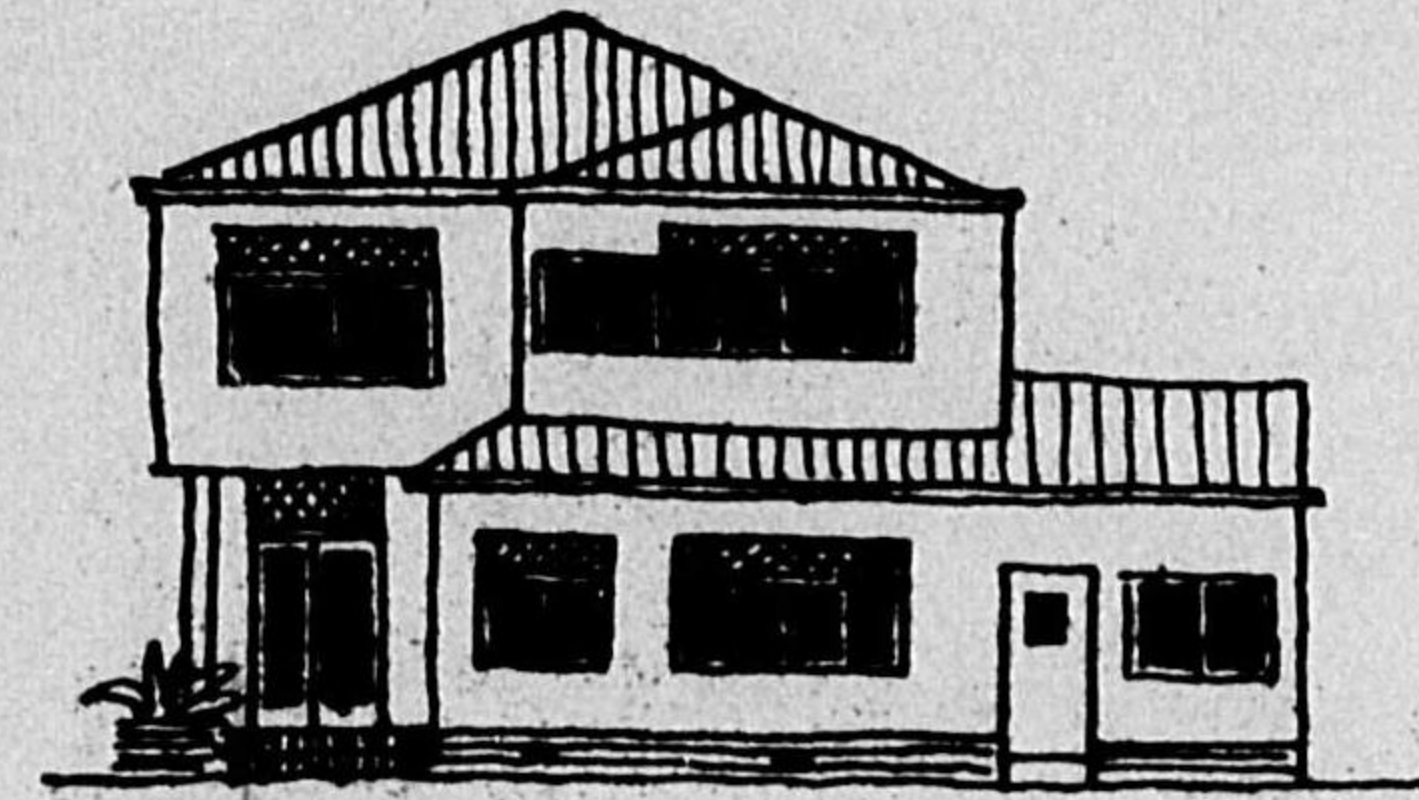
以上より考へて現在の日本には前者が適當かと思ひます。

本集合住宅のA、B、C共前者に屬するものでA、B、Cは一つの階段を共に家族が使用しCは十家族が使用するものであります。



# 中流住宅十案

- 1. .... 73
- 2. .... 74
- 3. .... 75
- 4. .... 76
- 5. .... 77
- 6. .... 78
- 7. .... 79
- 8. .... 80
- 9. .... 81
- 10. .... 82

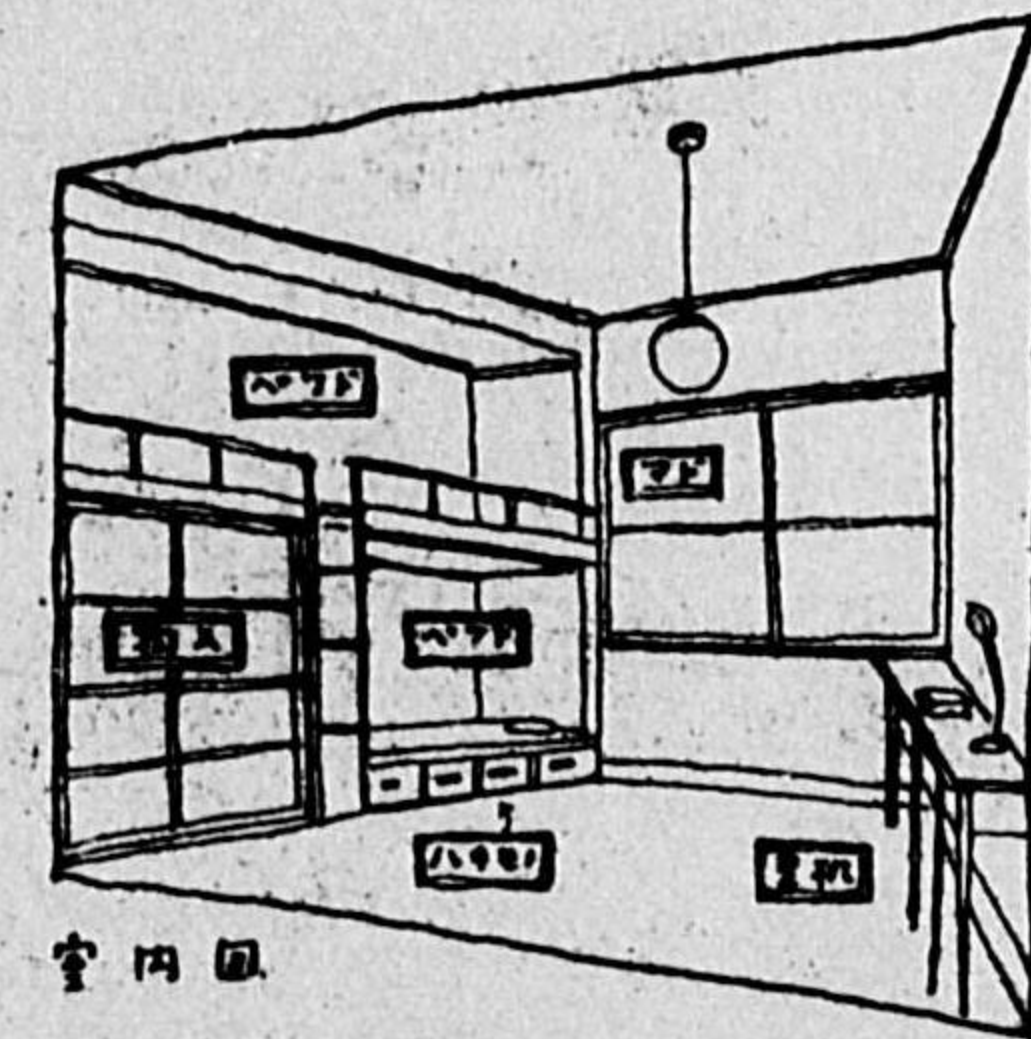


正面図

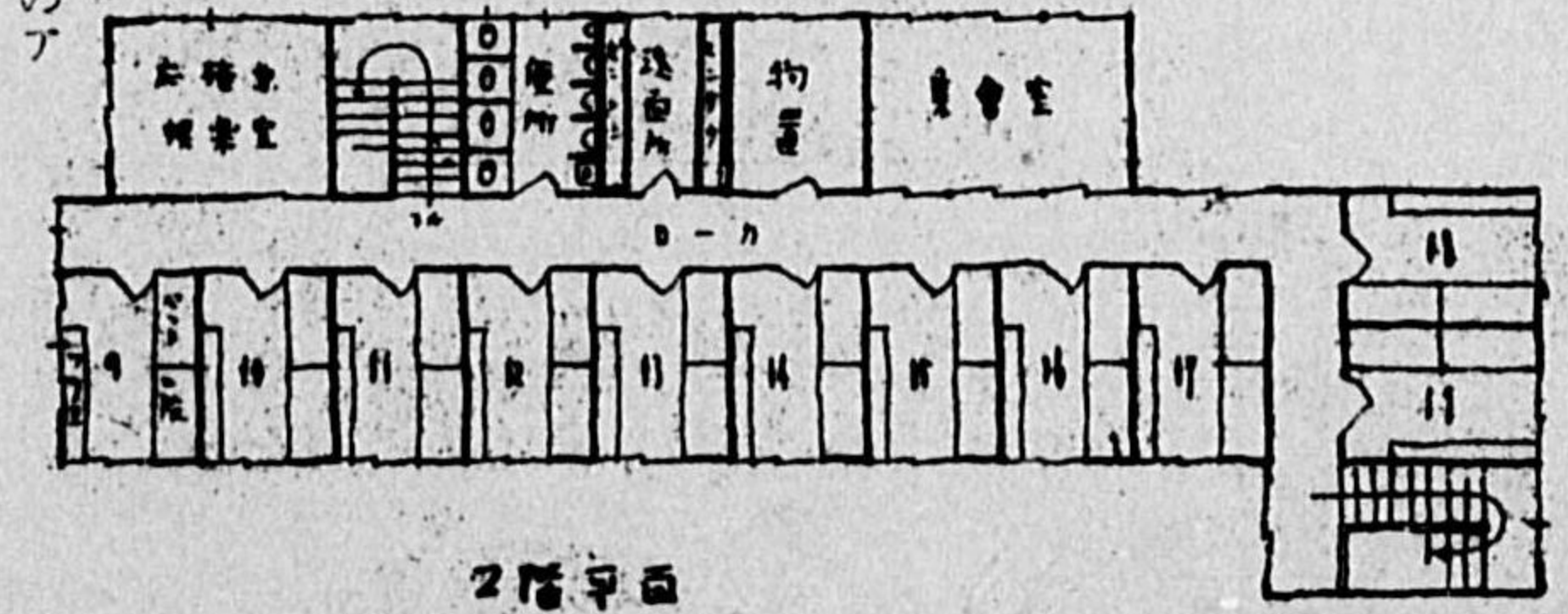
建坪 一階 九十一坪  
二階 七十七坪  
計 百六十八坪

—— 労働者アパート ——

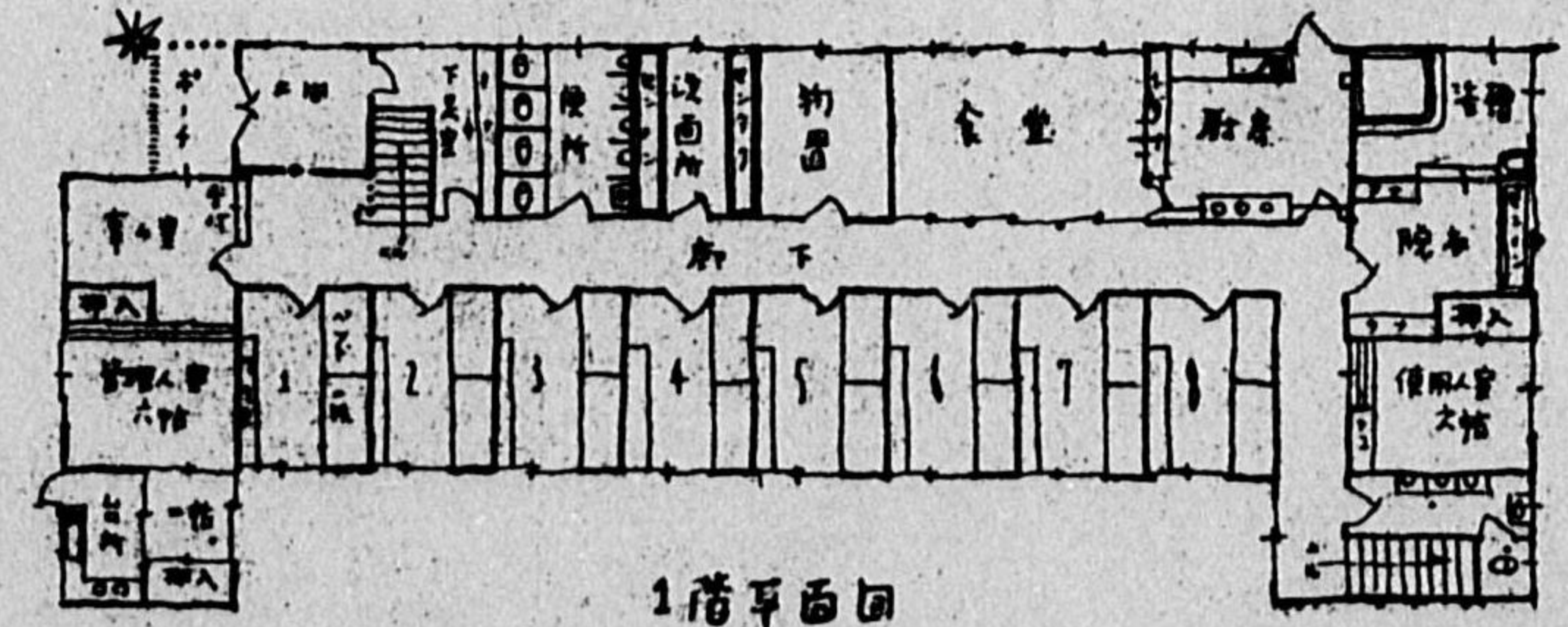
近頃厚生省で奨励して居る労働者向けのアパートを考へて見ました。一室六帖大に三人を收容しやうと云ふ極めてきりつめたもので、獨身職工を對象としたものです。室内圖の通りベッドは汽車式として二段、その下に私物入れ用として、物入れ及履物入れを作り簡単な書棚を片側の壁に取付けます。計六十人足らず收容し共用の室として食堂、集會室、



室内圖



2階平面

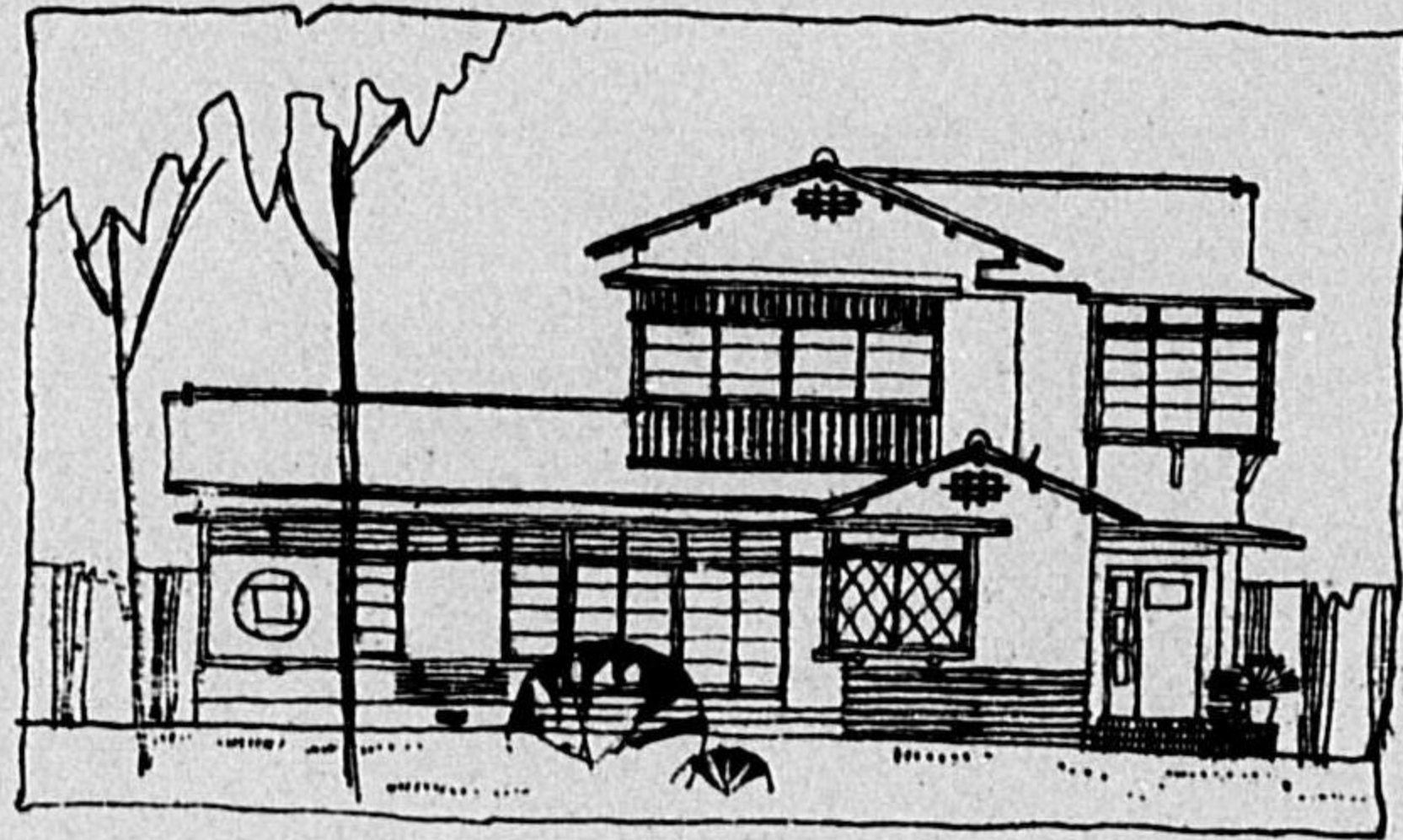


1階平面

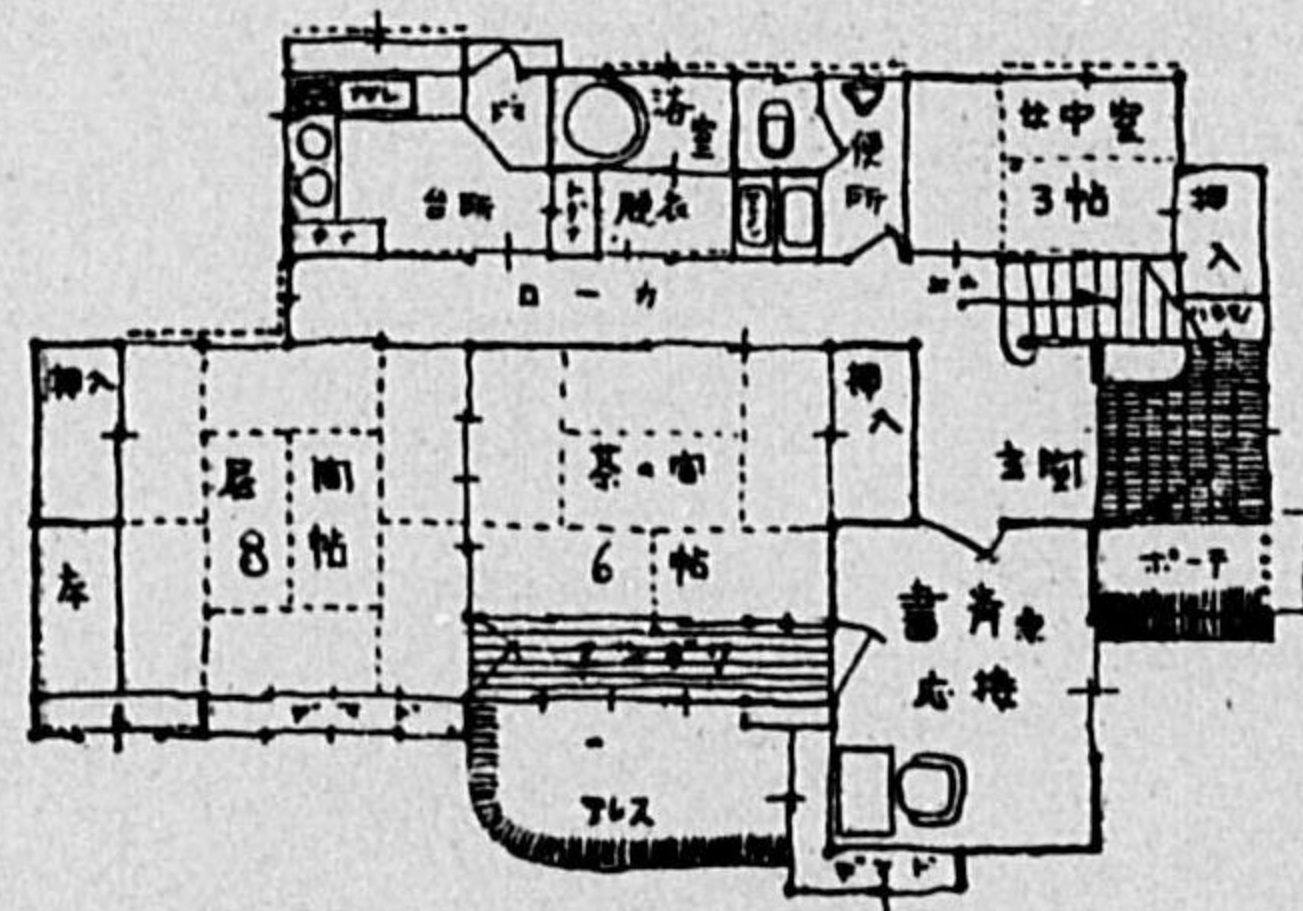
應接兼娛樂室をとりました。少々狭い感もありますがそれがそれだけ室料の方で廉くする考へです。



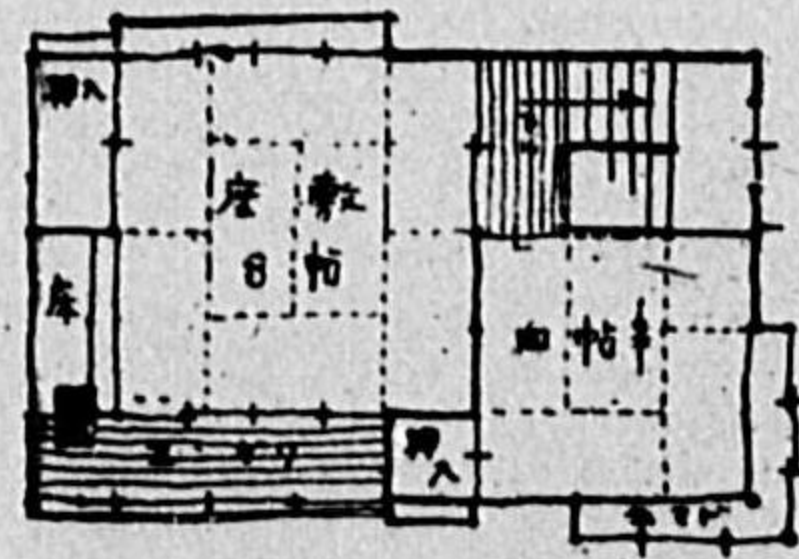
中 流 二 階 十 案



立 面 圖



壹 階 平 面 圖



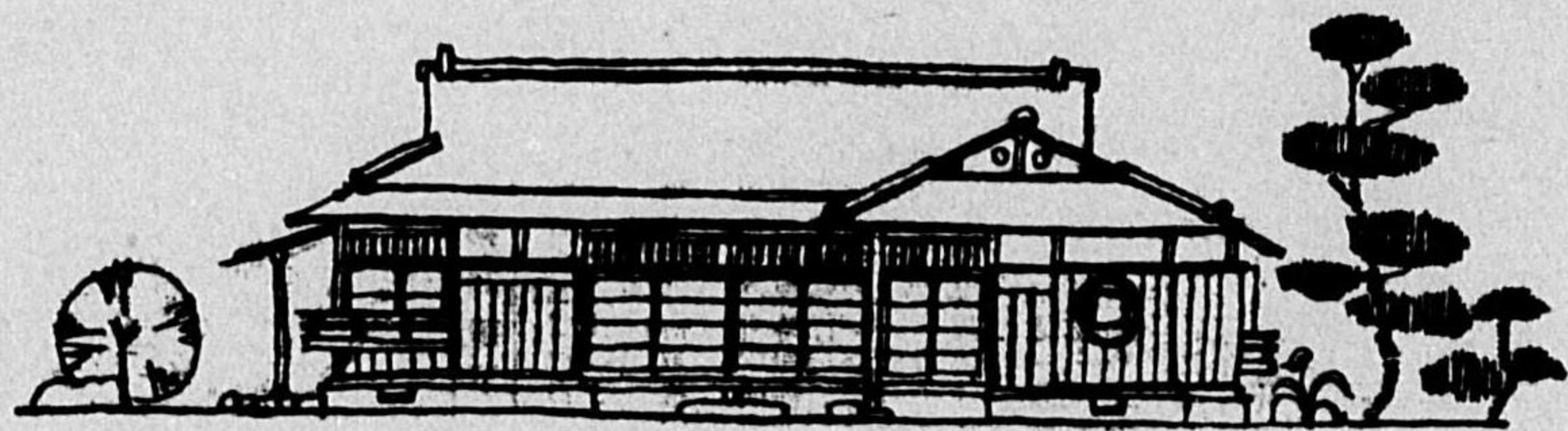
貳 階 平 面 圖

洋風二階建住宅

建坪 一階 二十七坪  
二階 十二坪  
計 三十九坪

外觀 洋風の中流二階建住宅、屋根は日本瓦葺とし外壁色モルタル掻落仕上げとします。内部は支關廻りと應接室を洋風とし他は全部日本間とします。五六人位の家族向の郊外住宅として適當と思ひます。

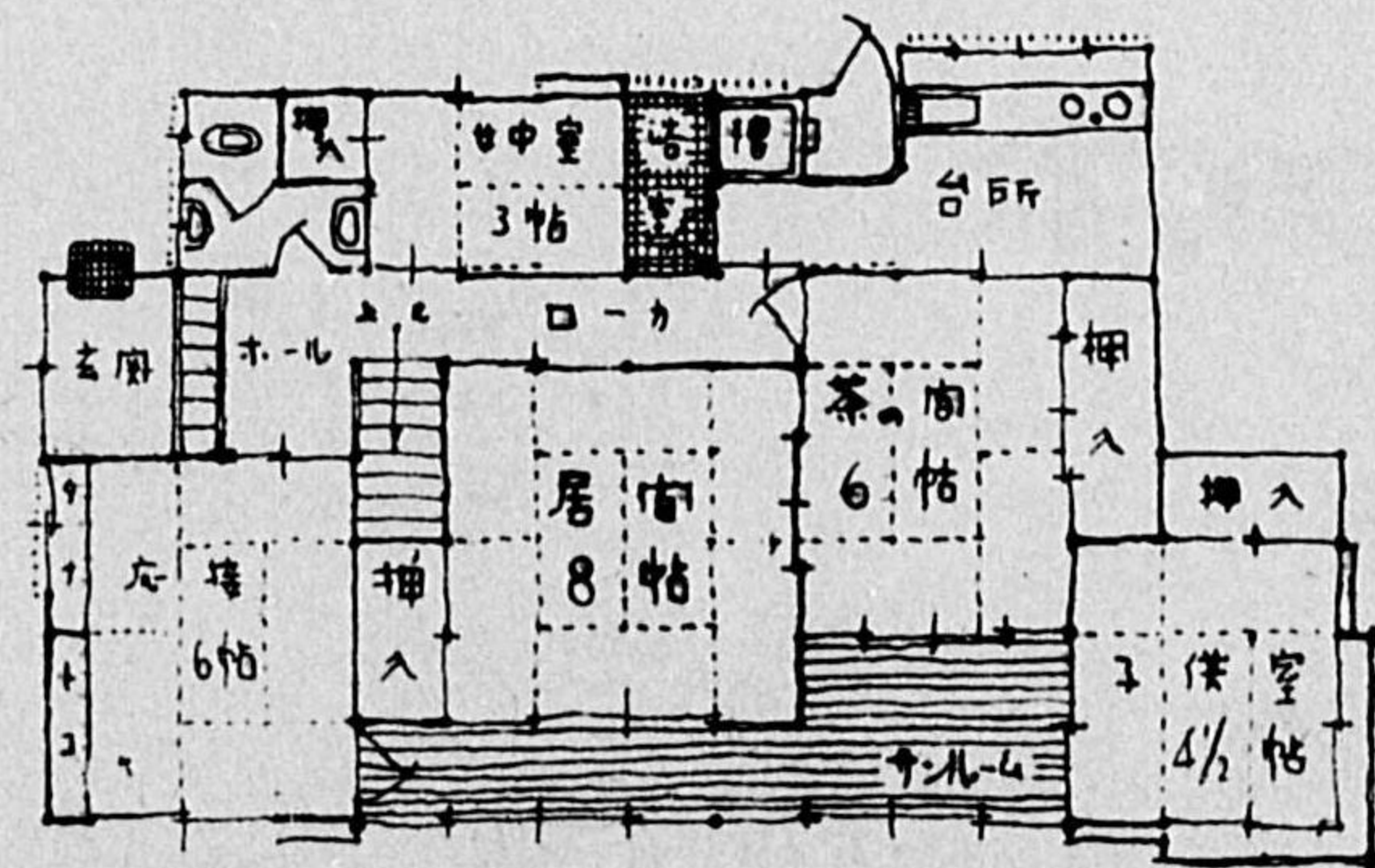
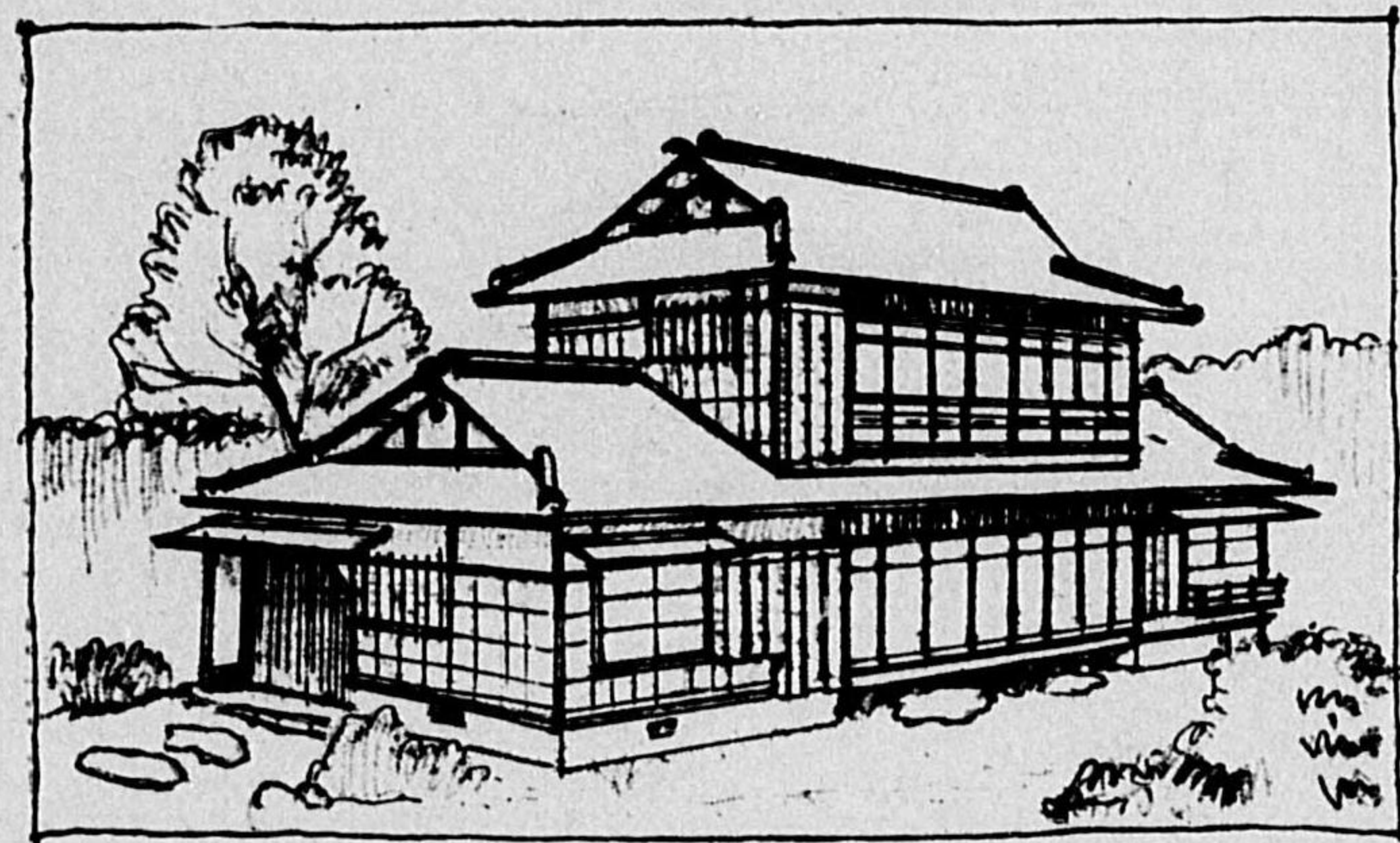
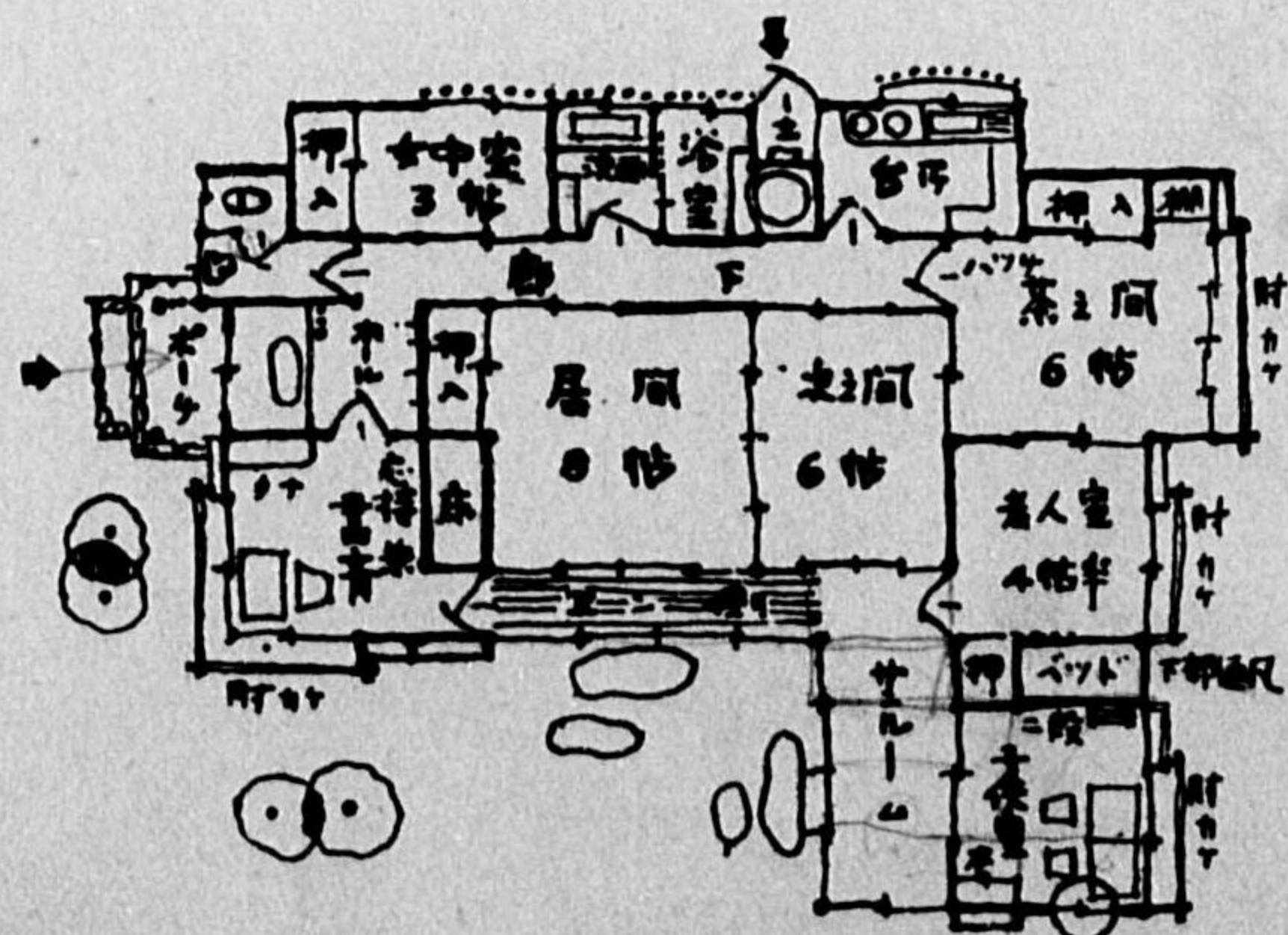
87	.....	1
47	.....	2
27	.....	3
07	.....	4
77	.....	5
87	.....	6
27	.....	7
08	.....	8
18	.....	9
88	.....	10



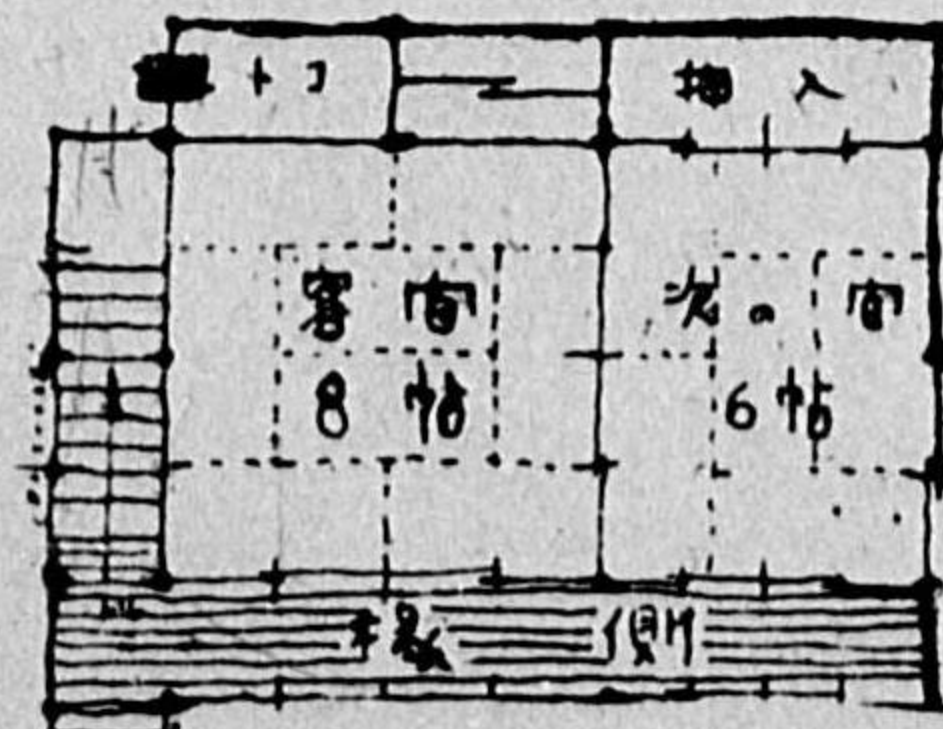
建坪 疊坪 三十三坪五合

郊外に建つ家族夫婦子供二人老人女中一人位の住宅です。外観は瀟洒な和風とし、玄關、廻りを数寄屋風たつぷりに取扱ひ應接兼書齋及子供室を洋風、老人室子供室前にサンルームを設け子供の遊戯場老人の日光浴等に利用致します。全體に亘つて各部屋の連絡に無理の無い様又ゆつくりと家族本位に考へてあります。

和風住宅



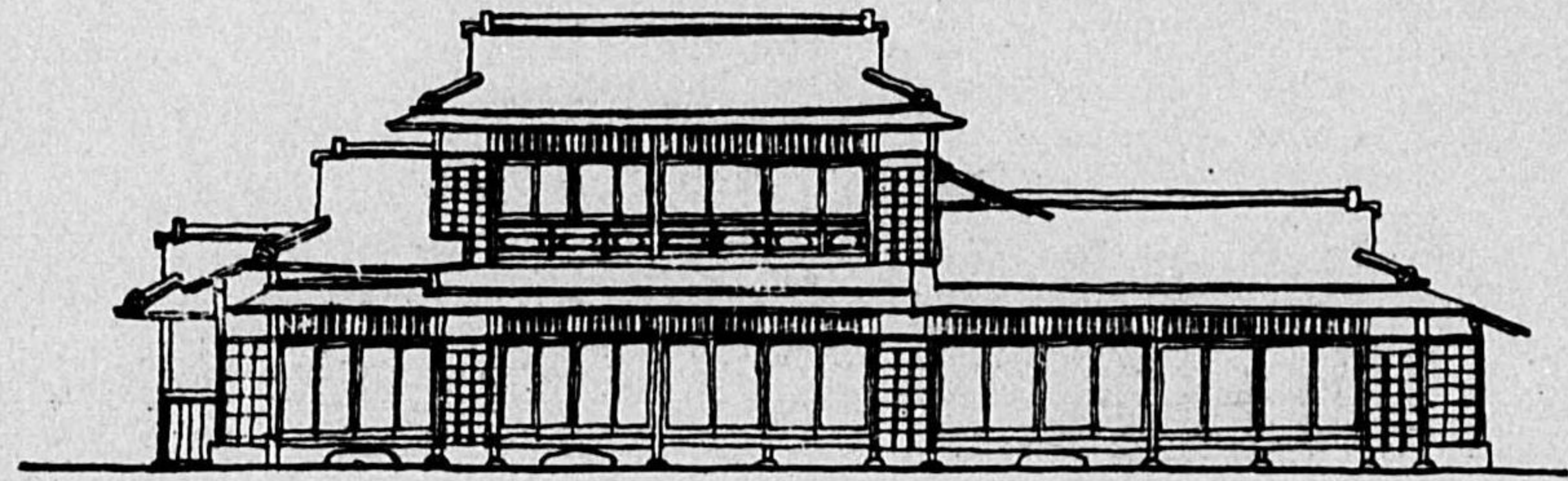
壹階平面圖



貳階平面圖

五六人位の家族向きの實際的な中流住宅、時節柄いろんな材料の制限もありますので軒の割幕も出来るだけ少く洋室も擬して和室許りとします。ホールと應接室は折衷式として日本趣味の家具でも置いて椅子式としてもいゝかと思ひます。茶の間は間中だけ引込めて前面を一間の廣縁として子供の遊び場等に當てます。二階は八帖と六帖の座敷とします。

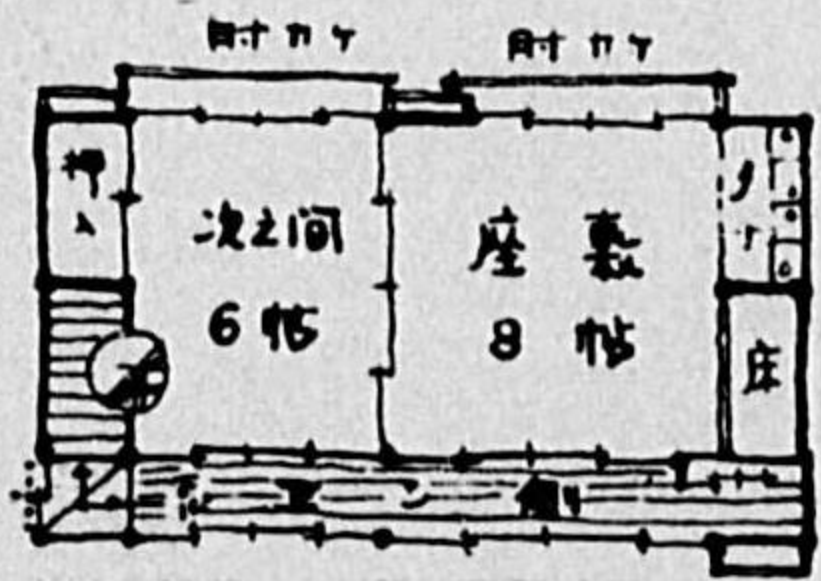
中流二階建住宅  
建坪 一階 二十六坪二合五勺  
二階 十一坪七合五勺  
延 三十八坪



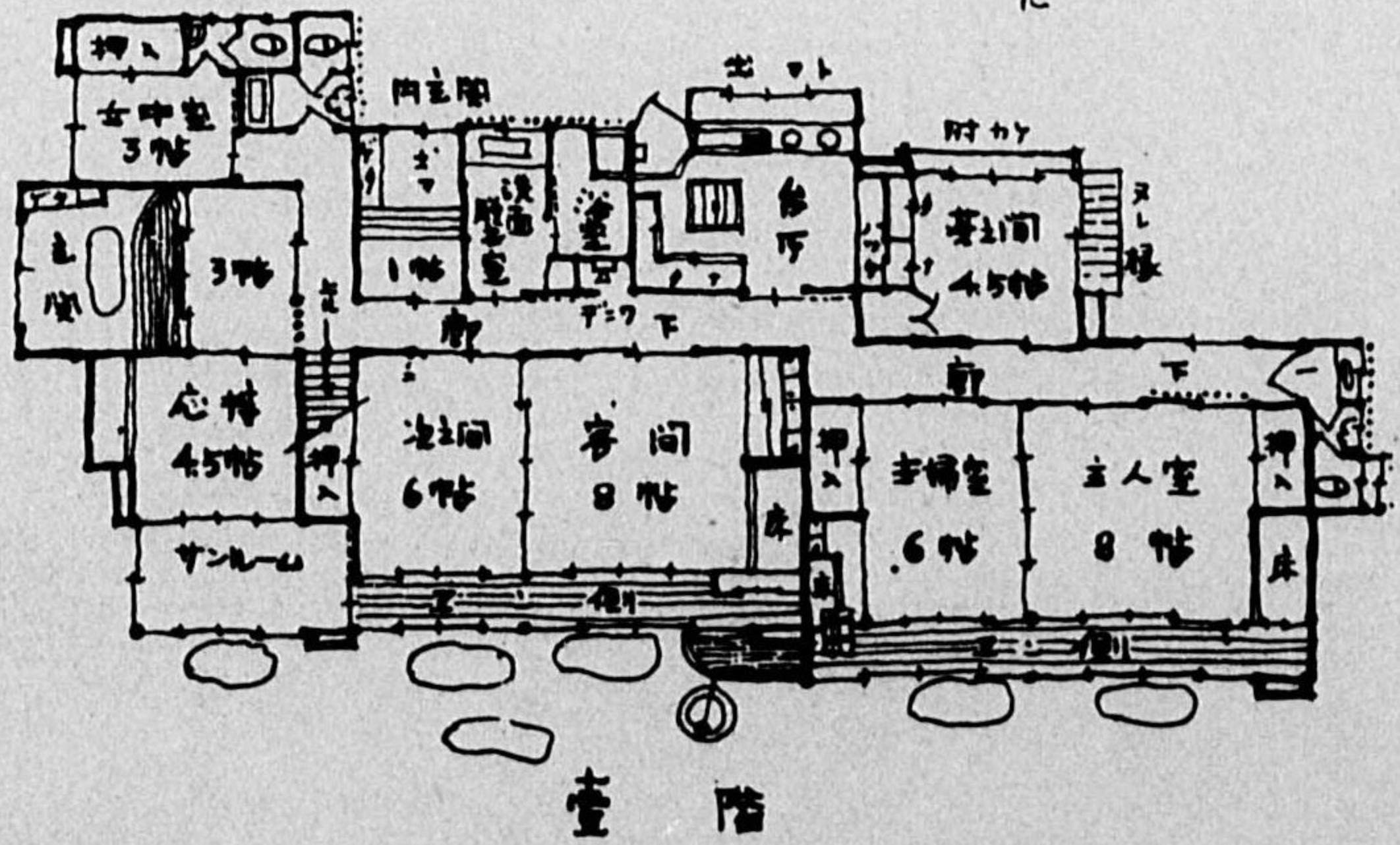
和風中流住宅

建坪 疊坪  
 一階 五十坪  
 二階 十一坪二合五勺  
 延坪 六十一坪二合五勺

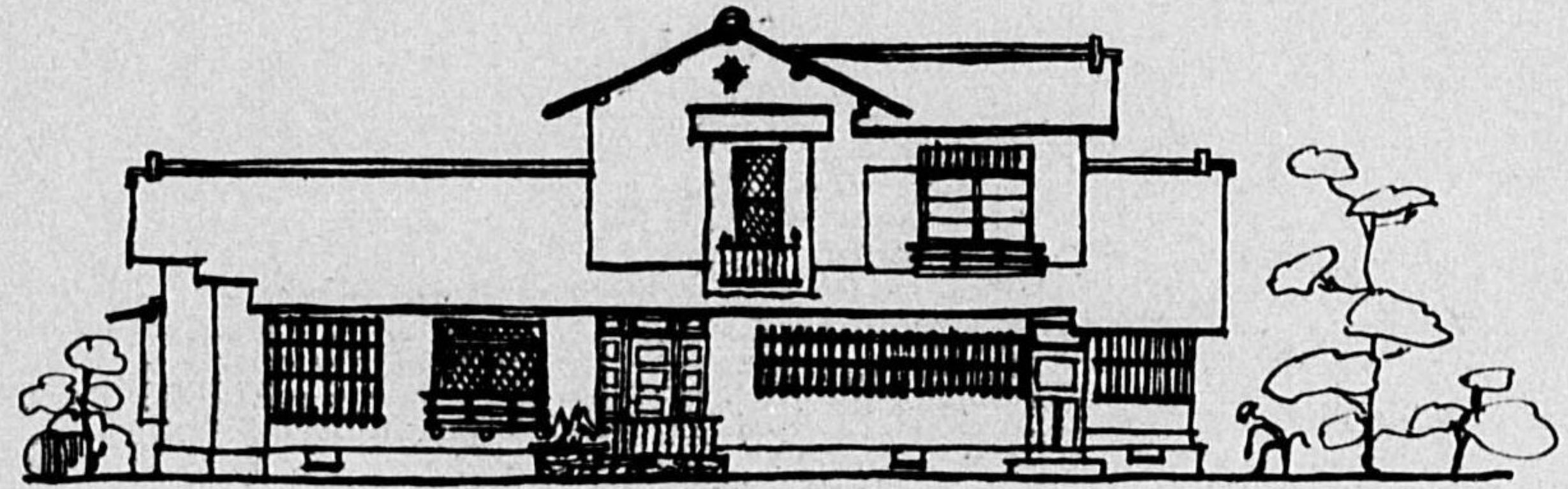
外觀内部共純和風式に致します。應接を新日本趣味に扱ひ椅子式に取扱ふのも面白いでせう。



貳階



壹階

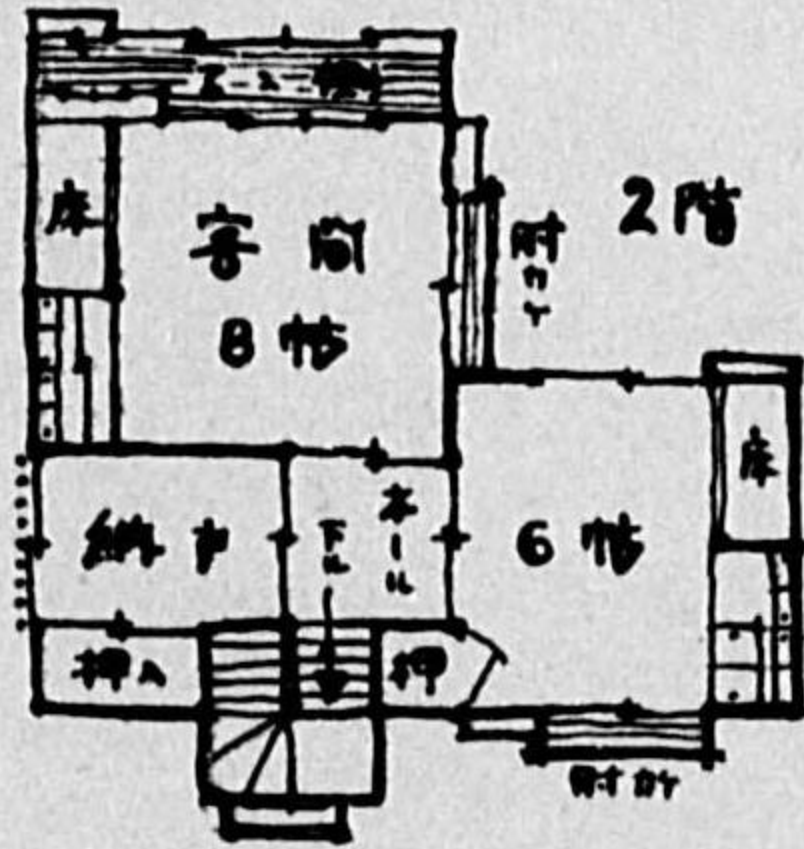


洋風中流住宅

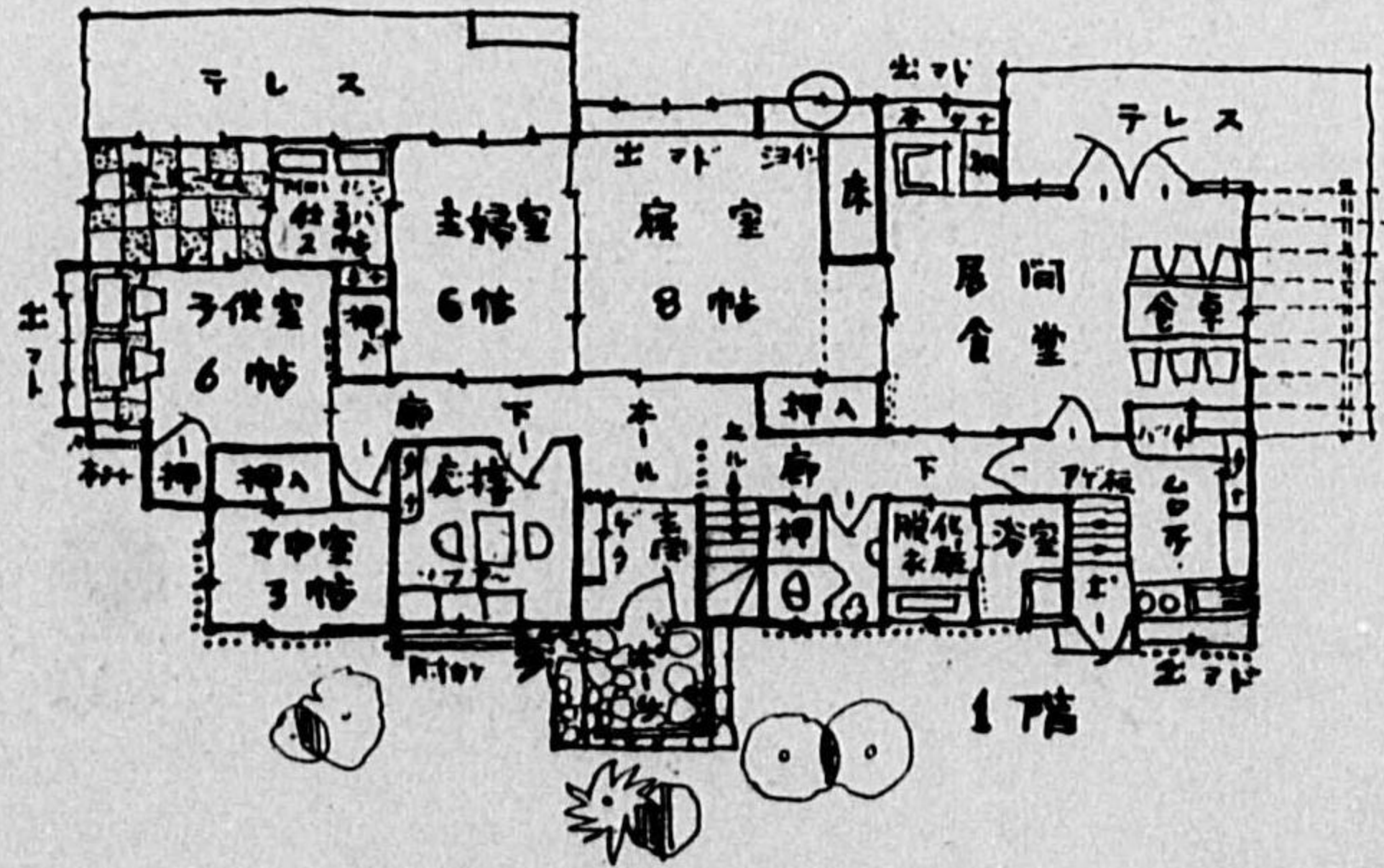
建坪 一階 四十一坪五合三勺  
 延坪 二階 十二坪三合五勺  
 五十三坪八合八勺

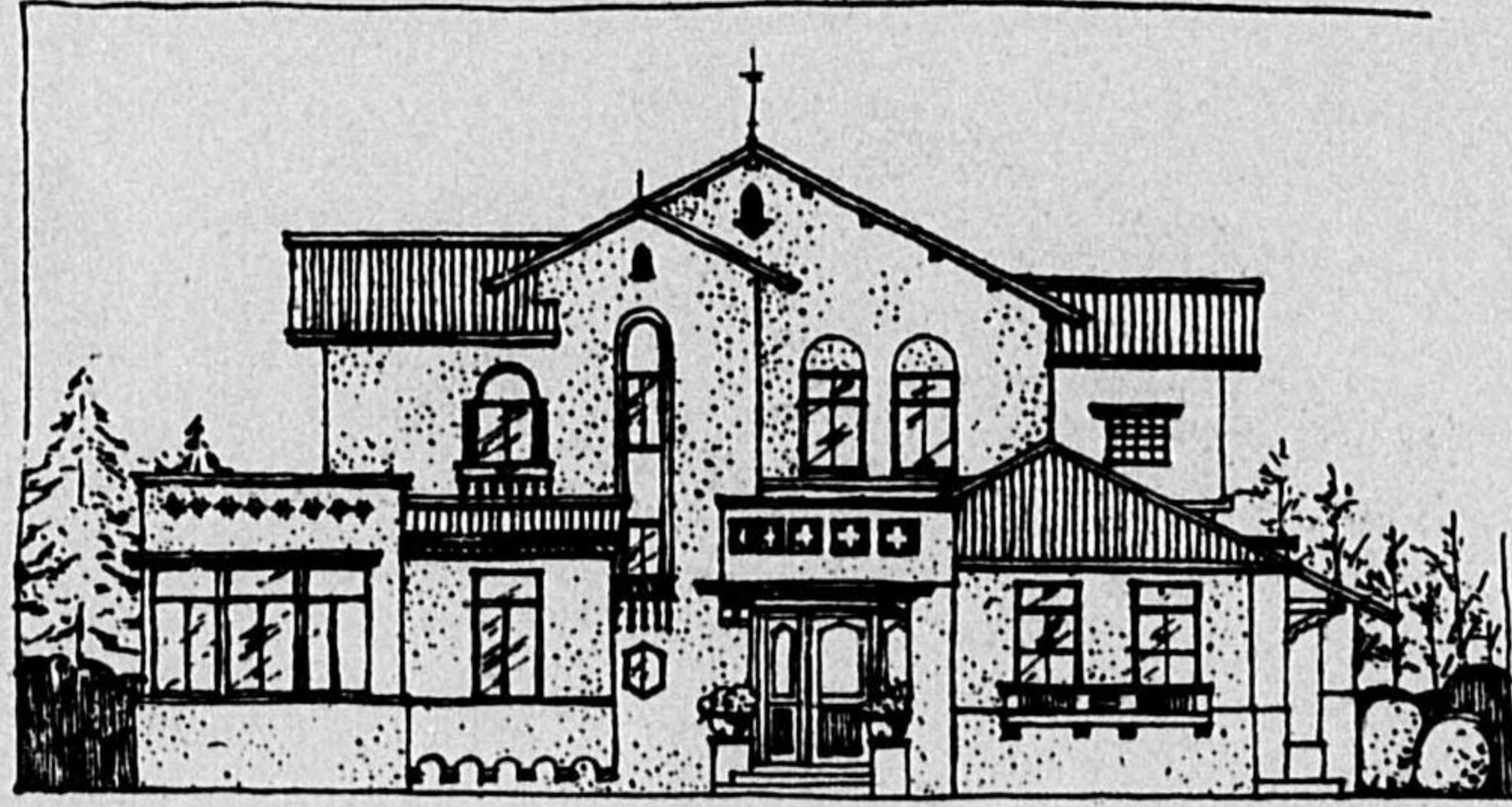
家族六、七人位の住宅です。

外觀は日本瓦葺大壁仕上とし、おとなしく取扱ひます。玄関ホール應接居間食堂廻りを洋風とし居間にアルコーブを設け書齋に利用致します。日本間寢室と居間は八寸位の差を付けフスマは居間に引込み兩室を融合的に扱ひます。



主婦室サンルームの間に仕事場を設け子供室は一部コルク張りとし机を設けます。二階老人居室其の他來客用とします。一般に開口部を充分に取り明るく非常に衛生的な感じがします。





外観は大體洋風としましてメタルラス張りの上モルタル塗とし、屋根はスパニッシュ瓦であります。一階應接室、小兒室、食堂は洋風で、二階寢室及び勉強室も洋風にて其他は和風であります。

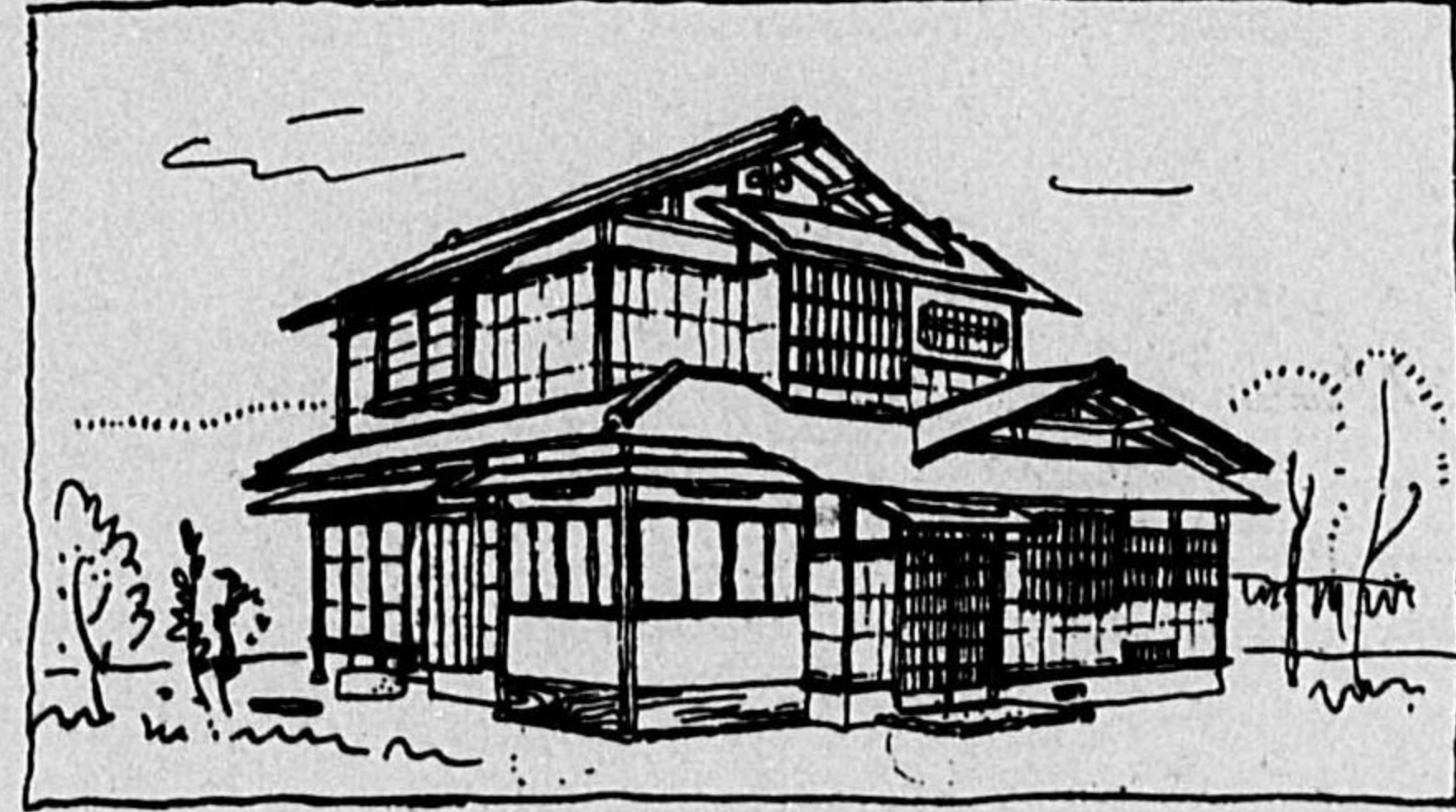
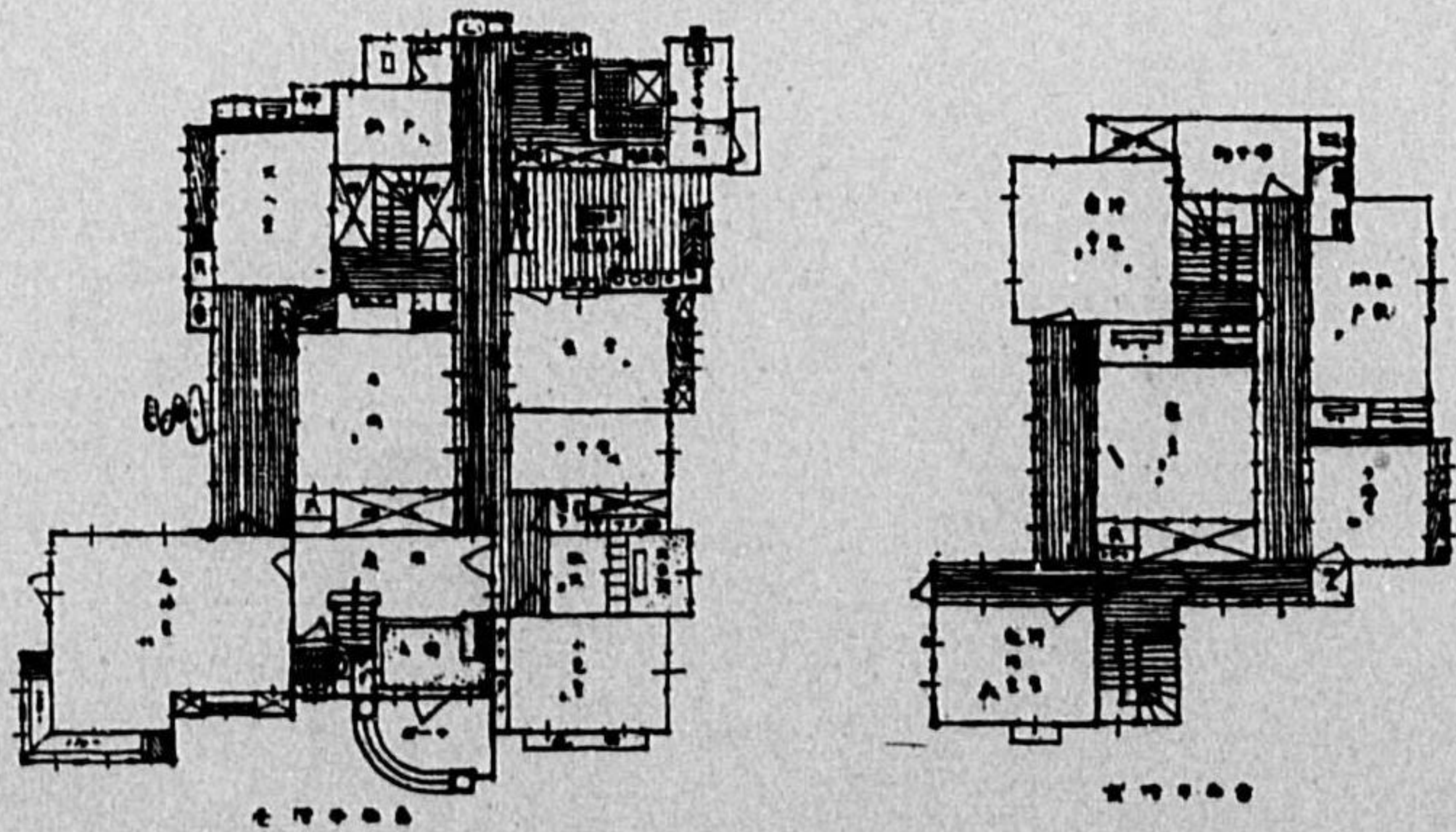
居間の様は一間、中廊下は四尺、ポイラー室は温水暖房用ポイラーを設置し主なる室は温水暖房放熱器を設け便所は總て淨化装置であります。

敷地 二百坪

建坪 一階 五十八坪五合

二階 三十八坪

— 中流住宅 —



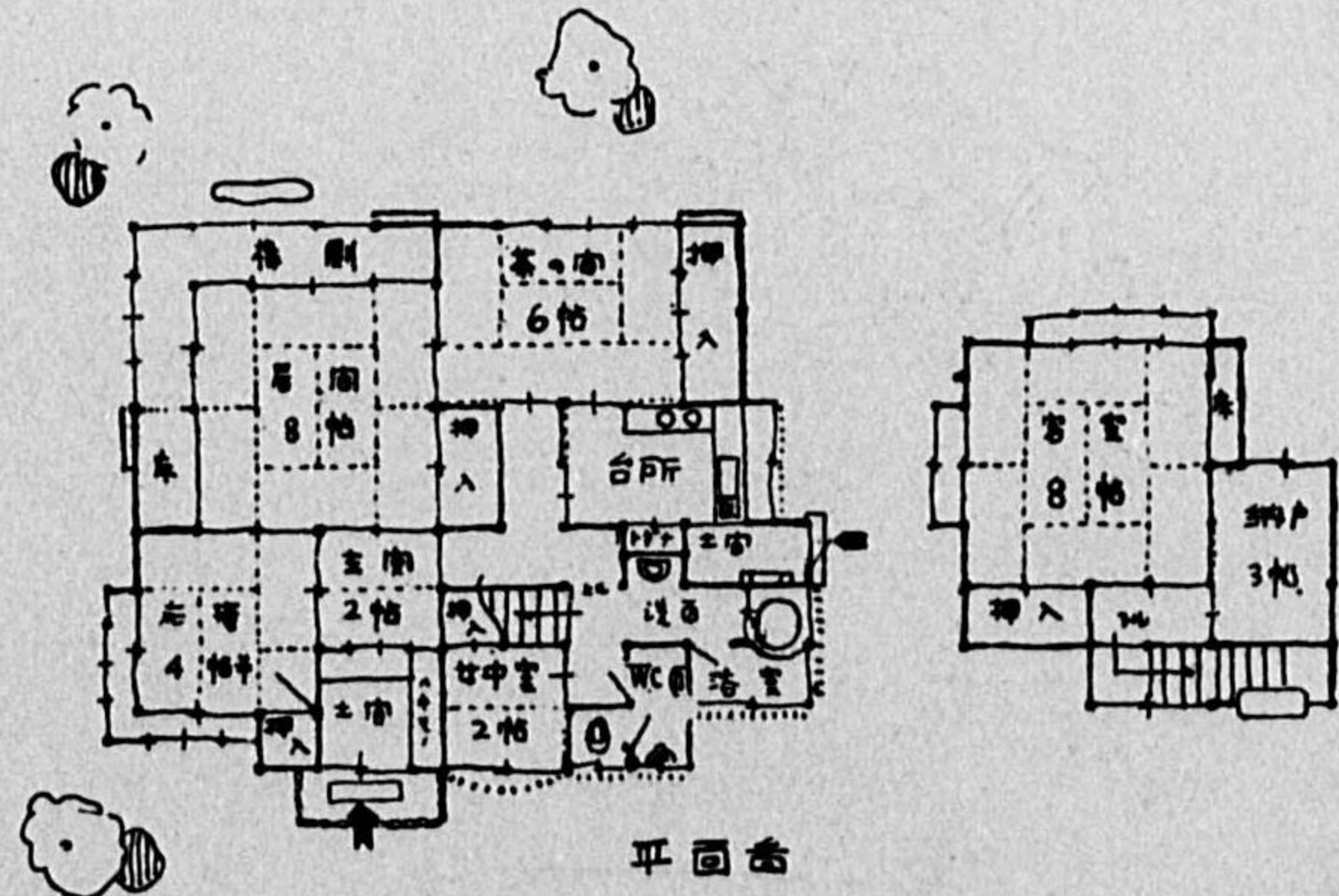
夫婦に子供二三人位の中流住宅を考へて見ました。南側に茶の間、續いて東南隅に縁を繞した居間の八帖、東側に四帖半、此の部屋は應接用、又は子供室、書齋等の用に使用されるにいと思ひます。二階には客室として八帖、外観は純和風、關西風の瀟洒なスタイルとしました。

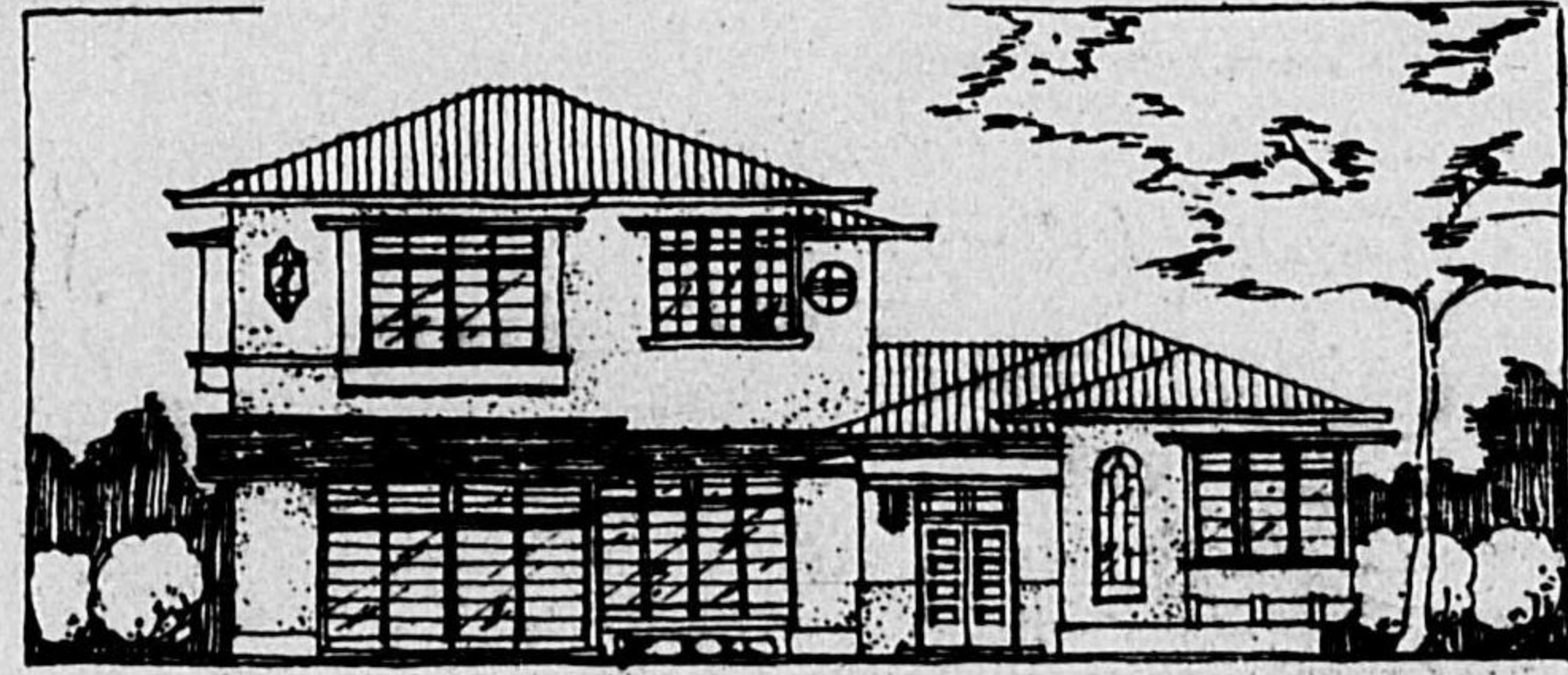
敷地 二百坪

建坪 一階 二十六坪七三

二階 九坪六合

— 中流住宅 —





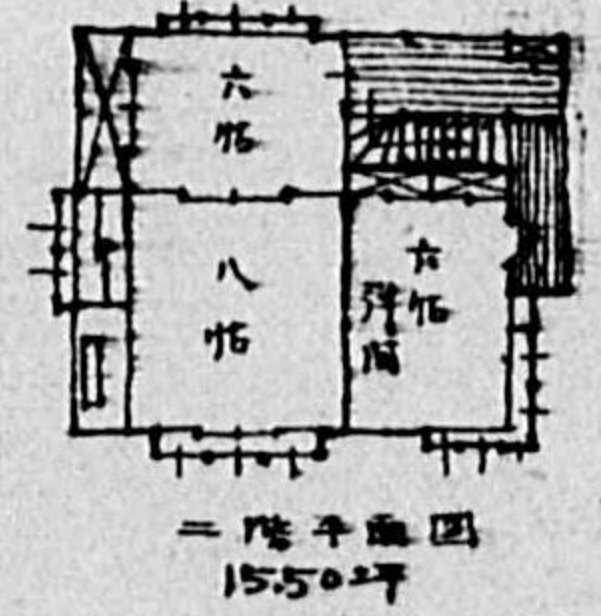
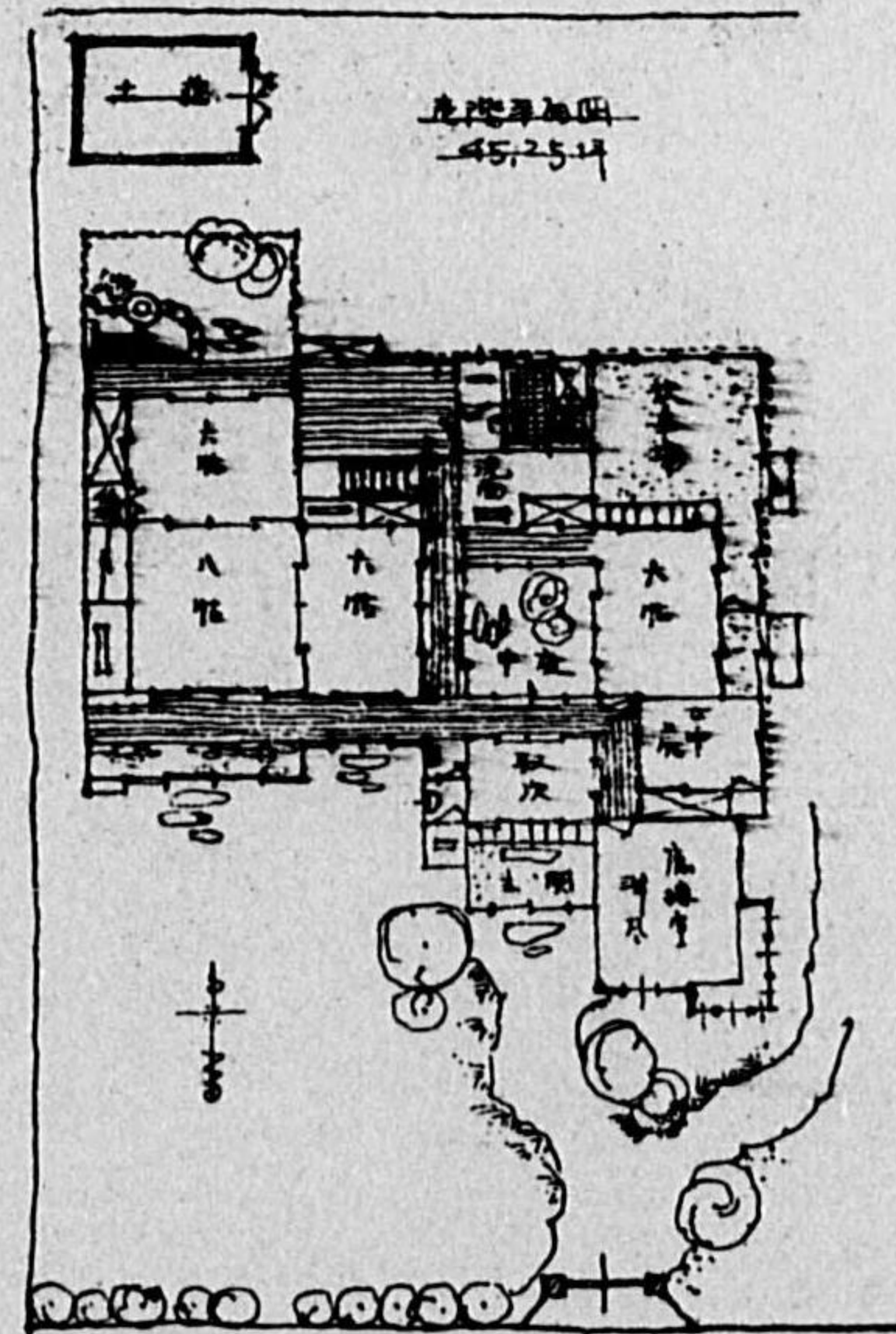
敷地 百六十坪  
 建坪 一階 四十五坪二合五勺  
 二階 十五坪五合  
 土蔵 三 坪

外部はメタルラス張、色付モルタル塗、木部もペンキ塗で大體に於て洋風であります。屋根はフレッチ形瓦葺で、屋根の勾配は稍低く軒が十分に出て居ります。

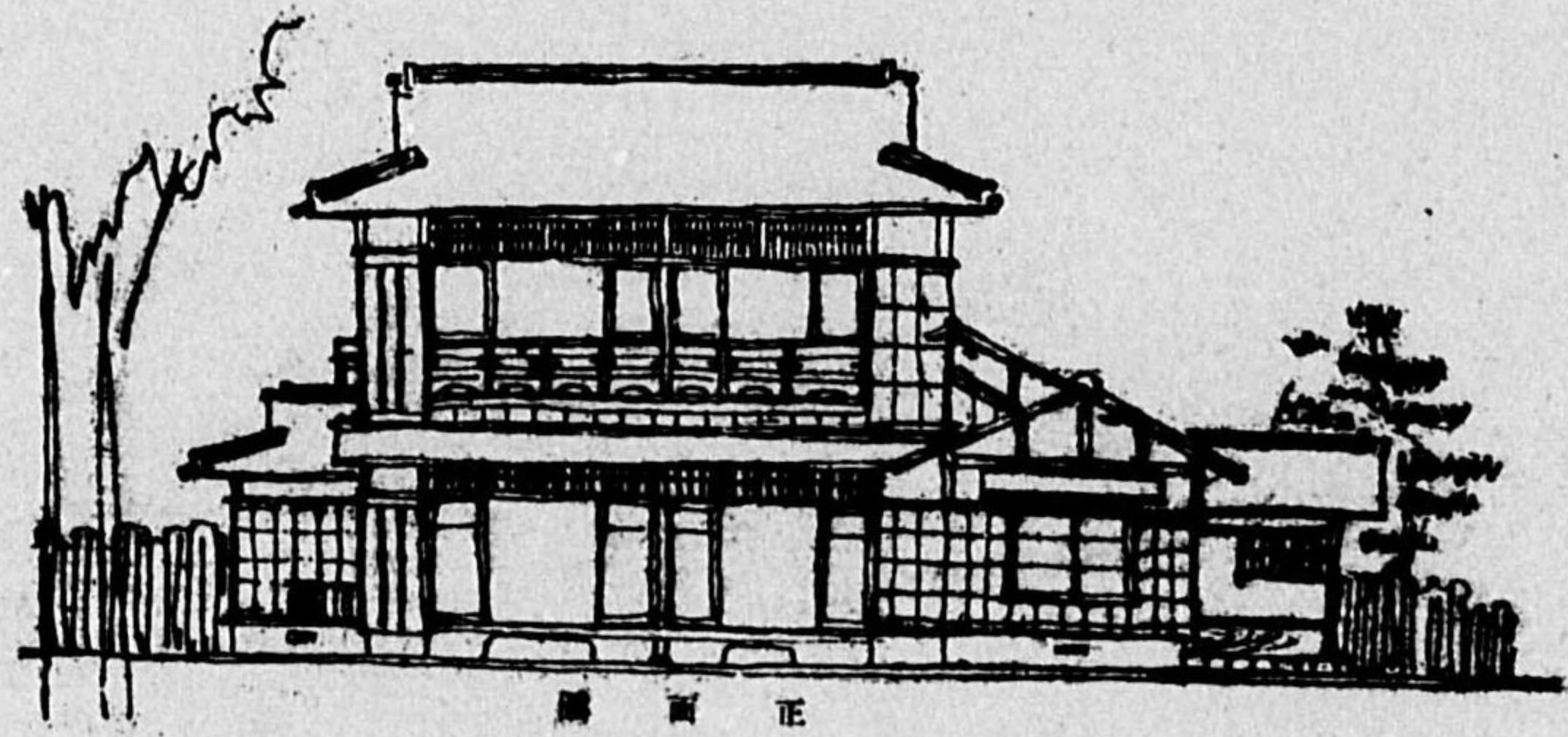
内部は大體に於て和風の室で、二室だけ洋間であり、材料は大部分米材を用ひて居りますが、座敷廻りは杉面皮柱を使用して居ります。

各室が十分に開放出来、通風も良く、中庭のある爲非常に明るい感じがいたします。

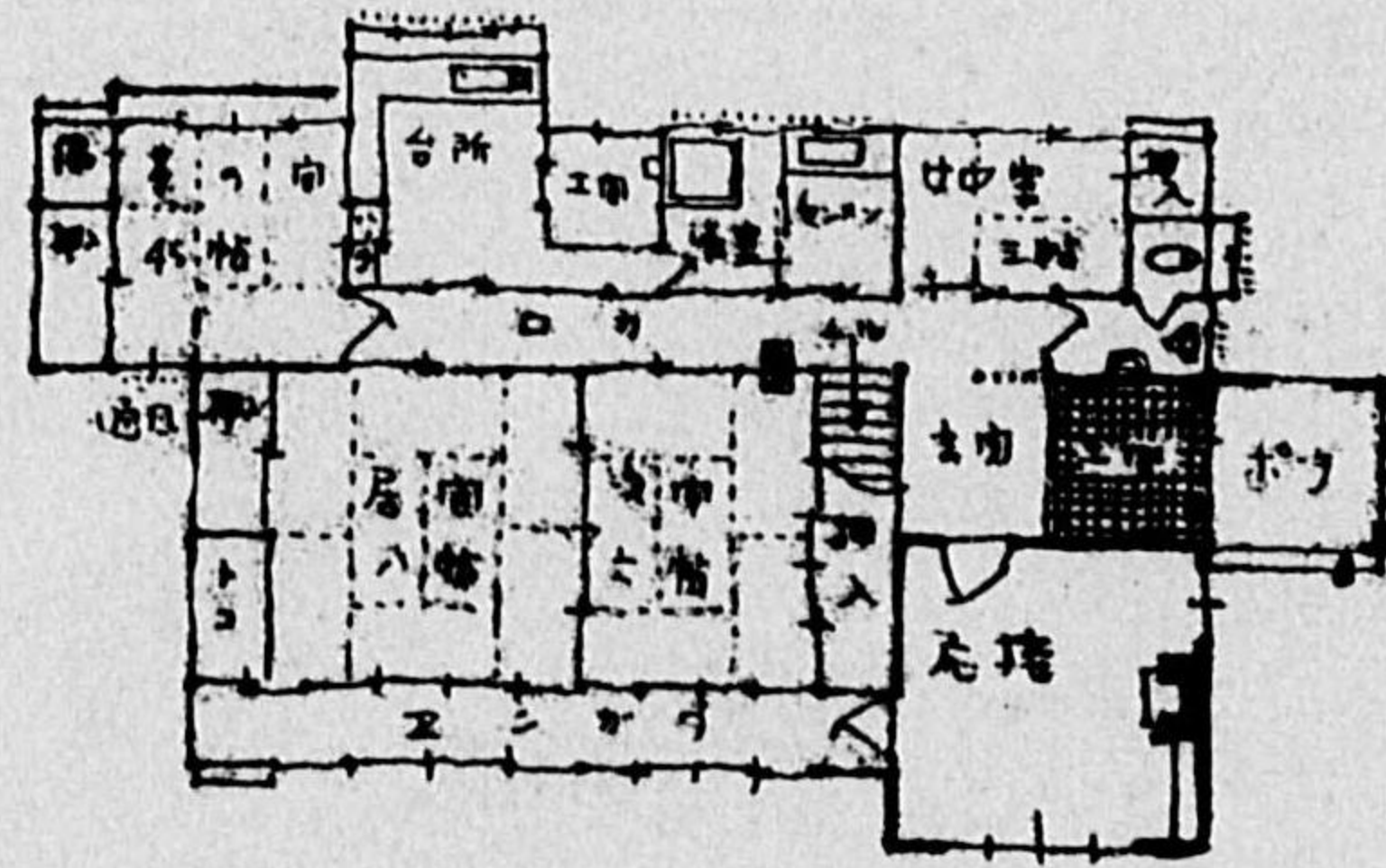
土蔵はメタルラス張りモルタル塗で、和風土蔵形にいたしました。



二階平面図  
15.50坪



正 面 圖

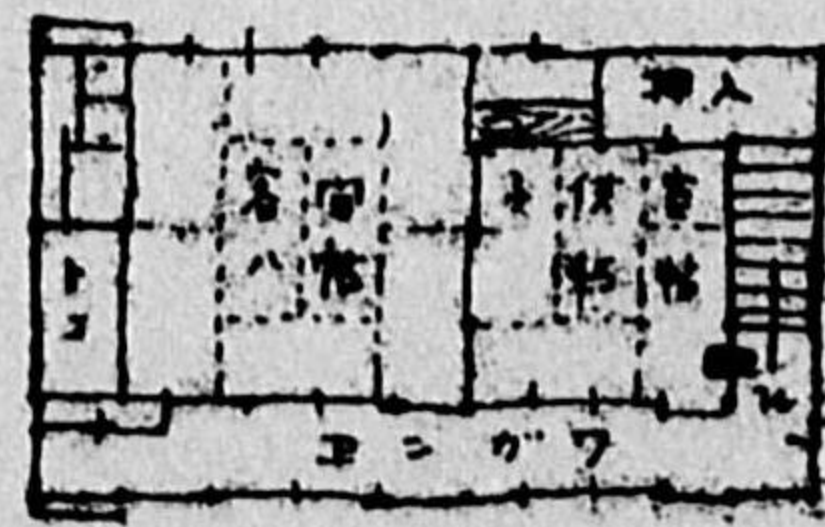


二階平面圖

郊外地の中流住宅。支開、應接室廻りを洋風とし、他は日本間、外部は日本風としました。

平凡な間取ですが實用的な物と思ひます。

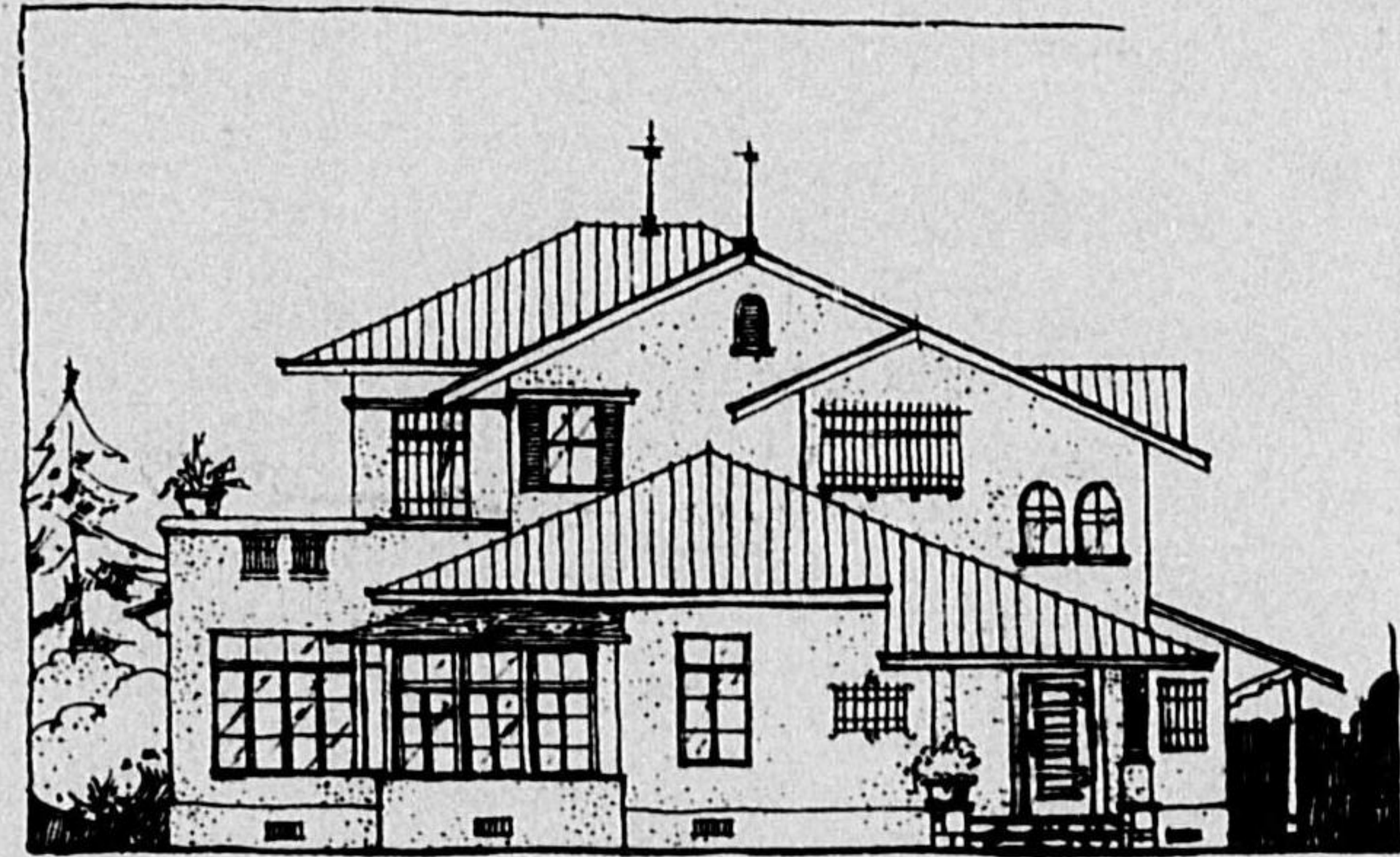
建坪 一階 三〇坪  
 二階 一一坪五  
 計 四一坪五



一階平面圖

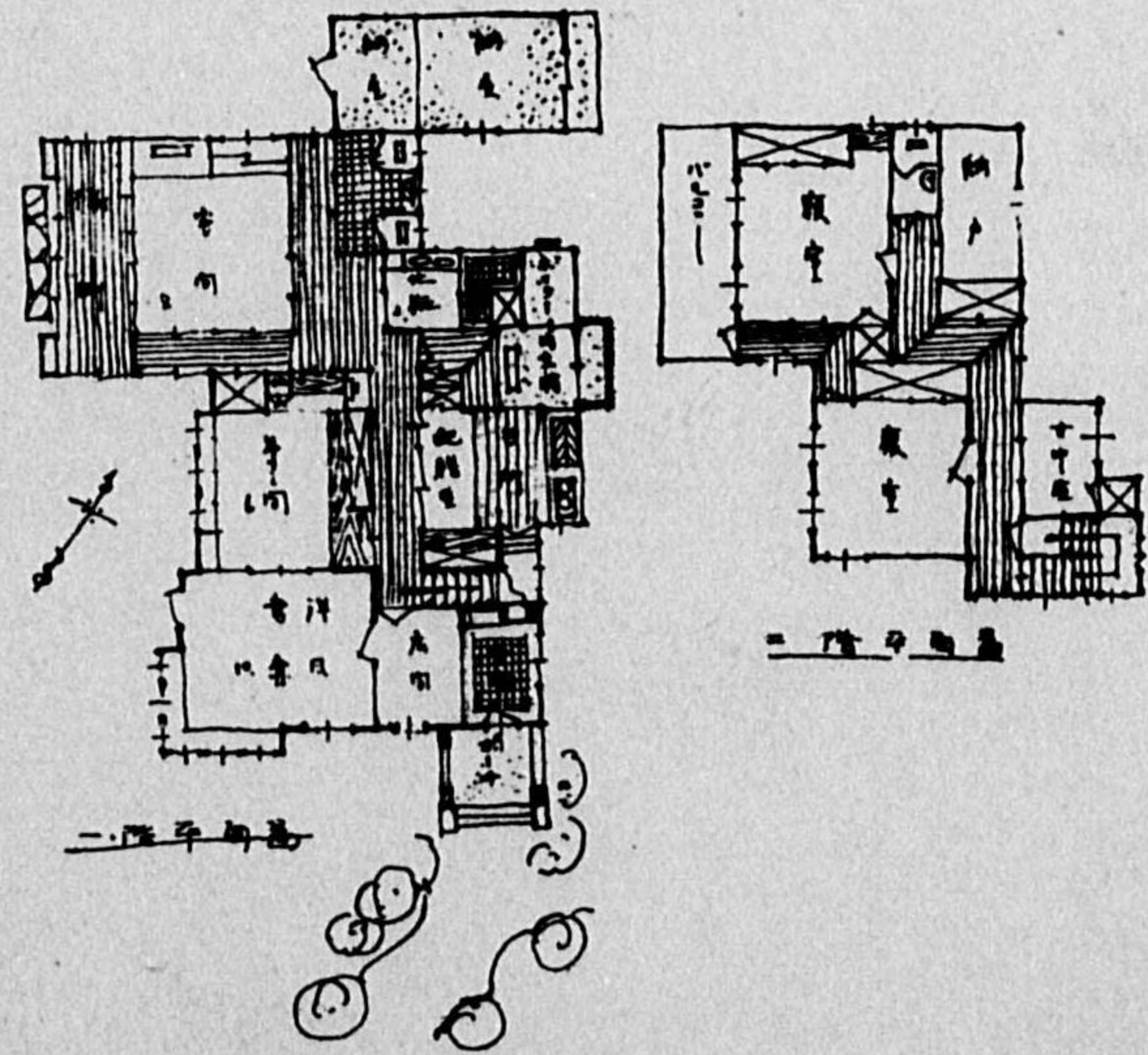
# 30 坪 迄 の 住 宅 十 案

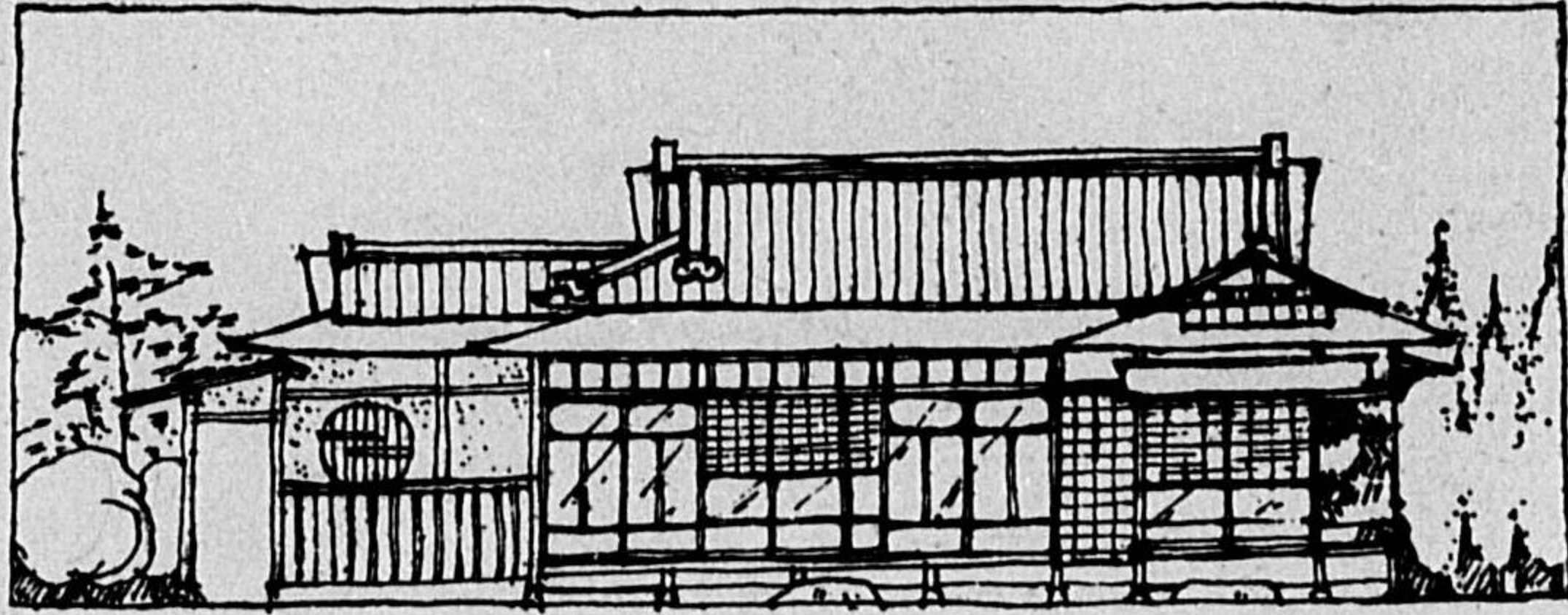
1. ....	83
2. ....	84
3. ....	85
4. ....	86
5. ....	87
6. ....	88
7. ....	89
8. ....	90
9. ....	91
10. ....	92



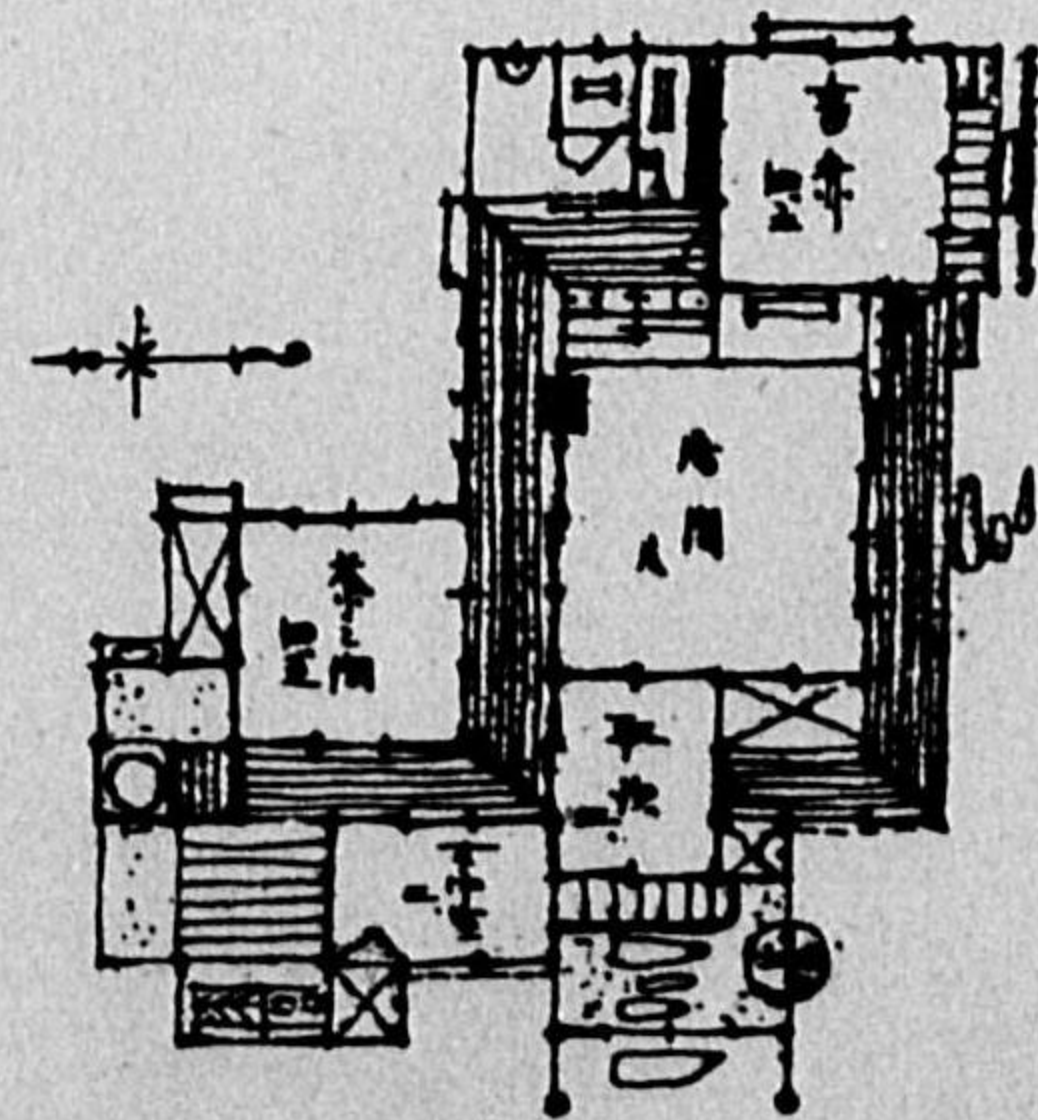
敷地 二百七十坪  
建坪 一階 四十八坪  
二階 二十一坪

敷地は間口十三間、奥行二十間であつて道路より六間後退してポーチでありますので、略々敷地の中央に建つ事になります。方位と光線の關係上軸を少し西に振りました。書齋及茶の間を最も日當りの良い所に配置し、爲めに客間はすつと奥に取つてあります。又此の方面は西の風と東の風とが非常に多いので、此の風を取る爲めに窓を配置してあります。構造は外觀洋風モルタル塗、フレンチ瓦葺、書齋、寢室は洋風で、其の他は和風疊敷であります。



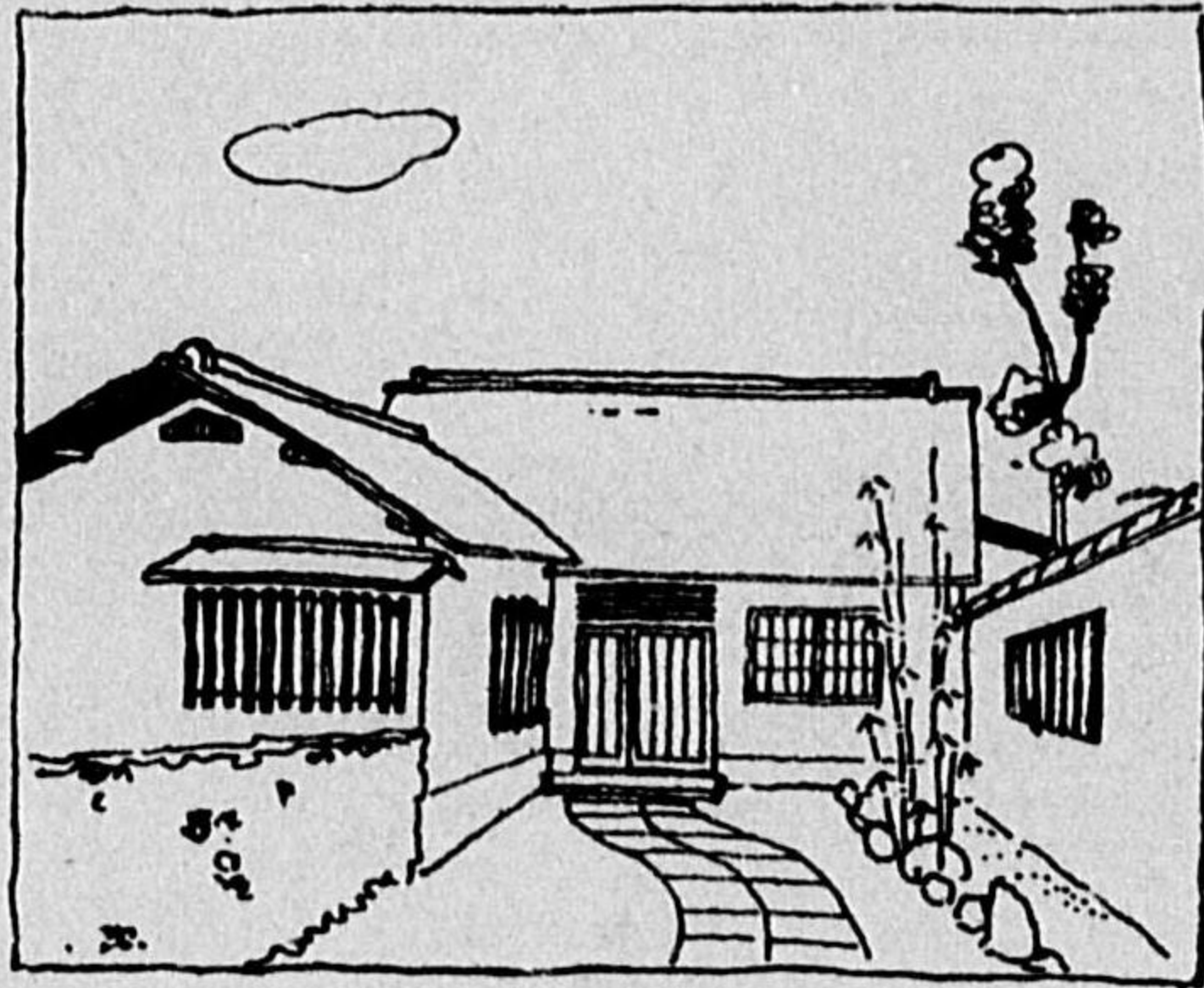


敷地 百二十坪—百五十坪  
 建坪 二十六坪二合五勺  
 平家建和風構造の家であります。  
 玄関廻り書齋などは数寄屋風のものにすれば面白いと思ひます。  
 大體に於て居間を中心として書齋を良い位置に配置しました。或は老人室、小兒勉強室などに使用しても良いと思ひます。



案十 宇井の蔵 08

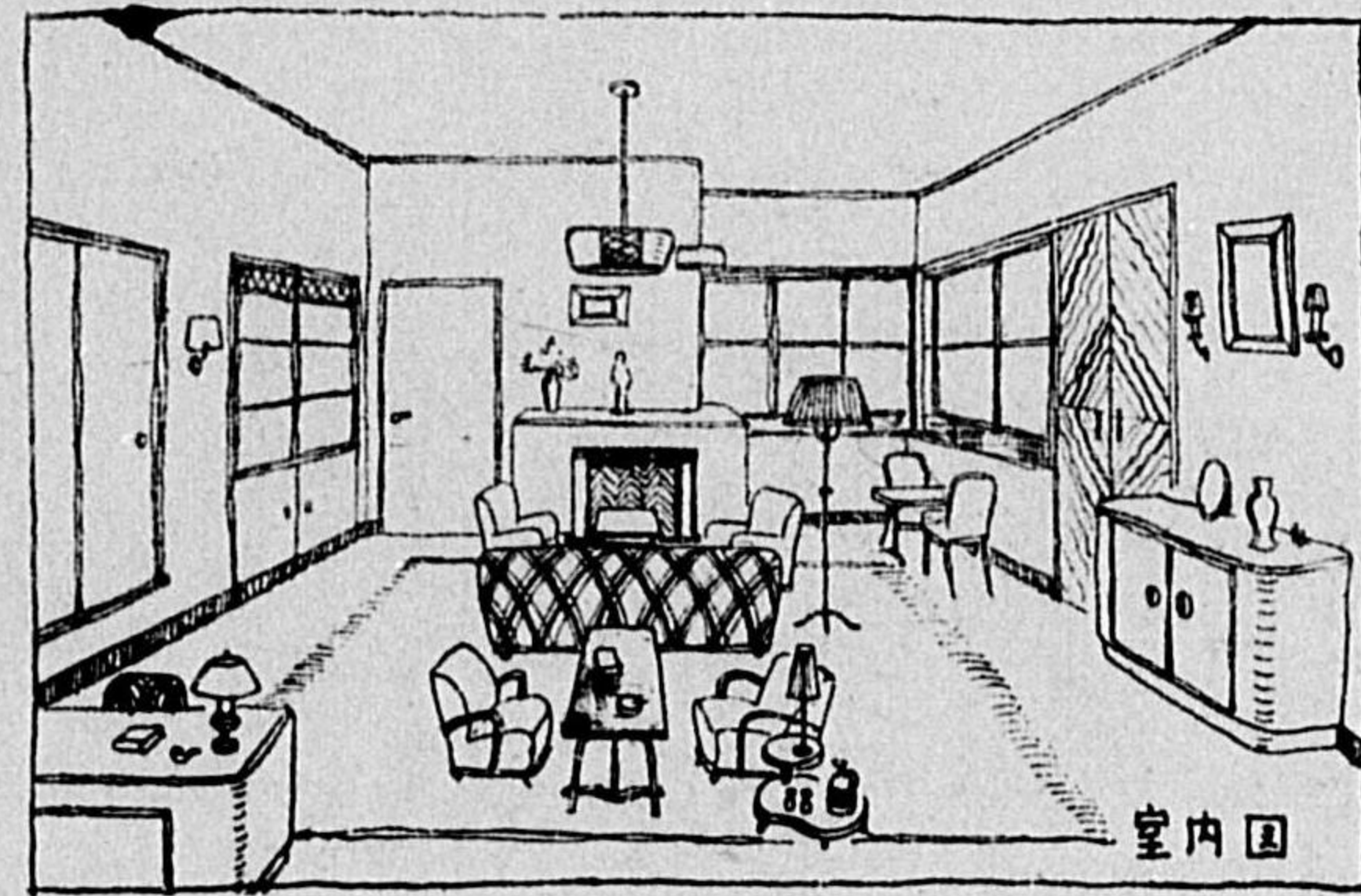
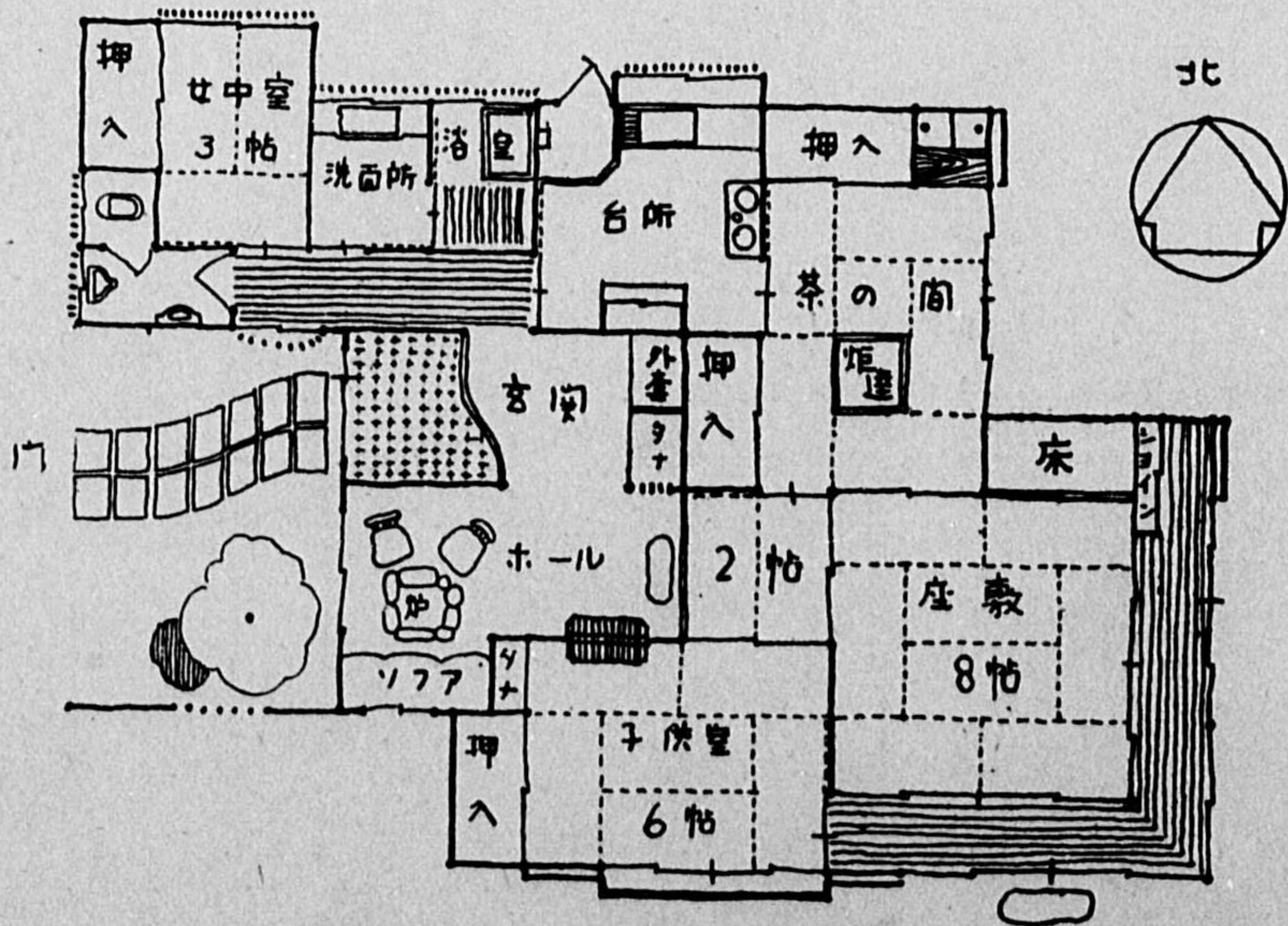
88 ..... 1  
 88 ..... 2  
 88 ..... 3  
 88 ..... 4  
 78 ..... 5  
 88 ..... 6  
 88 ..... 7  
 80 ..... 8  
 81 ..... 9  
 82 ..... 10



三十坪以内で成るべく畳敷を多く、そして應接間として小さな洋間も欲しいと云ふ方針で考へました。出来るだけ廊下を少く玄關より上つたホールを少し廣目にとりこゝを簡単な應接とします。此の部屋は畳の間より少し床高を低くし靴の客は靴の儘でも上つて頂きます。入込には石で圍んだ爐を切ります、それに二帖の帖がもう一つの玄關の役目をしこゝから客室へ續きます。各室共日當りよく鬼門も避ける様設計しました。外觀は日本瓦葺、壁は鐵銅入モルタル壁とし瀟洒な日本風の外觀としました。

建坪 二十八坪三八七

瀟洒な小住宅

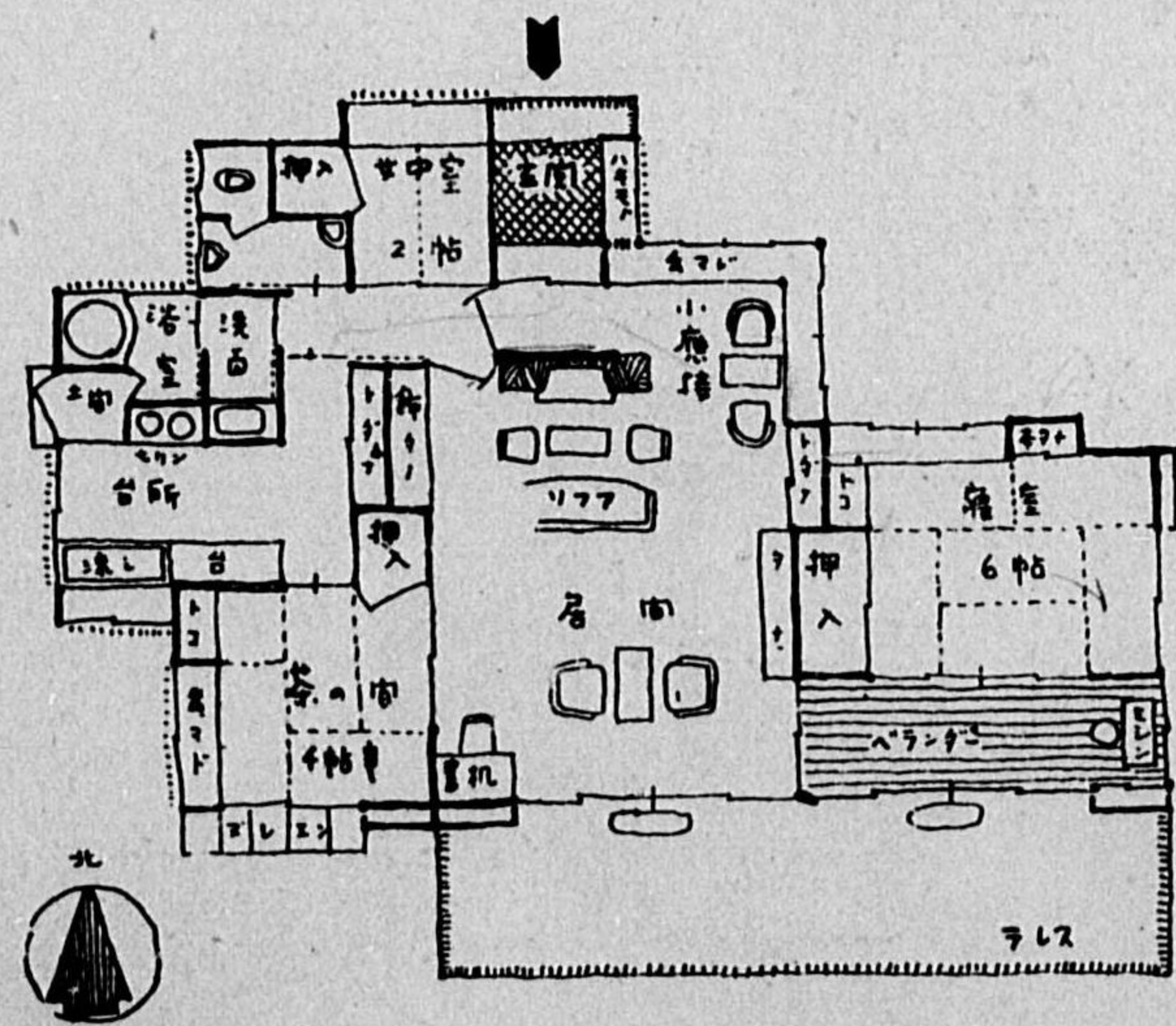


室内図

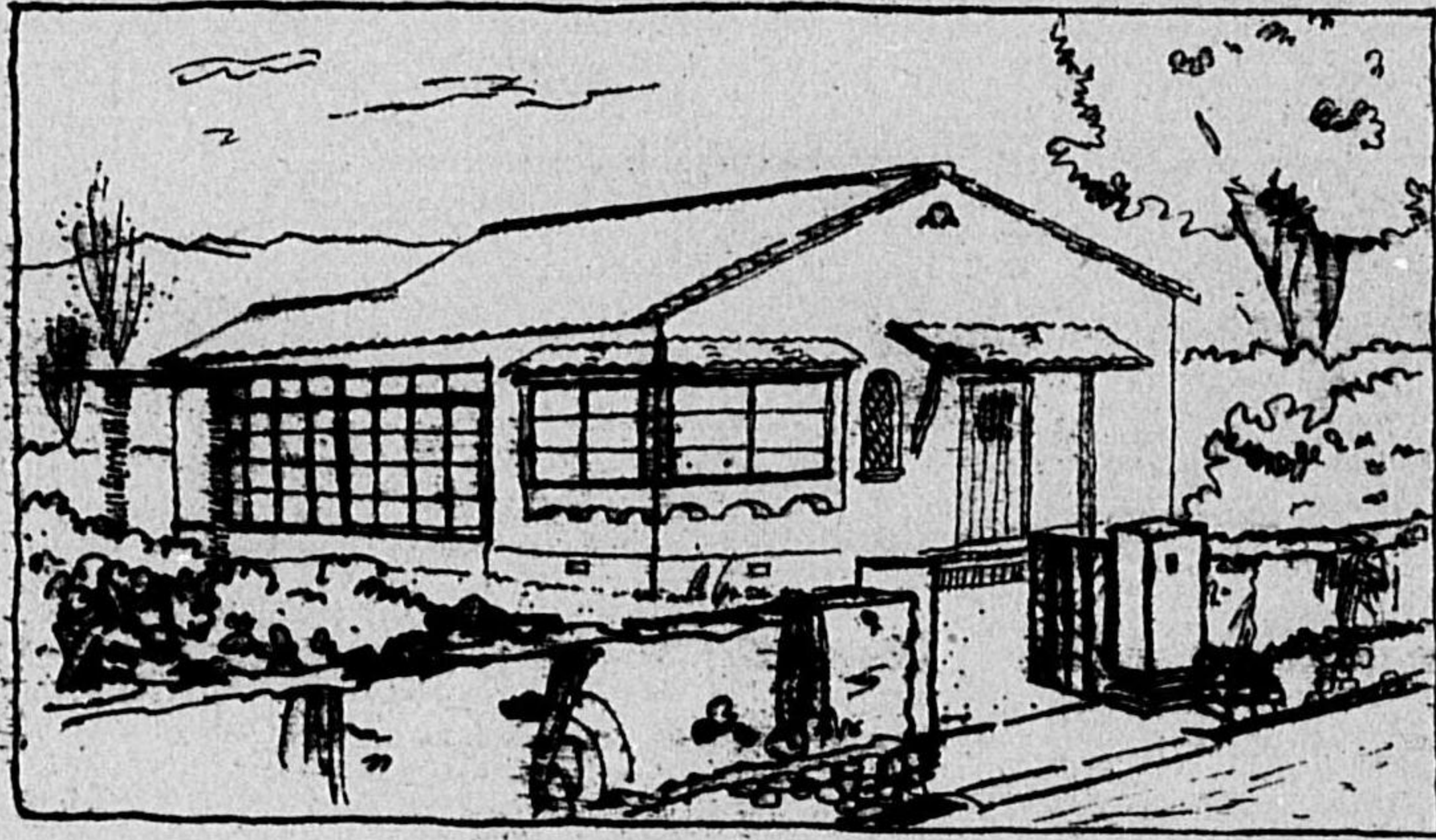
洋風の外觀とし内部も洋間を主とした間取りです。洋間は十五帖許りの大きさを居間應接、書齋を兼ねます。東南に六帖の日本間をとりその前に南に面して廣縁をとりミシン等を置き主婦の仕事部屋に當てます。洋間からつゞいて反對の方に四帖半の茶の間をとりました。新時代の明朗な生活に相應しい間取りです。

建坪 二十六坪

小住宅

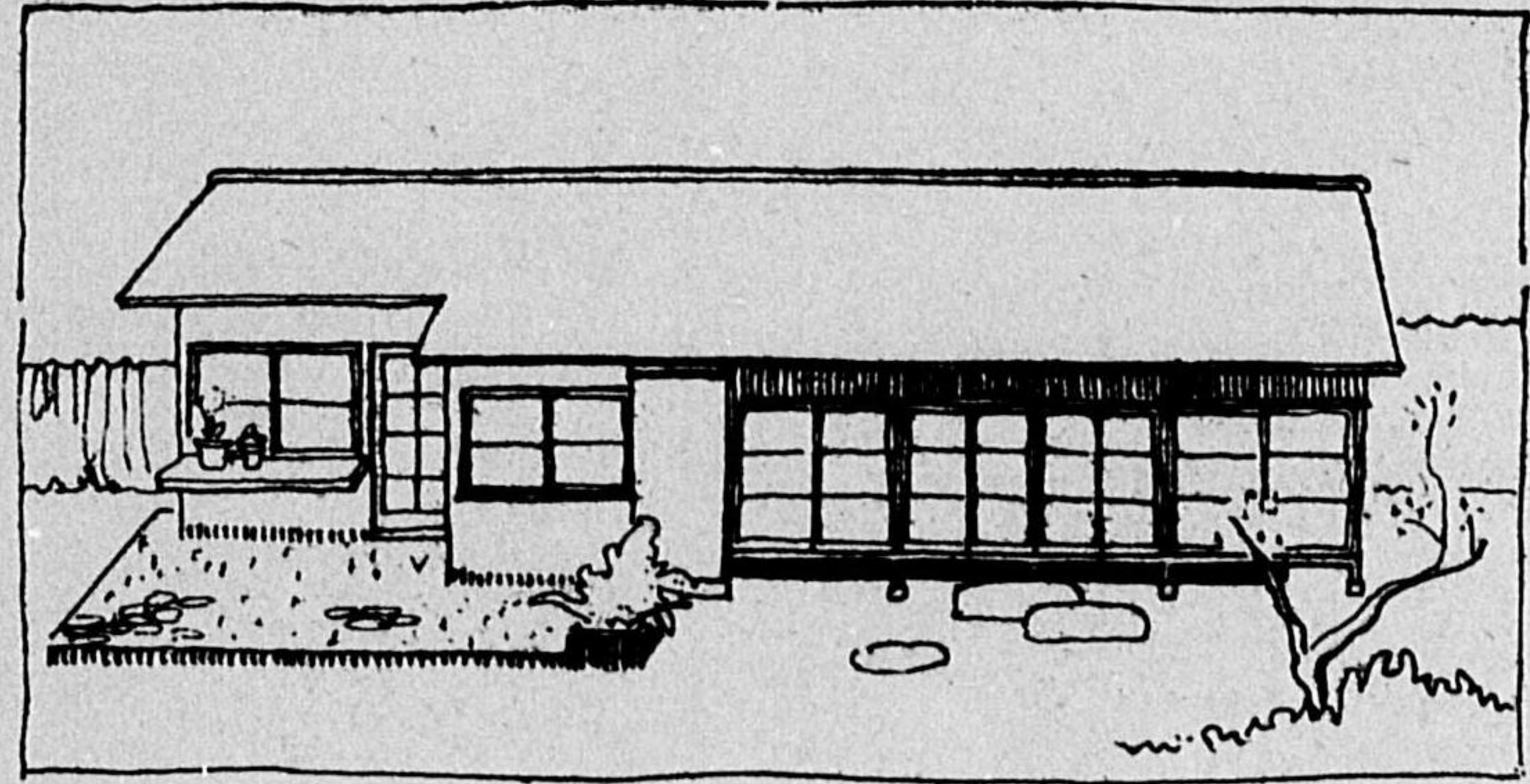
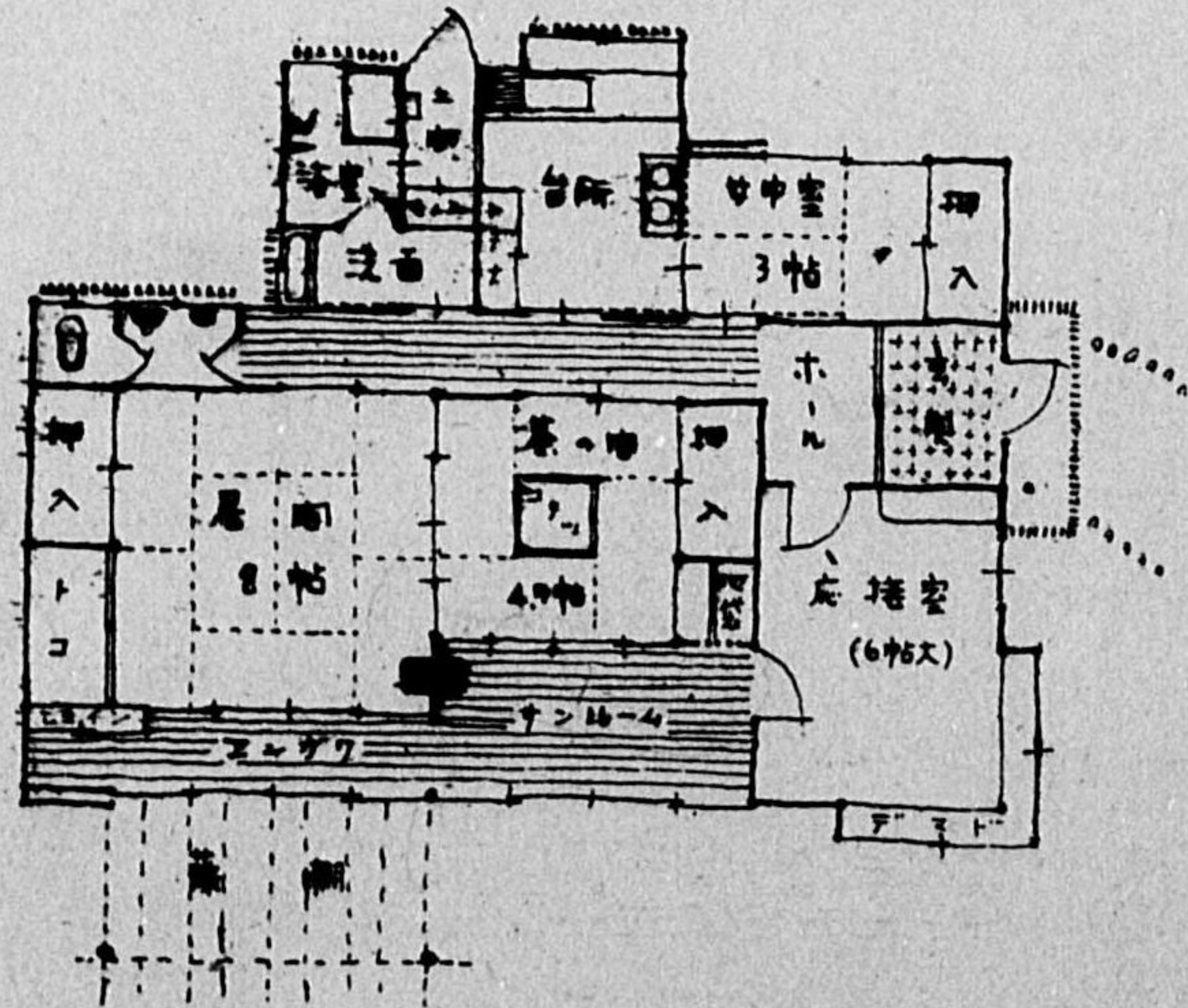






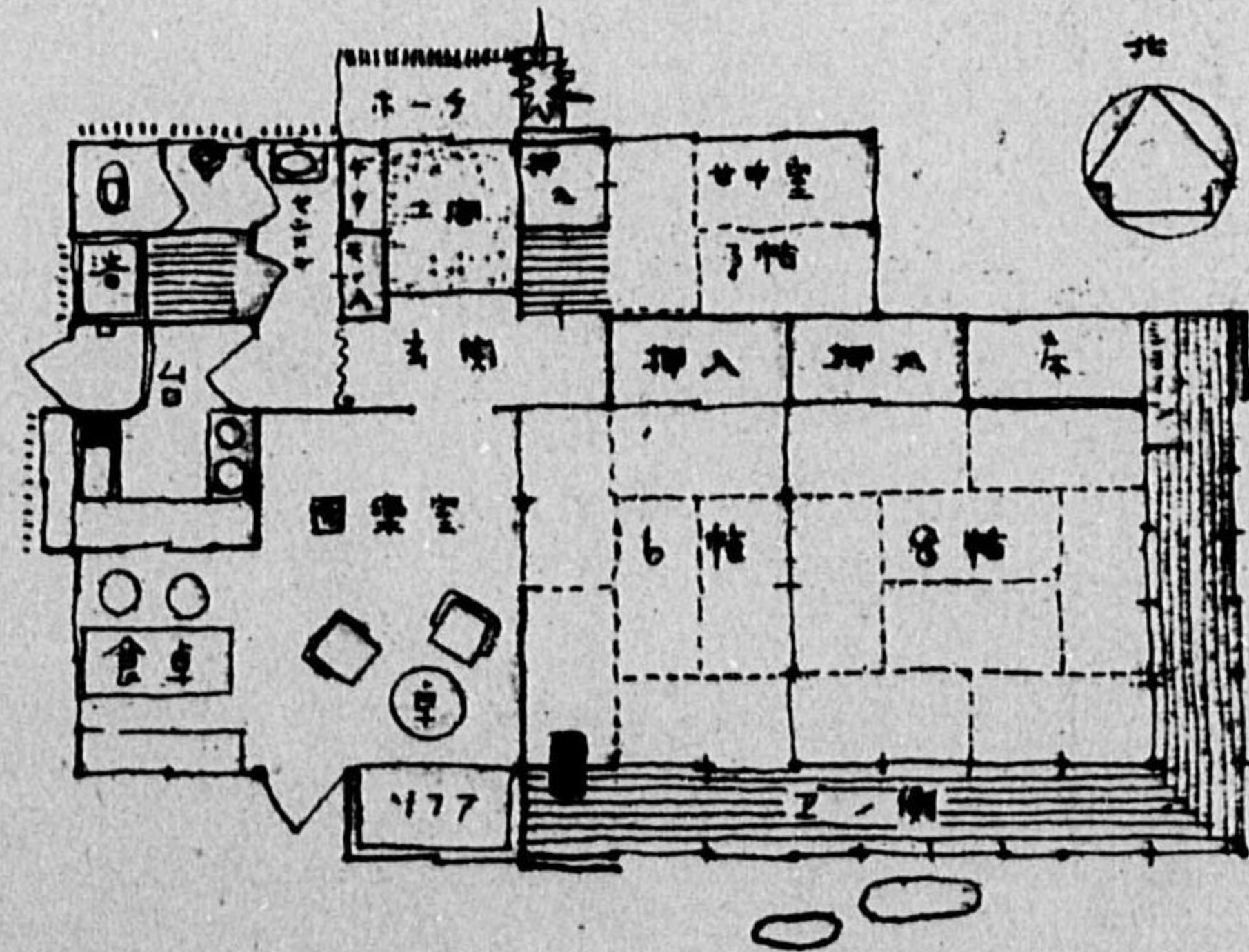
洋風小住宅

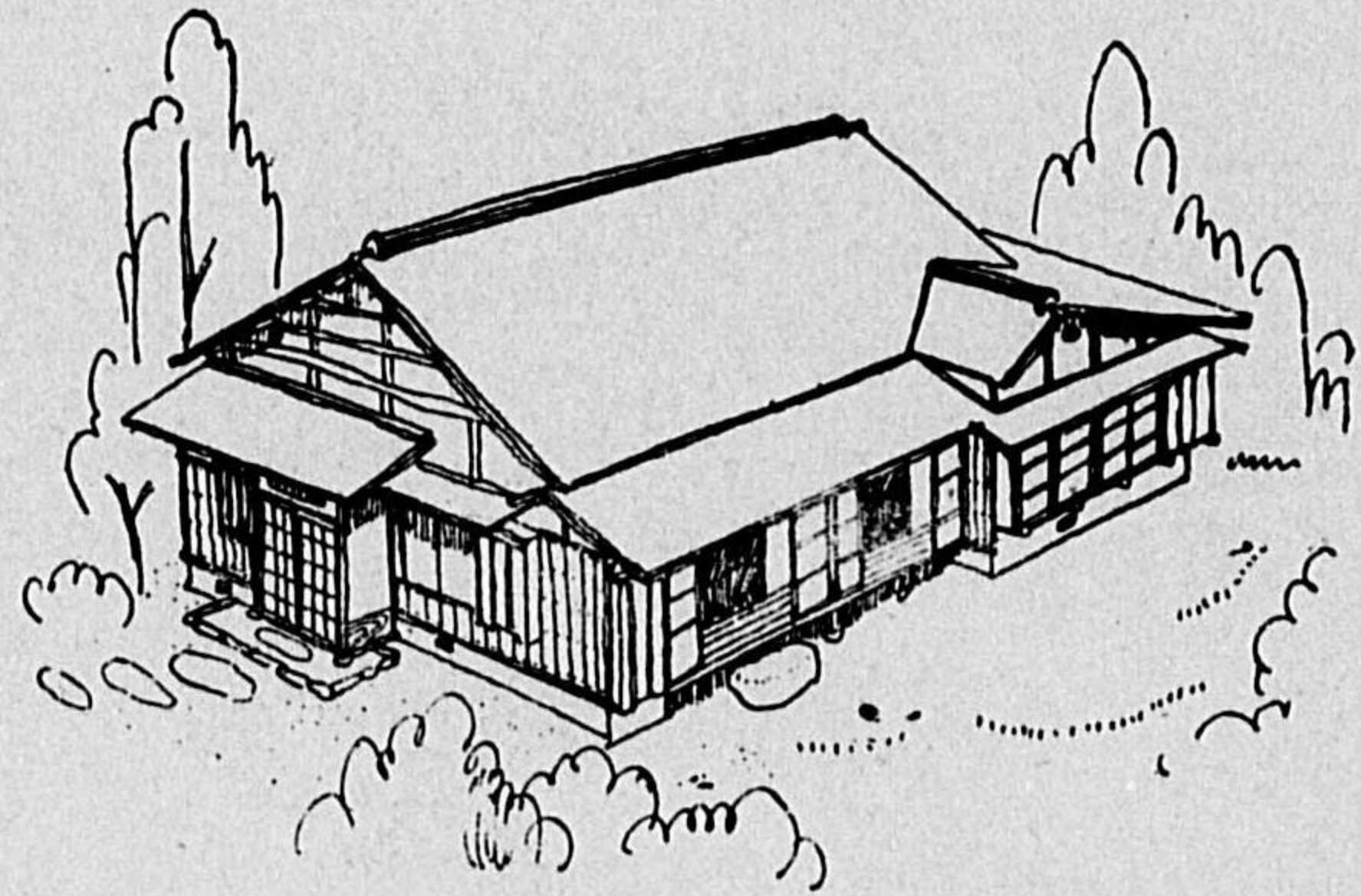
建坪 二十四坪 平家建  
 家族四五人向きの郊外小住宅南面して四帖半の茶の間と八帖の居間をとり茶の間の前は六尺の廣縁をとりサンルームとします。玄関及應接室は洋式とし外部も洋風にセメントの掻き落し仕上げ屋根はS型瓦を葺きます。



小住宅

建坪 二十三坪二合五勺  
 前同様三十坪以内の平家建郊外向小住宅。  
 東南に面して八帖六帖の日本間をとりその隣りに食堂を兼ねた六帖大の團樂室をとりました。外觀はモルタル塗の折衷式、日本瓦葺とします。

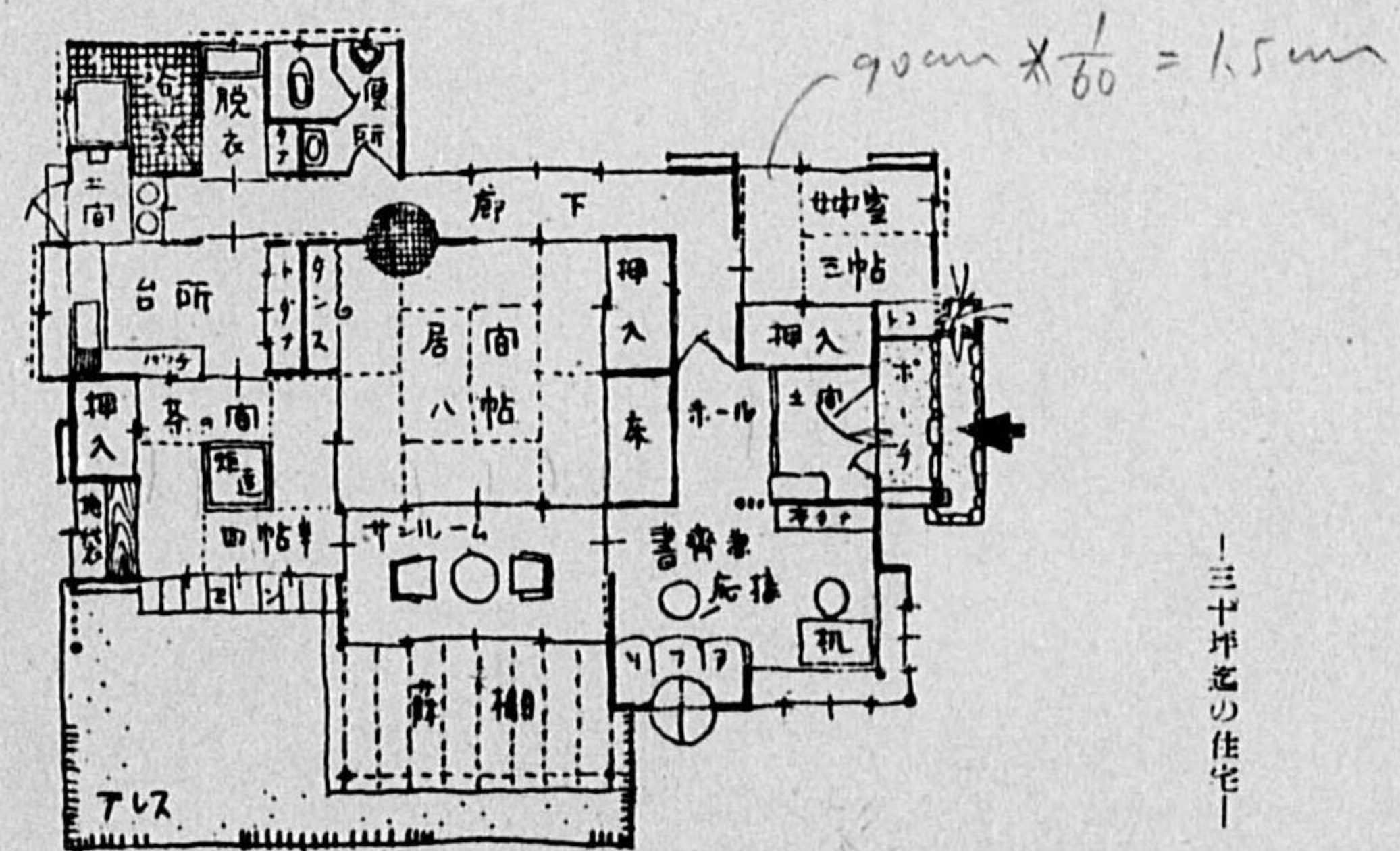
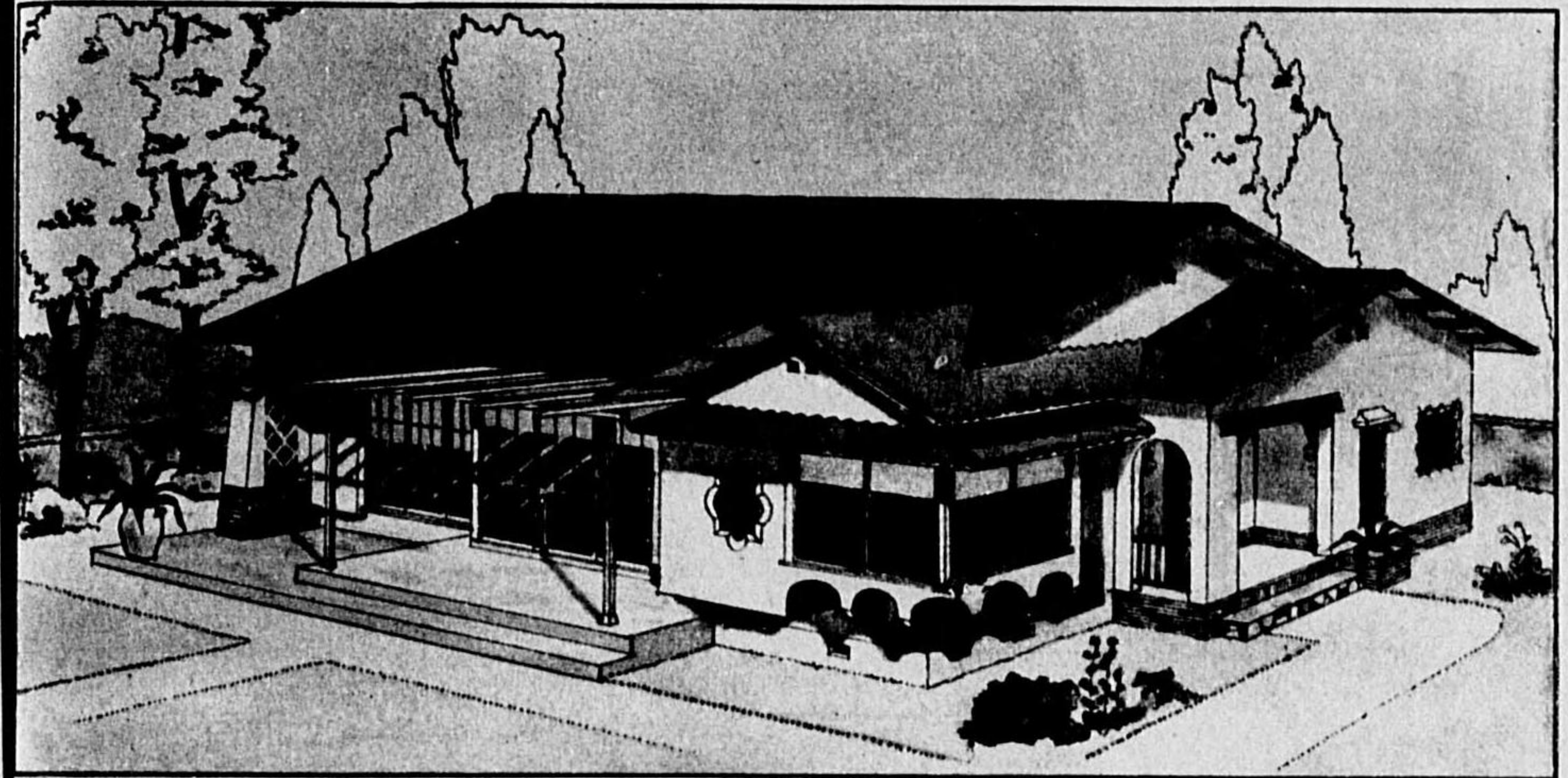
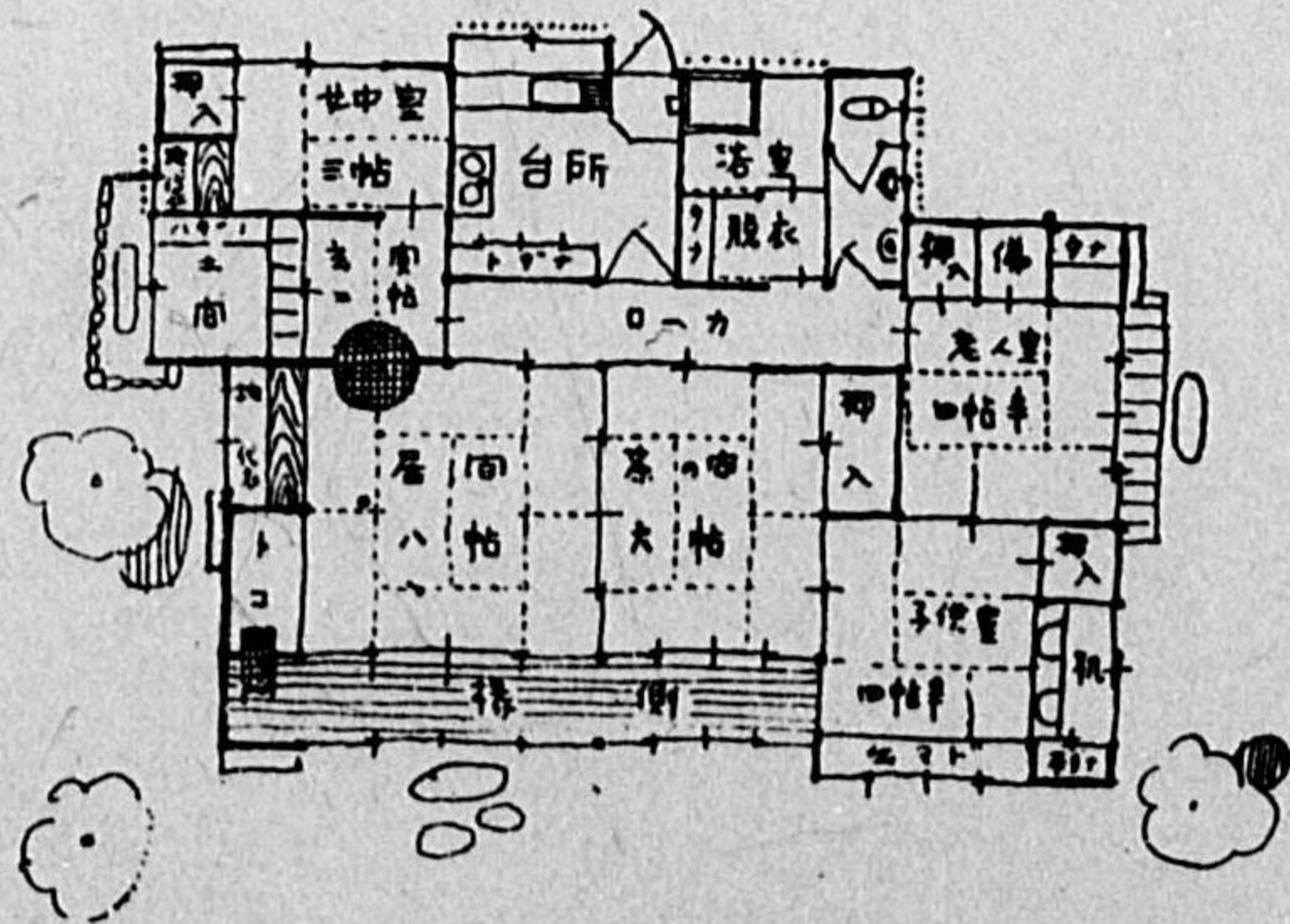




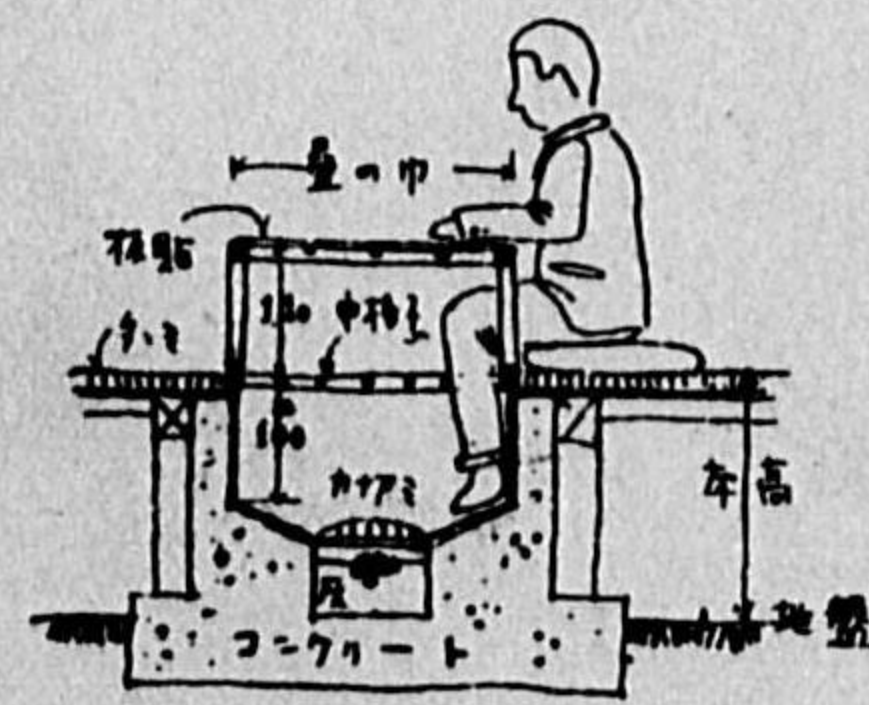
前と同様の条件の下につまり夫婦、老人及子供女中と云つた家族五六人向きの小住宅。總て日本間とし畳の部分が多くしました。南側の縁は五尺四寸巾とし藤製家具でも置きます。居間の床脇は場台によつて押入とした方が實用的かと思ひます。

建坪 二十七坪五介

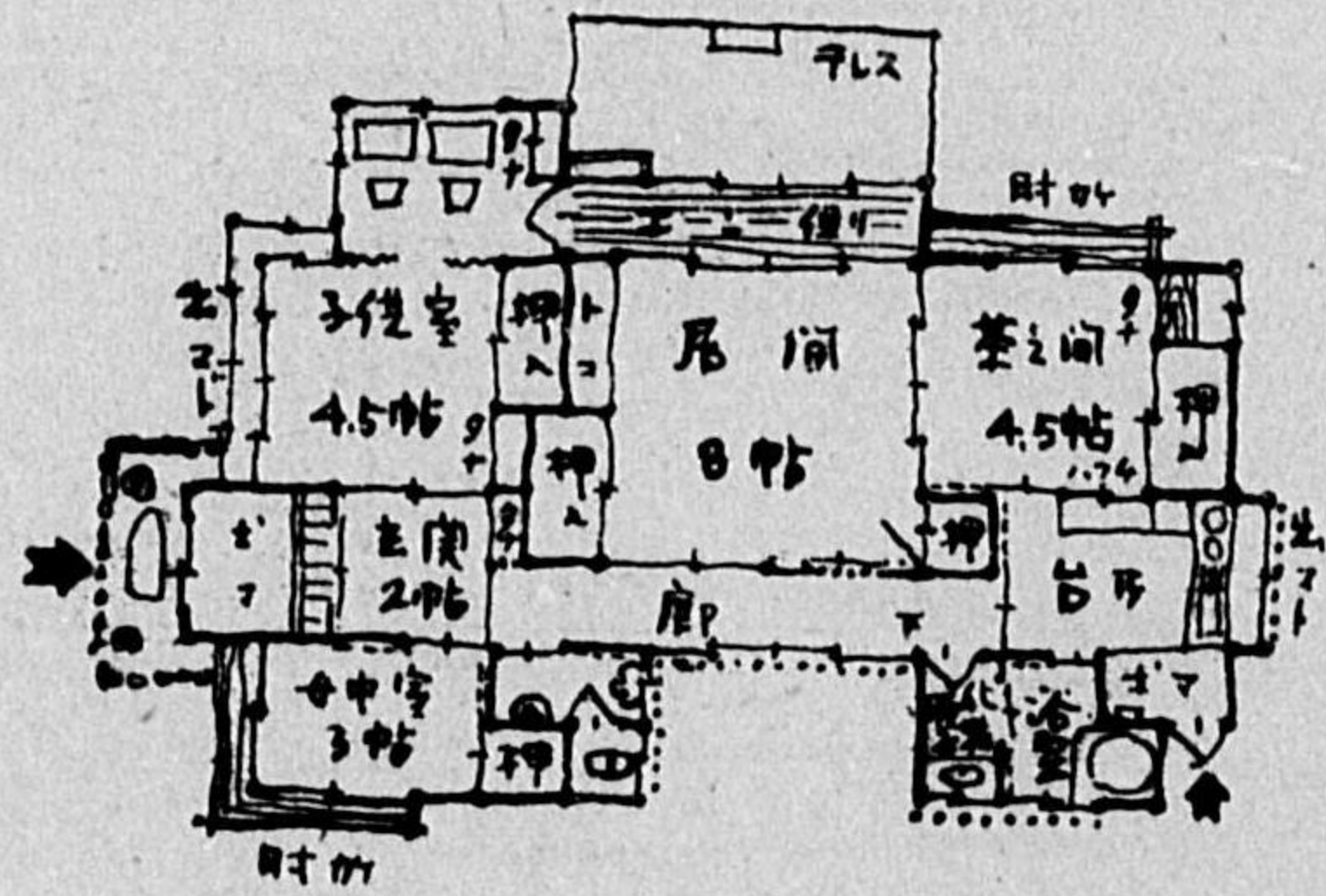
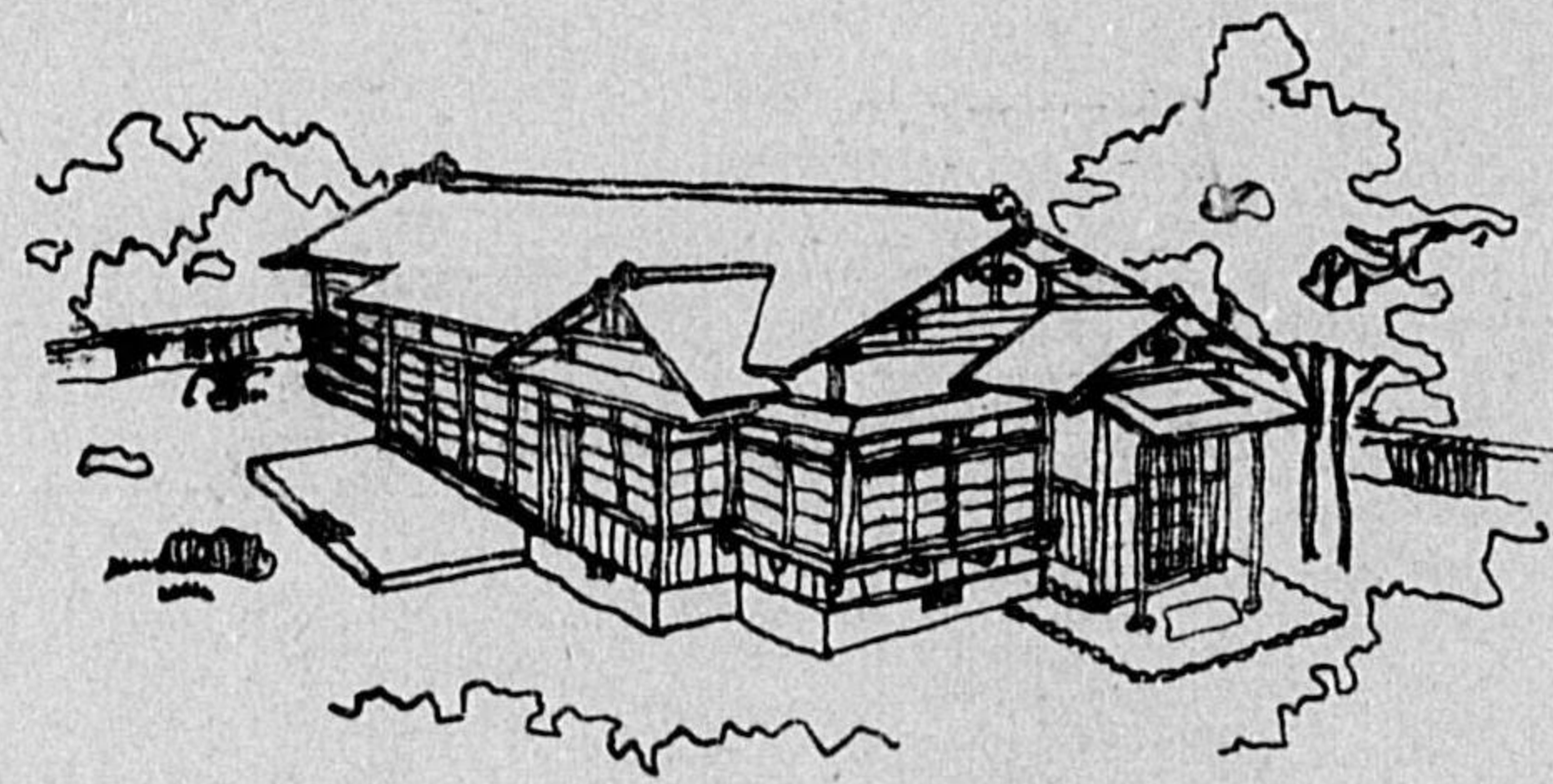
— 平家建小住宅 —



— 三十坪迄の住宅 —



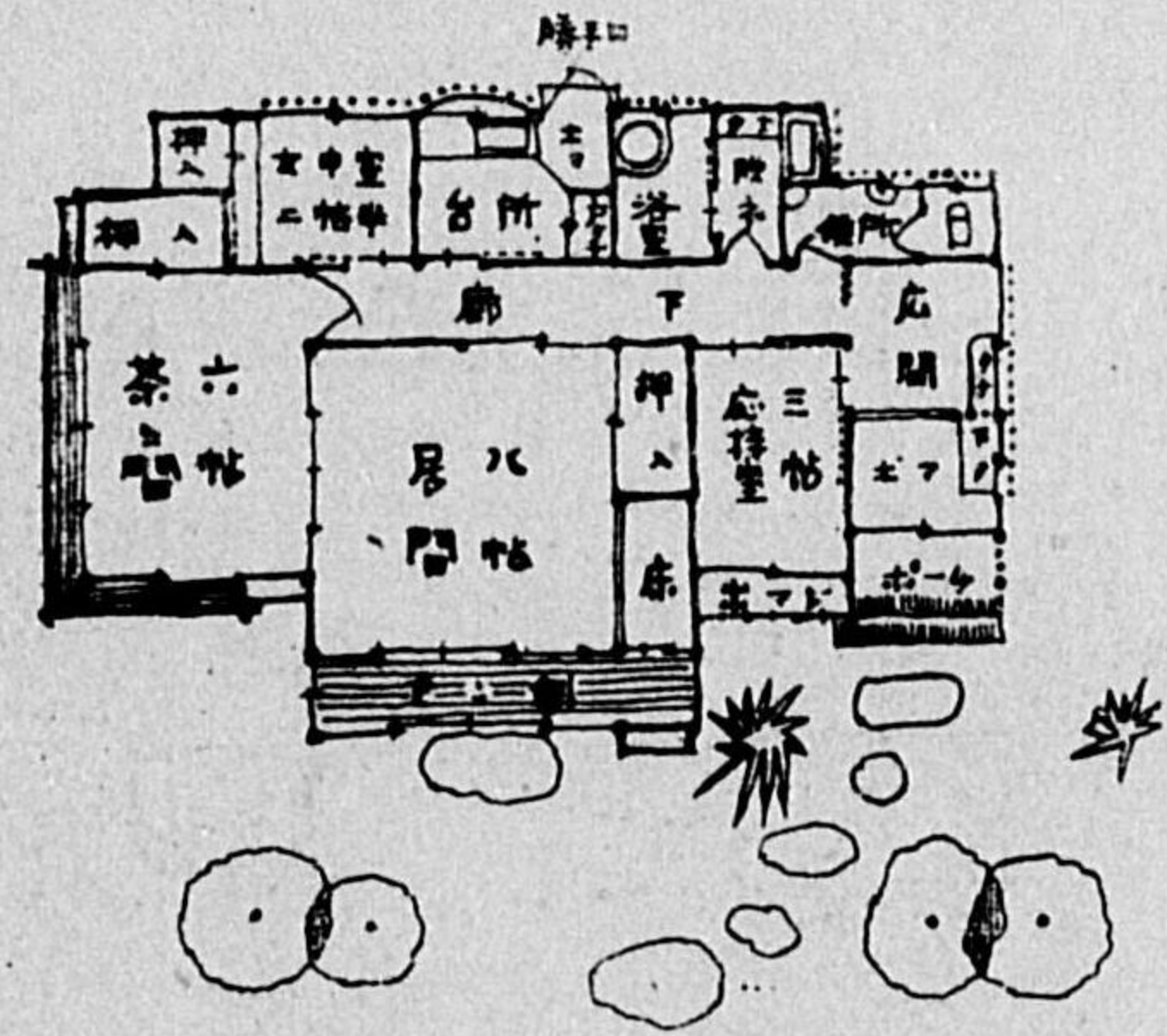
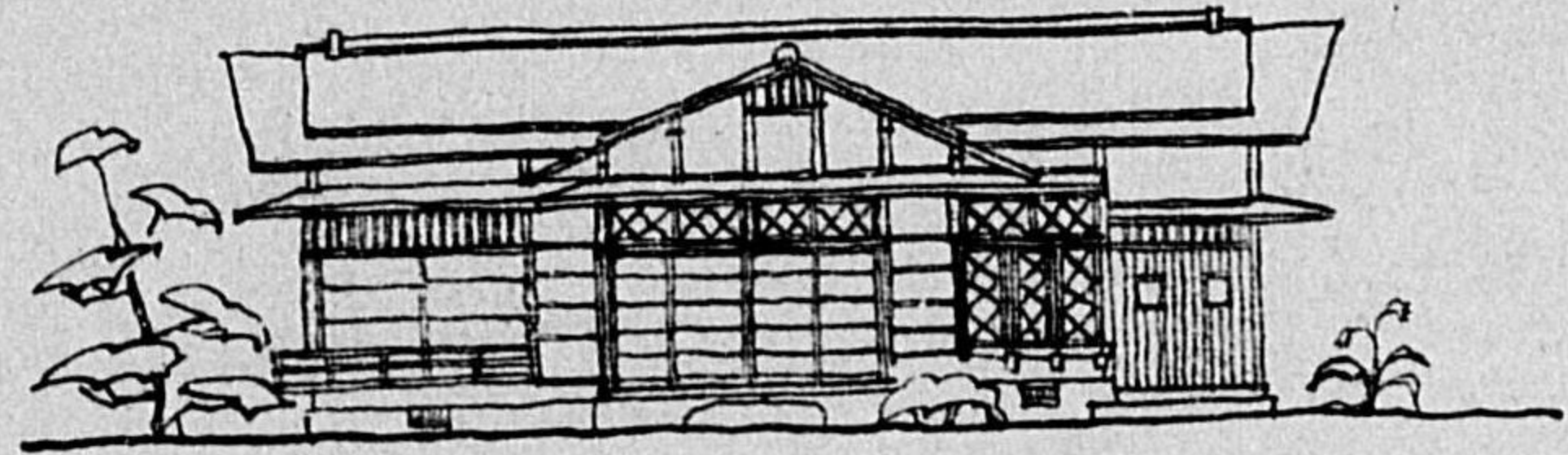
建坪 二十九坪  
和洋折衷の小住宅、夫婦に子供二三人及女中位の家族向、玄関、應接廻り及外觀は洋風とし日本間は八帖と四帖半、四帖半には堀炬燵を作り夏季は疊敷とします。居間の南側は六尺巾の廣縁をとり簡便な藤製家具か何かを置きます。堀炬燵は圓の如く周囲を混泥土打ちとし内部は板張りとし、保温が充分なので炭も經濟に例へば朝炭一個入れれば夕方六時頃までは充分保ちます。圓の縁寸法にすれば履掛式に又中格子を入れて和服用或ひは就寢に用ふる事が出来ます。檜は丁度座机の代用となります。



建坪 疊坪 二十三坪二合五勺

和風住宅

家族夫婦子供二人老人  
女中共七人位向の住宅で  
す、間取は日當り良く又  
關西地方特有の西風を充  
分取る様特に考慮してあ  
ります、又押入等も充分  
に取つてあります



郊外の小住宅

建坪 二十二坪二合九勺

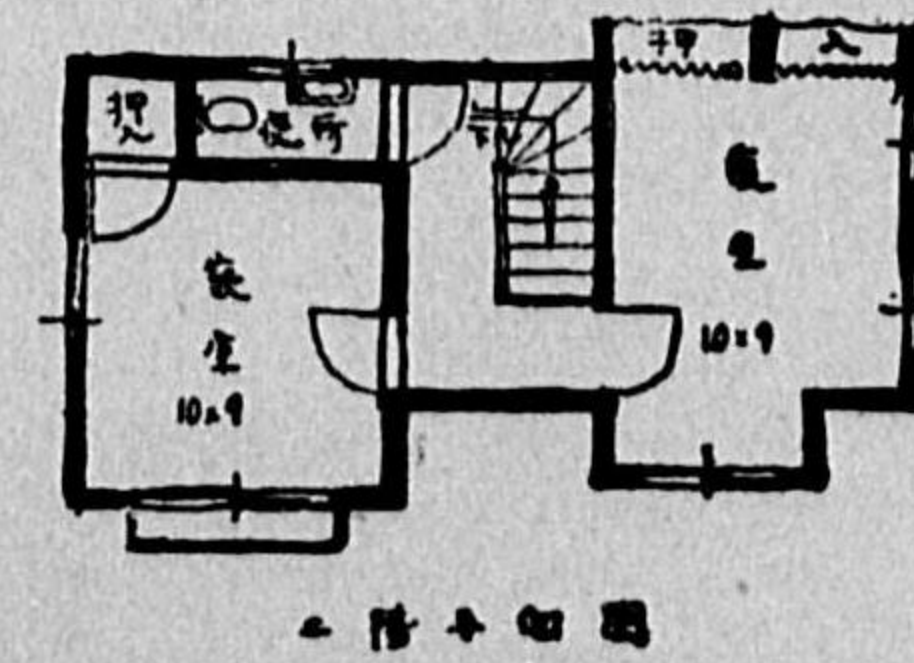
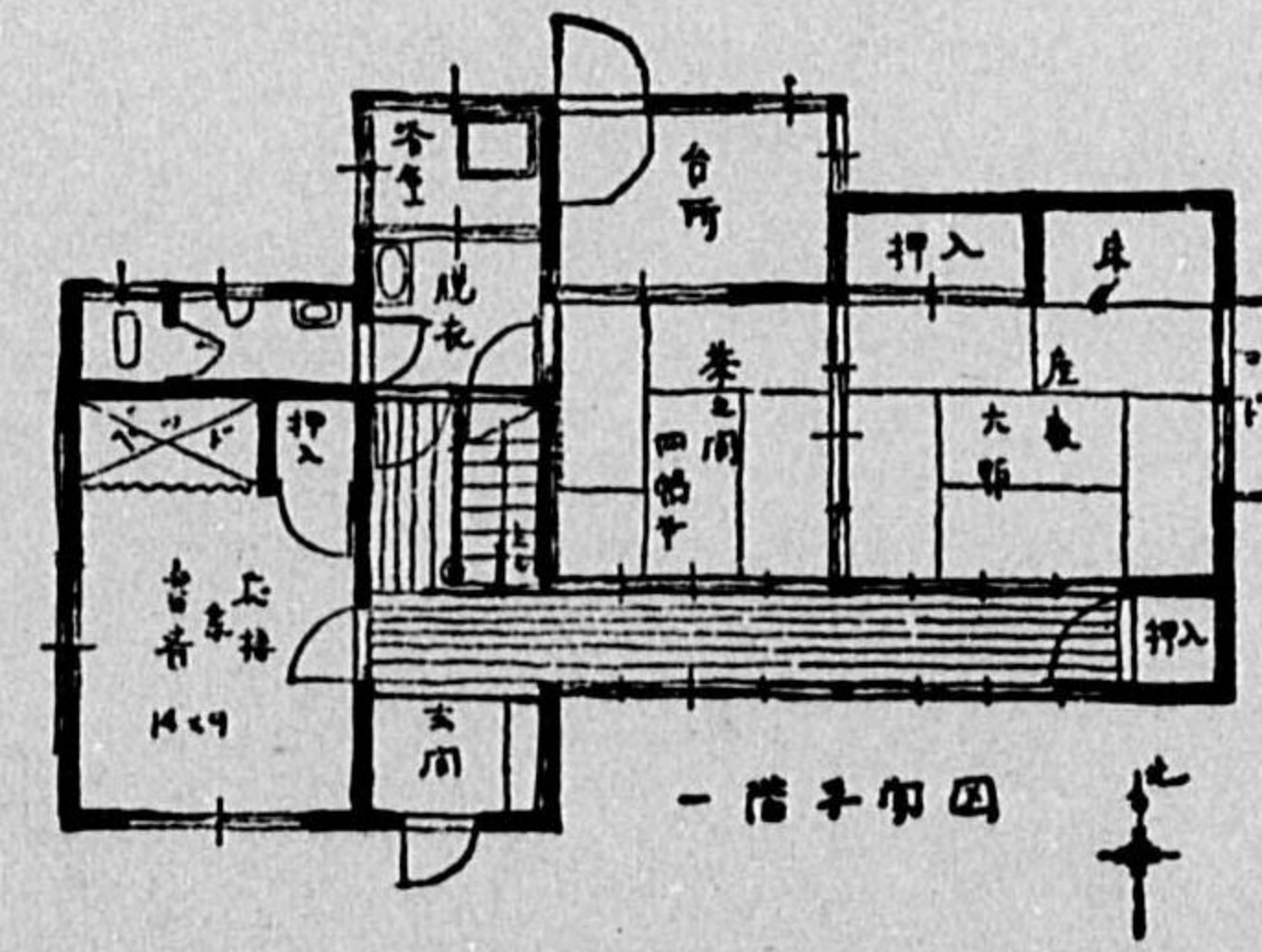
近郊に建つ夫婦子供一人位のサラリ  
マン向の小住宅です。一日の活動を終へ  
都街の狂騒より去つて、我が家の夕飯の  
楽樂に其の日の疲勞も忘れる事せう。  
外觀は洋風で勉めて輕快明朗の意匠と  
し、内装は玄關、廣間其他附屬室は洋風  
とし、座敷は附付いた疊敷と致します。  
三軒座敷等は書齋又は子供室を兼ねるの  
も良ろしいでせう。

# 20坪前後の住宅十案

1. ....	93
2. ....	94
3. ....	95
4. ....	96
5. ....	97
6. ....	98
7. ....	99
8. ....	100
9. ....	101
10. ....	102

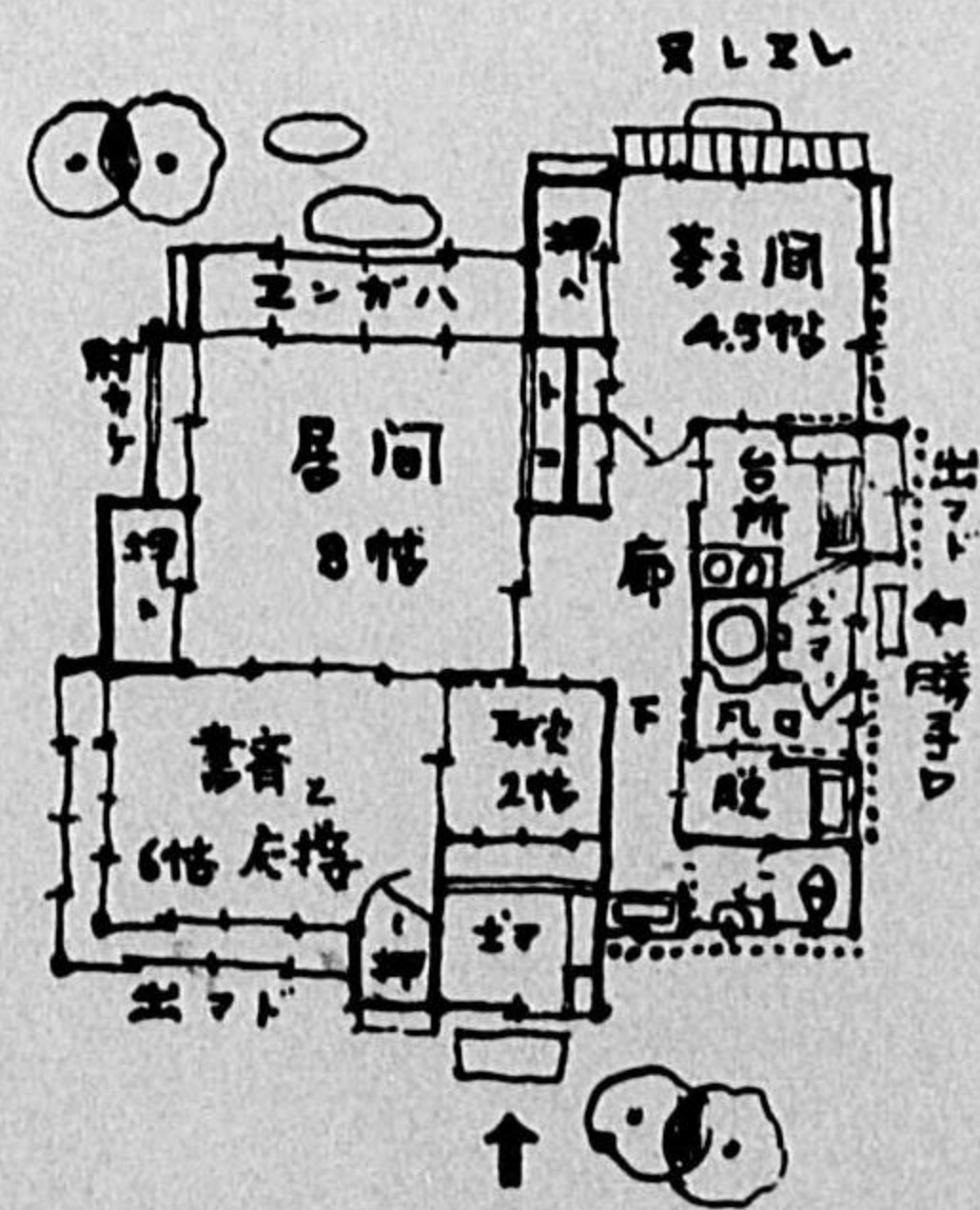
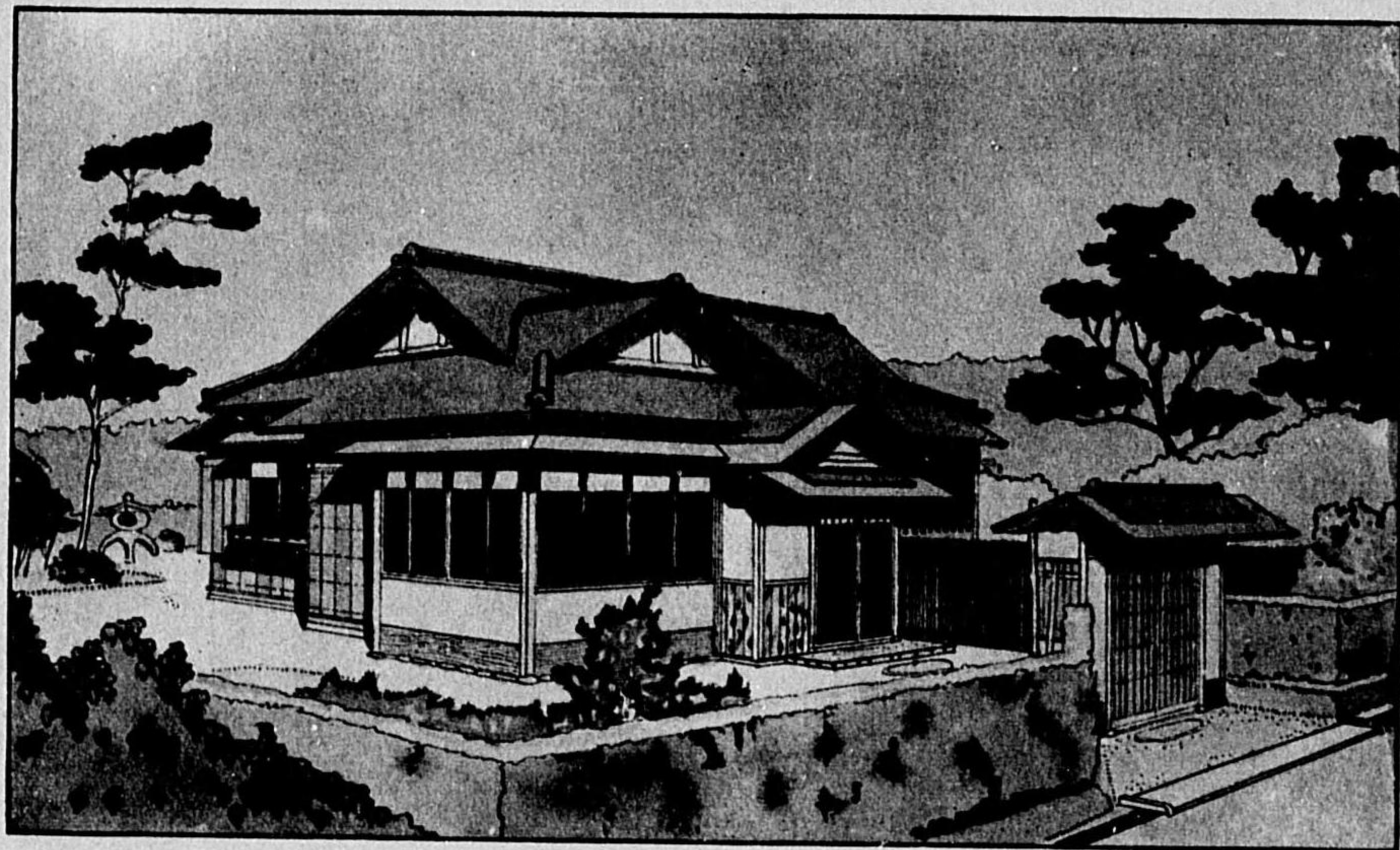


——高臺に建つ家——



家 族 六、七人  
 一階 十八坪  
 二階 七八坪

某氏の依頼によつて同氏の住宅を設計いたしました。場所は豊中北大阪土地の高臺で附近雑木林や、竹藪や田圃があり之から住宅地として發展する處です。屋根は附近の廣大な氣分に合ふかと思ふのでマンサードルーフとし日本瓦を葺き、壁は下見板張、クレオソート塗とし内部仕上は、日本間は在來通り、洋室はすべて眞壁塗とし、柱形を出し、オイルステイン塗とします。



—和風小住宅—

平家建 建坪 二十二坪二合一勺

夫婦子供一人位の小住宅ですが茶之間を老人室に當てもあまり無理でないと思ひます。外觀は總て日本風、應接兼書齋を洋風味のある部屋にしても面白いと思ひます。一般に通風を充分考慮してあります。

案十字卦の廻廊の09

30	.....	1
40	.....	2
50	.....	3
60	.....	4
70	.....	5
80	.....	6
90	.....	7
100	.....	8
101	.....	9
105	.....	10

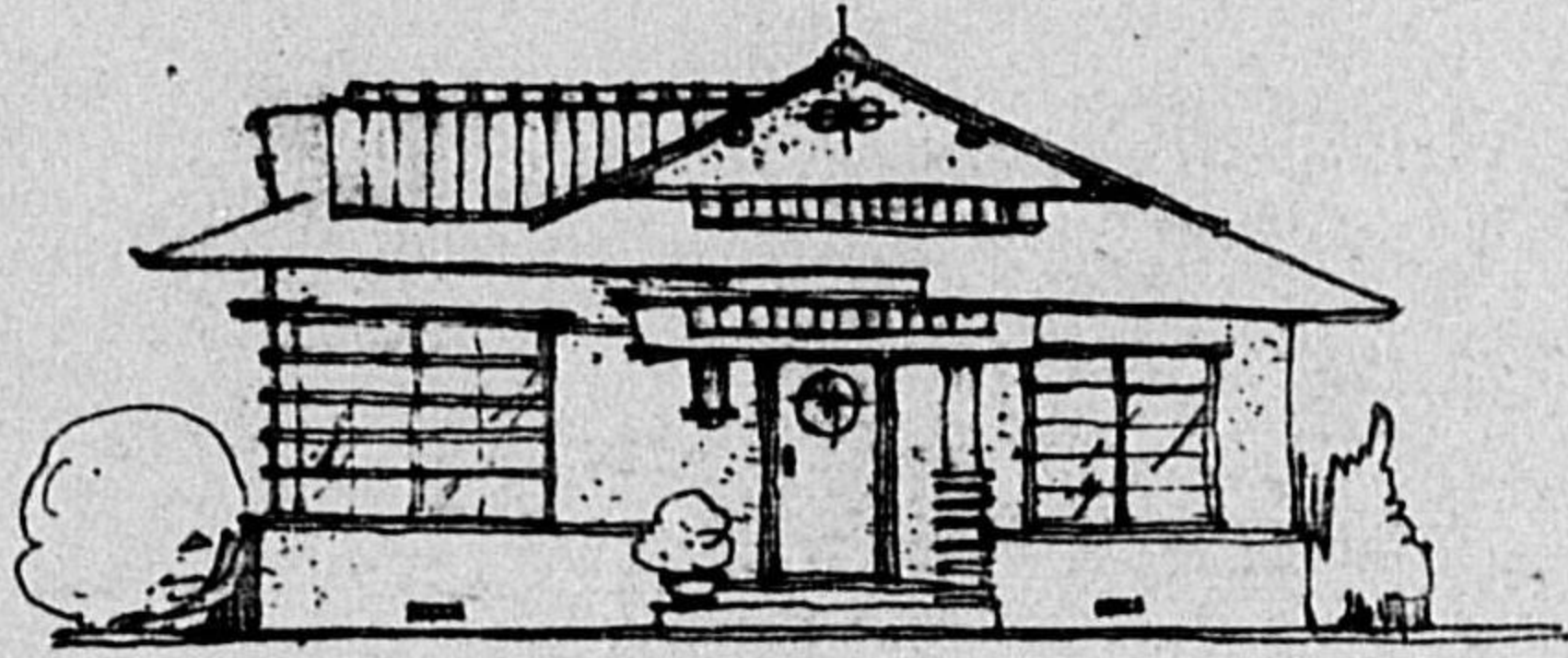
— 小さい住宅 —

- 一、敷地 四十坪 — 五十坪位
- 一、建坪 十六坪

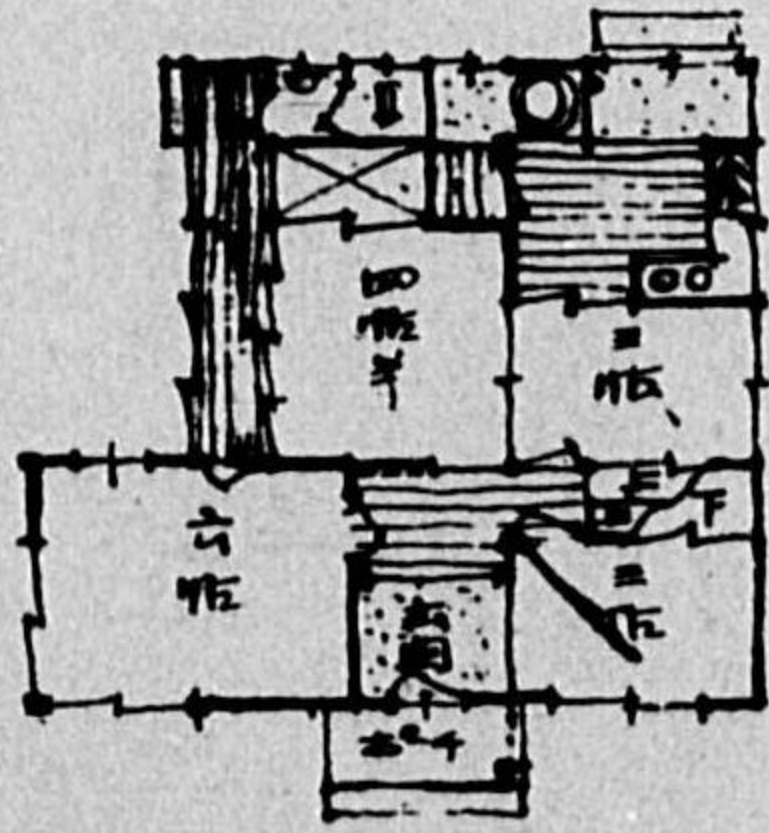
平家建の小住宅であります。老人夫婦とか、新婚夫婦とかに向くと思ひます。又月賦などで簡易に建てるのにも良いかと思ひます。

支關と廣間は六帖、六帖は洋風書齋、四帖半は居間、寢室兼用、三帖は小兒室にするか、泊り客としても宜しく、三帖の茶の間は食事兼用、炊事場は板張り長州風呂を据えて置けば宜しいと思ひます。

構造の外部は和洋折衷式とした方が便利で安全かと考へられます。



まろ屋



まろ屋

— 平家建の住宅 —



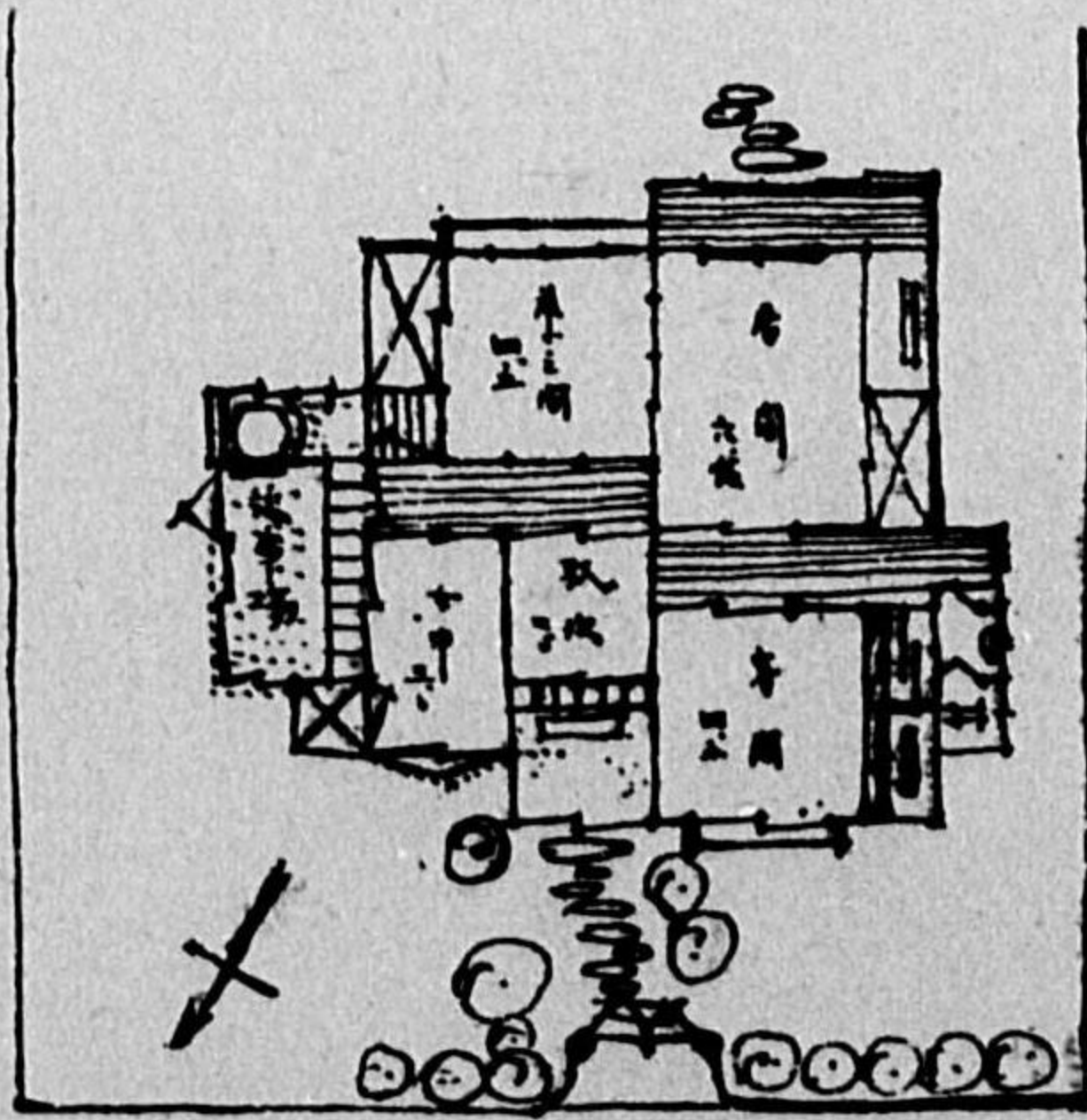
- 敷地 七十坪 — 八十坪
- 建坪 十九坪五合

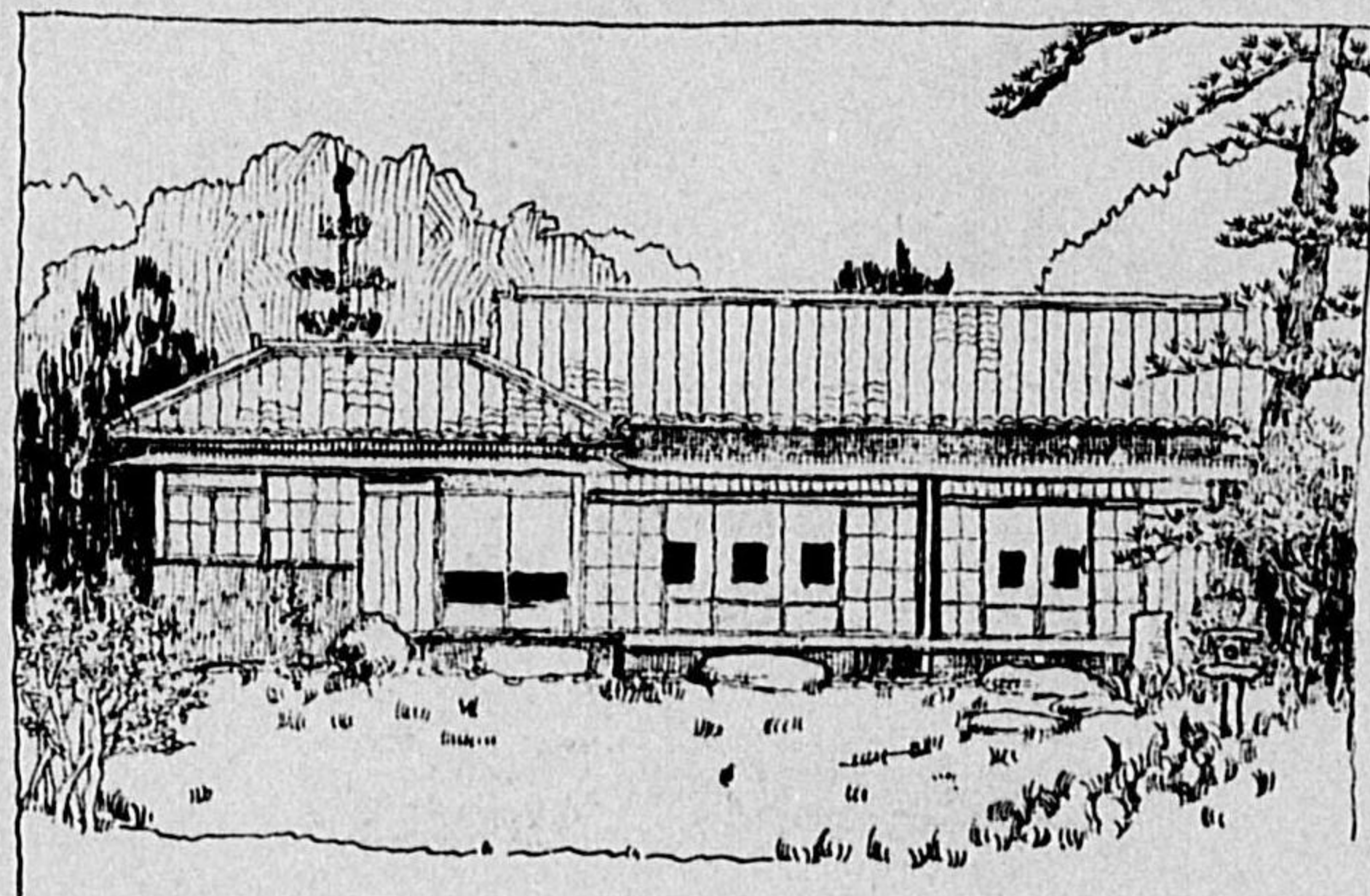
敷地は間口七、八間、奥行十間内外のものであります。

平家建の小住宅で、夫婦に女中又は隠居に女中程度の大きさであります。

様式は外部は大體に於て和洋折衷として、内部は和風、雨戸の部分を少くするの  
も便利かと思ひます。

茶の間、居間などを最も日當り良き部分に配置して、四帖半の客間は書齋として  
用ひても良いと思ひます。

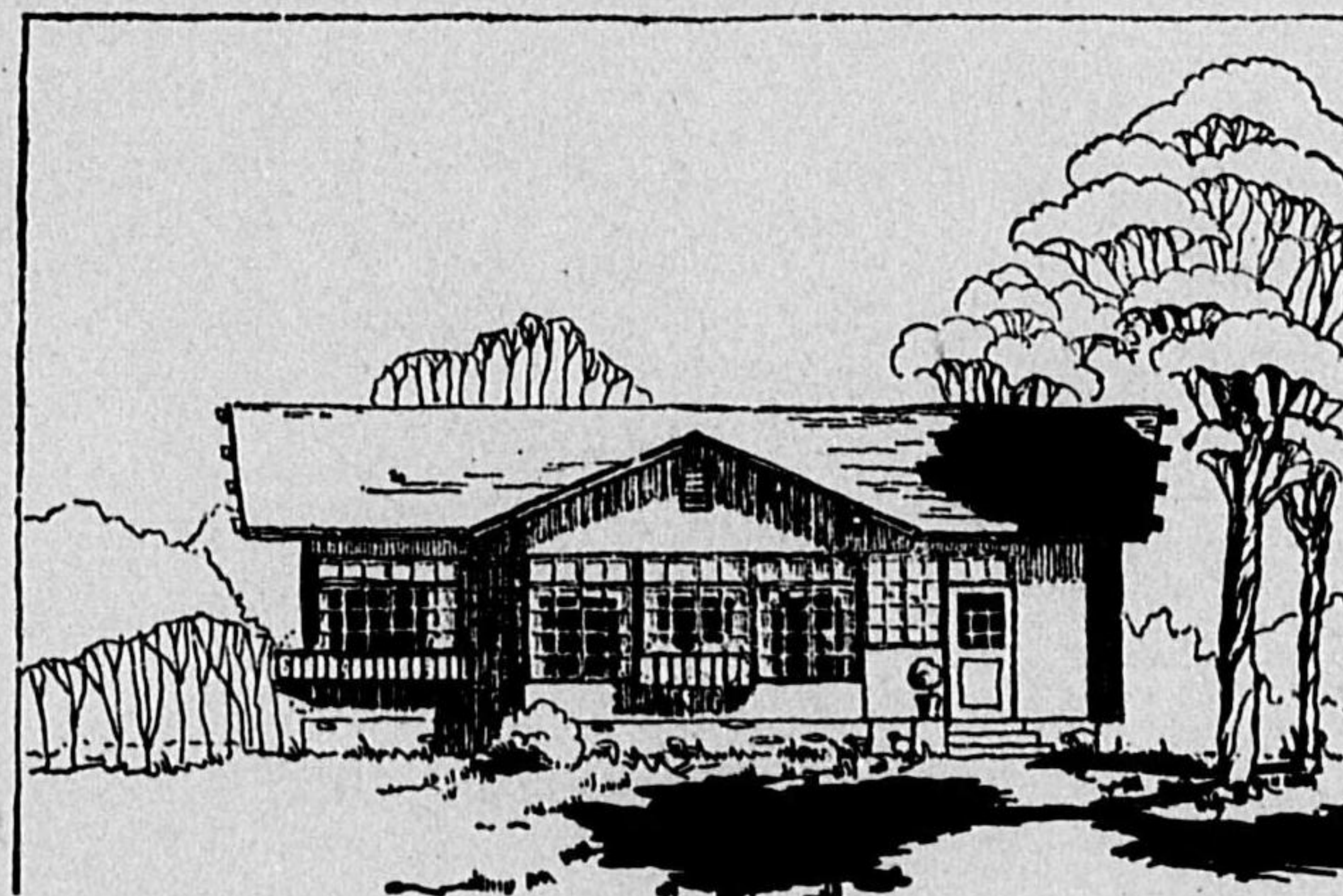
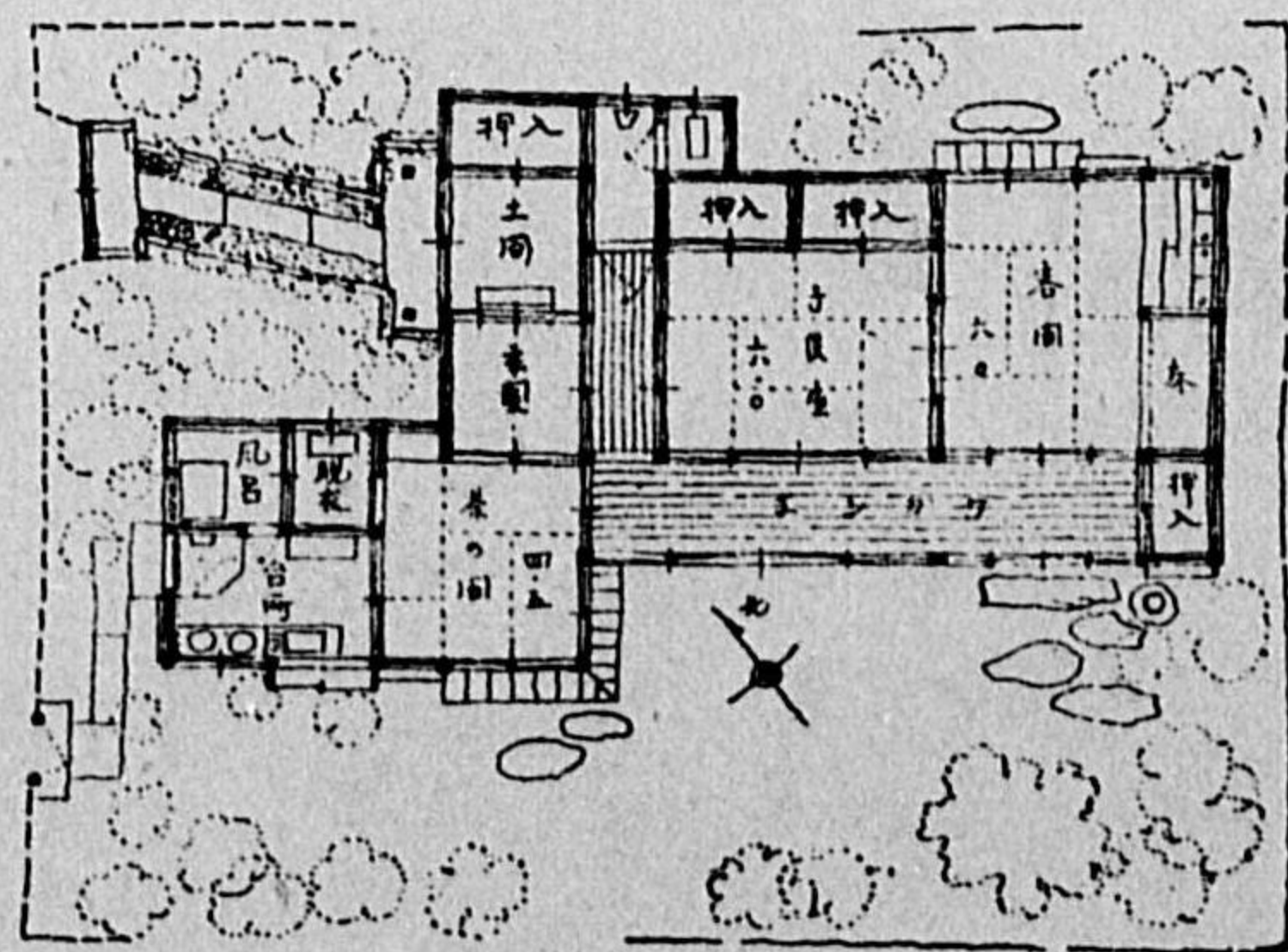




— 光のよく入る家 —

現在の郊外日本住宅と大して變化した所はありませんが、エンガワを長く長く東南にとり、且つ主要な部屋が皆東南に面する様に、尙坪数は出来るかぎり少くする様に、工夫しました。

家 建 二 十 坪  
 族 坪 五 人 位 まで

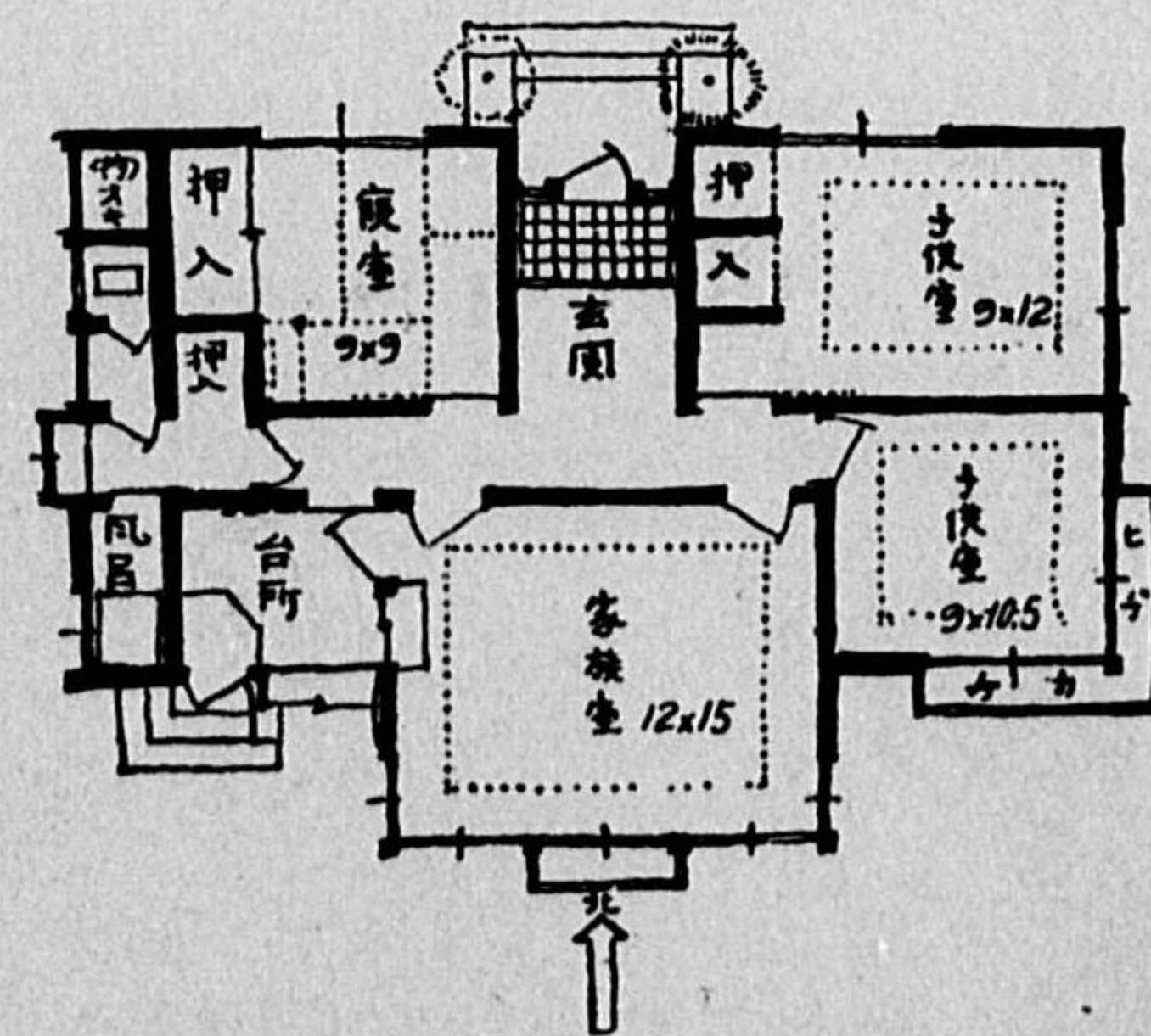


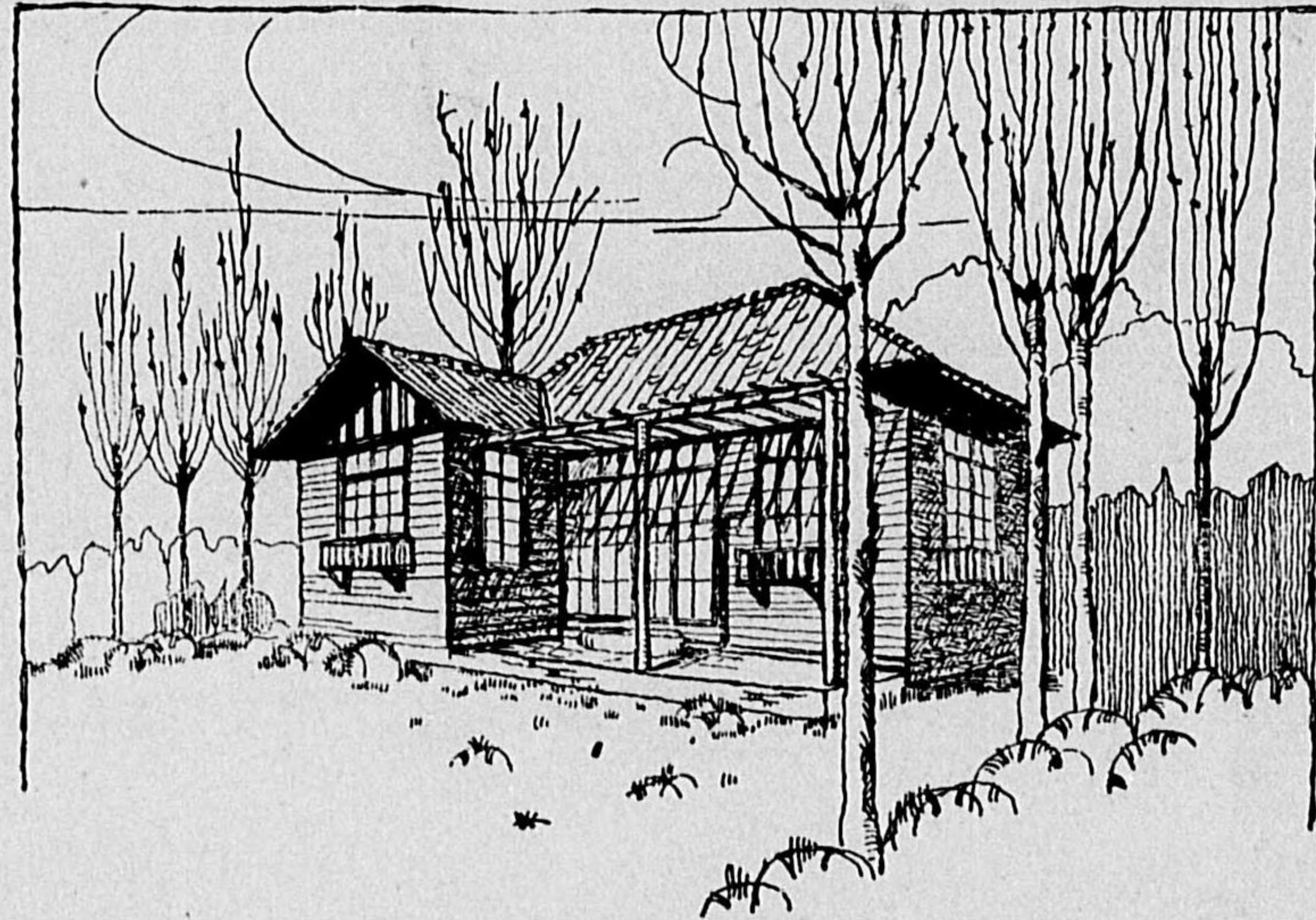
— 寢室の多い家 —

坪数の少い割に多ぜいの家族の住む様に又は子供各自に室を與へる爲寢室の多いプランをやりました。寢室の多い爲に來客用の室や食堂を取る事は出来な  
 いが家族室は居間兼食堂又は談話室とし、來客には四疊半の座敷を用ひますと少しも不便はありません。

家 建 二 〇 五 坪  
 族 五 六 人 位

臺所は南面し、家族室は東南西の三方が開き、子供室となるべき寢室は東又は東南をうけて居るので衛生的な健康住宅になります。



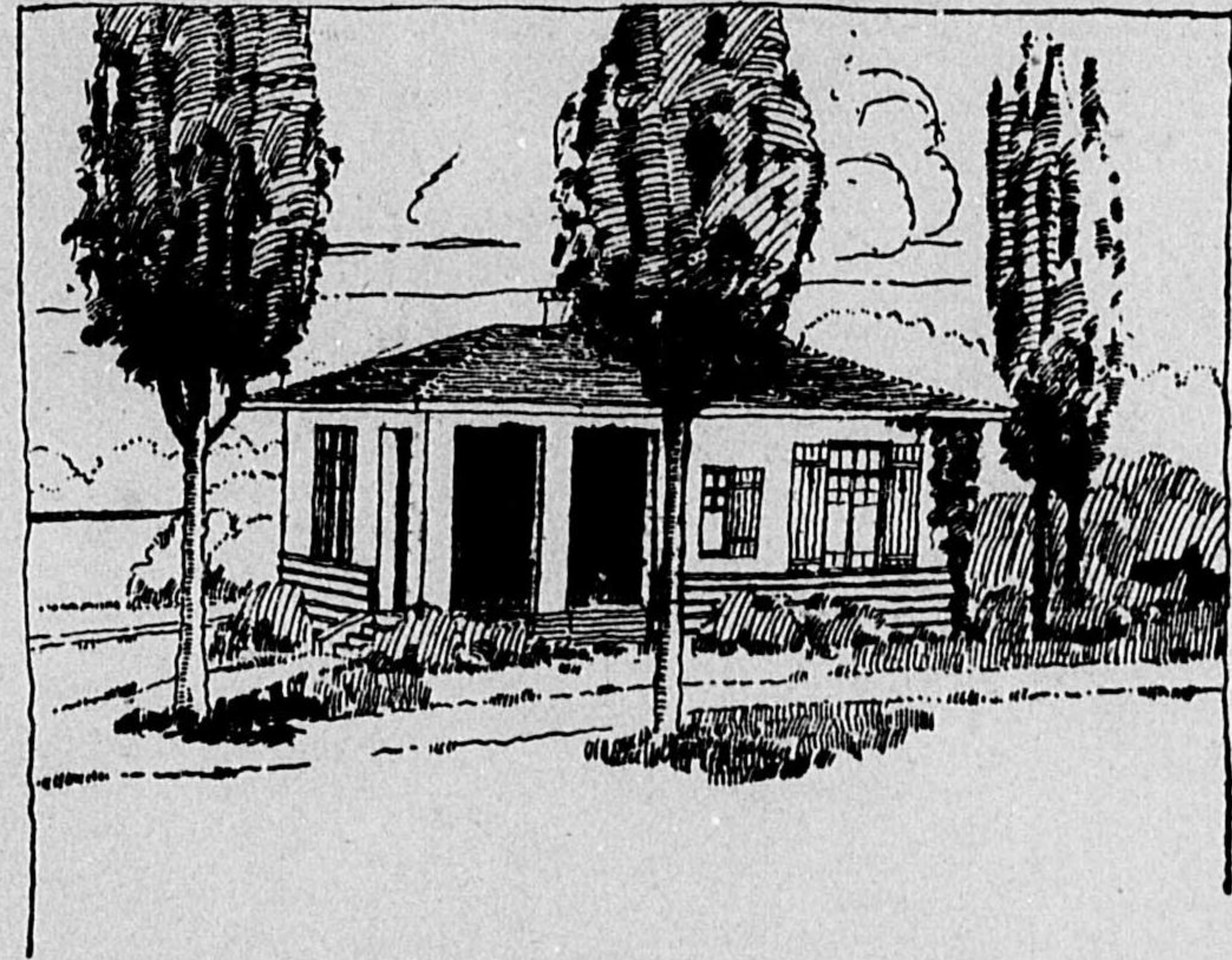
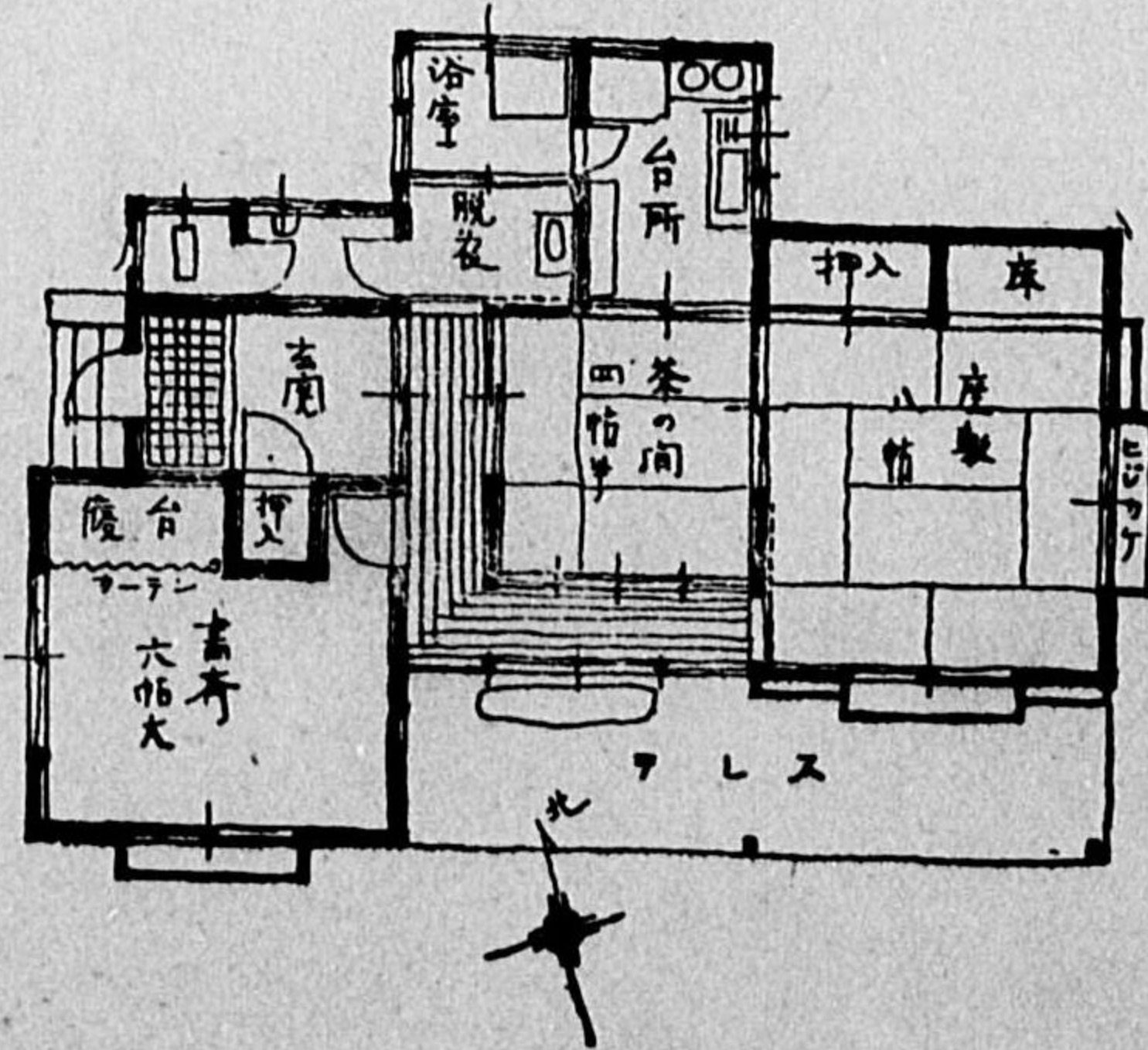


— 小さい家 —

借家住居の不满から早くのがれて、気に入ったプランの自分の家を持ちたいといふ希望は誰でも抱いて居ります。そこでこの様な人の経済的關係を考へて考案したのがこの小さい家です。

小さい面積を有用に使ふには西洋間より日本間の方が便利ですから居間と茶の間は疊敷にし書齋のみを洋式にしました。しかし書齋も疊敷でもかまひません。書齋のベツトは來客用又は子供が大きいなら子供用にします。

- 外部仕上 屋根 日本瓦
- 壁面 下見板張クレオソート塗
- テレス 煉瓦敷
- 室内仕上 日本間 従来日本間通り(米樺材使用)
- 書齋 眞壁とし長押を附し木部オイルステイン塗
- 天井 等張吸音
- 坪数 十七坪二五(テレスを除く)
- 家族 四・五人



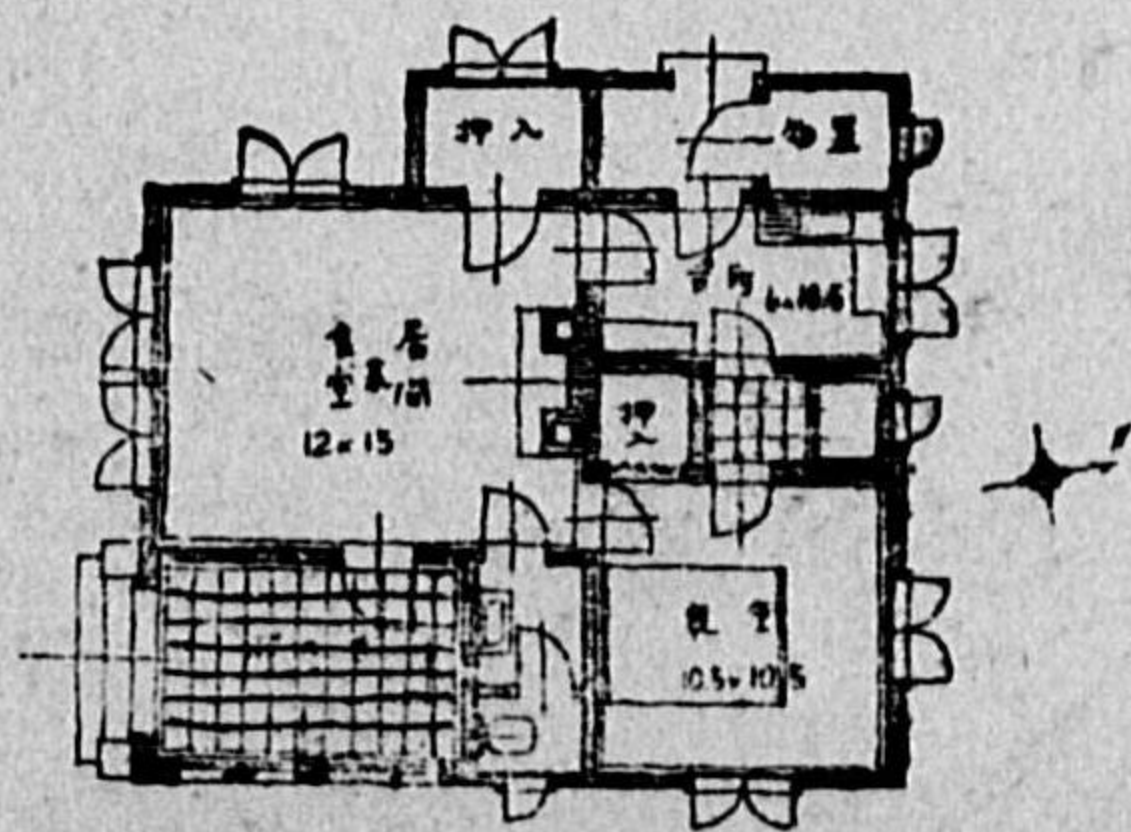
— ミニマムの家 —

最も能率的な生活の出来るのはアパートメントハウスですが今度はその主旨によつて郊外住宅をやりました。

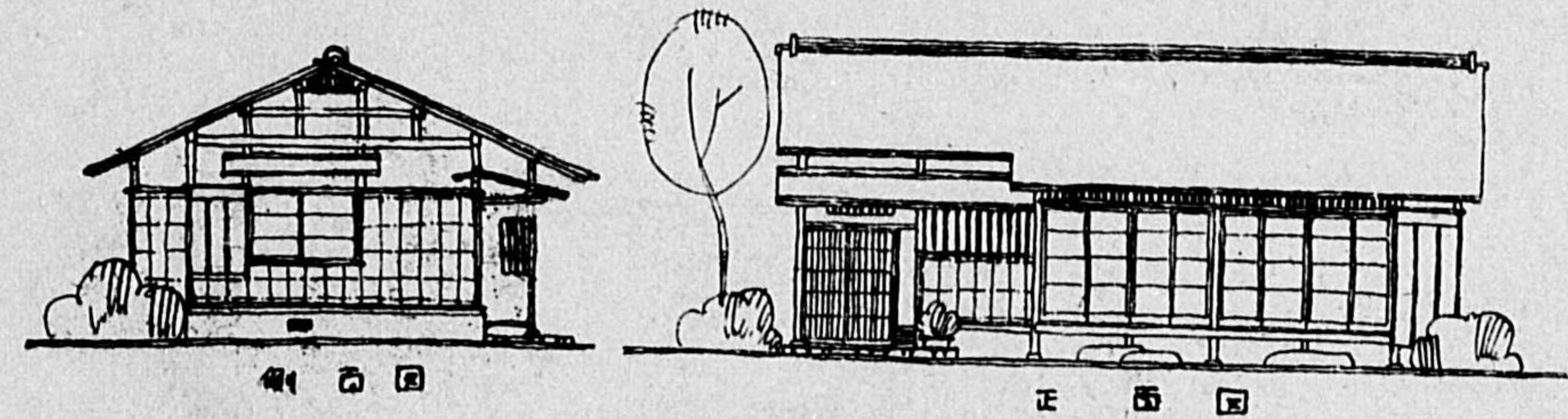
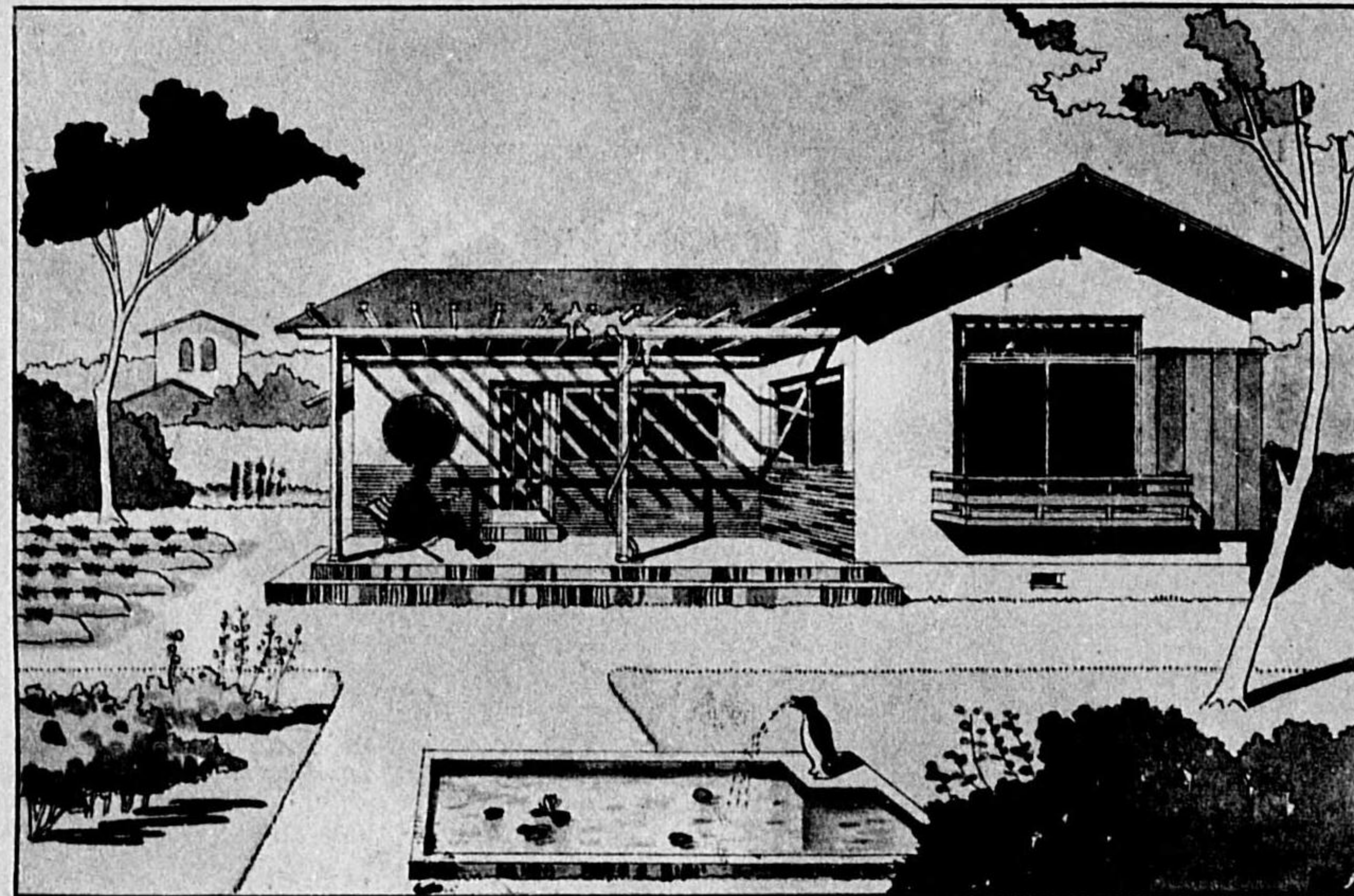
郊外住宅となつたのでポーチを付け加へた爲に坪数が少々増しましたがこの位の餘裕は欲しいものです。従つて決して無駄ではないと思ひます。

はじめ夫婦暮か獨身位で居つて家族が増した時に臺所と物置を一室にまとめて寢室とし居間に續いてゐる押入を設備の完全な臺所に模様替します。

- 建坪 十六坪

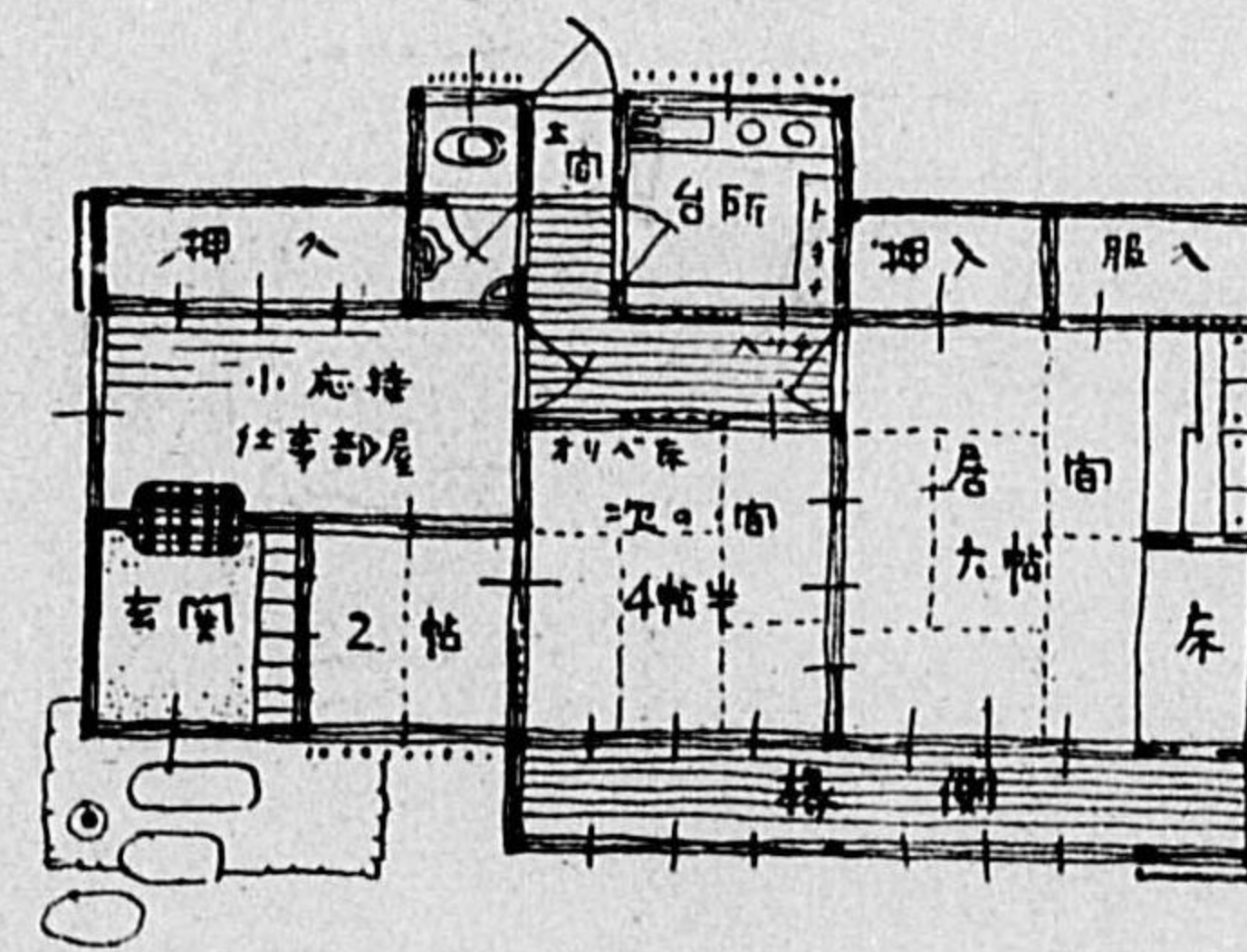






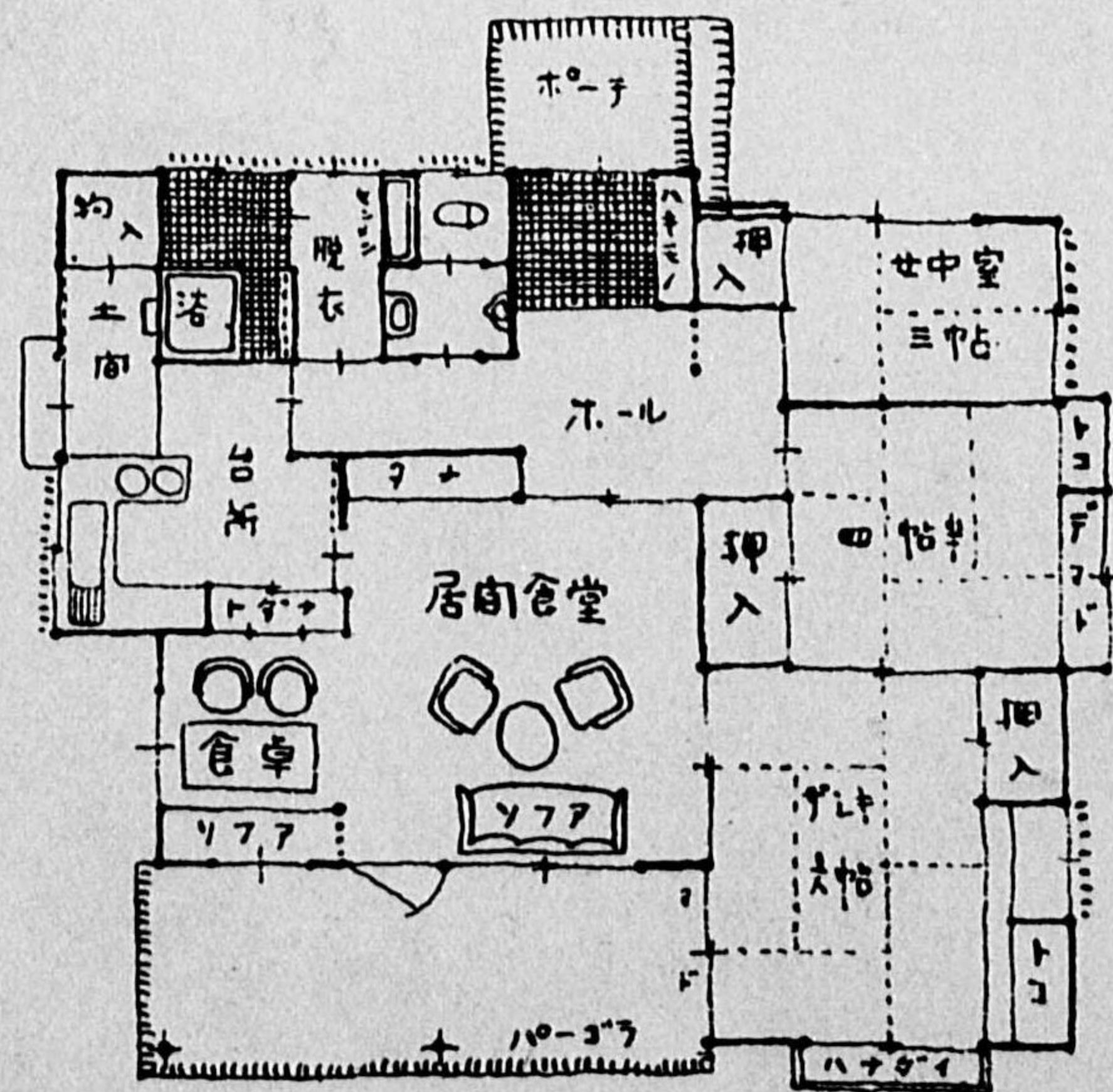
側面図

正面図



夫婦に幼児一・二人位の家族向の小住宅です。主なる部屋は六帖と四帖半の二間です。玄關を入つた次の板の間は應接用として又は仕事部屋として或ひは女中室ともなります。

建坪 十六坪五合



— 郊外小住宅 —

近代人向きの郊外小住宅。東側に日本間六帖、四帖半をとり、洋風の居間（八帖大）を續けて南面してとります。之は應接兼用として西南隅に入込みの食堂をとります。

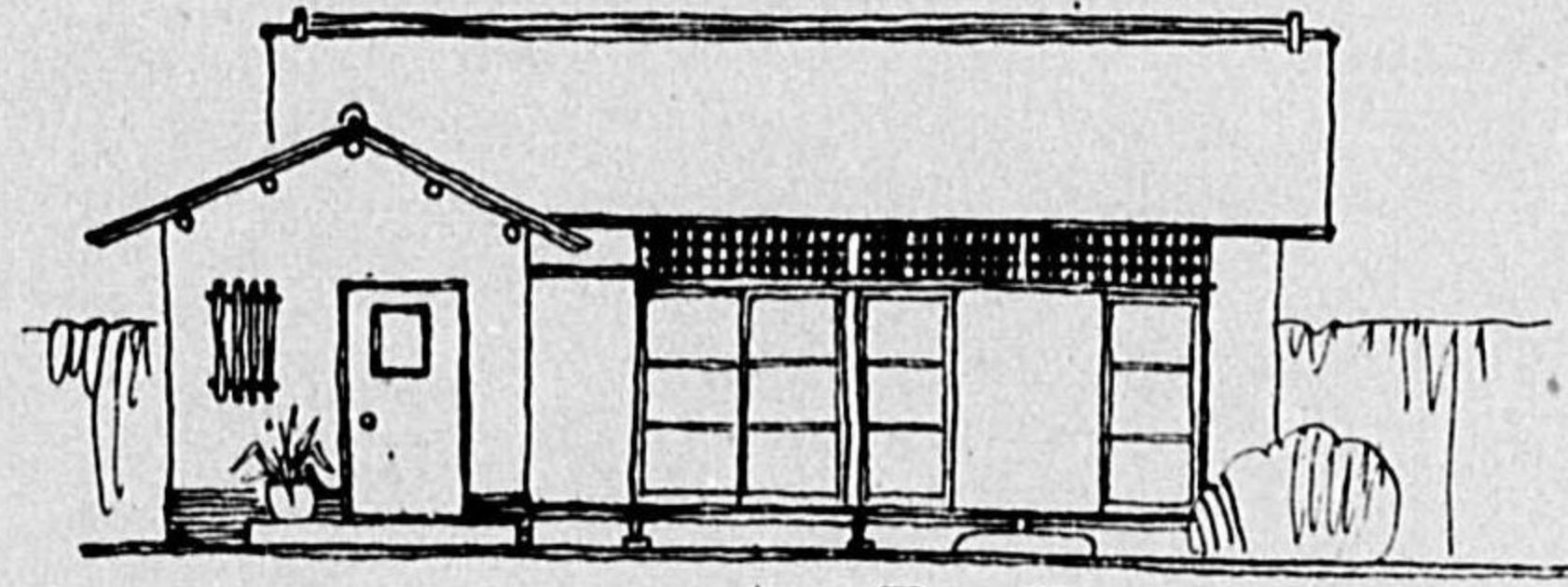
建坪 二十一坪五合

二十坪以下の住宅

# 附 録

## 住 宅 各 部 考 案

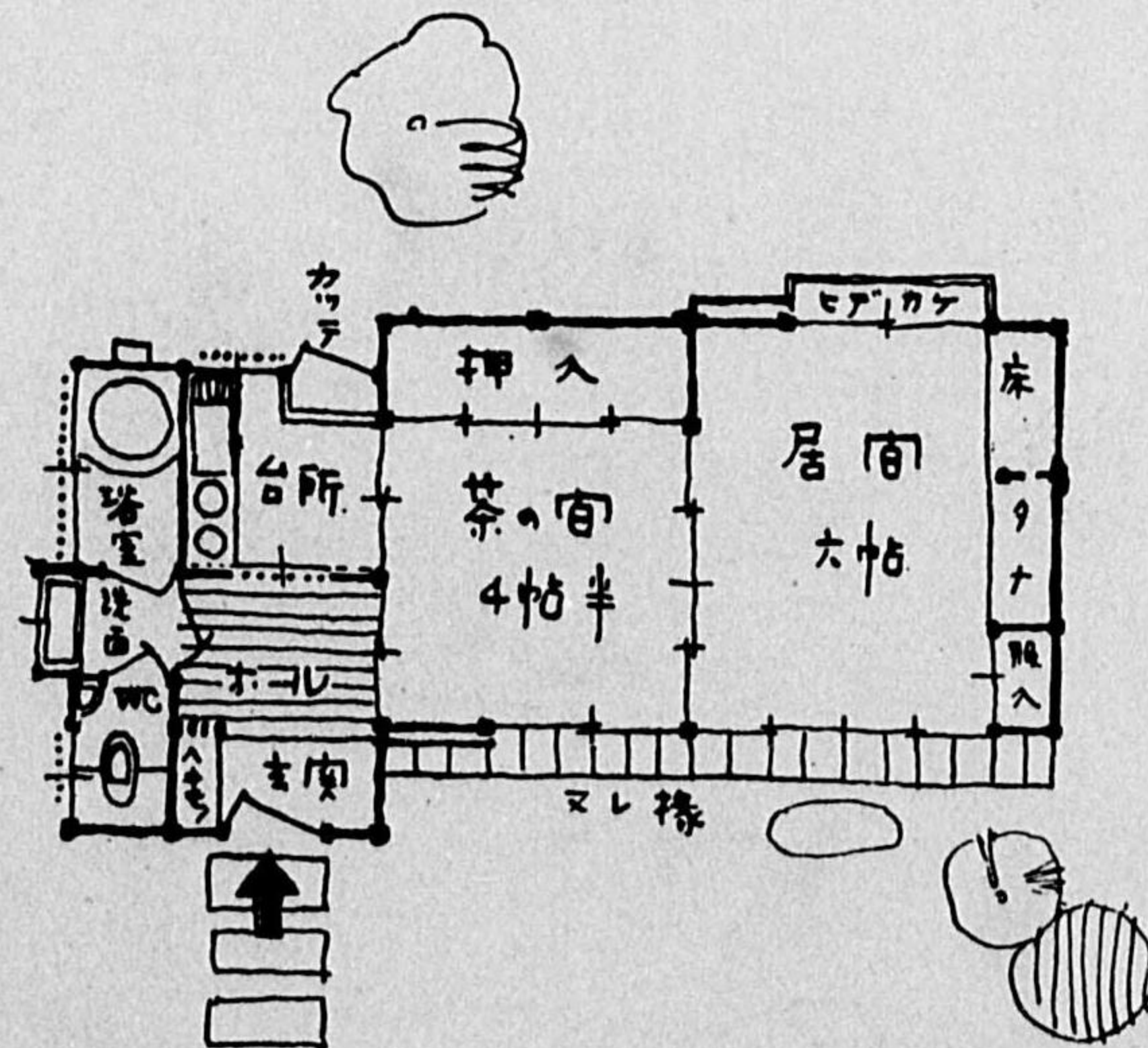
門	.....	附 1
女 關	1. ....	2
	2. ....	3
臺 所	.....	4
浴 室	1. ....	5
	2. ....	5
便 所	.....	7
化 粧 室	.....	8
庭 園	1. ....	9
	2. ....	10

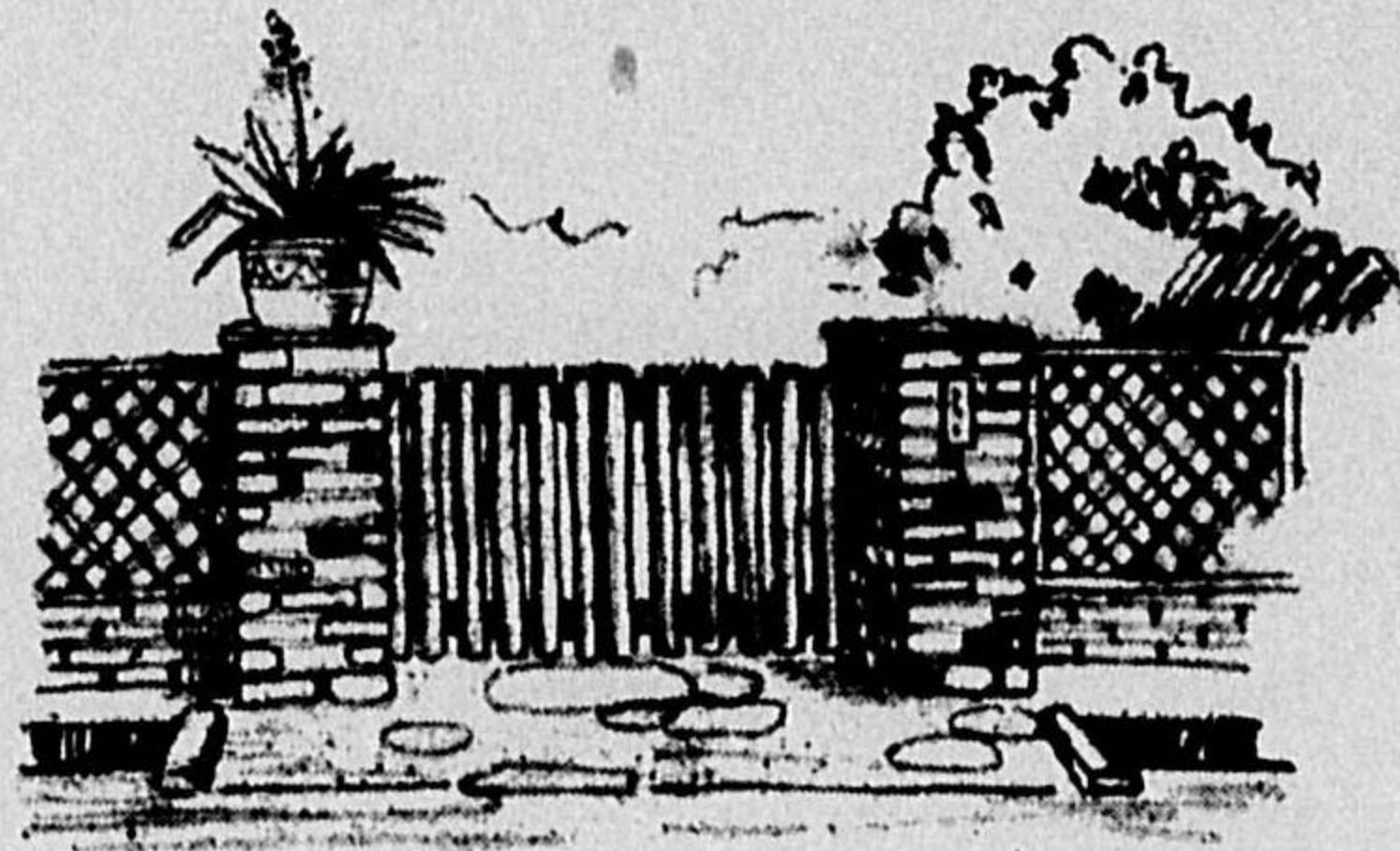


立 面 図

建 坪 十坪四角  
 ダットサン流行の今日こんな豆住宅は如何ですか？十坪で六帖に四帖半浴室迄あります。便所は一穴の丁度汽車式のものを用ひます。どうせ少い家族ですからこれでも充分と思ひます。主人の職業で書齋の欲しい方は四帖半を三帖にし床脇の部分に二帖位の仕事部屋をとつても坪数は變りません。床脇の棚を廢してタンス置場とするのも實用的です。

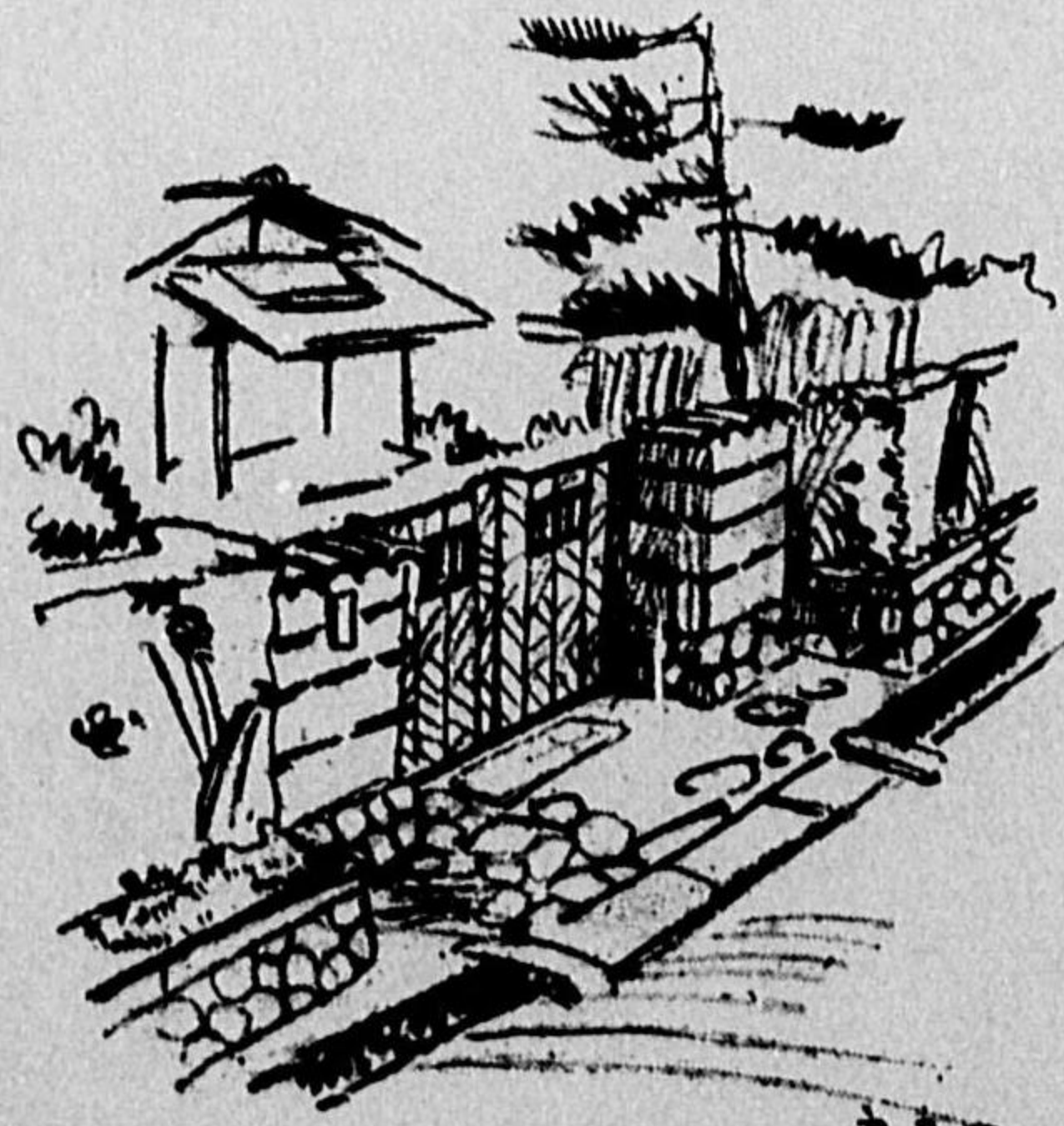
十坪住宅





710

その二は和洋何れにも向く案で門柱は上部に丸瓦を小口を向けて並べ脚にも棒瓦で数段の帯を廻し腰は鍍平石貼りとし、帯の間はリソイドの置き落し仕上とします。門扉は米櫓か何かを名乗りペンキ拭取り仕上げとし窓は洋風ならば飾りの金物、和風ならば徑一寸許りの斑竹等入れるのも面白からうと思ひます。塀は腰を玉石積みにし具塚を植えて生垣にします。



720

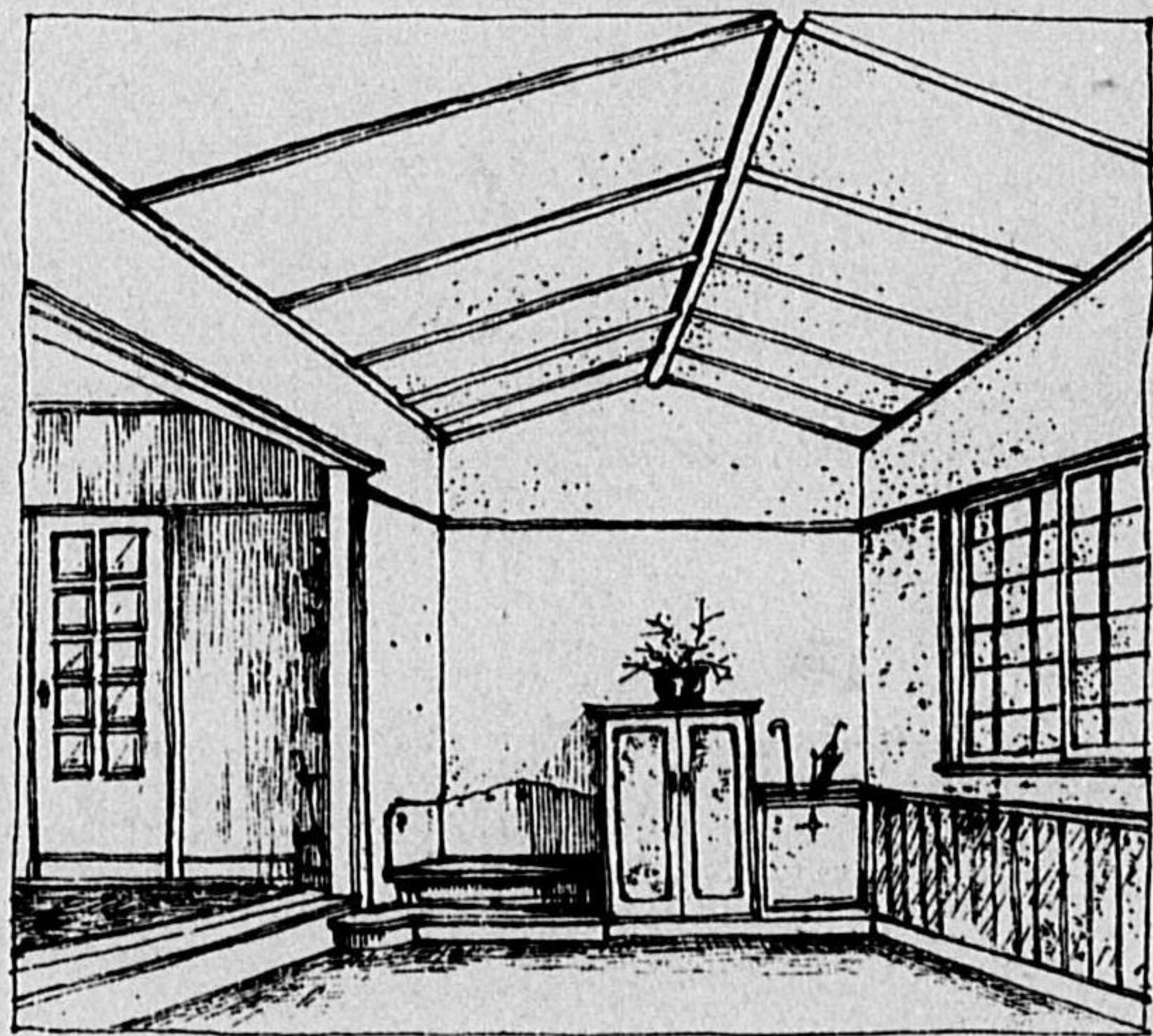
郊外の小住宅向きの門と塀を二種許り考へて見ました。第一圖は洋風向きて柱は痛付きの焼通煉瓦を積み上端は鍍平石貼りとし植木鉢でも置けば一段と面白からうと思ひます。門扉は杉皮付丸太(徑三寸許り)を二つ割としたものを堅にならべ裏から貫棟の物でつなぎます。仕上げはペンキの拭取仕上げとし時局柄、簡單質實ではありますが野趣があつて面白いものと思ひます。塀は腰を同じ煉瓦で積み四時角二割位の材料で枠を組み一寸角位の材料で斜に組みます。是をクリンプの金網を張つても面白いものですが矢張り國策に沿つて木材とし是にのいばらでもからましますと鐵條網の代りともなり花も咲き實用と美觀を兼ねていゝものと思ひます。

— 小住宅の門 —

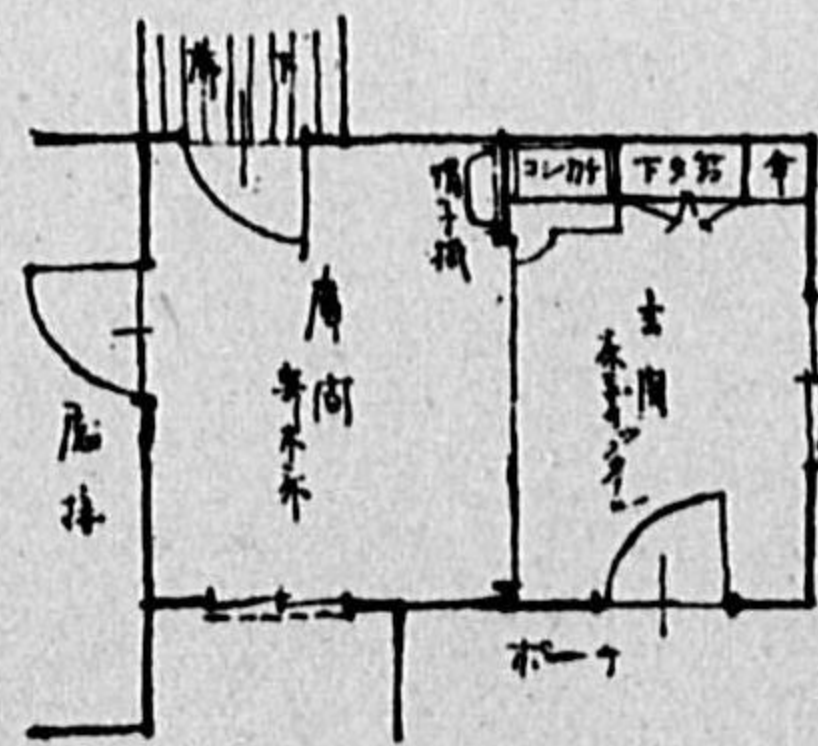
庭 園

案 考 階 谷 守 計

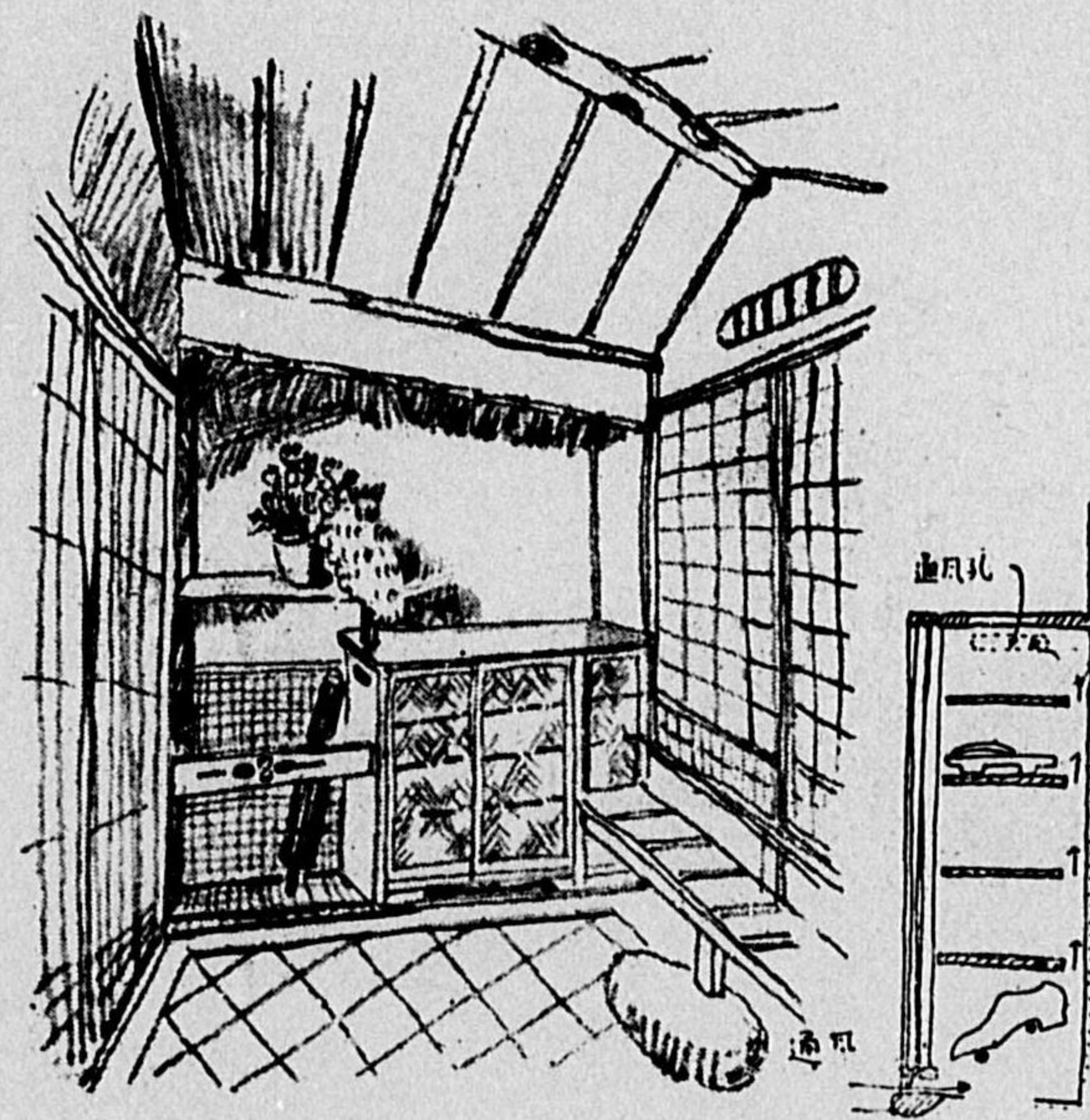
1	樹	門
2	..... 1	關
3	..... 2	.....
4	.....	池
5	..... 1	庭
6	..... 2	.....
7	.....	池
8	.....	庭
9	..... 1	園
10	..... 2	.....



— 玄關の設計 —



住宅に入つて第一の印象は先づ玄關でありまして、餘りに亂雑な閉口であります。ステッキの置場も無いのも困る事があります。出来合の宜徳色のパイプ製の傘立も如何なもので、玄關にふうつりなのが、多い様です。新築の時に共に設計して造り付けにして置いた方がピタリとはまる様です。更に困るのは和洋折衷の住宅の玄關で靴をはかうとする時であります。やはり腰掛を造り付けて置いて利用出来る場合は非常に便利であります。之は某氏邸の玄關で傘立下駄箱を設け、其の上を鉢臺に兼ねたもの、腰掛は朝夕靴をはく時に便利で、腰かけの下に戸を付けて、靴の掃除用具一式を入れて置きます。



— 或る玄關廻りの考案 —

敷居屋風中流住宅の玄關土間の意匠です。天井は舟底天井、二寸八分位の勾配とし化粧棟丸桁共欄丸太とし天井板の目地は底目地とし煤竹を入れます。土間の一方に造り付けの下駄箱を取り、此の部分を入り込みとし落し掛けは徑一寸八分位の斑竹又は、ゴマ竹とします。下駄箱の左手に海老東を立て欄を一段取り四季の草花等を活けられる等せられると備かの事で大變風趣を添え、來客等に好感を與へるものと思ひます。その下を傘立てとし、下駄箱と他方の柱の間へ透し彫のはいつた貫を通し背面の壁は水等で濡れぬ様蓋い布目か何かのタイルでも貼ります。下駄箱は断面圖にも有る様に最下段を靴入れとして丁度靴屋のショウウィンドーにある様に五、六寸の間隔と適當の勾配に二本のパイプ又は竹を渡し靴を架けます。こうしますと靴底の乾きを早くし、持ち、裂くづれ等に對してよろしいと思ひます。更に下駄箱の敷居の下端、各欄と壁際、上部側板の透彫等に依つて下駄箱内の空氣の流通を計り履物の乾燥を計り、繼其他の不潔さを防ぎます。下駄箱の建具は杉の皮板足綱貼り土間床は黒色モルタル四半目地又は那智黒砂利の洗出し仕上げ等とします。